

五、第二項ノ工事ニ就テハ上野部落民ヲ可成多數使役スルコト

昭和九年十一月二十九日

覺 書

甲府市上水道擴張工事竣工後當管内大宮村湯組ニ對シ可成速ニ配水設備ヲ施行スベク依而爲後日本書差出候也

昭和九年十一月二十九日

甲府市長 新 海 榮 治

千塚村外一ヶ村組合長宛

第五節 施工經過

水道擴張工事は平瀬取入口の擴張導水鐵管敷設、淨水場内濾過池、同調整室の築造、送水鐵管敷設等を主なるものとして、其外に調整室上家、水源事務所、公舎の移轉改築等の建築其他之に附隨した雜工事を夫々施行したが、又其の施工方法は工事の性質、難易、時期等に従つて請負或は直營により施行し、直營工事に使役せる勞働者は、甲府職業紹介所と供給連絡を執り市内より、成るべく之を採用して當初の方針に則つて其の實を期したが施工經過は左の如し。

- 一、實施設計額（機械器具及備品を除く） 三四二、七二三、〇七〇圓
- 一、設計變更増額 二、六三五、〇〇〇
- 計 三四五、三五八〇、七〇〇



第二編 上水道擴張

昭和八年度施工額

同 九年度 同

同 十年度 同

計

差引施工減額

一、人夫使役總延數

送水管敷設工事

淨水場關係工事

計

勞力費總計

一人當り

二一、〇七九、七一〇

一九〇、二四六、七八六

一〇九、五二八、六五二

三二〇、八四六、四〇九

二四、五一、六六一

三七、二四三、四五

三七、一九三、六六

七四、四三七、一一

六八、九九一、六八

九〇錢三厘

取入口分水池及導水線路

工用材料運搬道路改修工事

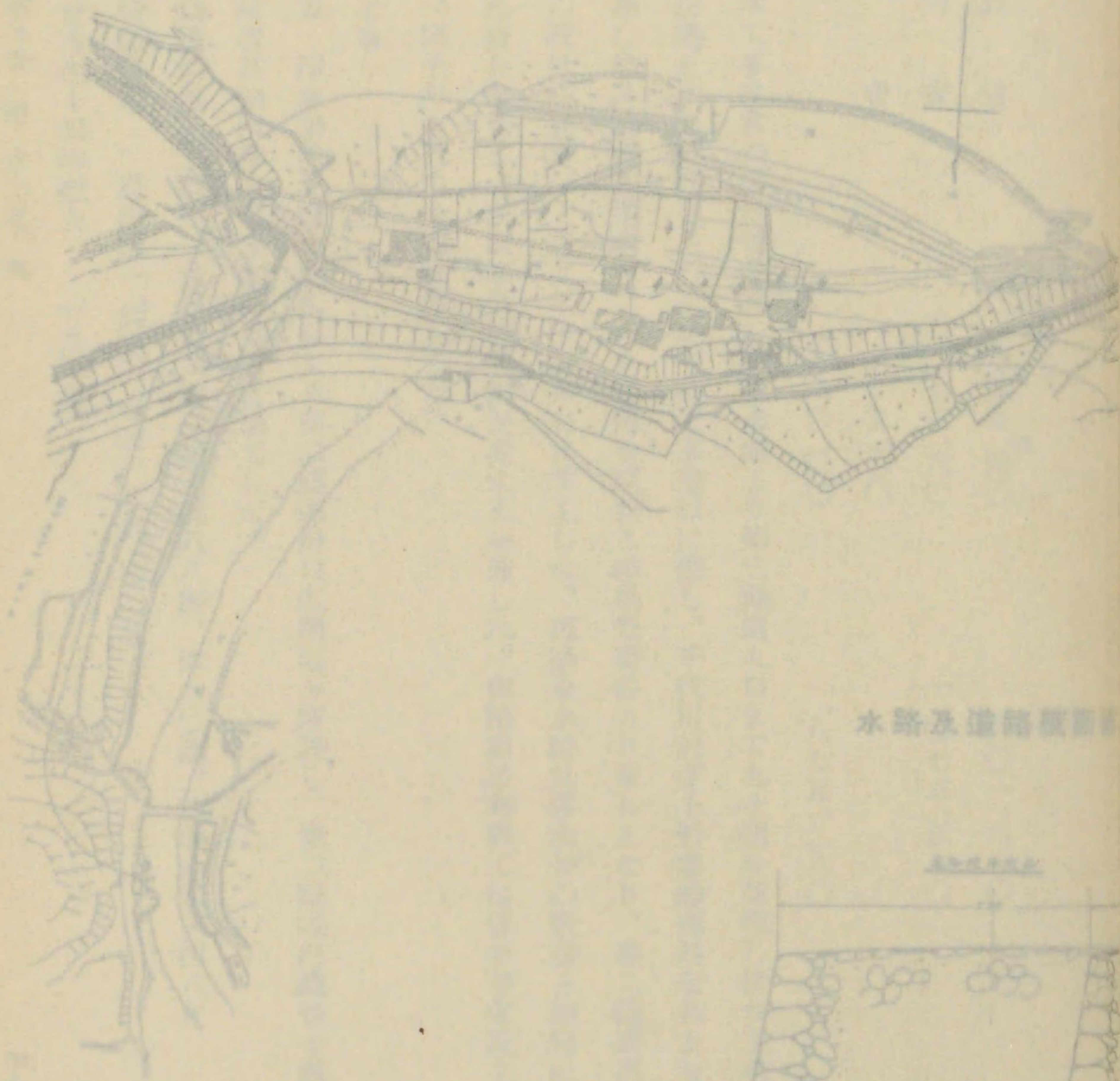
一、工事概要 千代田村字谷下地内水池より本市水道第二隧道出口に至る三五五、一五米の道路と、之に沿つた水路を深五五厘、幅員上部九〇厘、同底部七〇厘、栗石混凝土造に改築して、工用材料運搬並に導水線路見廻り、導水鐵管の保護施設に充てるべく直營を以て施工した。

二、工事費

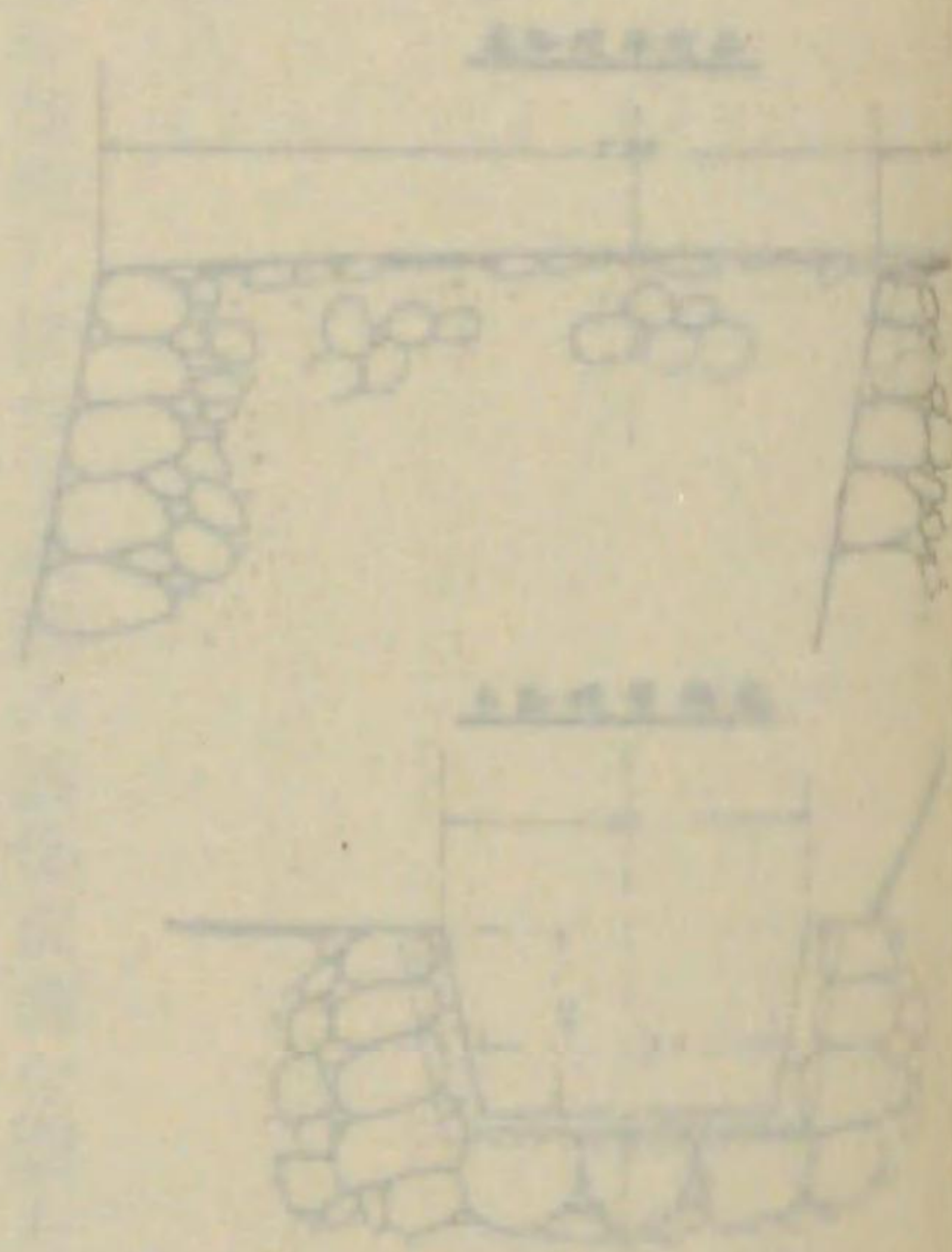
設計額

精算額

取入口及導水線路平面

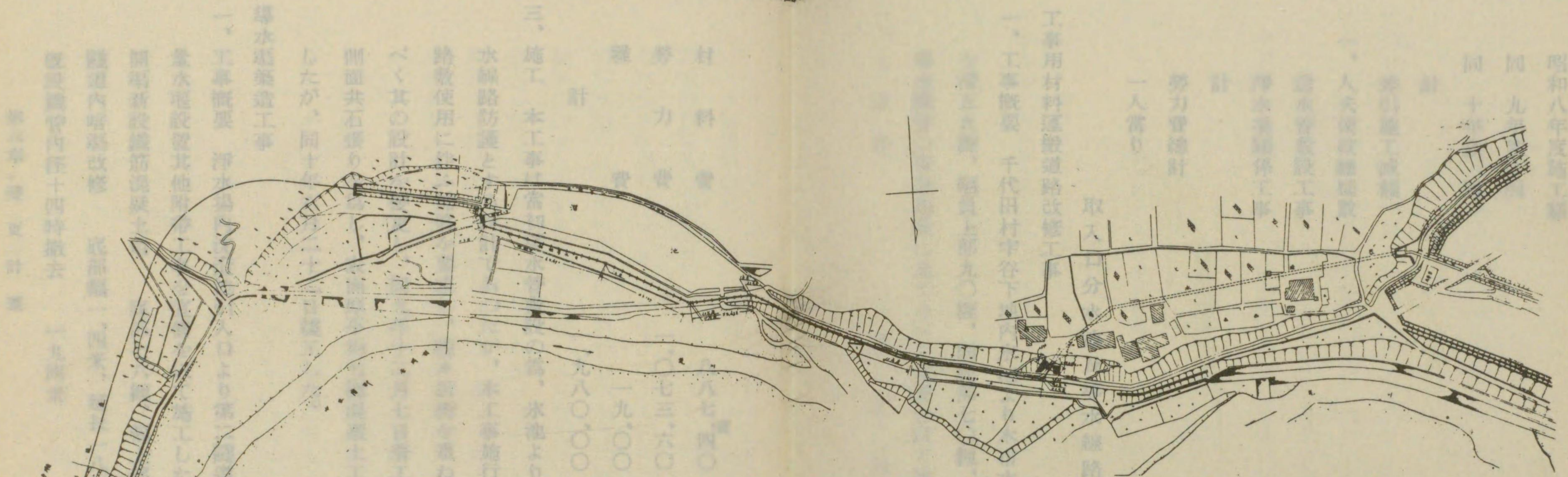


水路及導水線路断面





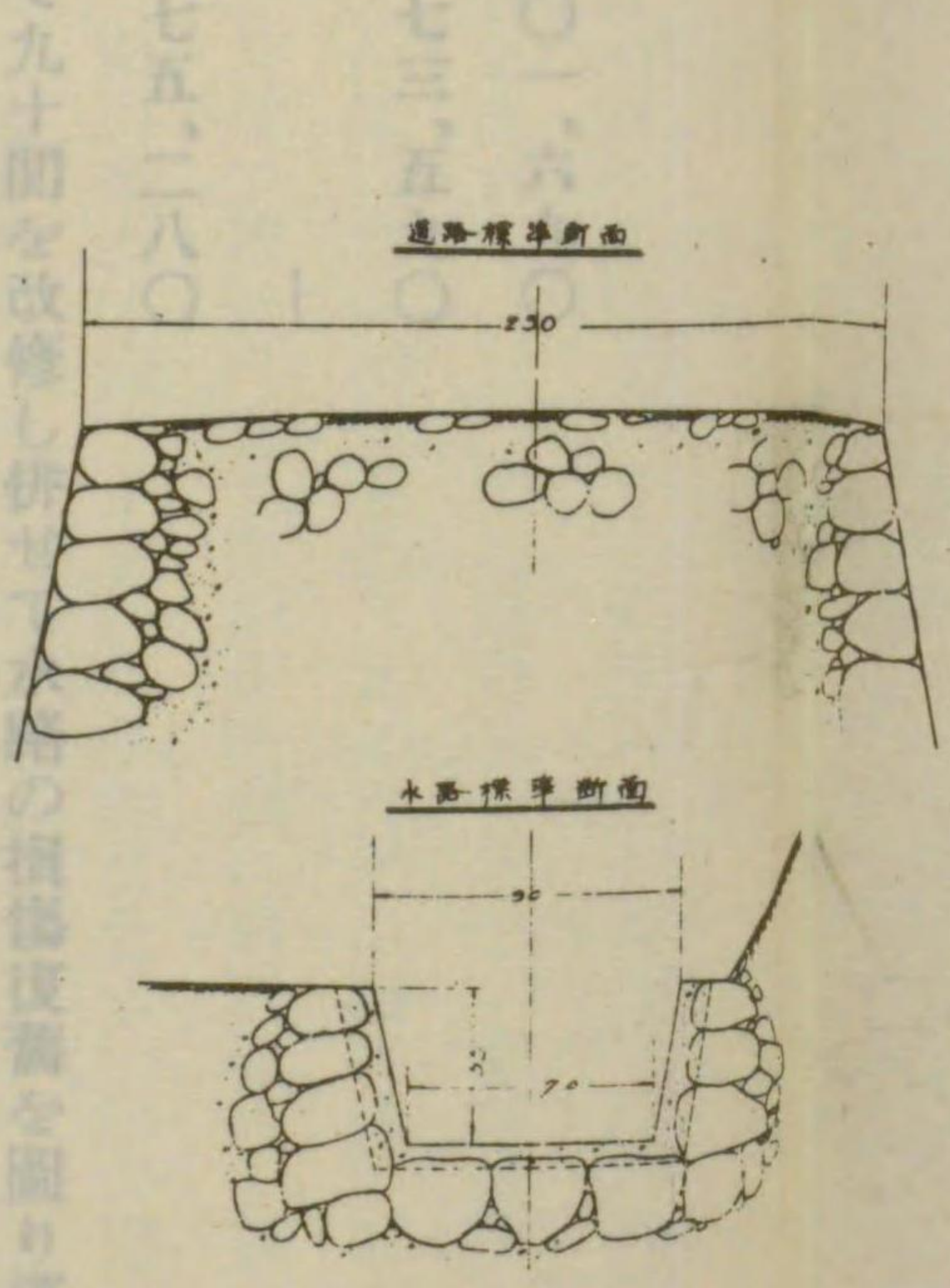
取入口及導水線路平面圖



昭和八年度工事  
同九  
同十  
計  
勞力費總計  
一人當り

工用材料運搬道路改修工  
一、工事概要 千代田村宇谷下  
...

水路及道路横斷圖



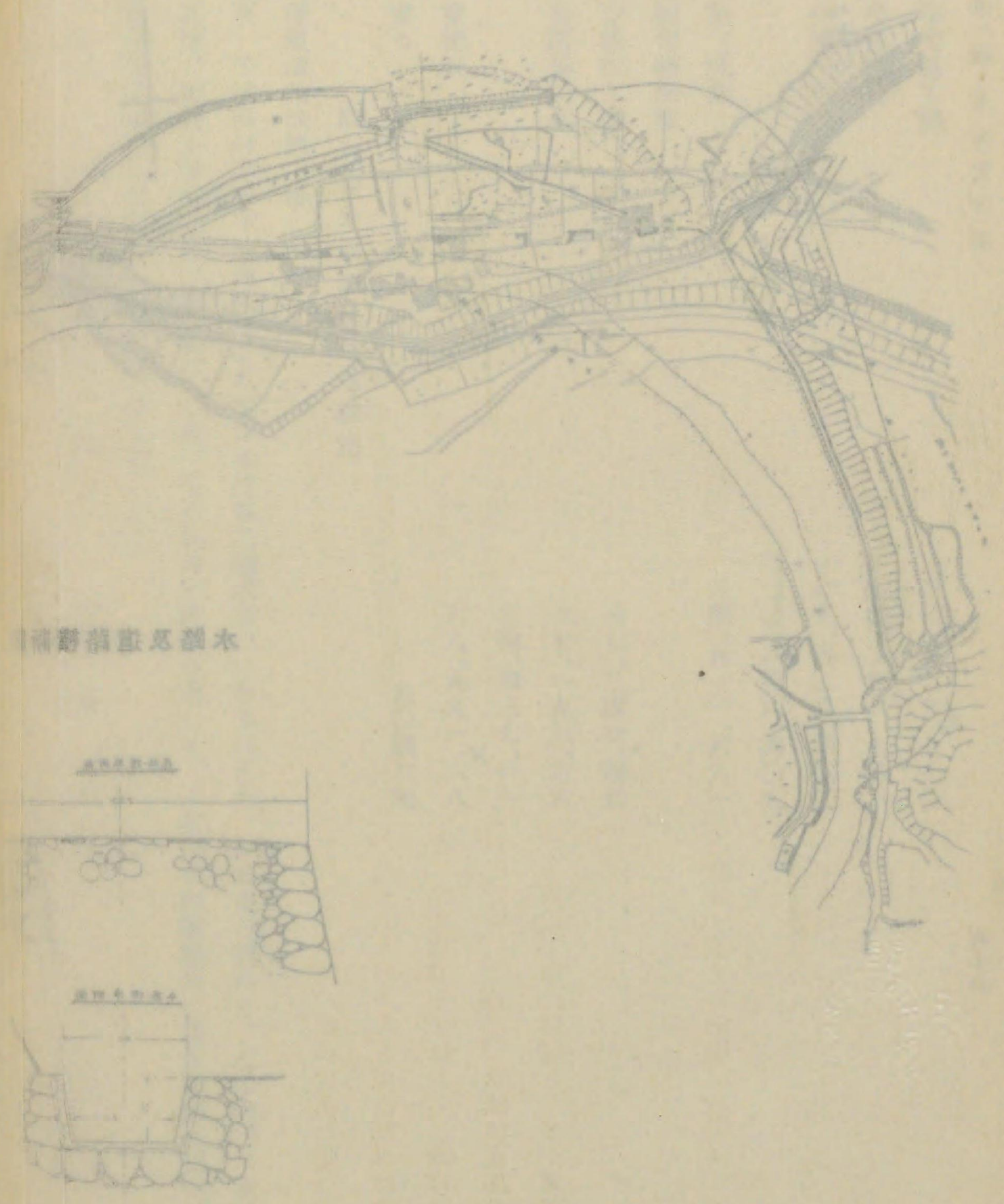
水路より第二隧道入口まで九十間を改修し、...  
第一、工事概要 千代田村宇谷下...  
第二、工事概要 千代田村宇谷下...  
第三、施工 本工事...  
水路防壁と  
路敷使用に  
べく其の設  
間面共石張り  
したが、同十

導水渠築造工事  
一、工事概要 千代田村宇谷下...  
二、工事概要 千代田村宇谷下...  
三、工事概要 千代田村宇谷下...  
四、工事概要 千代田村宇谷下...  
五、工事概要 千代田村宇谷下...  
六、工事概要 千代田村宇谷下...  
七、工事概要 千代田村宇谷下...  
八、工事概要 千代田村宇谷下...  
九、工事概要 千代田村宇谷下...  
十、工事概要 千代田村宇谷下...

二一、〇七九、七一〇  
一九〇、二四六、七八六  
一〇九、五二八、六五二  
三二〇、八四六、四〇九  
二四、五二一、六六一  
三七、二四三、四九五  
三七、一九三、六六  
七四、四三七、一一  
六八、九九一、六八  
九〇、三三三



千代田村字上野齋藤澤外七名より附近私有地占用又は水



水導管敷設工事

材料費	労力費	雑費	計
八八七、四〇	一、〇七三、六〇	一九、〇〇	一、九八〇、〇〇
八〇一、六九〇	一、〇七三、五九〇		一、八七五、二八〇

三、施工 本工事は當初導水管敷設の爲、水池より第二隧道入口まで九十間を改修し併せて水路の損傷復舊を圖り導水路防護とする設計であつたが、本工事施行に際し、千代田村字上野齋藤澤外七名より附近私有地占用又は水路敷使用に伴ふ補償を要求し、種々折衝を重ねた結果覺書のとり交しとなり、第二隧道出口まで延長して改修すべく其の設計を變更し、同九年十二月七日着工した。道路及水路は導水管の敷設と同時に改修し、水路は底部及側面共石張りを爲し、表面厚平均七糎混泥土工を施した。尙路面砂利敷工は導水管敷設工事に關聯して多少遅延したが、同十年六月二十二日竣工した。

導水渠築造工事

一、工事概要 淨水場内沈澄池引入口より第二隧道出口迄開渠を新設し、第二隧道内鐵管を撤去し暗渠に改築する外量水堰設置其他附帶工事を直營を以て施工した。

開渠新設鐵筋混泥土造 底部七六糎、幅上部八八糎、深六〇糎、延長八六・四八米

隧道内暗渠改修 底部幅一、四米、延長一八五、七七米

既設鐵管内徑十四時撤去 一九四米



二、工事費

設計額

精算額

材料費 二、七九〇、九四〇

二、五五一、三九〇

準備材料費 三九、三一〇

三七、四三〇

勞力費 二、四二一、六〇〇

一、九二八、三八〇

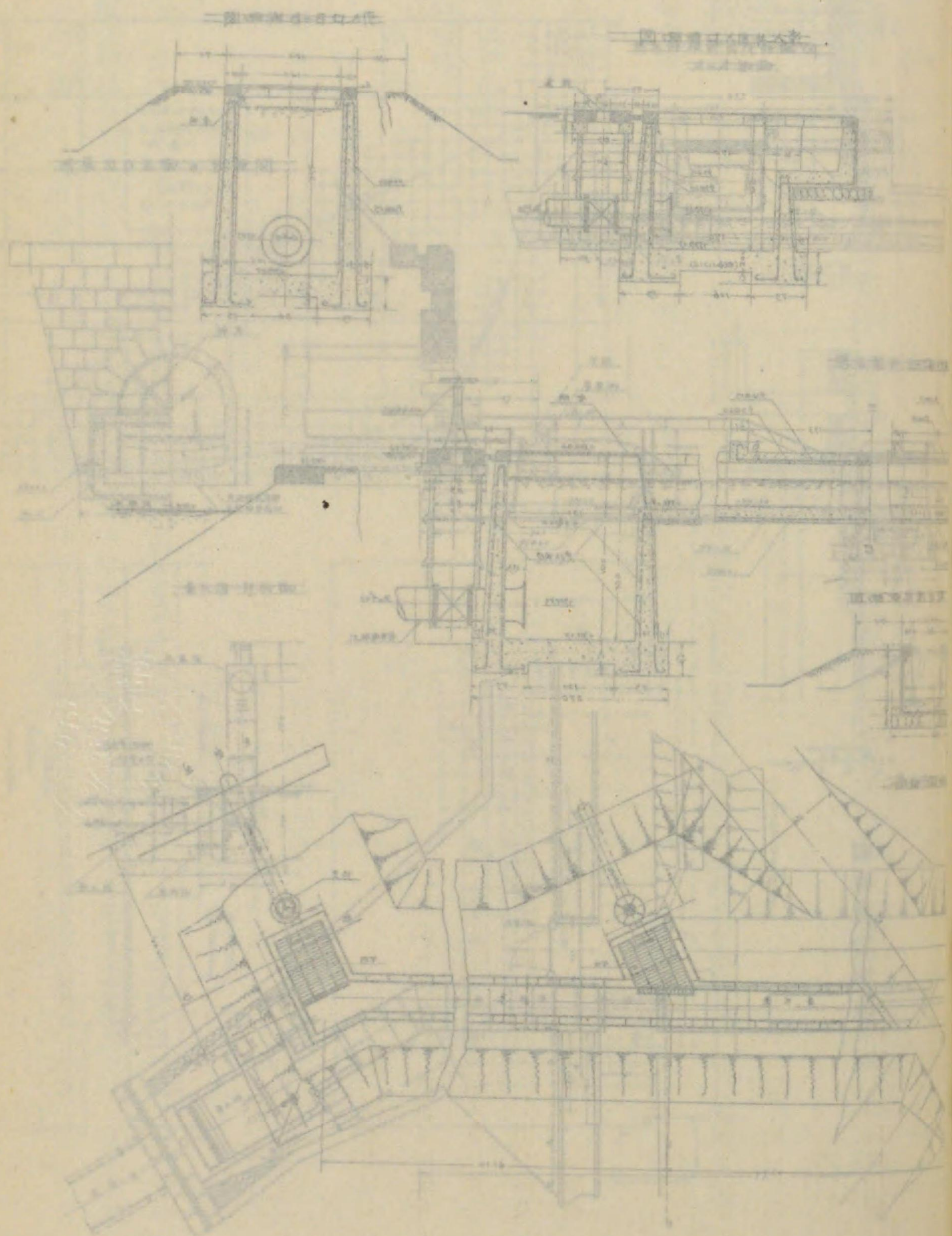
雜費 四八、一五〇

一一、九六〇

計 五、三〇〇、〇〇〇

四、五二九、一六〇

三、施工 本工事は開渠新設と隧道内暗渠改修とに分ち、昭和十年四月一日開渠より着工した。まづ第二隧道出口より沈澄池入口まで八六・四八米を堀鑿し、此處に底部幅七六糎深六〇糎混凝土の開渠を築造し、内部には配合比一、二モルタル塗工を以て混凝土面に密着せしめ、測壁上部は花崗石縁石を以て仕上げ、又既設流入井に至る新設内徑三百五十糎と、直接沈澄池に至る内徑四百糎の各連絡管に對する引出口柵を設置した。之の引出口柵及開渠の周圍には各々の高さに倣ひて盛土を爲し、開渠の兩側には所定の幅に一割五分法を以て搗き固め、法面高麗芝を張り上部兩側へ厚七糎の砂利を敷均した。更に場内外の通路横斷箇所へは混凝土覆蓋を爲した。次に第二隧道内にある内徑十四吋導水管一九四米は撤去し、底部一、二、四混凝土を以て千分の一及四分の一の勾配を付け半徑二五七糎反拱斷の水路暗渠に補足改修し、元の暗渠入口に於て既設内徑十四吋及新設内徑四百五十糎各導水管と連絡せしめた。又暗渠出口には内法幅一、八米、長三、八米の量水柵を築造し其の内部に幅一米、高四四糎鉋金製量水堰を設置し、堰には「ナツプ」による流量指示計を据付けたが、之の流量計は本市の設計考案にかゝり淺野物産株式會社が製作したものである。尚暗渠出口の既設扉を改造し、出口附近及場内出入口には門扉

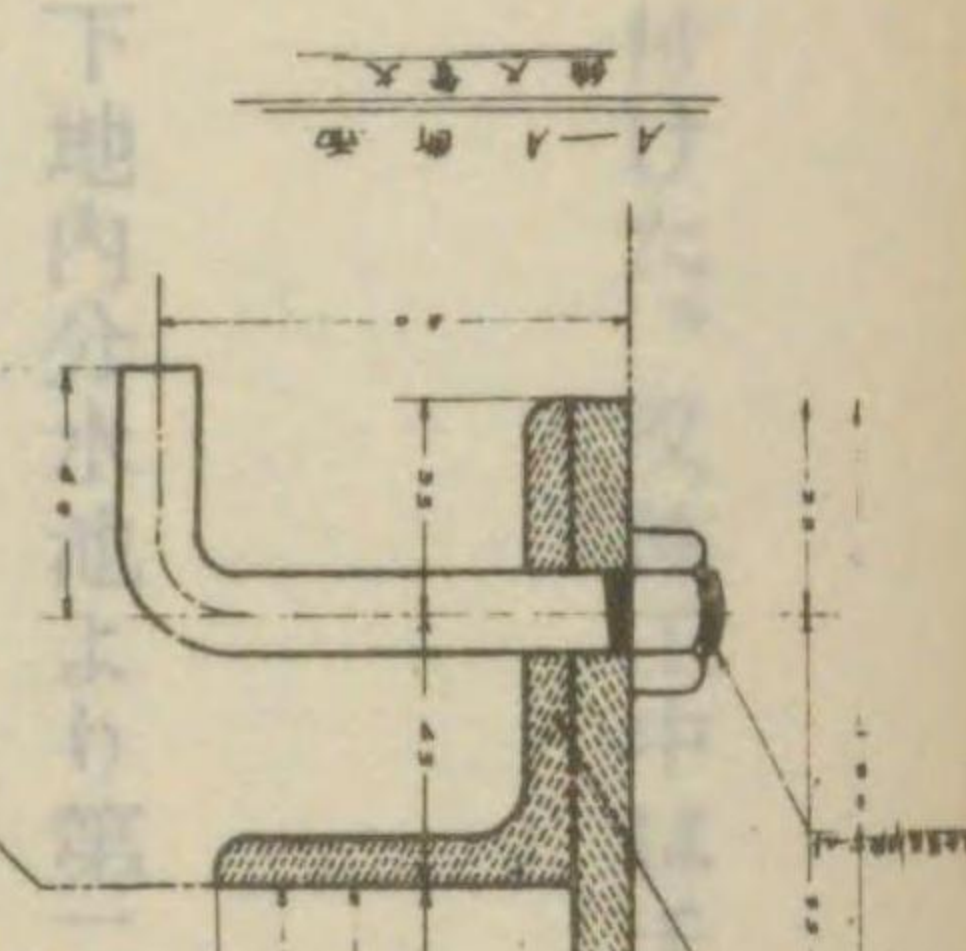
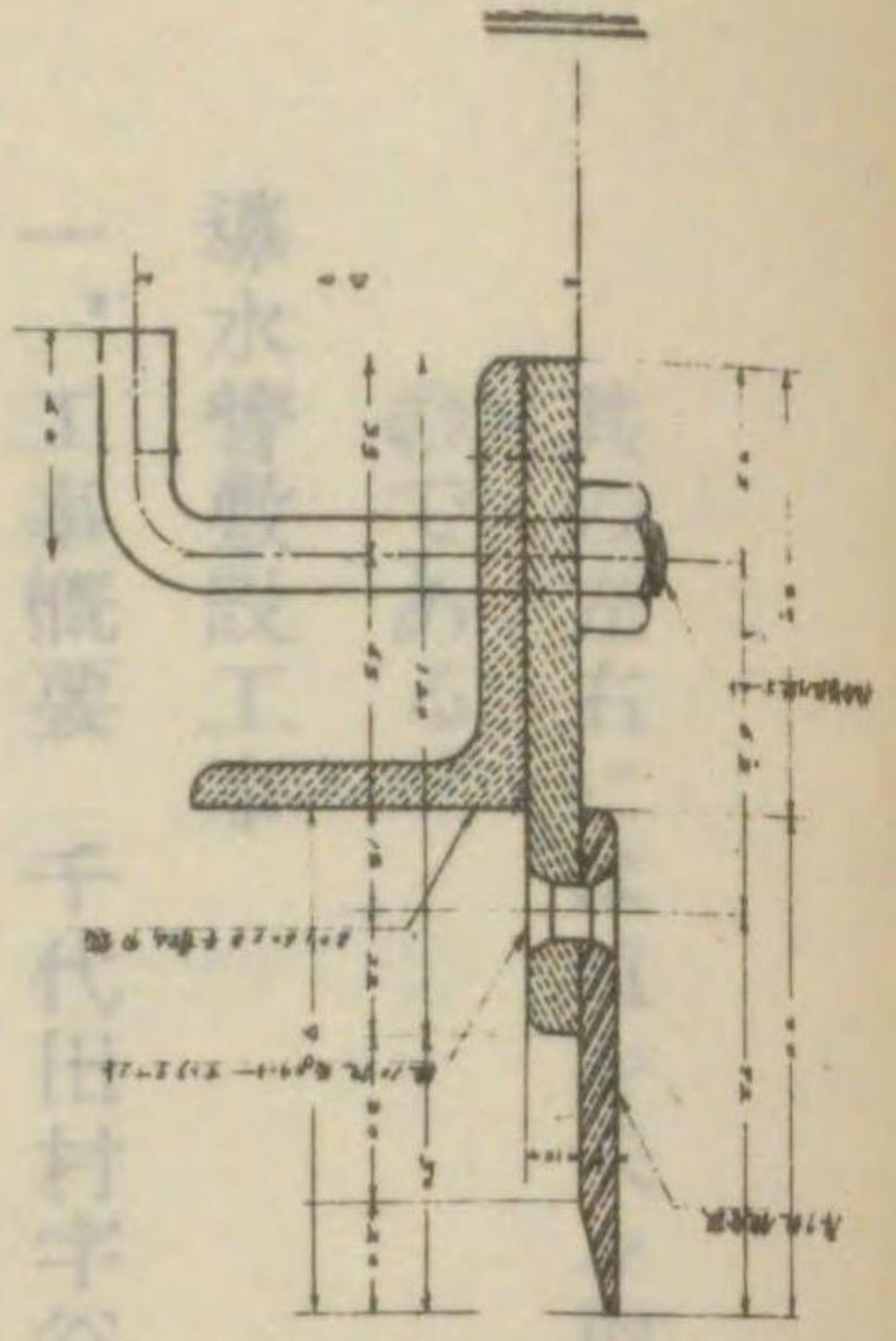
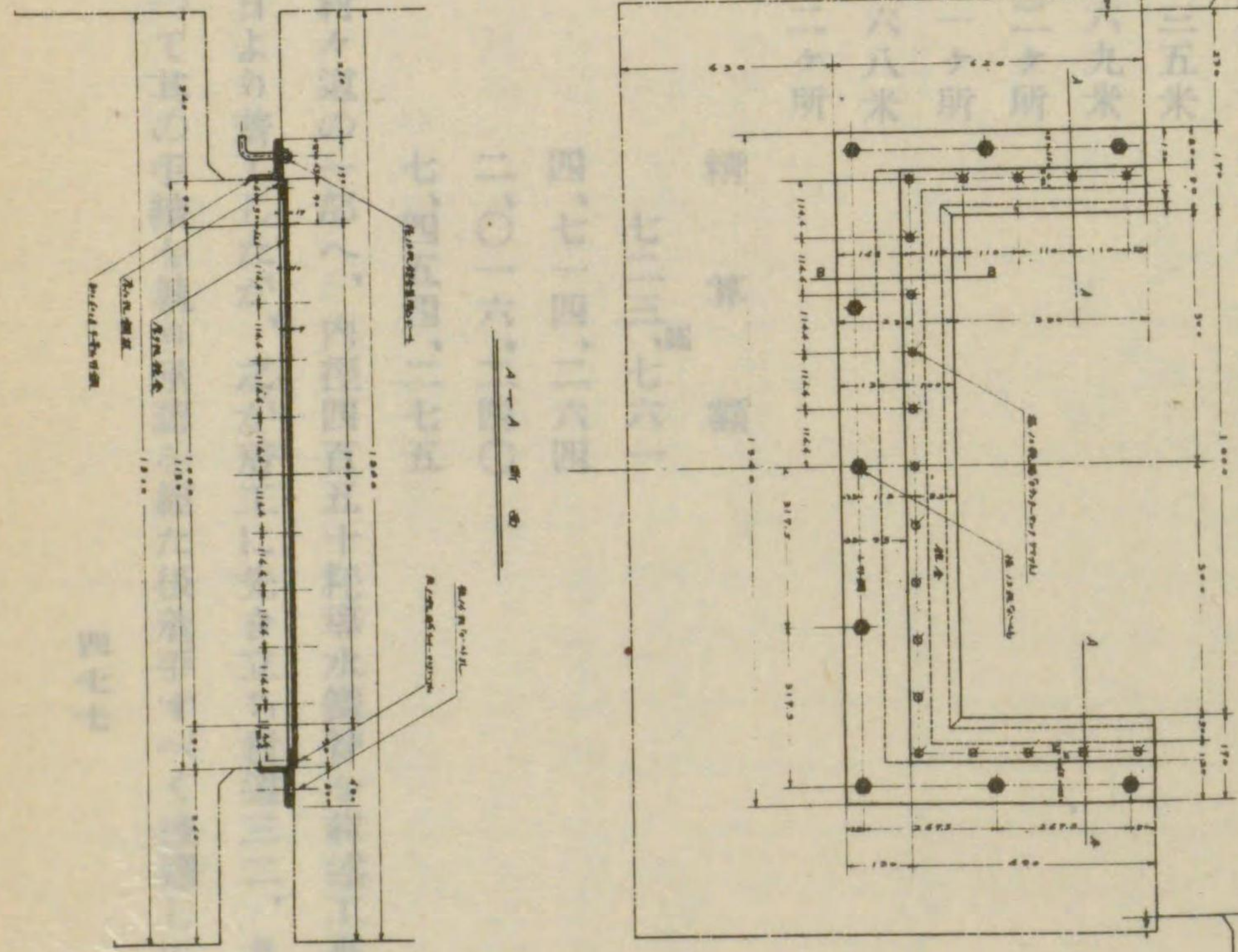
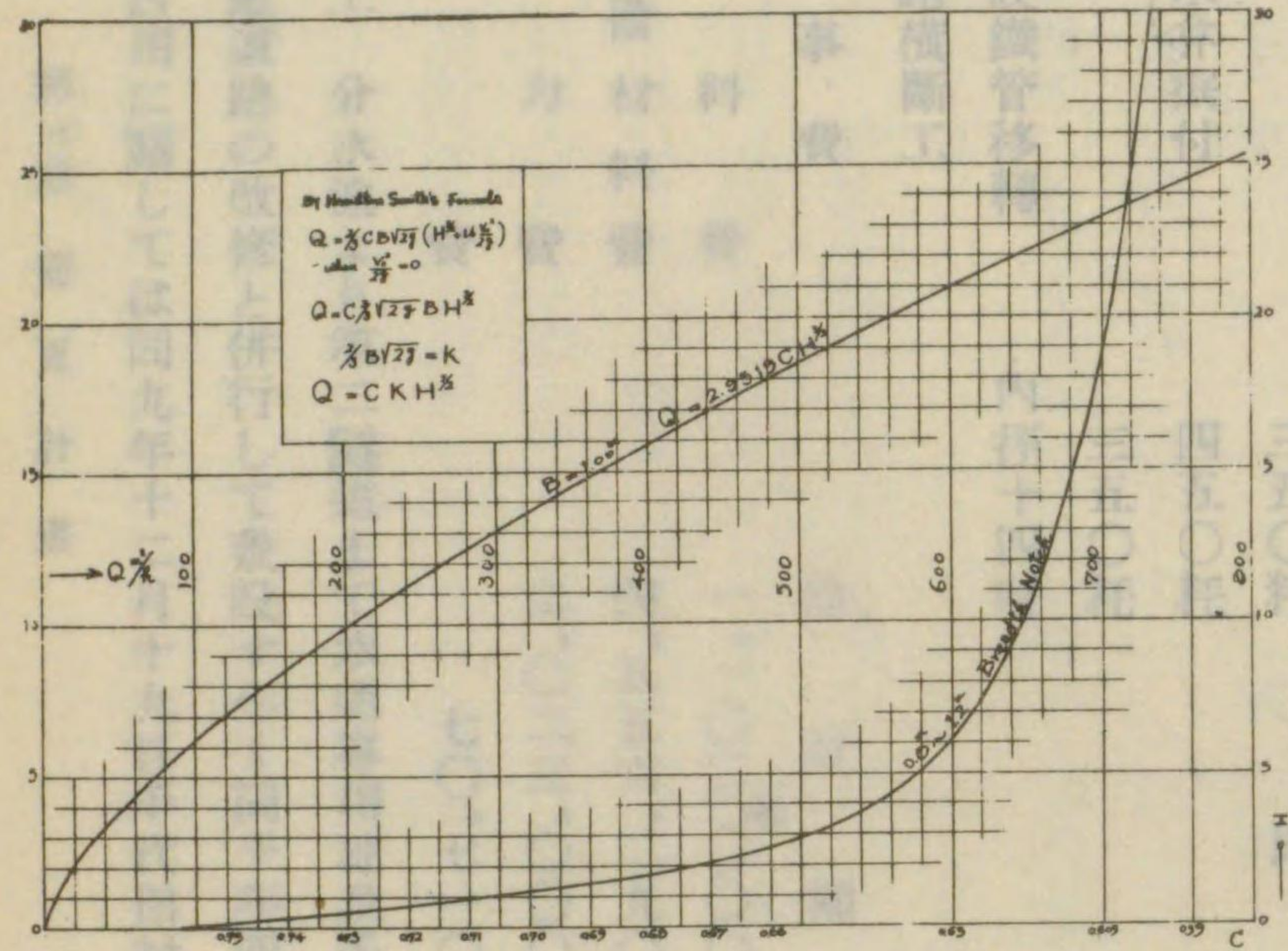






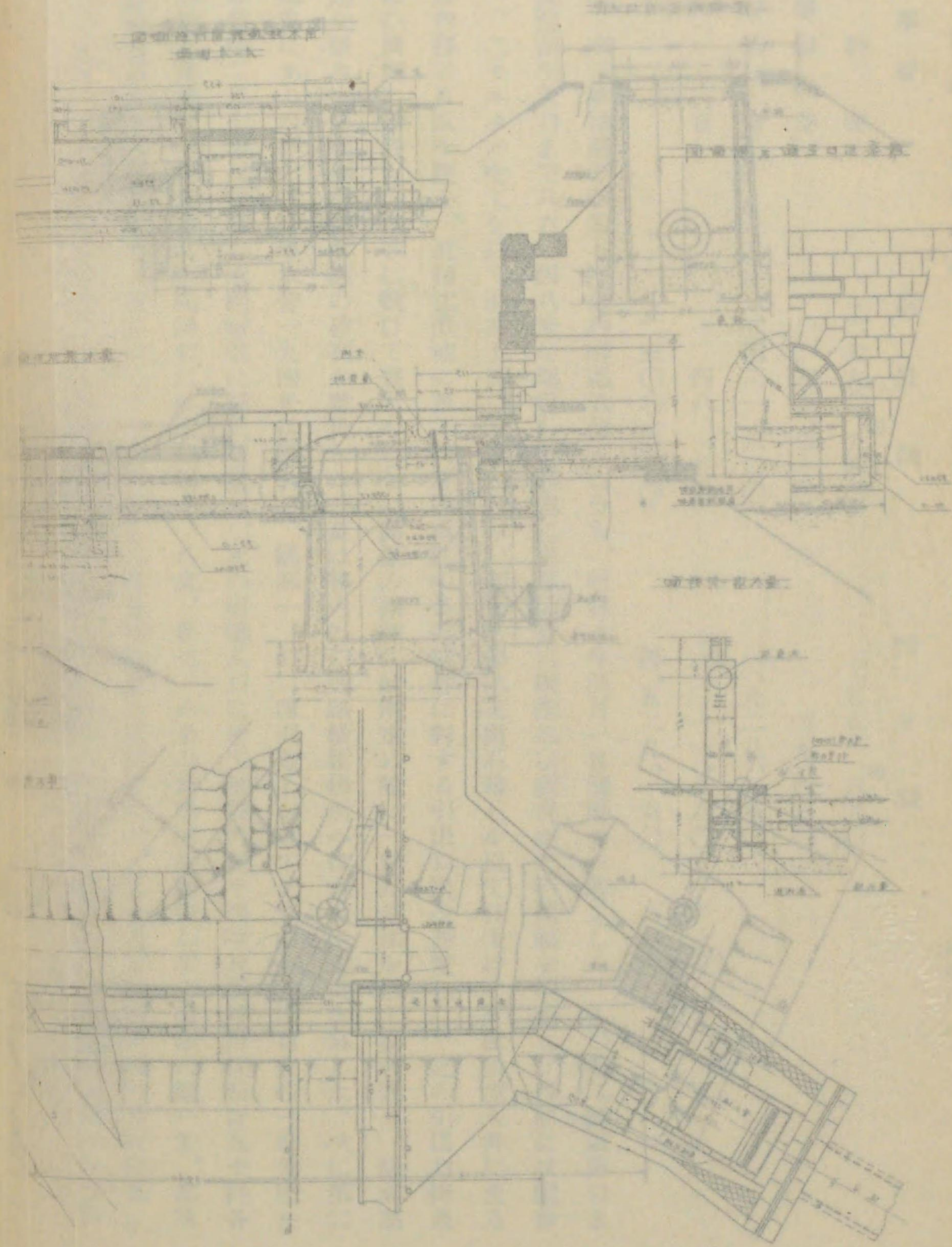


流量曲線圖表



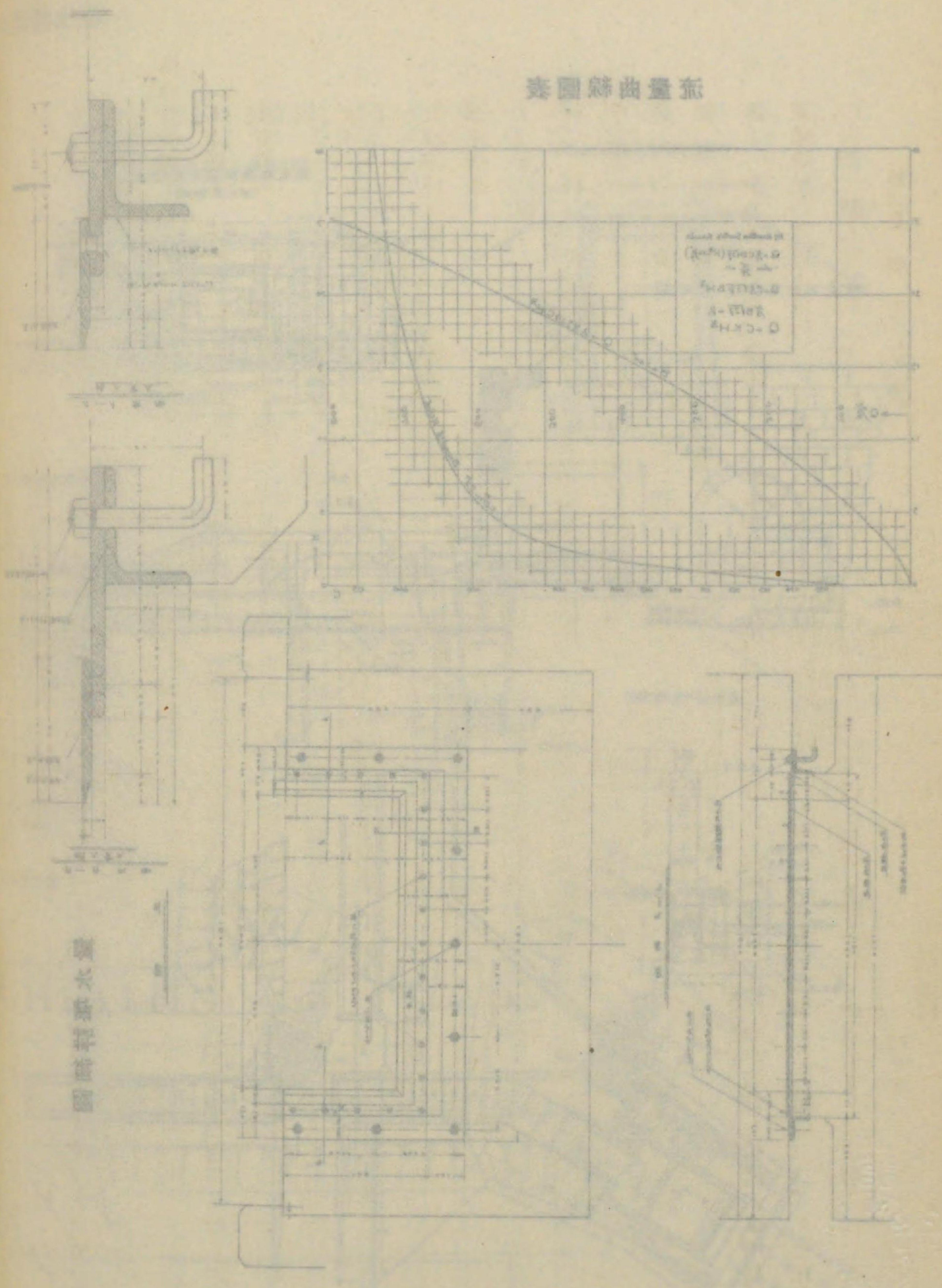
量水堰詳細圖

量水堰





流量曲線圖



其の左右には垣を夫々取付けた。又施工中は千代田堰に假設導水管を敷設して、工事中導水に支障なきを期したのである。

導水管敷設工事

一、工事概要 千代田村字谷下地内分水池より第二隧道暗渠入口迄の導水管敷設並附帯工事を直營を以て施行した。

鐵管敷設	低壓内徑四〇耗	延長三三〇、三五米
同	三五〇耗	同
制水弁据付	四五〇耗	二ヶ所
同	三五〇耗	一ヶ所
既設鐵管移轉	内徑十四吋	二二、六八米
水路横斷工		二ヶ所

二、工事費	設計額	精算額
材料費	一、一〇〇、〇〇〇	七二三、七六一
準備材料費	四、五五六、二九〇	四、七二四、二六四
勞力費	二、〇二三、〇〇〇	二、〇一六、二四〇
雜費	七〇、七一〇	七、四五四、二七五

三、施工 分水池より第二隧道まで水道専用池及千代田村々道の一部へ、内徑四百五十耗導水鐵管を前述工用材料運搬道路の改修と併行して敷設すべく同十年四月一日より着工したが、之が着工に先き立ち村道三二、九七五米の占用に關しては同九年十二月十九日千代田村に向つて其の手續を執り承認を経た後着手すべく後廻しにして、

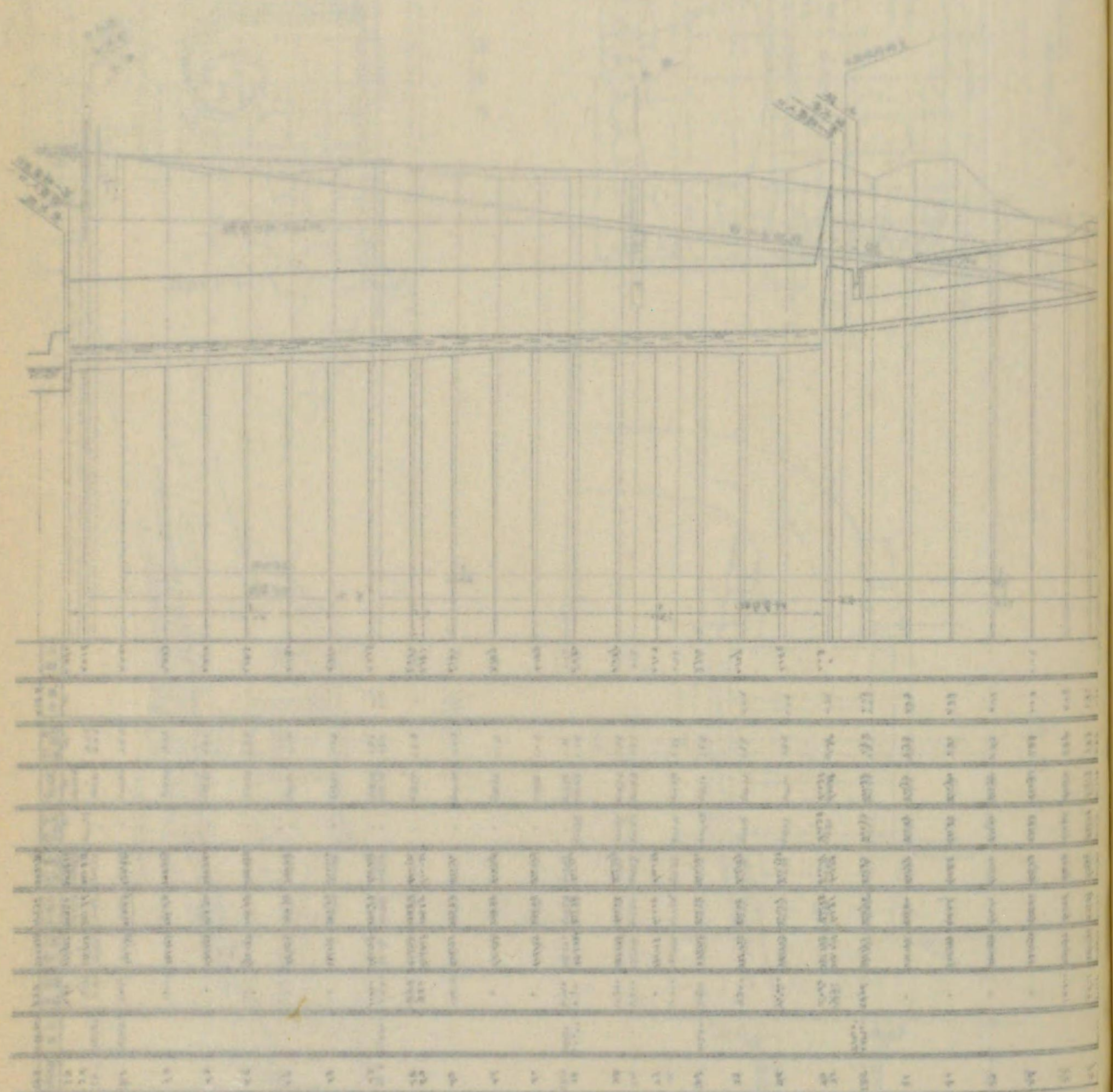


まづ分水池より第二隧道迄の導水管敷設工事を施行した。又暗渠入口附近に制水弁を設置する爲に既設導水管五、三九米を撤去して内徑三百五十耗新管に取替へ、更に新設内徑四百五十耗管を敷設する爲に既設内徑十四吋管一八、七米を移動した。尙制水弁室は基礎一、四、八混凝土工を施し、周壁には鐵筋混凝土管を使用し、上部は一、二、四鐵筋混凝土縁覆を造り花崗石鋼板を以て蓋とした。分水池附近の水路横斷には鐵管防護の混凝土工を施行し、同年五月二十四日夫々完成したので後廻しにした村道への敷設工事に着手すべくしたが、未だに其の承認を受くる運びに至らず施工上尠からざる支障を來し遂に中止して之が解決を待つた。其の後同村との諒解成つて同十二月六日漸く承認を得るに至つたので、同十四日より再び殘餘の工事に着手し、導水管敷設工、水路横斷鐵管防護工、橋梁架替への各工事を同十二月二十日竣工し淨水場内迄の導水連絡を完了した。

分水池架造工事

一、工事概要 既設分水池へ内徑四百五十耗新設導水管引出口を増築し、更に取入口に水位計取付け及其の上家築造等を直營を以て施行した。

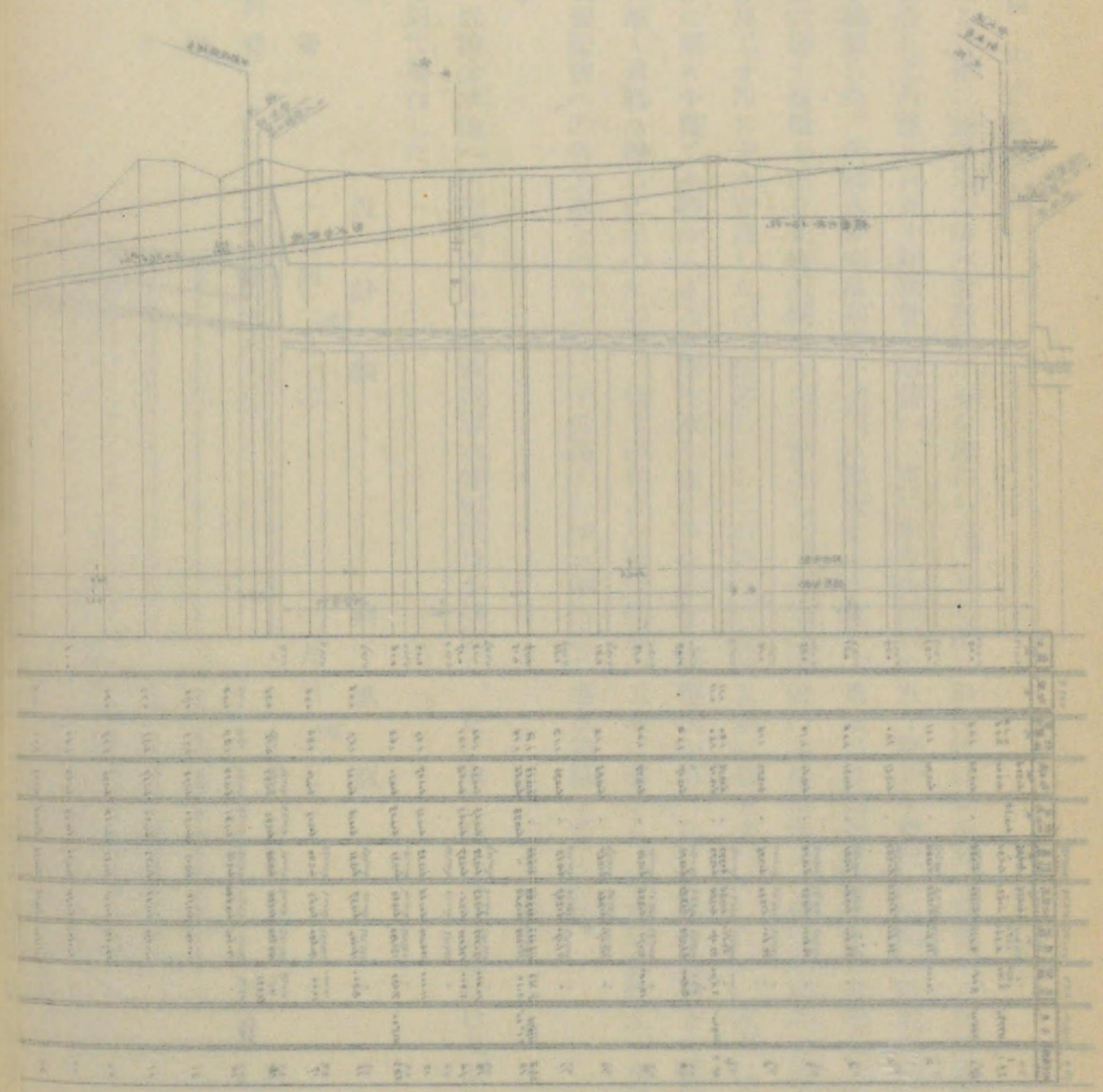
二、工事費	設計額	精算額
材料費	一、六四二、九一〇	九三二、三七〇
準備材料費	三二、九六〇	
勞力費	六七六、一〇〇	六二八、三三〇
雜費	二八、〇三〇	
計	二、三八〇、〇〇〇	一、五九三、六六〇



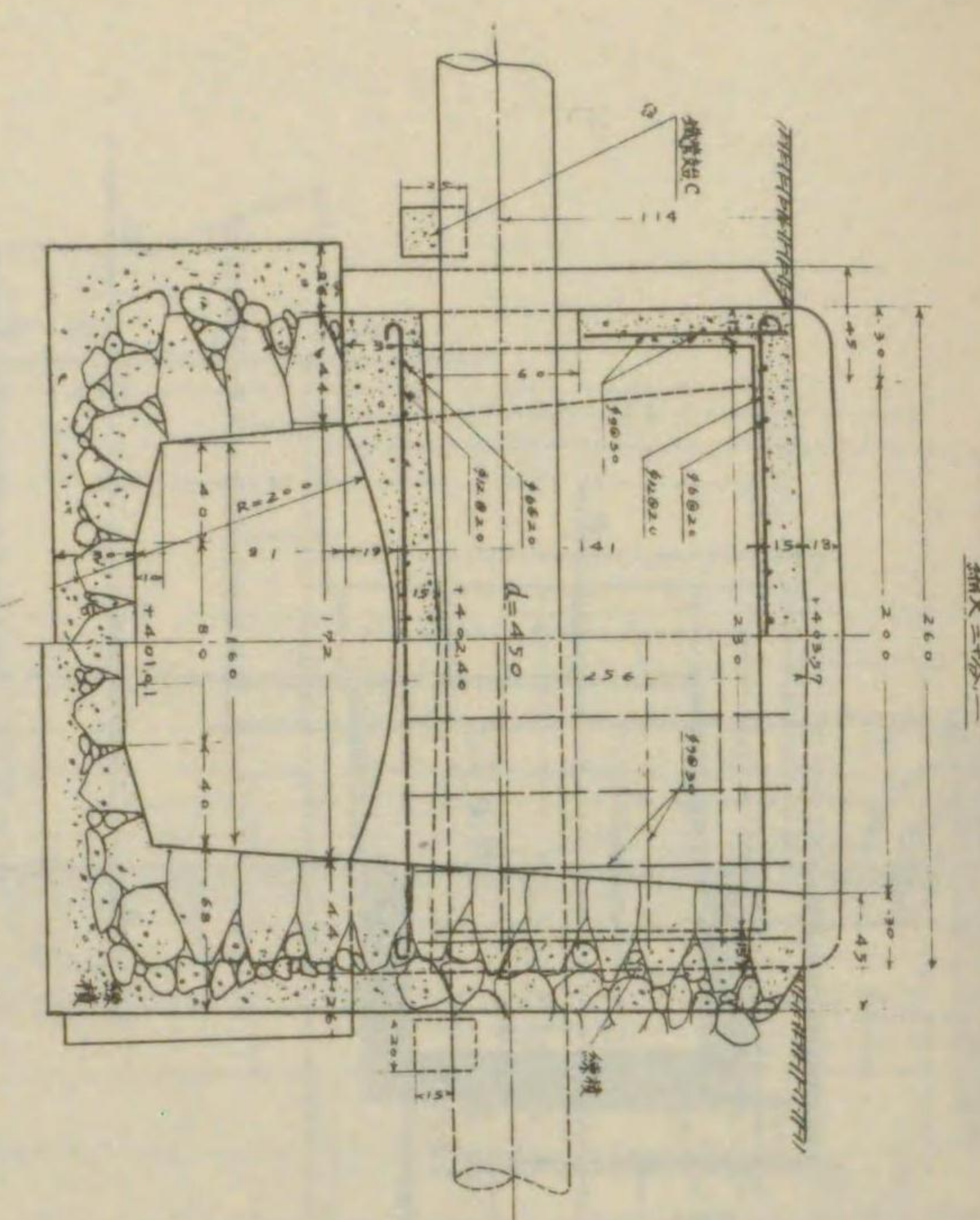




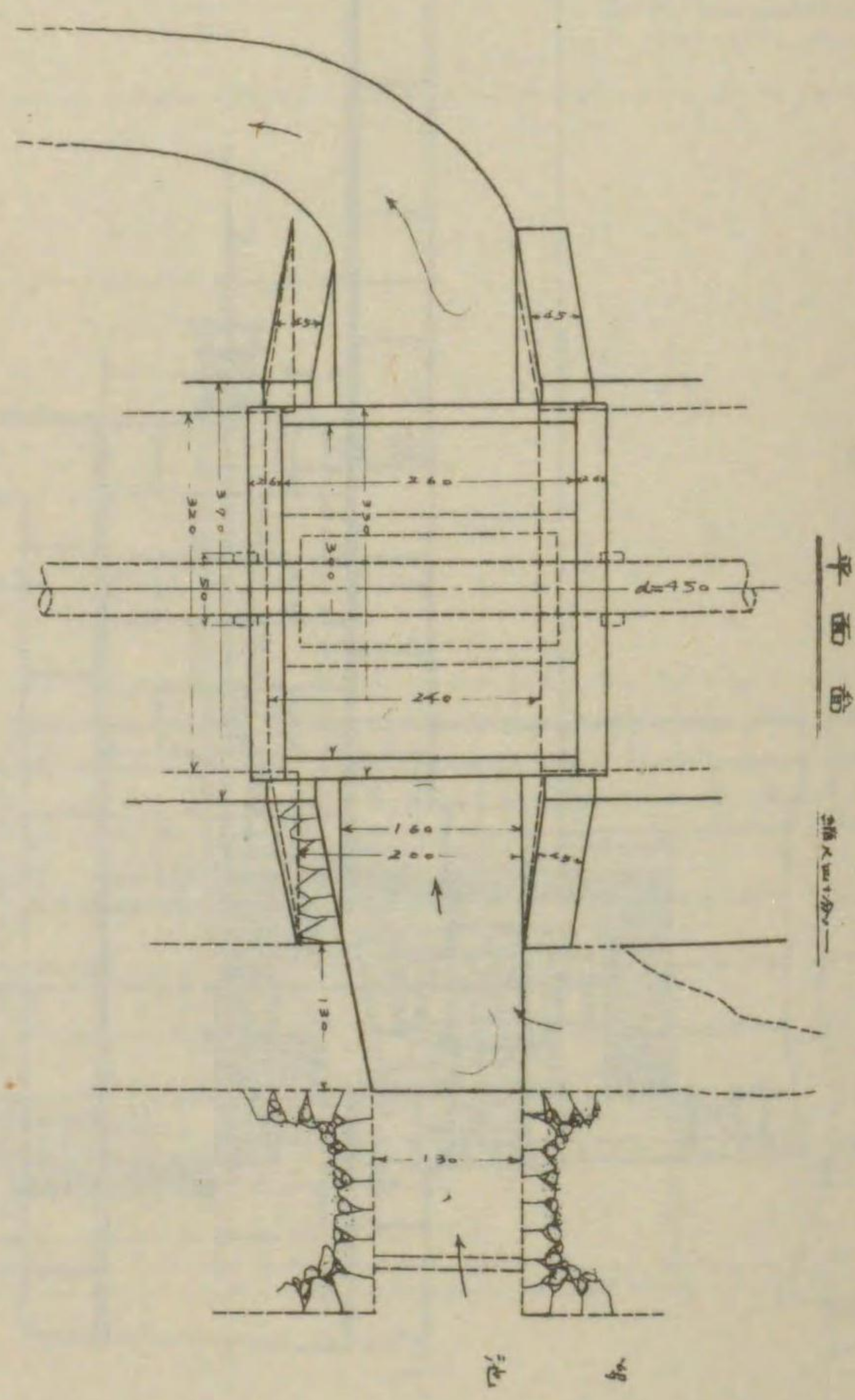




中央断面 剖面图

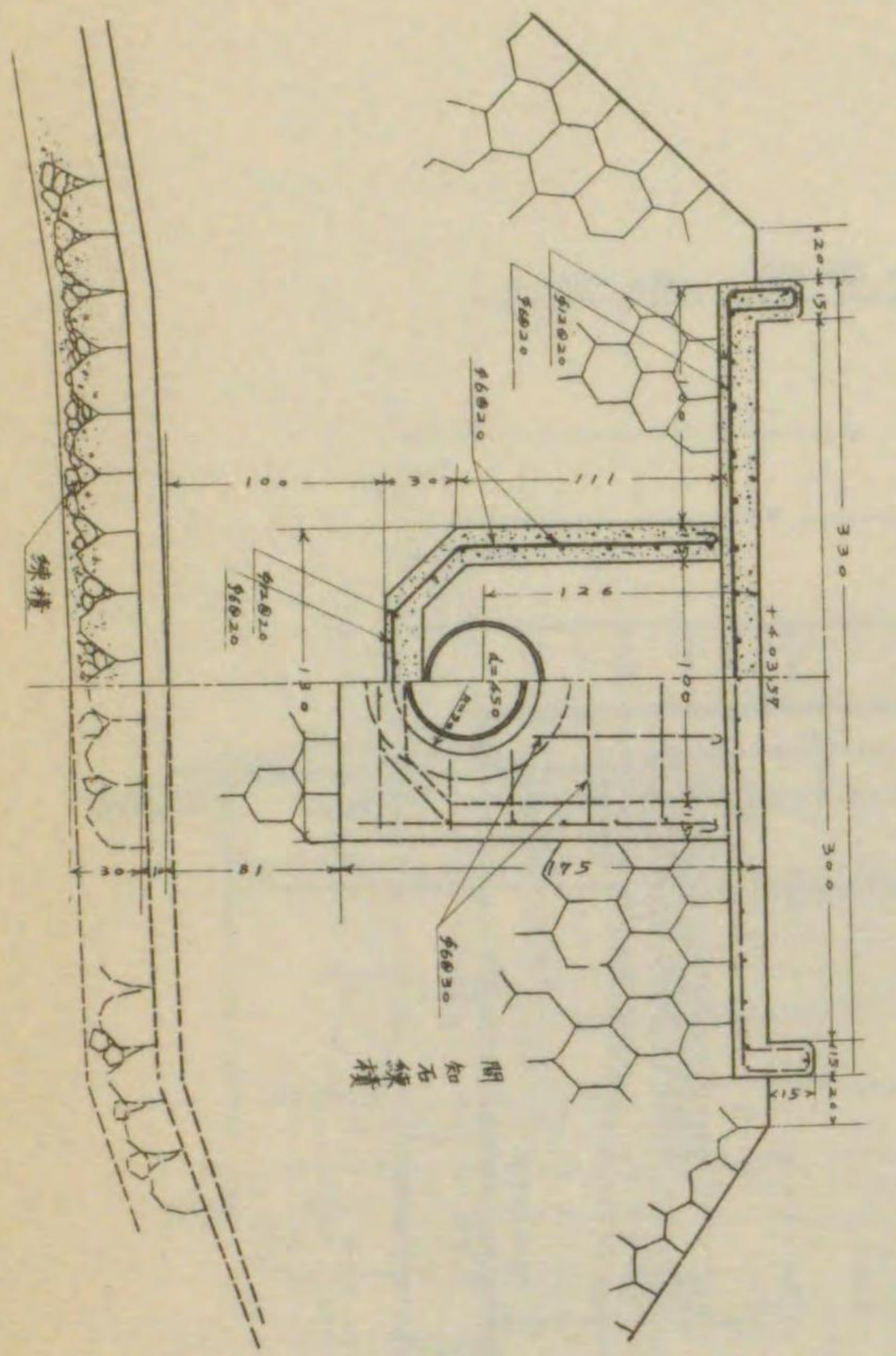


水路桥断面图 (水边特写)

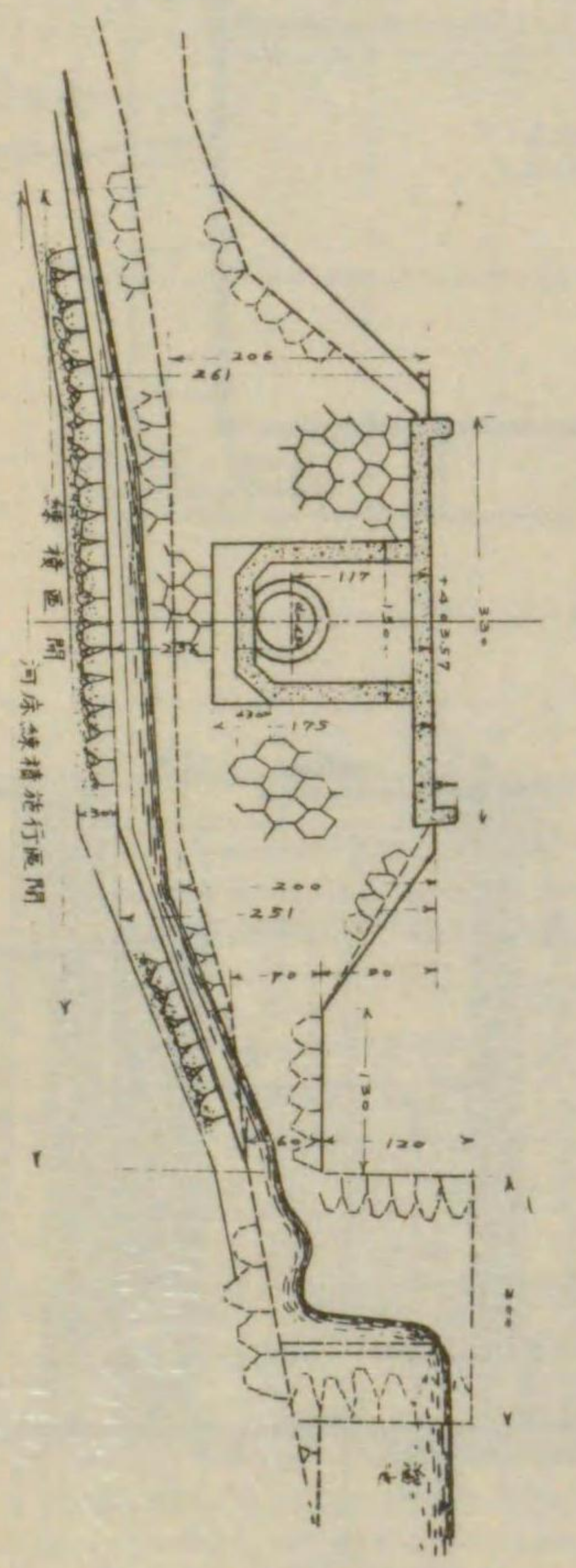


平面图

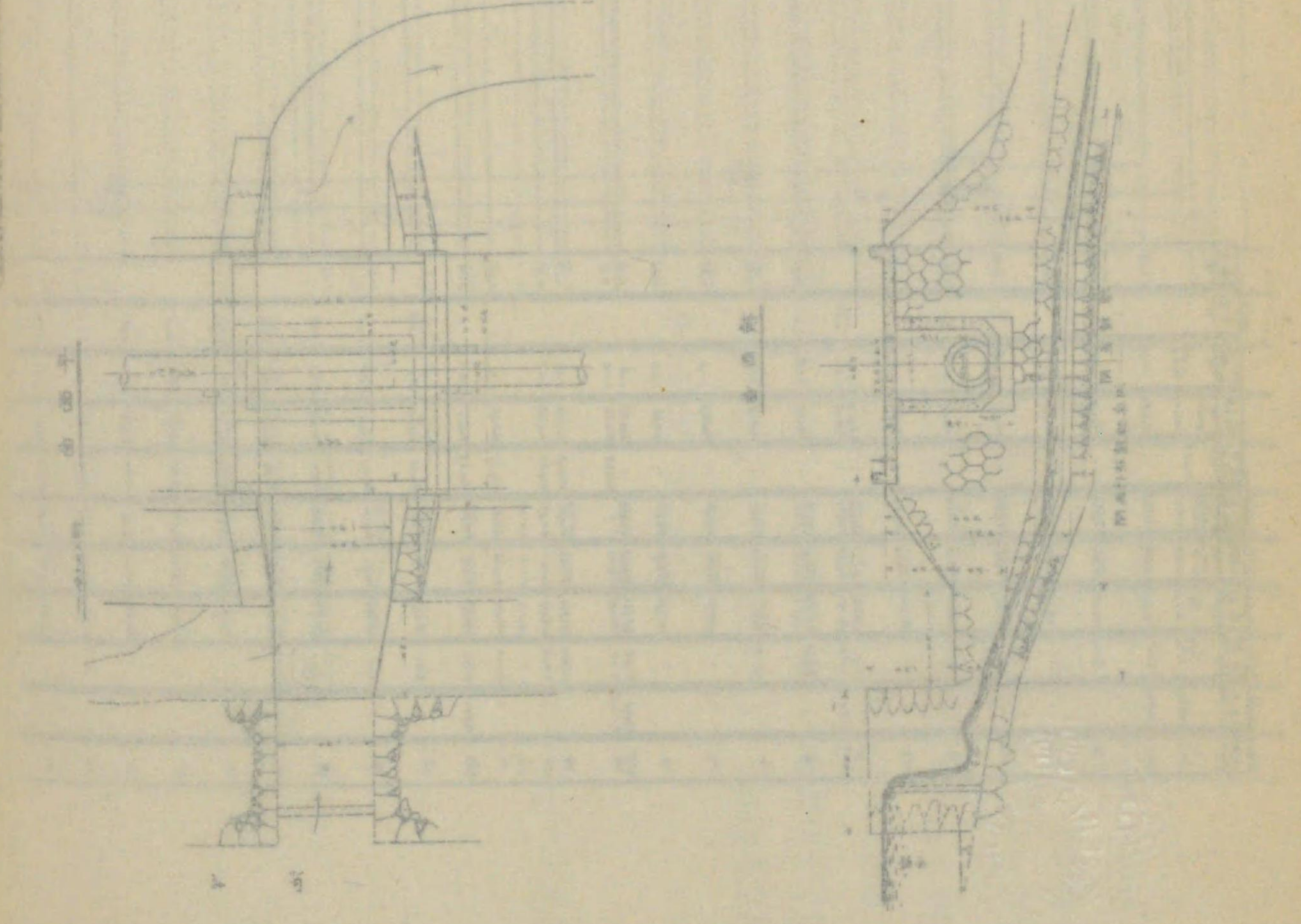
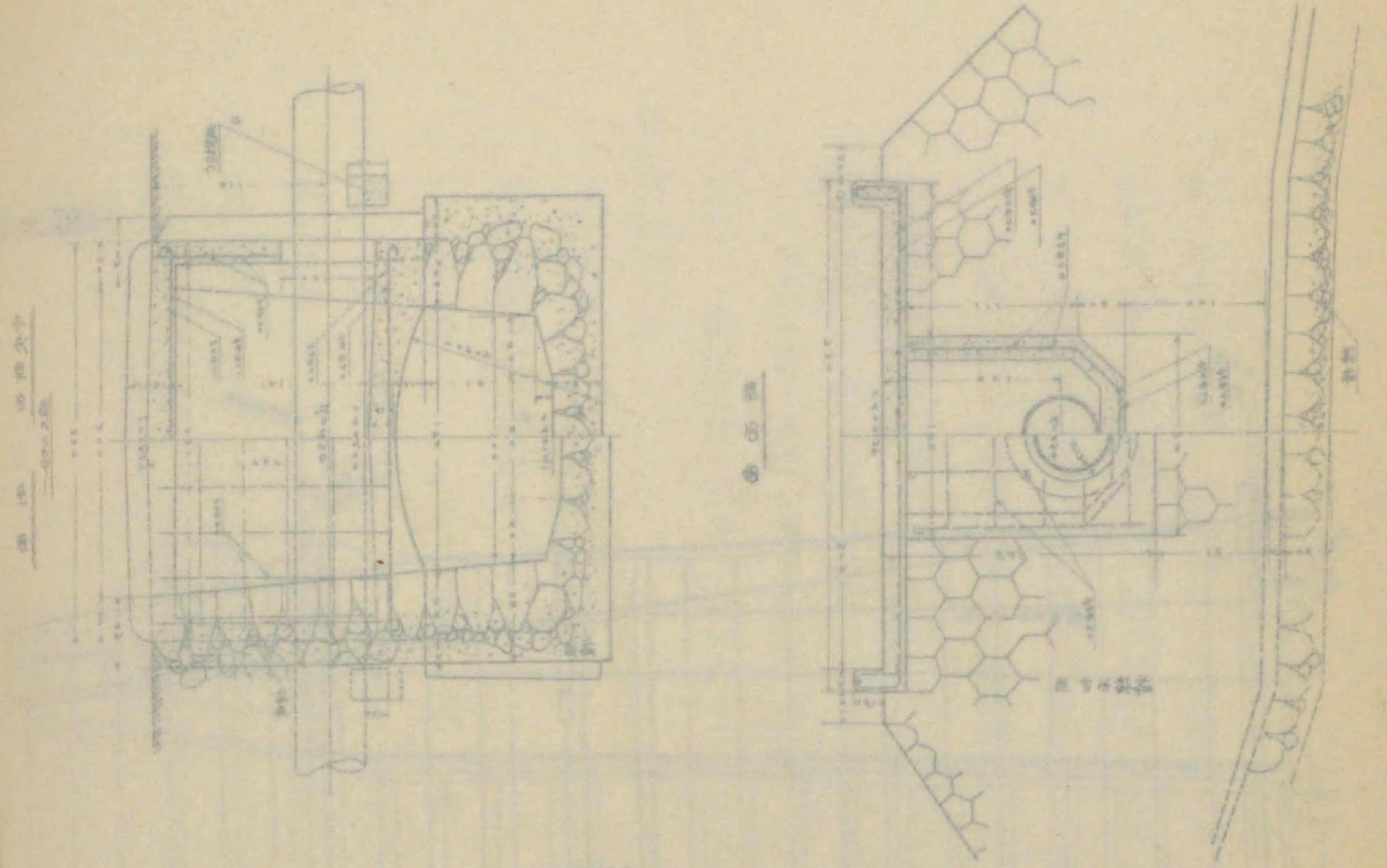
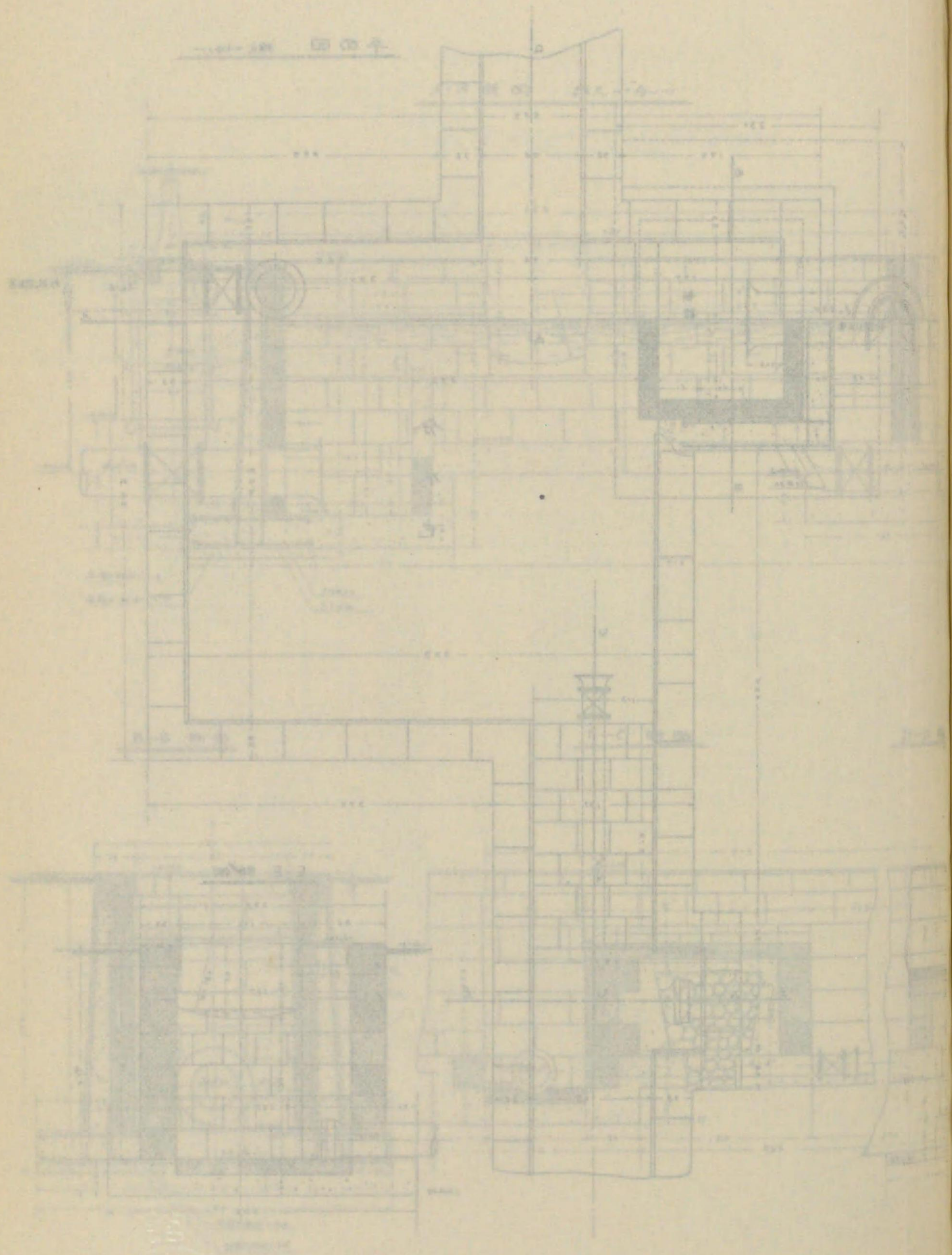
断面图



横断面

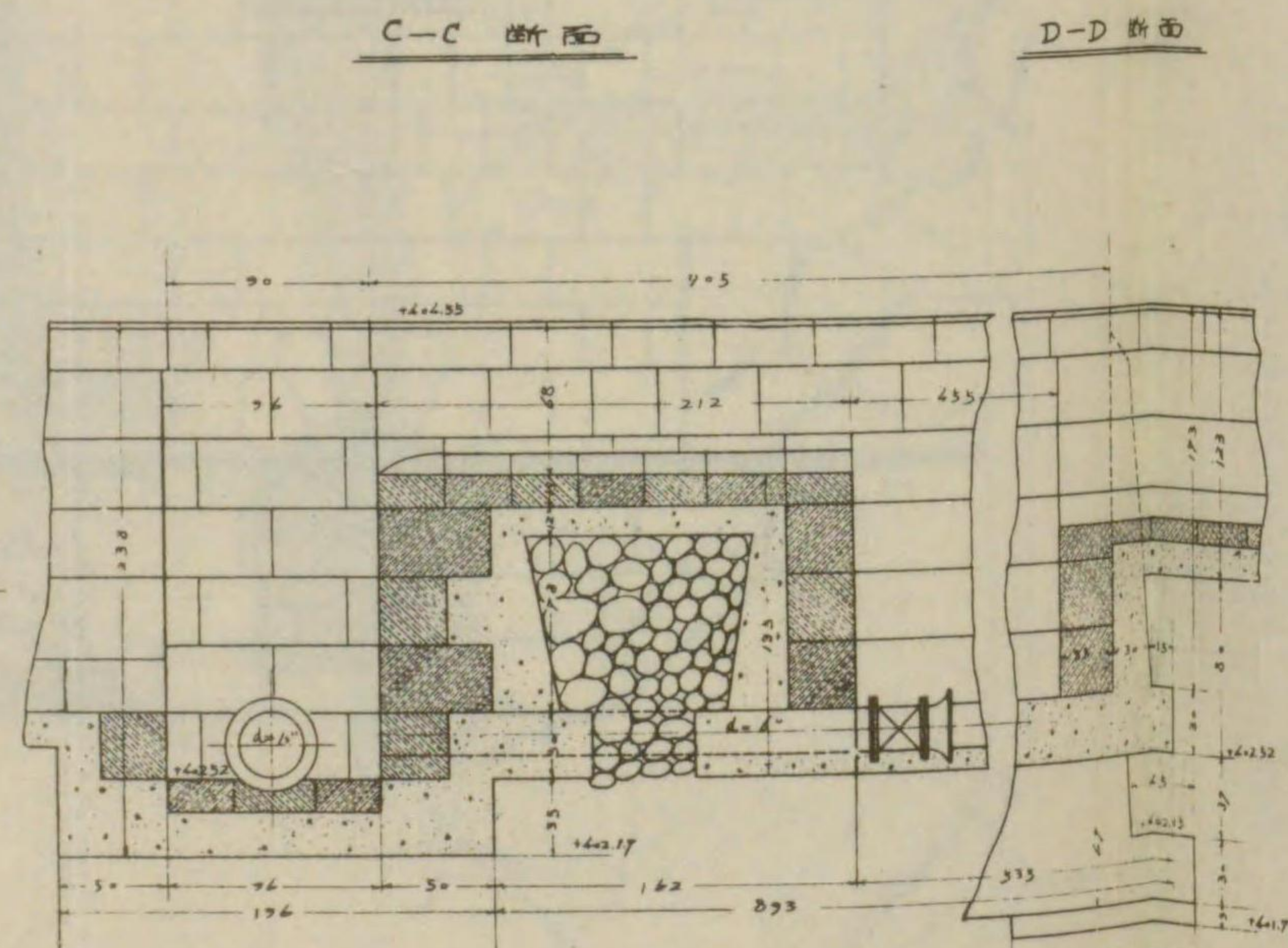
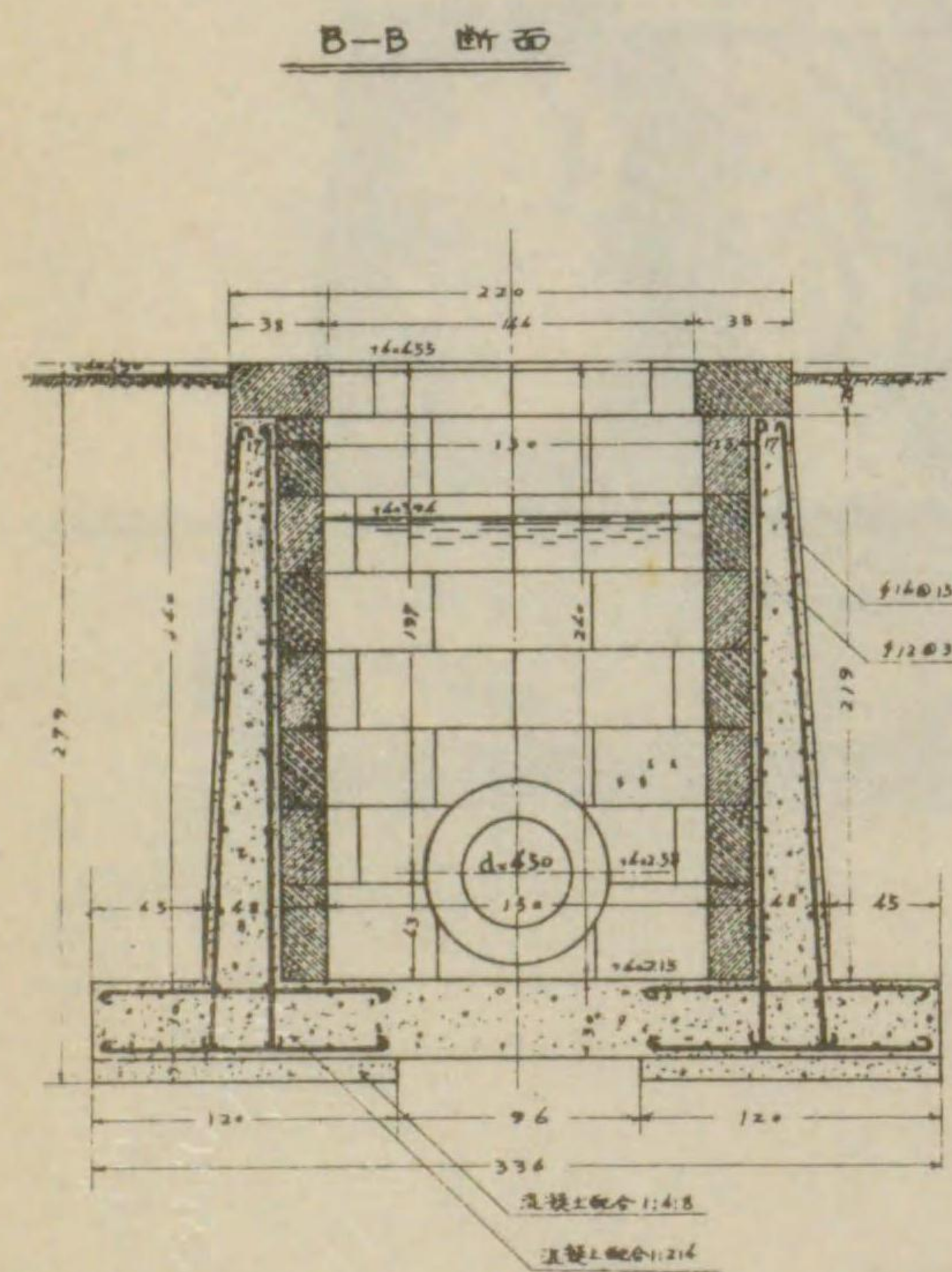
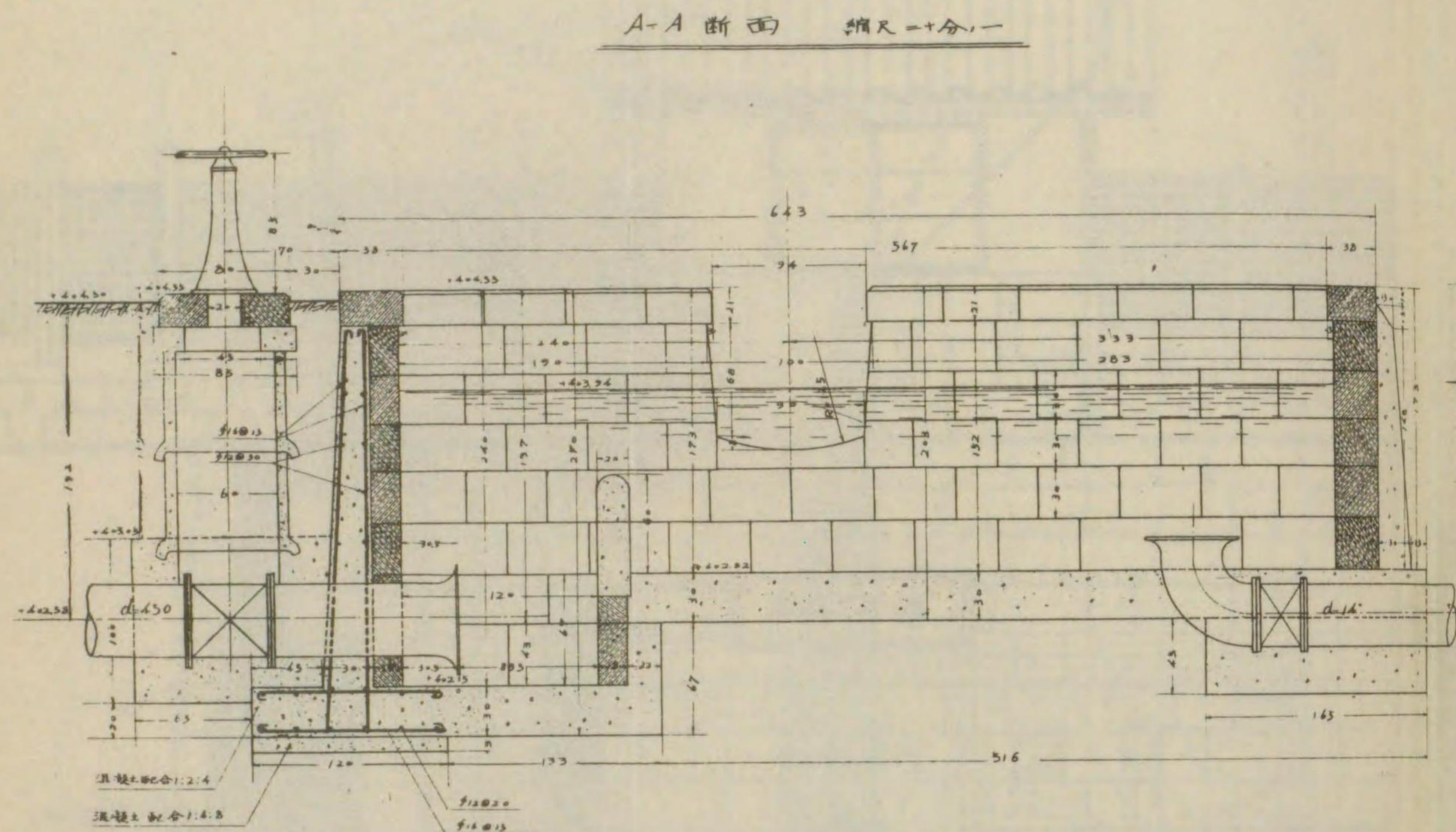




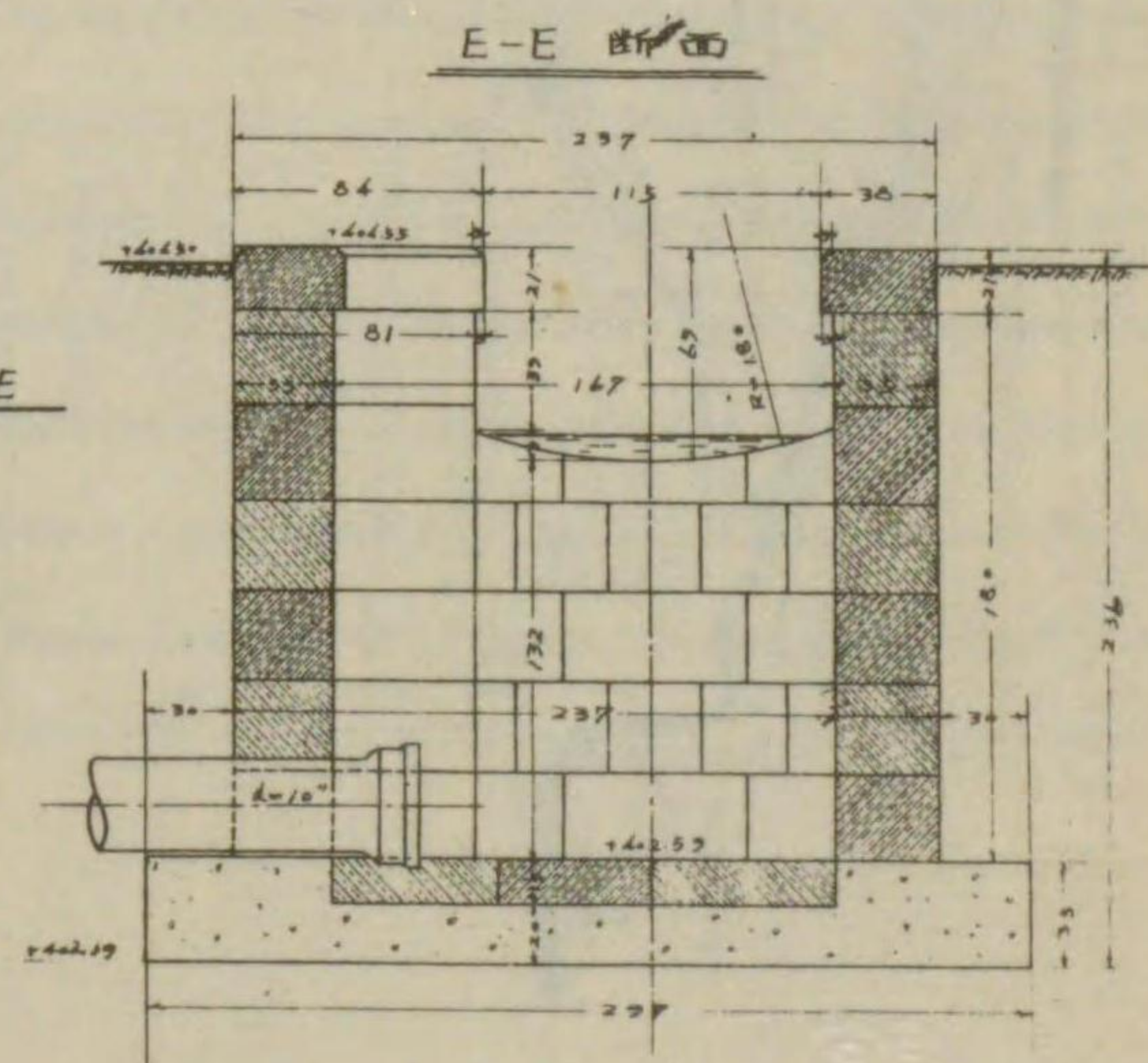
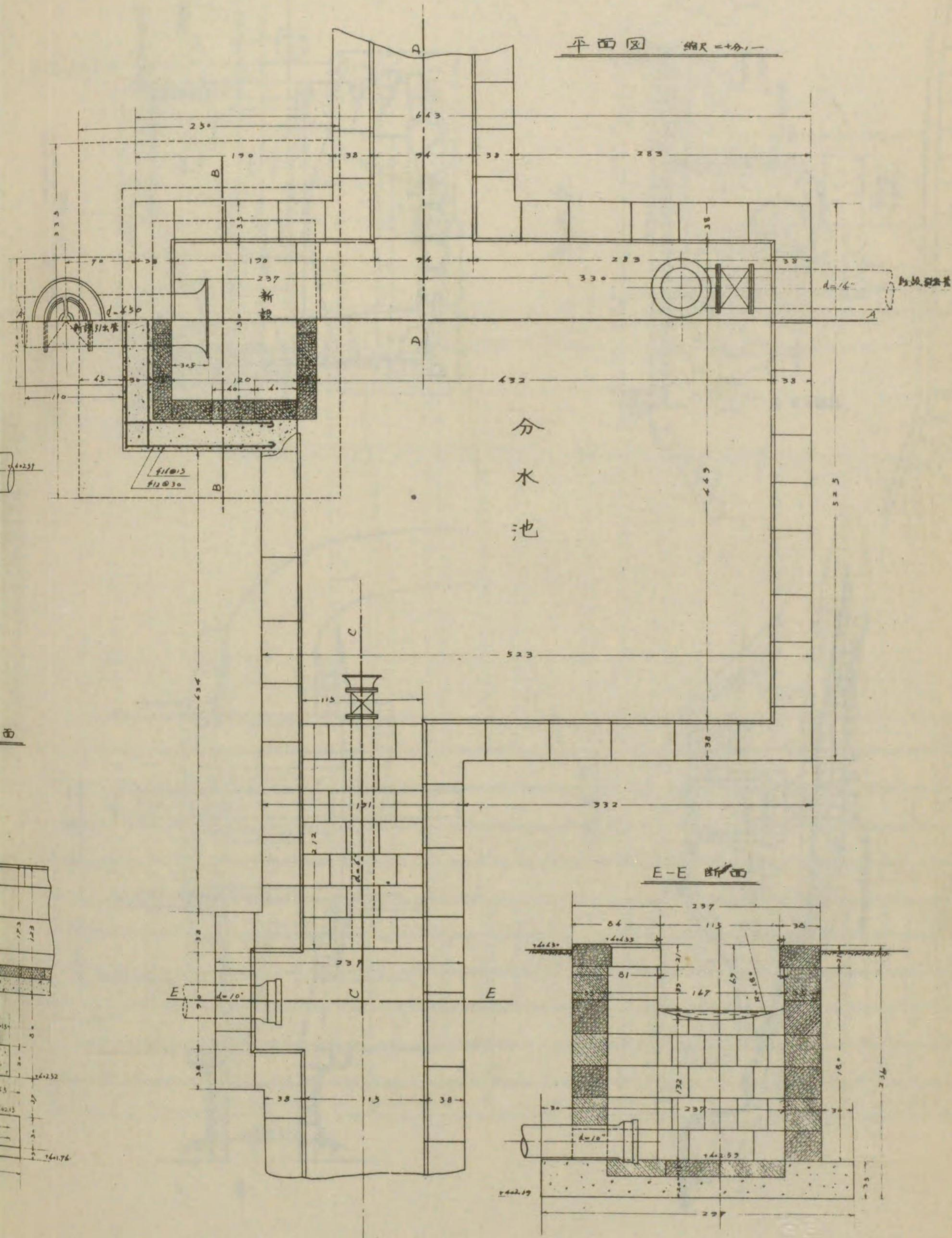




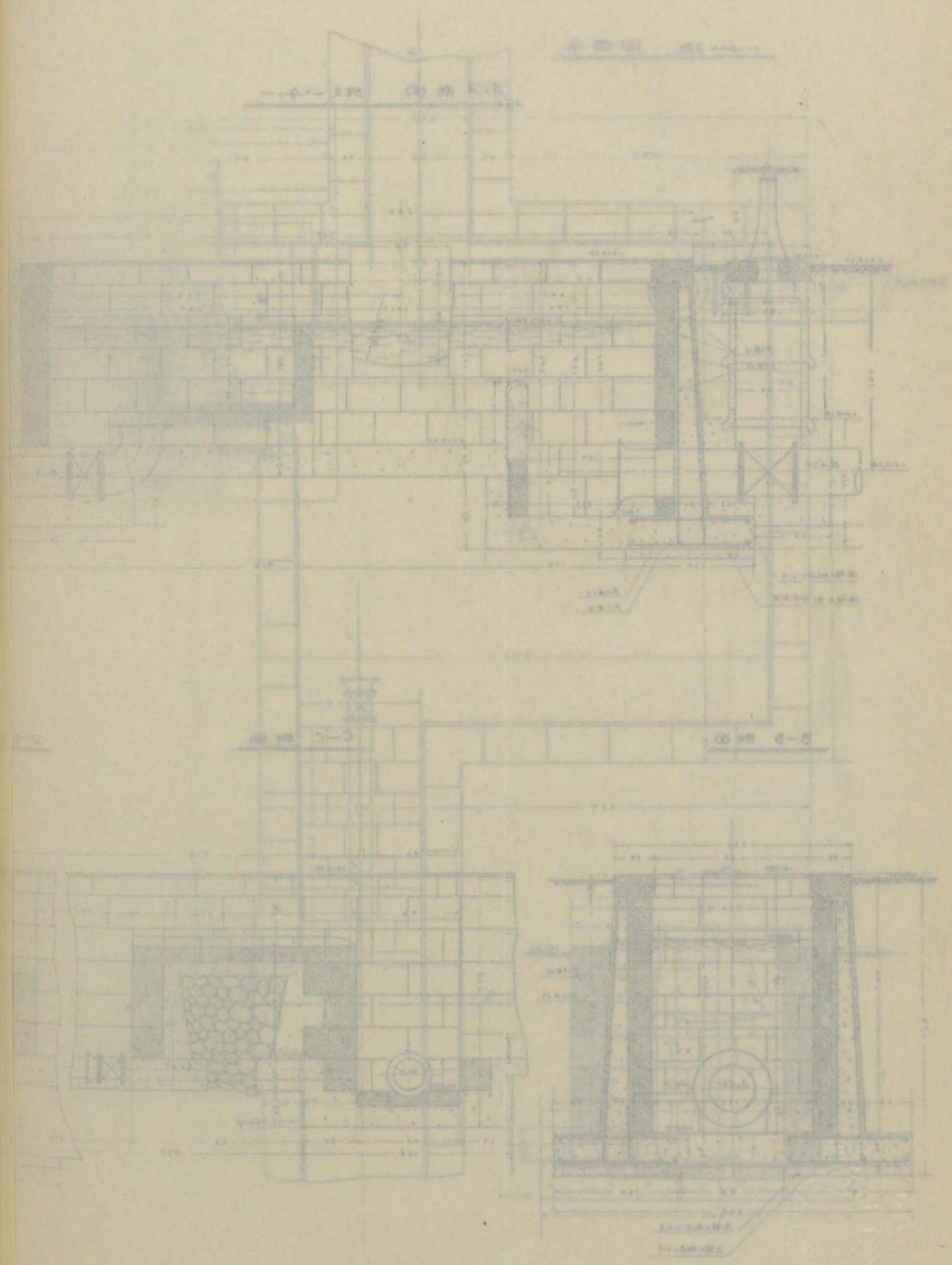
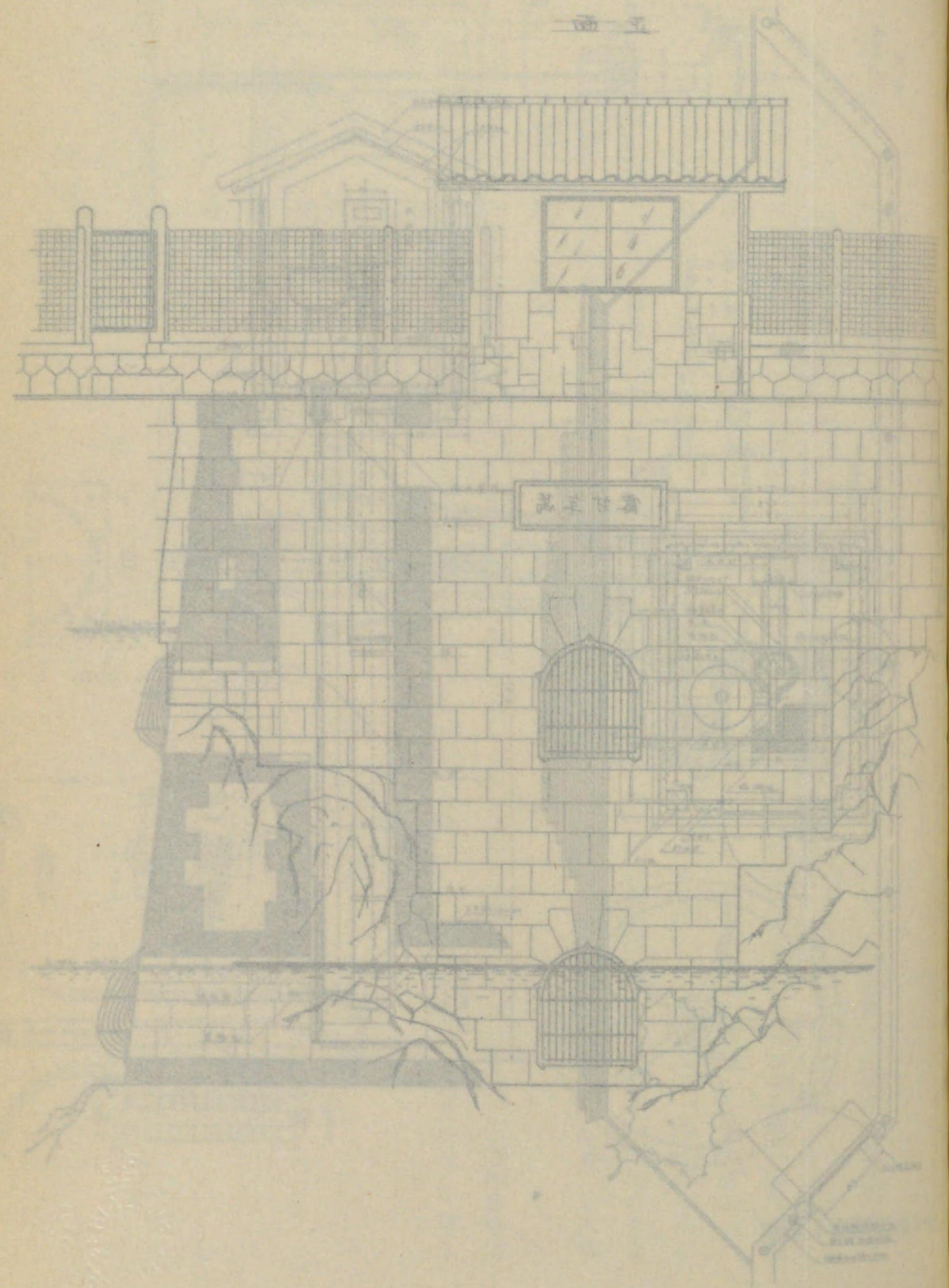
分水池構造圖



D-D 断面

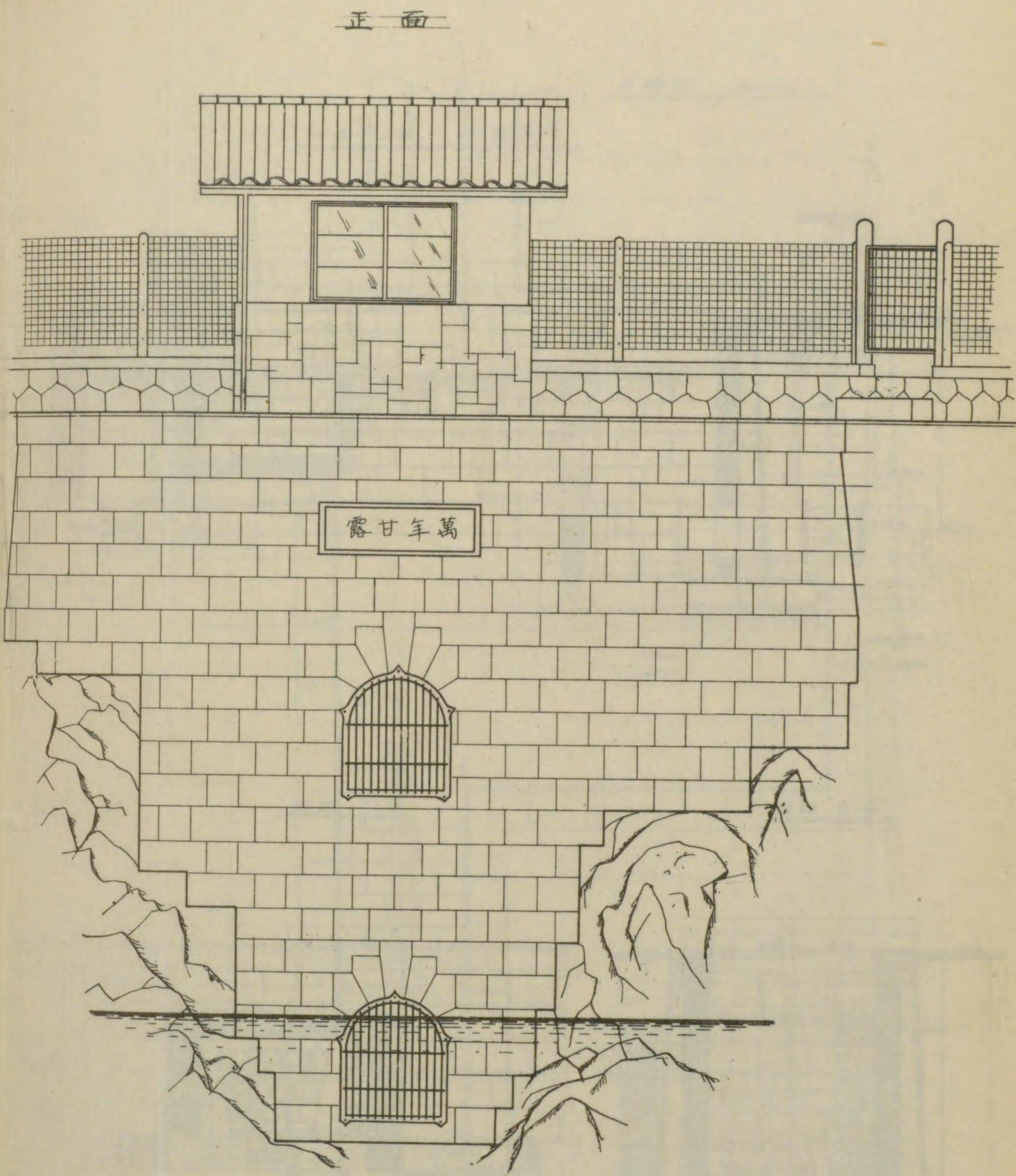
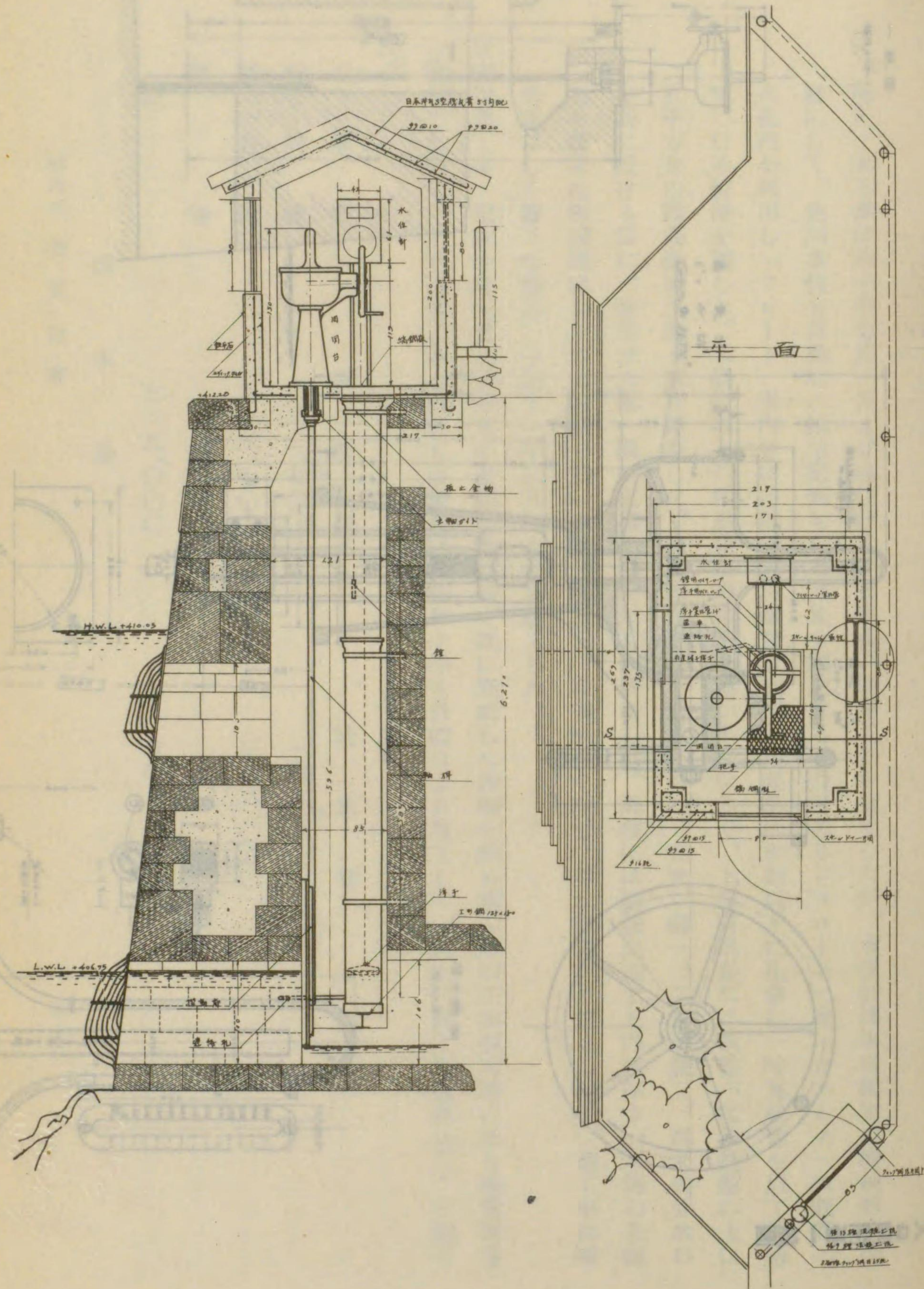








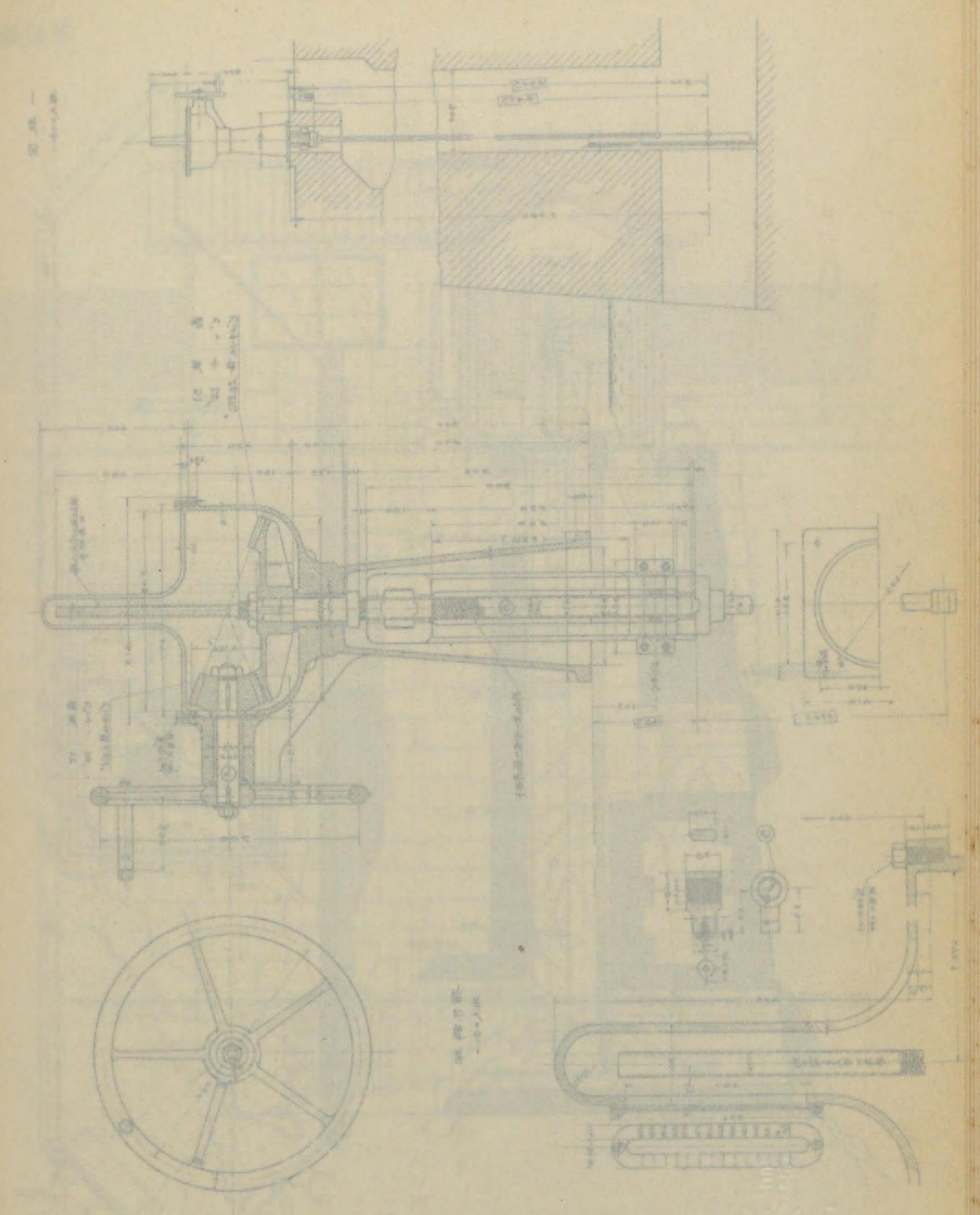
取入口構造圖











水メーターの構造図

三、施工 本工事は同十年七月一日より水位計水位連絡孔の堀穿工から着手したが、水位計は本市指定の機械的水位計にして、荒川水位を自動的に指示記録せしめ流量を測定するものである。「フロート」及「ウェイト」は既設の人孔内を利用し「フロート」案内管は内径十四吋鐵管を利用し、底部は水面以下に孔穿し一寸瓦斯管を以て連絡せしむる装置を施した。又既設取入口摺動扉は操作上不便があつたので、上部開閉臺だけ取替へ此の設備の上に五平方米の鐵筋混凝土造上家を建築した。分水池は其の一隅に長さ一、五米、幅一、二米、深二、四米の分水口を新に設ける爲に、既設分水池一隅を混凝土塊を以て假締切した。周壁には鐵筋混凝土と内面厚さ一八厘の花崗石を積重ね既設地底より六七厘深き室を造り、四百五十耗喇叭管を据付け導水鐵管引出口としたが、施工中は増水甚だしく難工を繰返して同十一年三月三十一日竣工した。

災害復舊工事 昭和十年九月二十四日の豪雨出水の爲、既に完成した設備を始め施工中の工事個所等に亘り相當被害を蒙つたので、之が復舊工事を孰れも直營を以て昭和十年十月四日より施工して、同十一月十日復舊竣工を期した。

工 事 費	設 計 額	精 算 額
材 料 費	二二二、七〇〇	一四九、九一〇
勞 力 費	三一三、七〇〇	三五八、〇八〇
雜 費	三八、六〇〇	—
計	五六五、〇〇〇	五〇七、九九〇

淨 水 場

第三章 變更計畫



濾過池築造工事

一、工事概要 既設濾過池は四面にして各池共有面積は一、一八〇平方米、濾過速度一晝夜三米、内三面にて所要の一〇、六二〇立方メートルを濾過したものであつたが、之を濾過速度三、七九米に改め、更に同一能力を有する一池を増設して五面とし、一面は豫備に充て一七、九〇〇立方メートルの濾過能力とし人口十萬人の給水に對し充分餘裕ある様設計した。之の新設濾過池は内法四一、八米、幅二八、八米、深二、八四米、有效面積一、一八八平方メートルにして周壁及基礎は一、二、四配合比で混凝土工を施し、周圍各邊に二ヶ所宛鉛板を挿めて伸縮繼手を設け、上部は混凝土土塊縁石を据付け、池底は厚さ二一糎配合比一・三・六混凝土造にして龜裂防止の爲に一四、四米及八、一二米宛十ヶ所に區分し底部及腰高九四糎表面に「アスファルト」を塗布し更に厚さ九糎の混凝土を以て被覆し、又池底に導水渠二條と是に直角に三、六米の間隔を以て集水溝を設け、導水渠引出口、引入口及溢流管、排水管、濾過床其の他に附隨した各工事を直營を以て施行した。

二、工事費	設計額	精算額
基礎工事		
材料費	四、二二九、六〇〇	三、七九一、五六〇
勞力費	八、三三三、五〇〇	八、三二五、三〇〇
雜費	三三六、九〇〇	七、二〇〇
計	一二、八〇〇、〇〇〇	一二、一三四、〇六〇
築造工事		

材料費	一二、六三四、〇九〇	一一、〇〇〇、二七二
勞力費	三、五四七、三五〇	三、五三〇、〇五〇
雜費	一一八、五六〇	一九、二〇〇
計	一六、三〇〇、〇〇〇	一四、五四九、五二二
濾過床洗砂敷均し工	四、五〇〇、〇〇〇	四、二九〇、四九〇

三、施工 本工事は池の堀鑿及底部基礎工事と同混凝土池及引入引出設備工事に分ち、昭和八年十一月六日堀鑿及底部基礎工事より着手したが、

イ、堀鑿工	岩石轉石交り土砂	一、〇六一、九六九
ロ、玉石基礎工	厚二十糎	四六、二〇〇
ハ、基礎混凝土	配合一、四、六	二二、〇五〇
ニ、底部混凝土	配合一、三、六	二四七、〇〇〇
ホ、足場及型枠工	各種混凝土工用	七八二、〇〇〇
ヘ、石垣撤去工	間知石空積	二六〇、〇〇〇
ト、石積工	同	三八五、〇〇〇
チ、道路築造工	幅員五、五米	七三三、〇〇〇
リ、張芝工	幅五〇糎	二八、〇〇〇
ヌ、暗渠築造工	深同	二八、〇〇〇

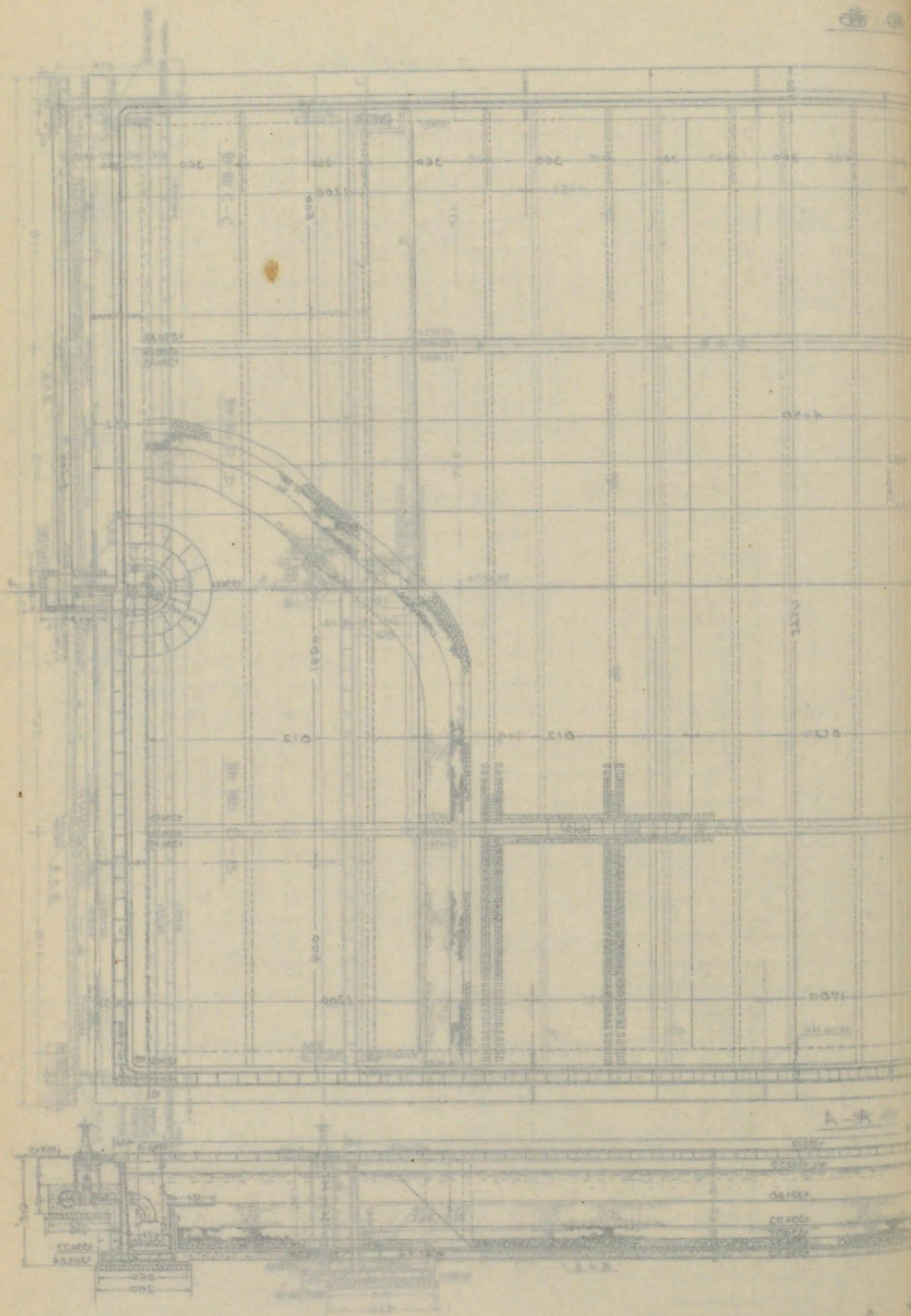


ル、排水工

ヲ、雑工 植木移植手入後片付其他

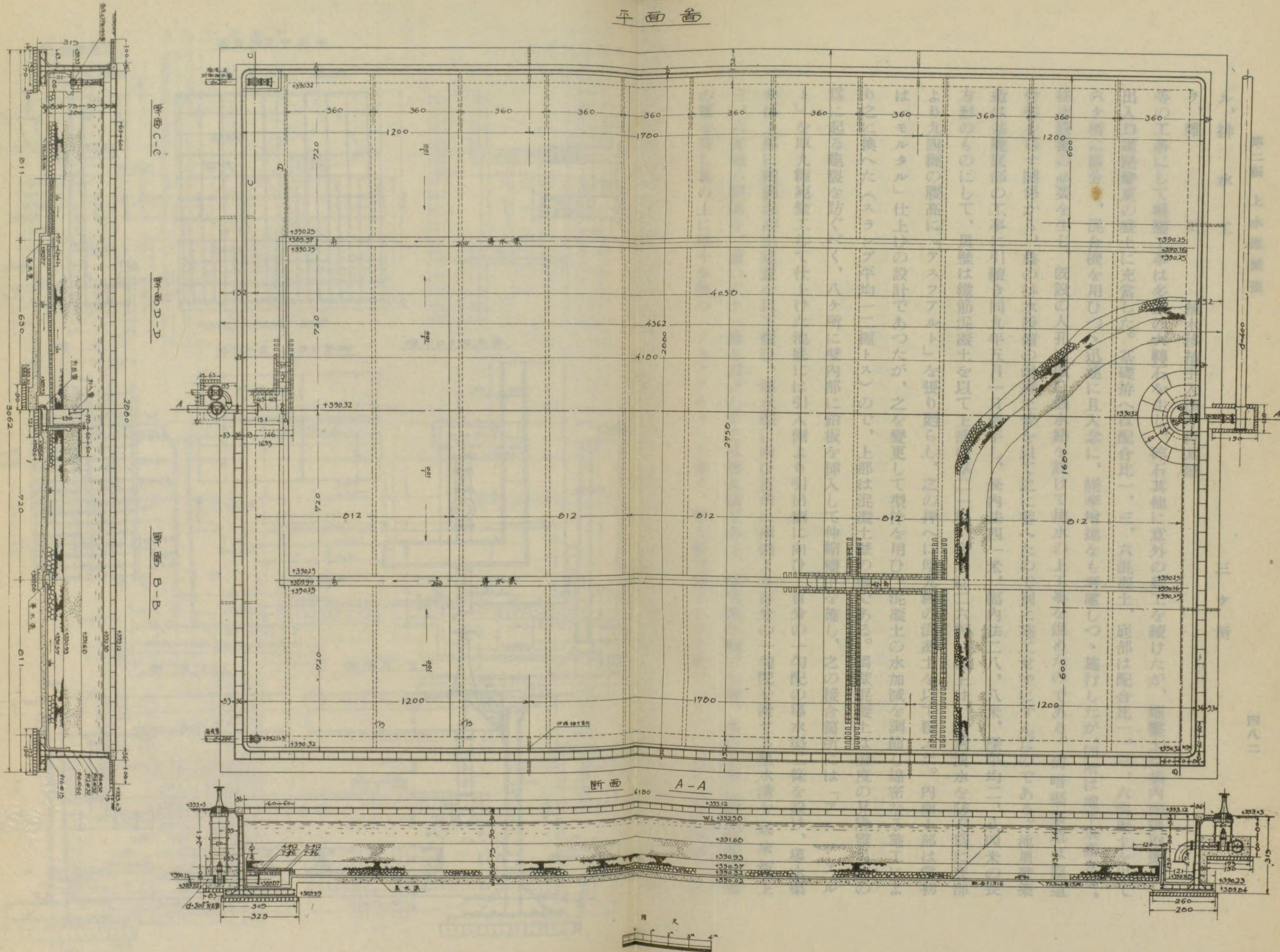
三ヶ所

等の工事にして堀鑿工事は多数の大轉石を生じ、碎石其他に意外の難工を續けたが、堀鑿土は場内南隅取擴け、出入口道路變更の盛土に充當した。基礎拵へは配合比一、三、六混凝土、底部は配合比一、三、六混凝土を以て六ヶ所に區分し、混合機を用ひつゝ、迅速に且入念に、能率増進をも考慮しつゝ、施行したが、同所は地下水高き爲、排水設備の必要を生じ、既設の人孔に做ひ假水路を設けて排水の土工を進めたのである。尙暗渠築造は縣道付替を爲す關係から、曩の排水設備の混凝土管を以て之に替へたので別に施工せずすんだのである。池周壁築造は基礎底部の工事に引續き同九年五月一日着手し、長内法四一米、幅内法二八、八米、深平均二、八四米の長方形のものにして、周壁は鐵筋混凝土を以て上部は厚二一糎、底部は二六糎に仕上げ、浸透洩水を防ぐ爲に底部より九四糎の腰高に「アスファルト」を張り廻らし、之の押へに厚九糎の混凝土を以て覆ふた。内面上部は當初は「モルタル」仕上げの設計であつたが、之を變更して型枠を用ひ、混凝土の水加減を調節し綿密なる施工により之に換へた（スランプ平均一二糎トス）ので、上部は混凝土壁の儘である。周壁混凝土は温度の昇降震災等の爲に起る龜裂を防ぐべく、八ヶ所に壁内部に鉛板を挿入して伸縮繼手を施し、之の接合箇所には「アスファルト」を厚九糎宛塗工して仕上げた池底には引入側より引出側に向ひ二百分の一勾配の導水渠二條を設け、導水渠井は上部に鐵筋混凝土造蓋を以て覆ひ、導水渠に向ひ直角に兩側より百分の一勾配を附せる集水溝を底板上三、六米宛の間隔を、置いて十一條を設けたが之は煉瓦積である。導水渠は幅三七糎、其の上部に鐵筋混凝土造の覆を爲し其の上に厚十五糎の「アスファルト」を塗り、厚九糎混凝土を以て押へにした。又引入管は内徑三百

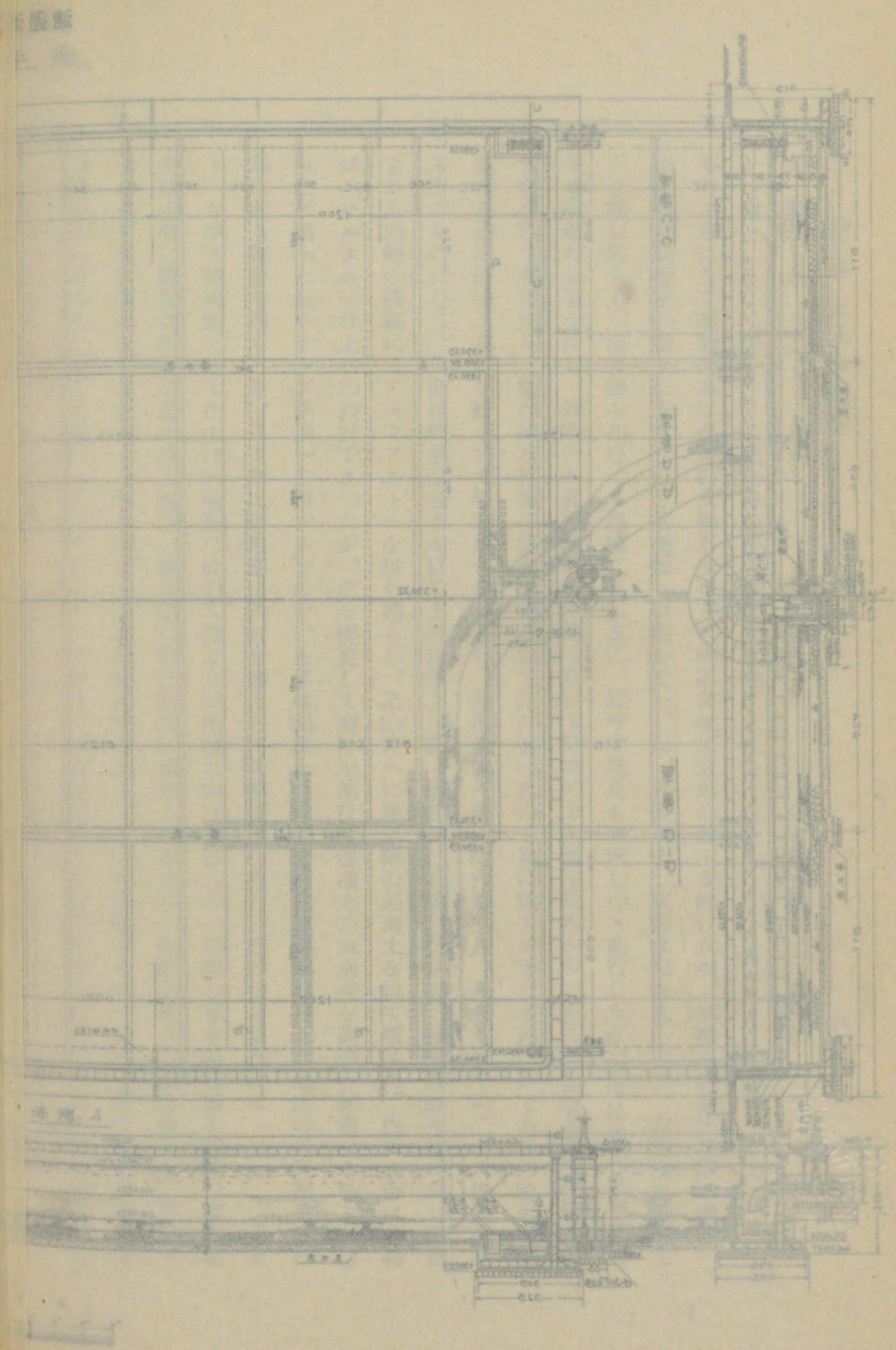
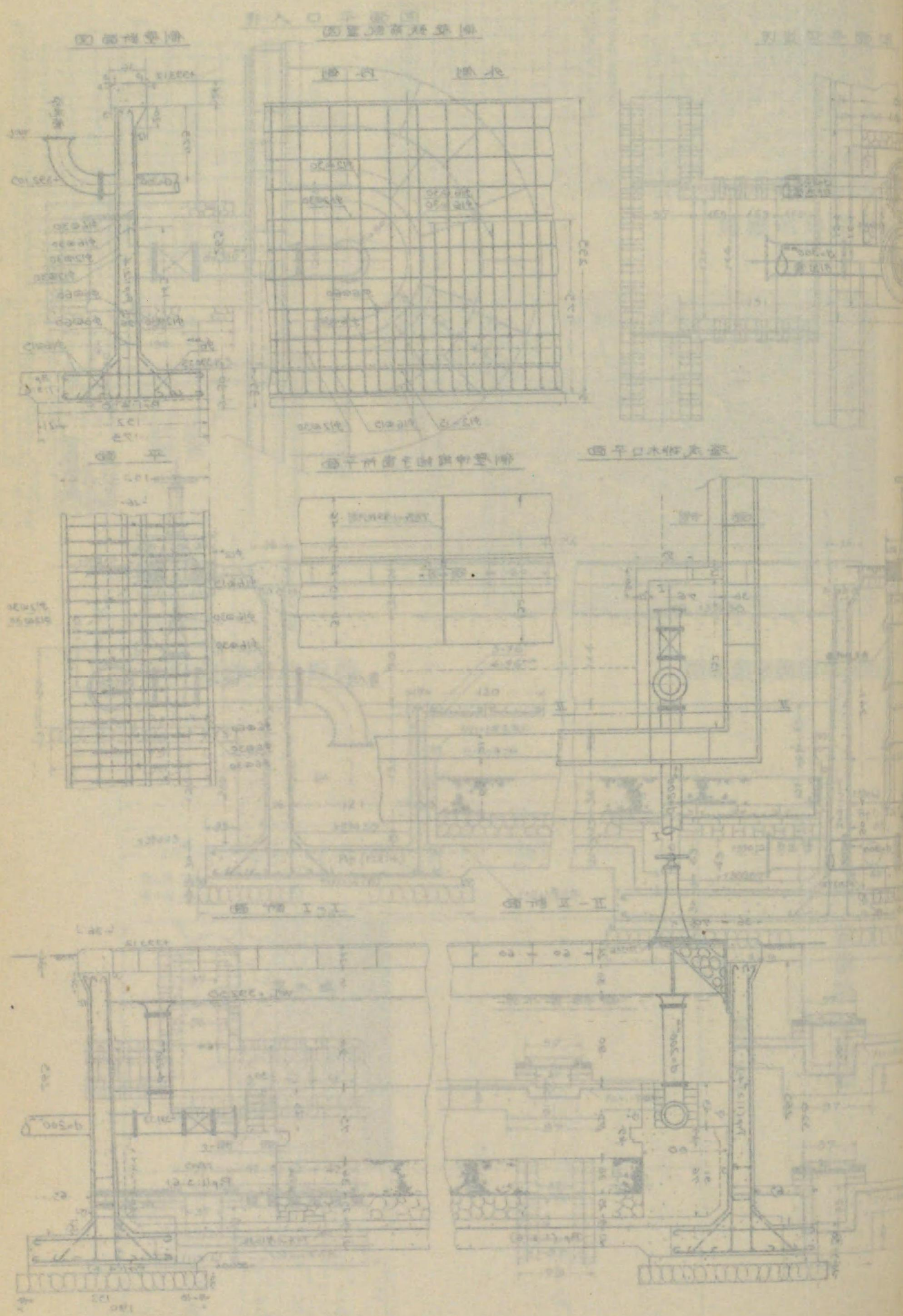




濾過池構造圖  
平面圖







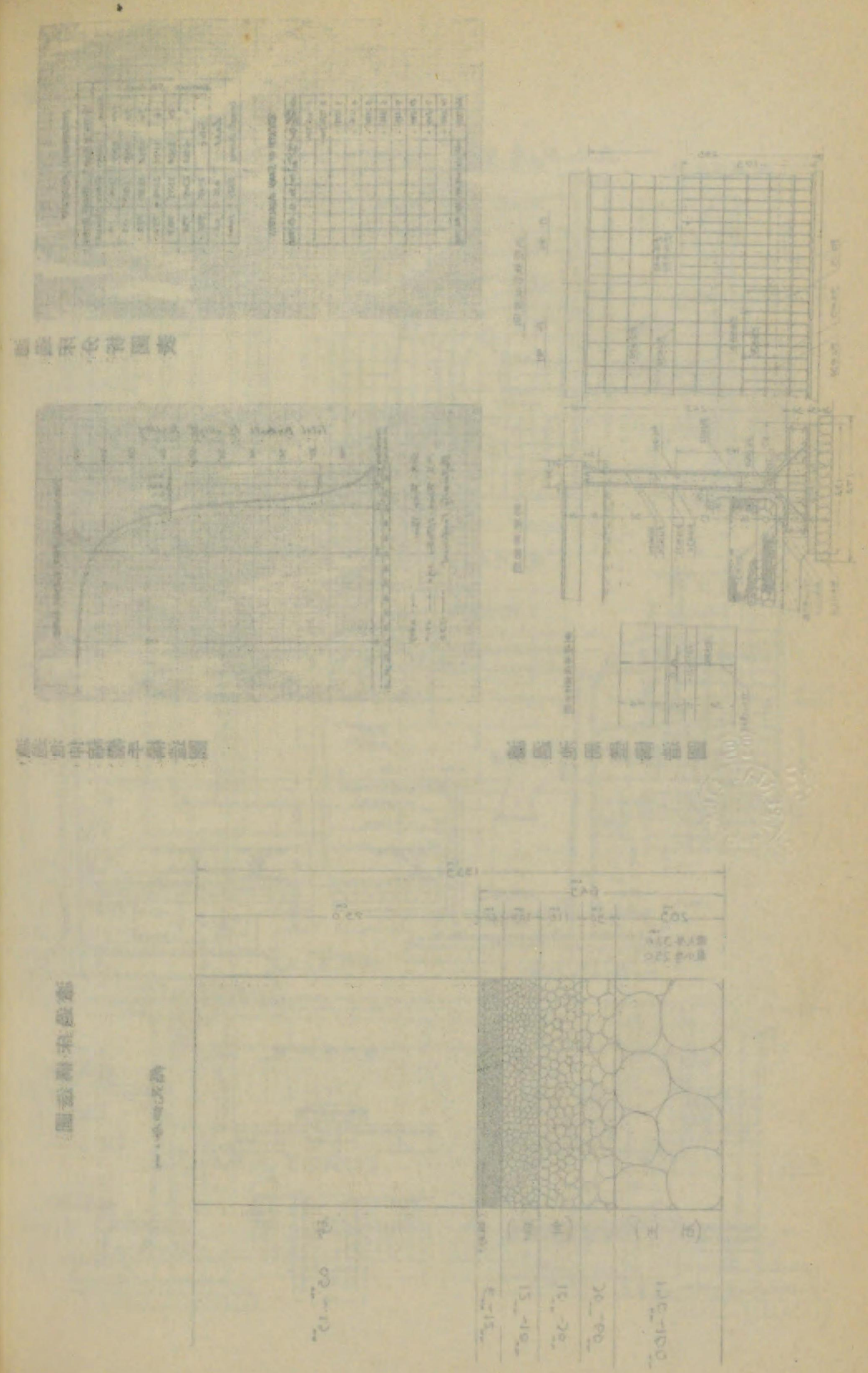












糲鐘口曲管を、引入口の中央上部へ鐘口下向きに敷設し、水勢の緩和と導水の均一に分布する様の装置を施し、引出口は引入口の反対側に中央池底面より四五糲低くき所に長一・五米幅一、二米の室を設け、内徑三百糲の引出管により濾過調整室に連絡せしめた。尙引出口側の兩側隅に内徑二百糲の溢流管を設けて源水を一定位置に保つと共に、水面掃除に便ならしめた。尙他の一隅には砂面排水用の内徑二百糲管を取設けたが各管には夫々開閉用制水弁を据付ける等の所定工事を同九年十二月略々終了した。次に濾過床層は最下部集水溝は煉瓦を配列し其上に玉石二五糲厚さに敷詰め、其の上に最大六糲より六糲迄の四種に區分して三六糲の砂利層を作り、最上部は厚七五糲の砂層とした。之の濾過床用の砂は粒度其の他精良なるものを採用すべく定評ある釜無川開國橋附近に推積せるものを試験した所有效徑〇、三一均等係數一、八〇六にして濾過床用には申分のないので、粒度半糲以下の細砂を除去し採用し濾過床を造つたのである。又砂篩、洗滌には洗滌器を用ひ入念に撰砂洗滌した上使用した。尙之の前に石垣、入口道路、排水枿等夫々所定の工事を施行し同十一年一月十五日竣工した。

接合井築造工事

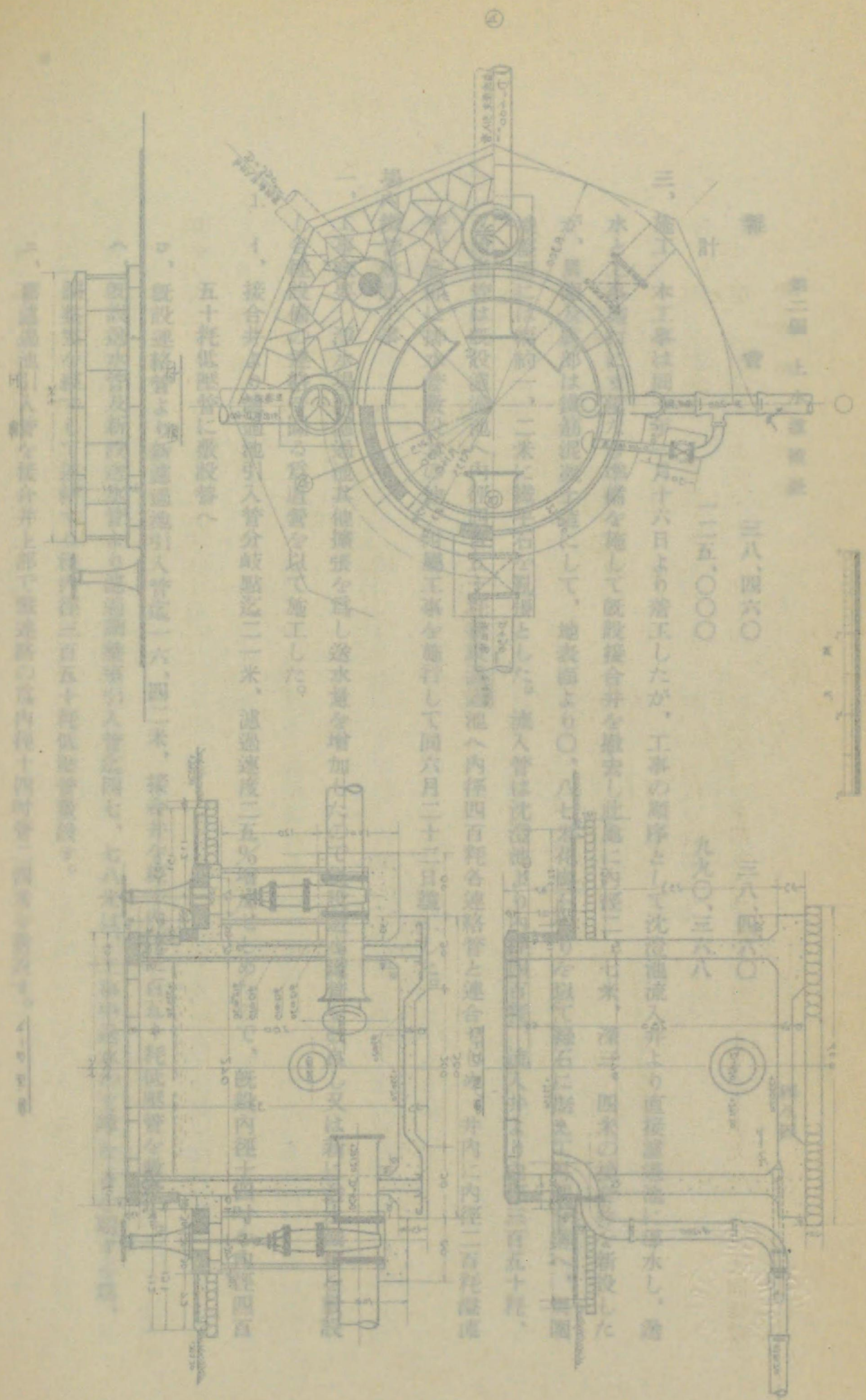
一、工事概要 既設の接合井を撤去し、之の位置に内徑二、七米、深三、四米混凝土又は鐵筋混凝土造圓形に改築し沈澄池よりの流入管は内徑四百糲流入井よりの側管は内徑三百五十糲を、又、流出管は既設四面濾過池へ内徑四百五十糲を新設濾過池へ内徑四百糲を夫々連絡敷設する爲直營を以て施行した。

三、工事費	
材料費	設計額
六六九、七〇〇	五二七、九八八
五四一、一四〇	四六二、三八〇
勞力費	









ホ、内径十四吋管撤去二六、〇〇米

ヘ、〃 四百五十耗制水弁据付 二ヶ

ト、〃 三百五十耗制水弁据付 四ヶ

チ、〃 三百五十耗制水弁室築造 三ヶ所

昭和九年三月三日夫々着手し同三十一日竣工した。

工 事 費	設 計 額	精 算 額
材 料 費	二、三六三、六一〇	二、二九八、二九〇
勞 力 費	九二九、一五〇	六二八、四三〇
雜 費	一〇七、二四〇	—
計	三、六〇〇、〇〇〇	二、九二六、七二〇

2. 1、導水渠より沈澄池迄二〇、二五米内径四百耗管新設す。

ロ、沈澄池より接合井迄四六、二五米既設内径十四吋引出管を内径四百耗低壓管に敷設替す。

ハ、接合井より濾過池迄埋戻附近の一部たる二二、八五米、新設濾過池引入管内径四百耗を敷設す。

ニ、第一號濾過池より調整室迄八三、七三三米、濾過速度増大の爲既設内径十二吋を内径三百五十耗低壓管に敷設替す。

ホ、第三號濾過池より調整室迄八三、七三三米、に同様敷設替へす。

ヘ、第二濾過池より調整室迄の一部一四三、〇八米及び第四濾過池より調整室までの一部九八、四〇米同様敷

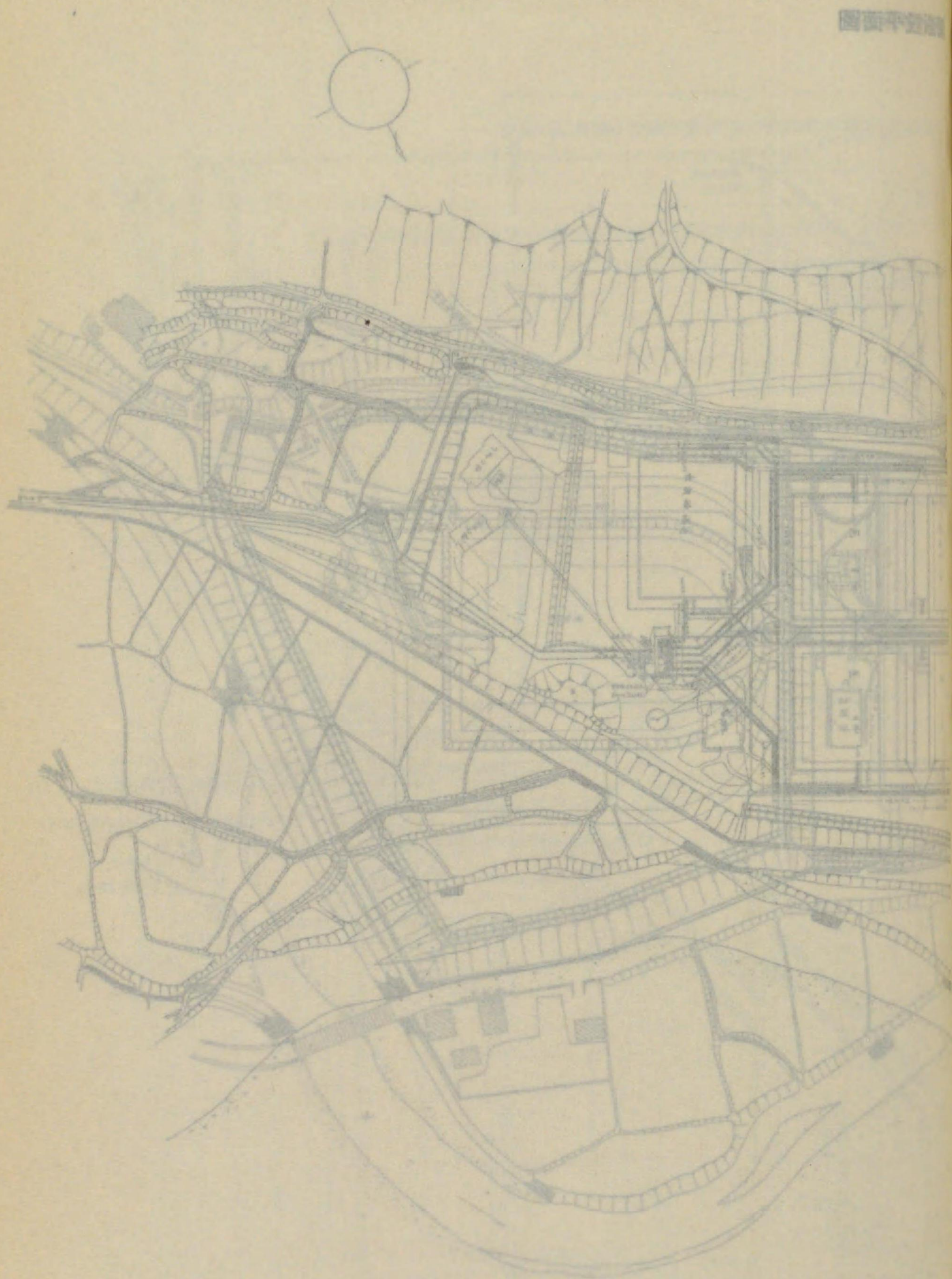


設す。

- ト、新濾過池より調整室迄一八、三一五米内徑三百耗低壓管を引出管として敷設す。
  - チ、調査室百耗排水管を各室共排水人孔に集め七、四四米敷設す。
  - リ、調整室引入管連絡として七、二四米内徑百五十耗管を敷設す。
  - ヌ、接合井溢流管四、八〇米内徑二百耗管敷設す。
  - ル、同排水管一、二米内徑百耗管敷設す。
  - ヲ、同舊排水管内徑十二吋管八三、五米を砂洗場及濾過池排水管に連絡敷設す。
- 其の他制水弁室排水柵の各工事を同九年八月十八日より着手し、同十一年三月三十一日竣工した。

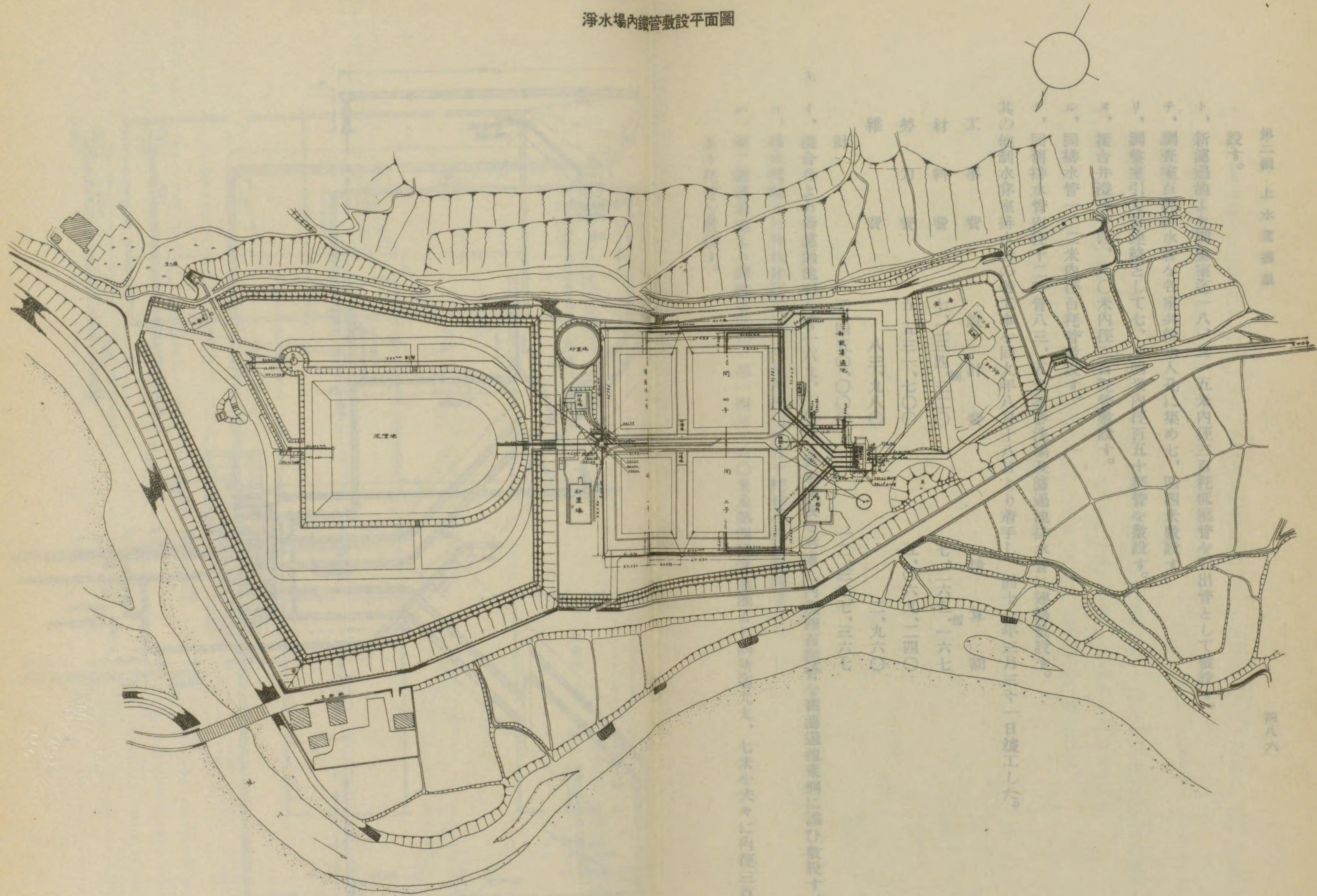
工 事 費	設 計 費	精 算 額
材 料 費	七、二三四、三二〇	七、二六五、一六七
勞 力 費	五、五三一、七〇〇	五、〇六九、二四〇
雜 費	八三、九八〇	二、九六〇
計	一二、四五〇、〇〇〇	一二、三三七、三六七

- 3. イ、接合井より新濾過池引入管一六九、一八米、將來擴張を考慮し内徑四百耗管を舊濾過池東側に添ひ敷設す。
- ロ、導水開渠より分水井迄二一、四米内徑三百五十耗管を連絡敷設す。
- ハ、第二號濾過池より調整室迄の一部一四三、六〇米及第四號濾過池より同所迄九九、七米を夫々に内徑三百五十耗管を敷設す。





浄水場内鐵管敷設平面圖



第二編 上水工務部

設す。

八八六

工務部

新設濾過池

同 子

成管池

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

同 子

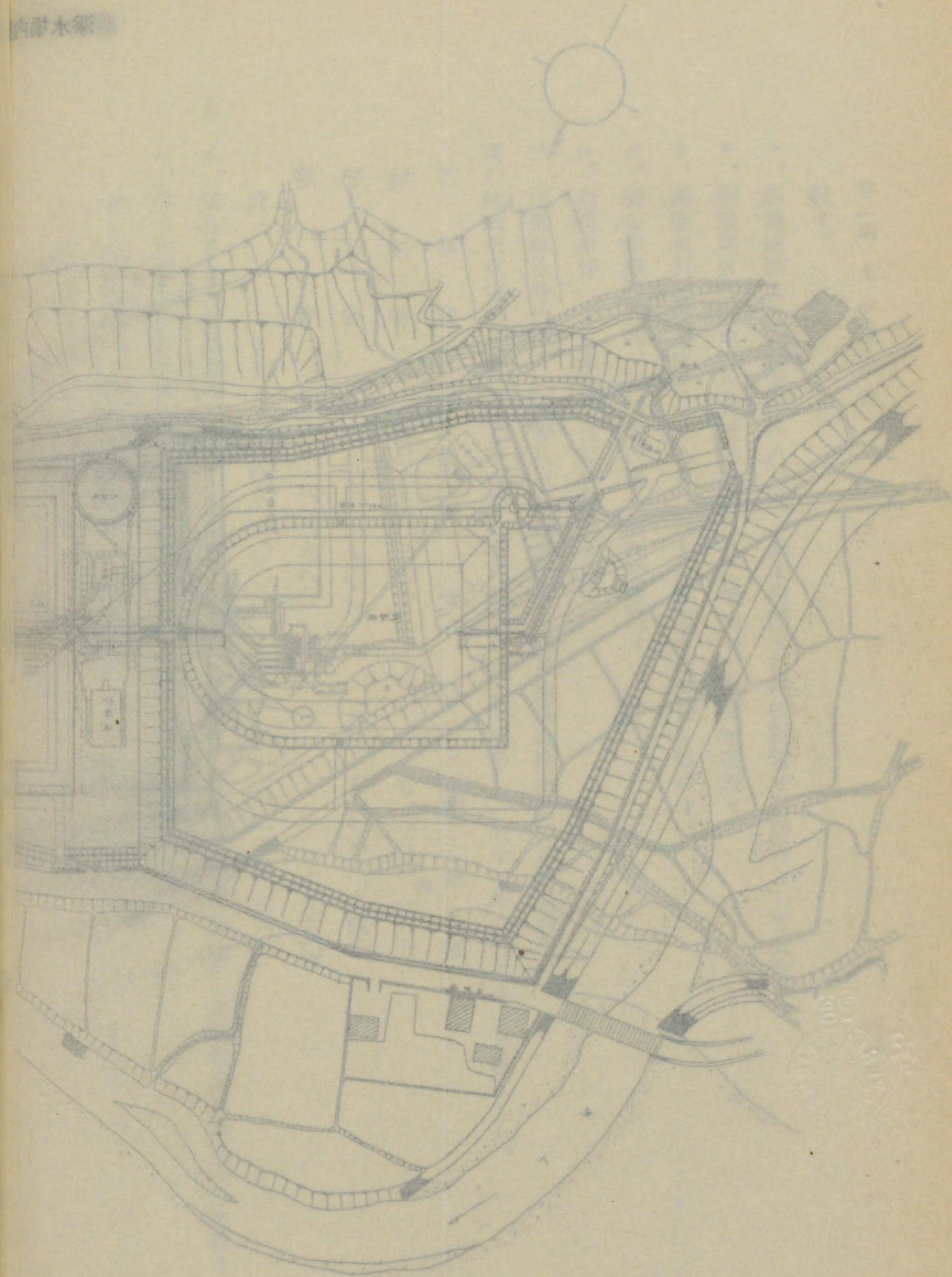
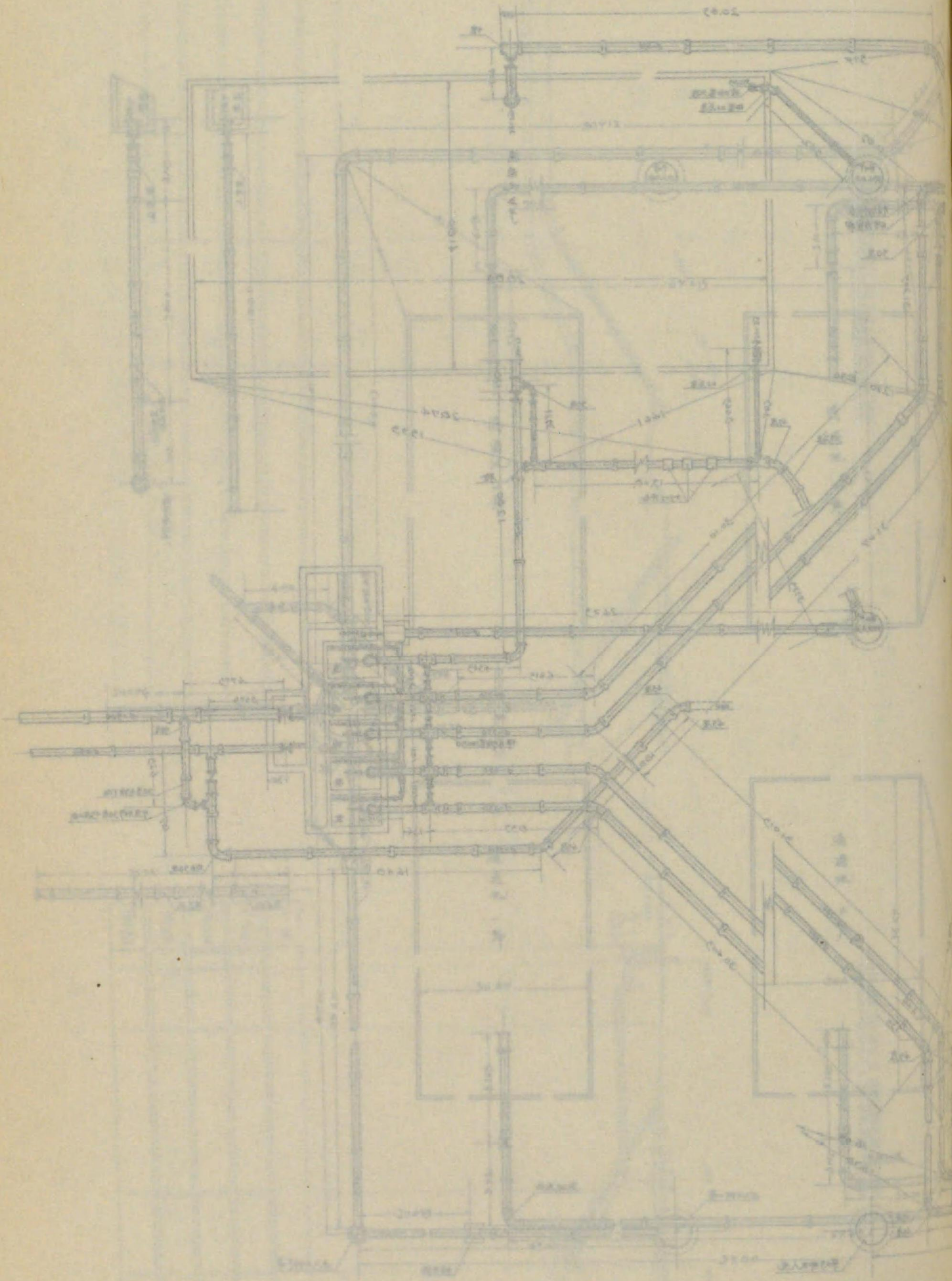
同 子

同 子

同 子

同 子





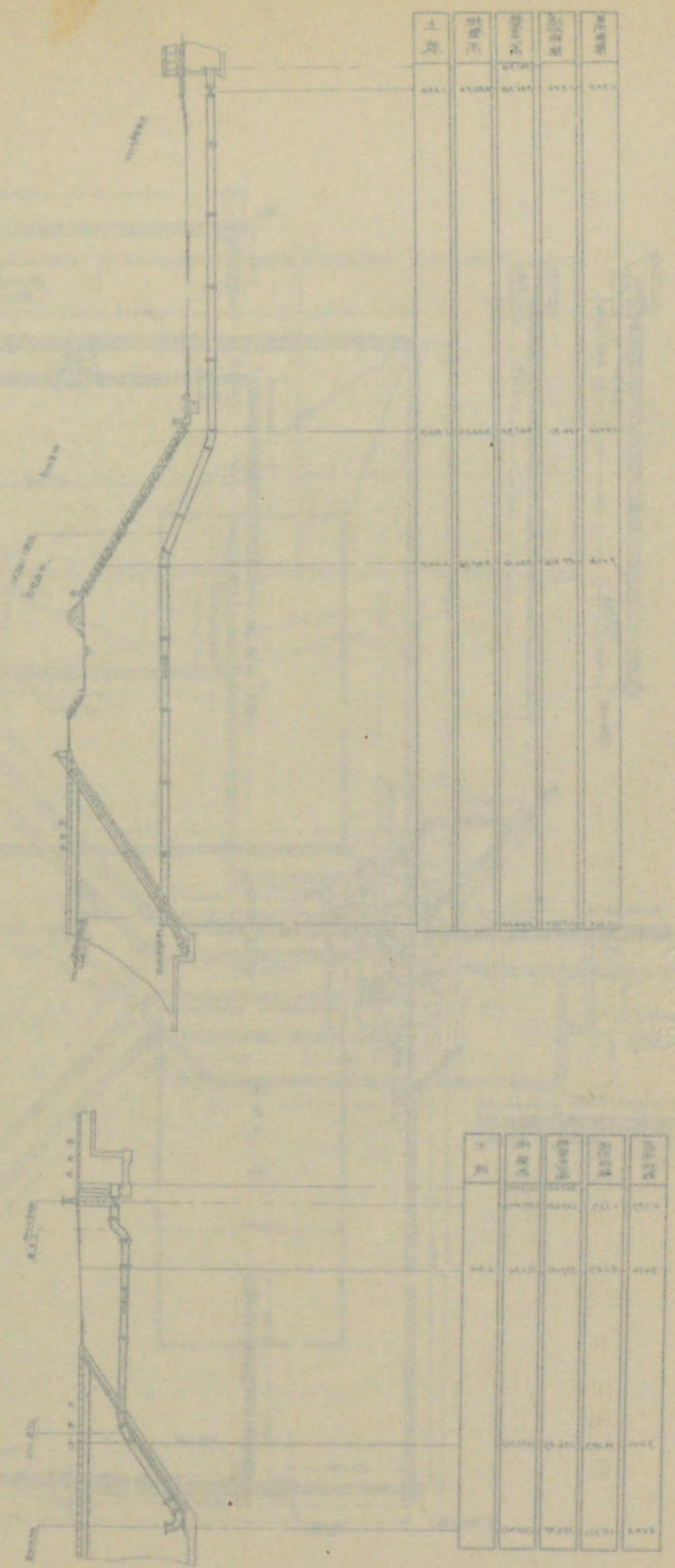












開面洗砂機八尺口径式

開面洗砂機八尺口径式

三、既設砂洗給水管より新砂洗給水管内徑百耗管一三米を敷設す。  
 等の各工事に昭和九年十月十六日より着手し同十一年三月三十一日竣工した。

工 事 費	設 計 費	精 算 額
材 料 費	四、八五〇、九五〇	四、四五五、六八五
勞 力 費	一、七一六、六〇〇	一、七〇九、五七〇
雜 費	八二、四五〇	一五、五一九
計	六、六五〇、〇〇〇	六、一八〇、七七四

砂揚場砂洗場其他築造工事

一、工事の概要 新設した五面の濾過池に對する濾過床用の砂揚、砂洗場を場内に設け、原砂及洗砂置場、運搬軌條等左の如く直營を以て築造した。

一、砂 揚 場	三米×六米	三ヶ所
一、洗 砂 設 備	特許松田式第二種砂洗機	一ヶ所
一、原 砂 溜 柵	七米×五米	一ヶ所
一、砂 置 場	直徑一八米	一ヶ所
一、軌 條	延長四五二米、一二封度	

砂洗機は當初既設のもの外に、砂輸送設備を有する特許松田式砂洗機を購入して取据けた爲、其の附屬設備を施行したが、之が爲途中設計變更の必要生じ豫算も増額した。



二、工事費

設計額

精算額

材料費

二、九一、二〇〇

一、七二七、七〇〇

勞力費

一、二二一、六五〇

一、二一七、五〇〇

雜費

四二、一四〇

一五、〇〇〇

計

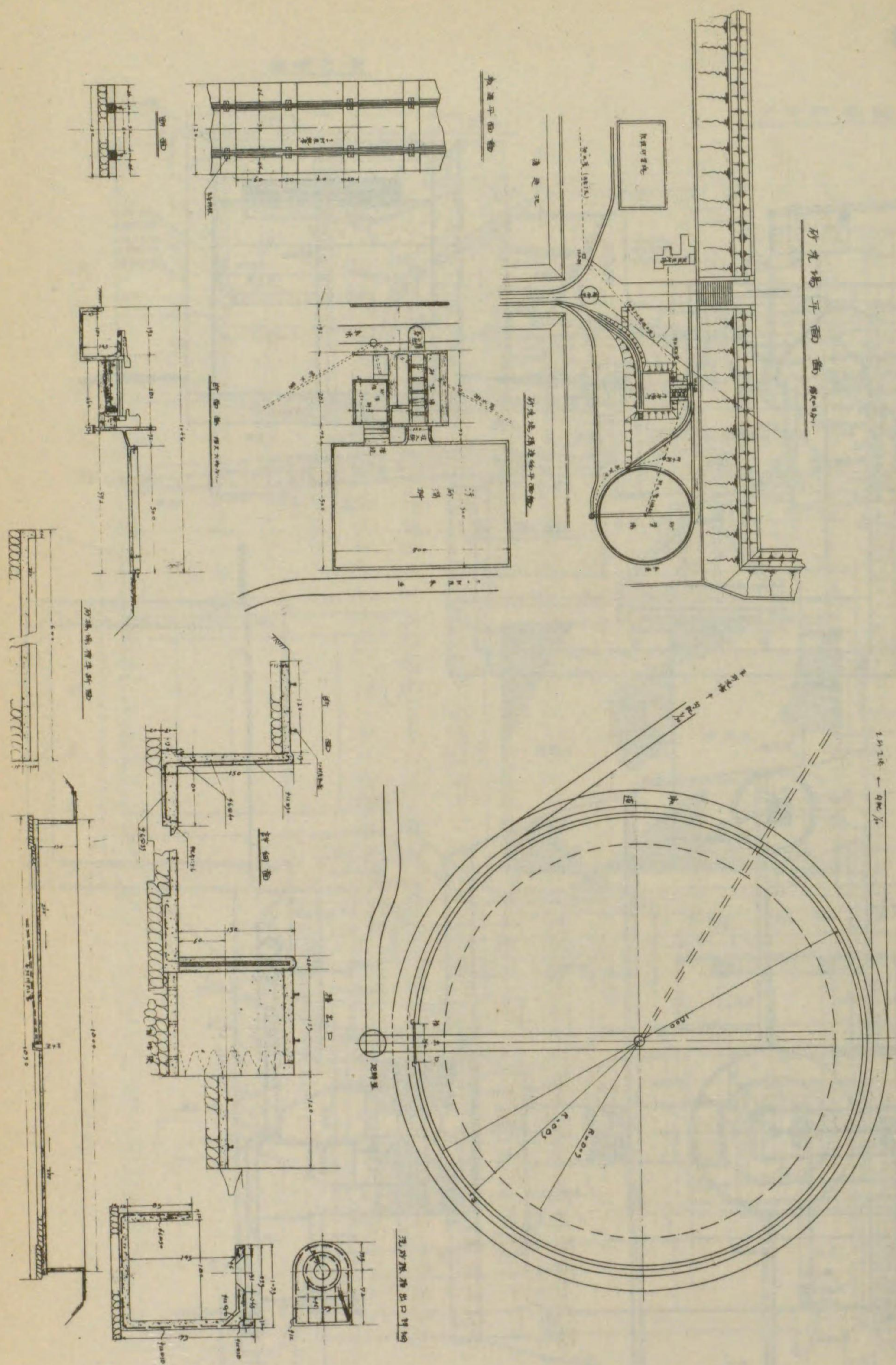
四、一七五、〇〇〇

三、九六〇、〇〇〇

三、施行 同十年九月十日着工し砂洗場は内法長六米、幅三米周圍三方を高一五厘の縁を有する鐵筋混凝土造としモルタル仕上げを施した。流砂溜柵は内法五米及七米深十三厘配合比一、三、六の混凝土造とし表面モルタル仕上げを爲し更に砂洗場に面し積込口を設けた。砂置場は内徑一八米深一・五米の圓型のものにして、周圍は厚さ平均十四厘の鐵筋混凝土造を以て表面にモルタルを塗り、四ヶ所に伸縮繼手を設け、底部は中央に向ひ二百の一勾配を付しを敷設し此處に排水孔を付け排水設備とした。又砂洗場より汚砂溜柵、新舊砂置場等を連絡する爲軌道を敷設し、運搬車により各砂運搬設備とした。砂洗場は濾過池一面の汚砂を一日に洗砂し得る。乃ち十八立方米を洗砂する能力設備の爲從來のものを改良する設計であつたが、砂輸送設備が特許松田式に牴觸する爲に自由に改良至難であつたから、調査の結果砂輸送設備を有する松田式洗砂機を購入の上、取据附屬設備と共に同十一年三月三十一日竣工した。

濾過調整室築造工事

一、工事概要 調整室は當初新設濾過池と、併せて五面に對する調整機其附屬設備を施行する設計であつたが、將來極度人口十五萬給水に備へる爲に濾過池二面増築する方針を以て之を見越して豫備室二ヶを増築する設計に變更



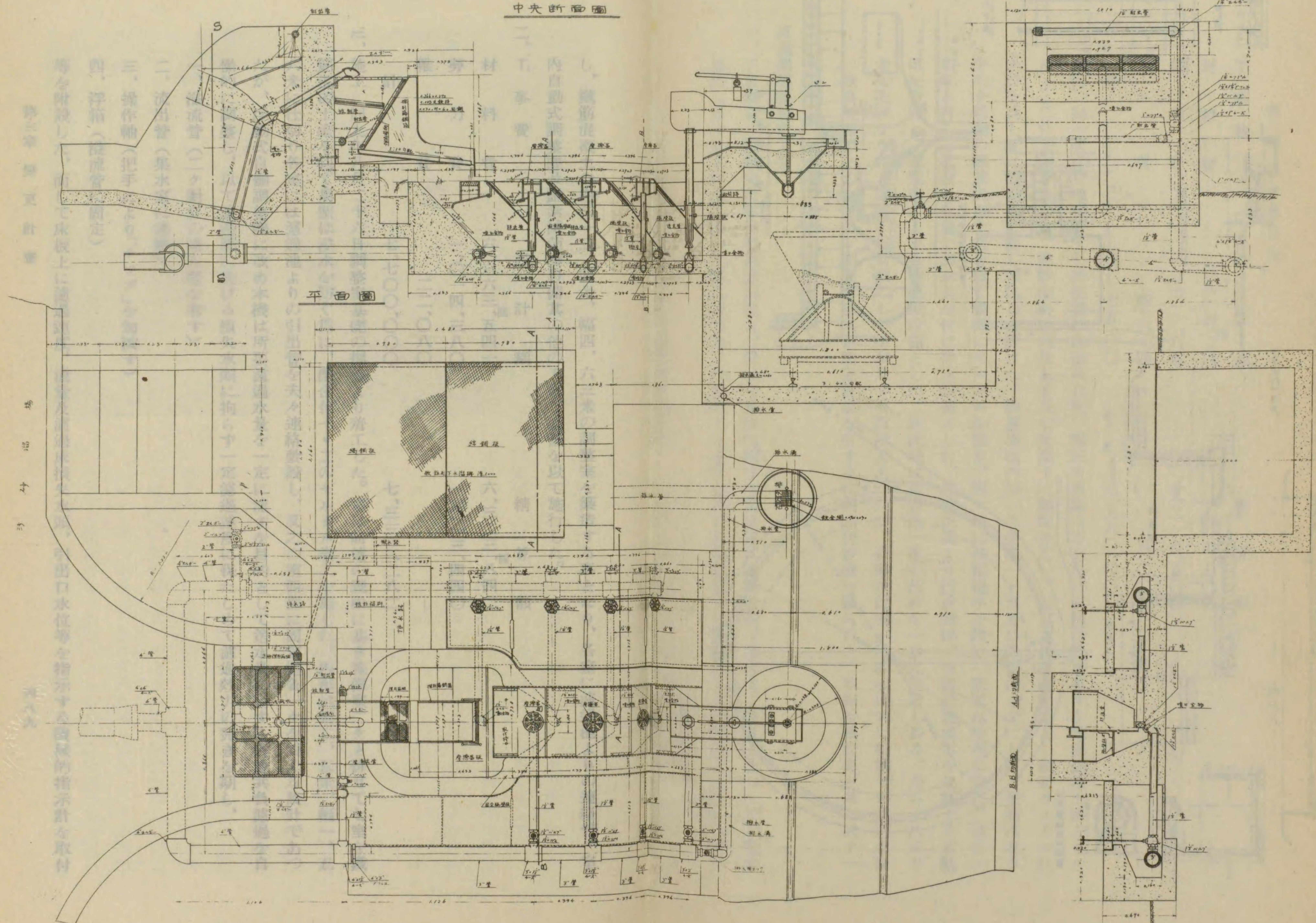






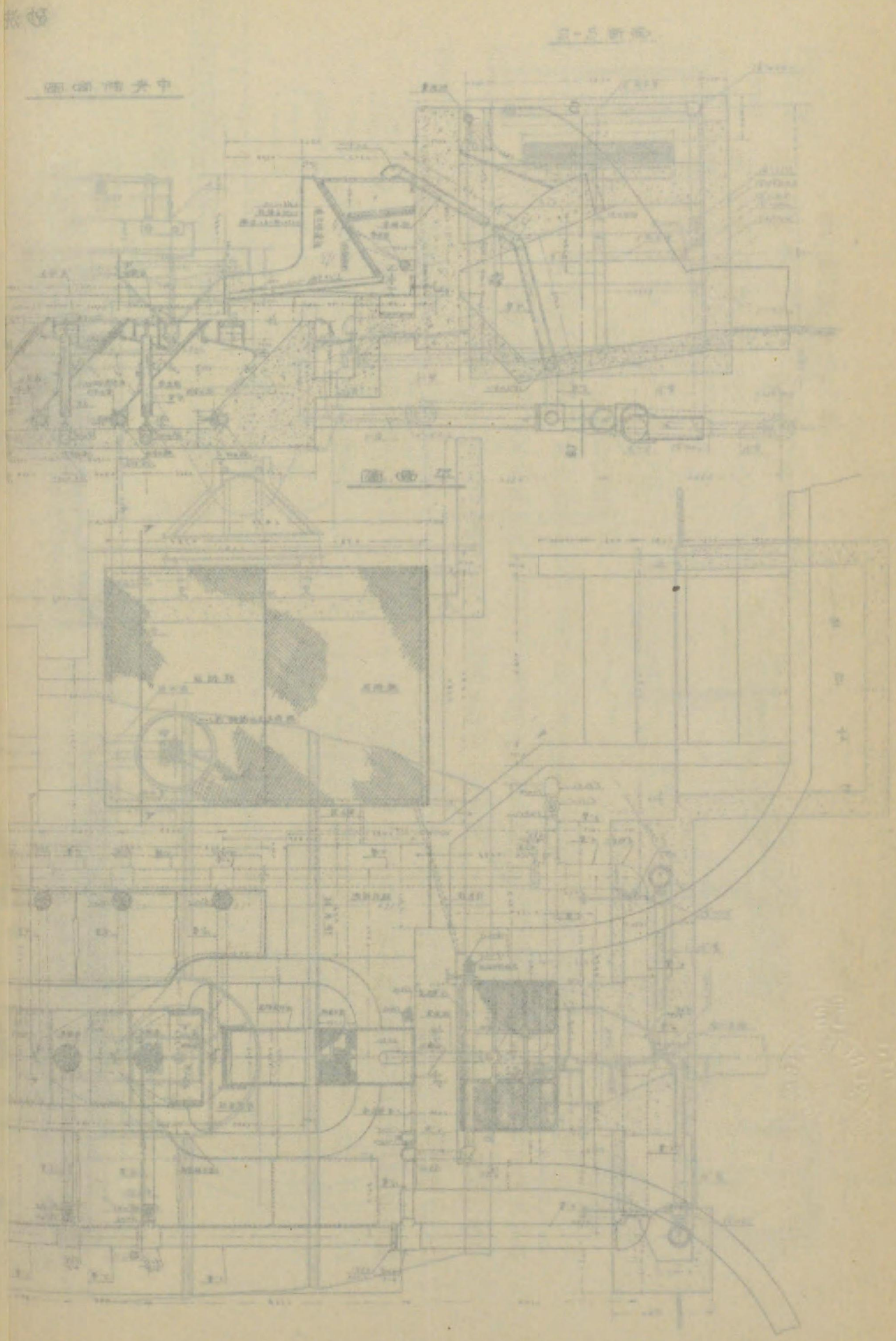
砂洗機構造圖

中央剖面圖



出口水位等由指示器指示





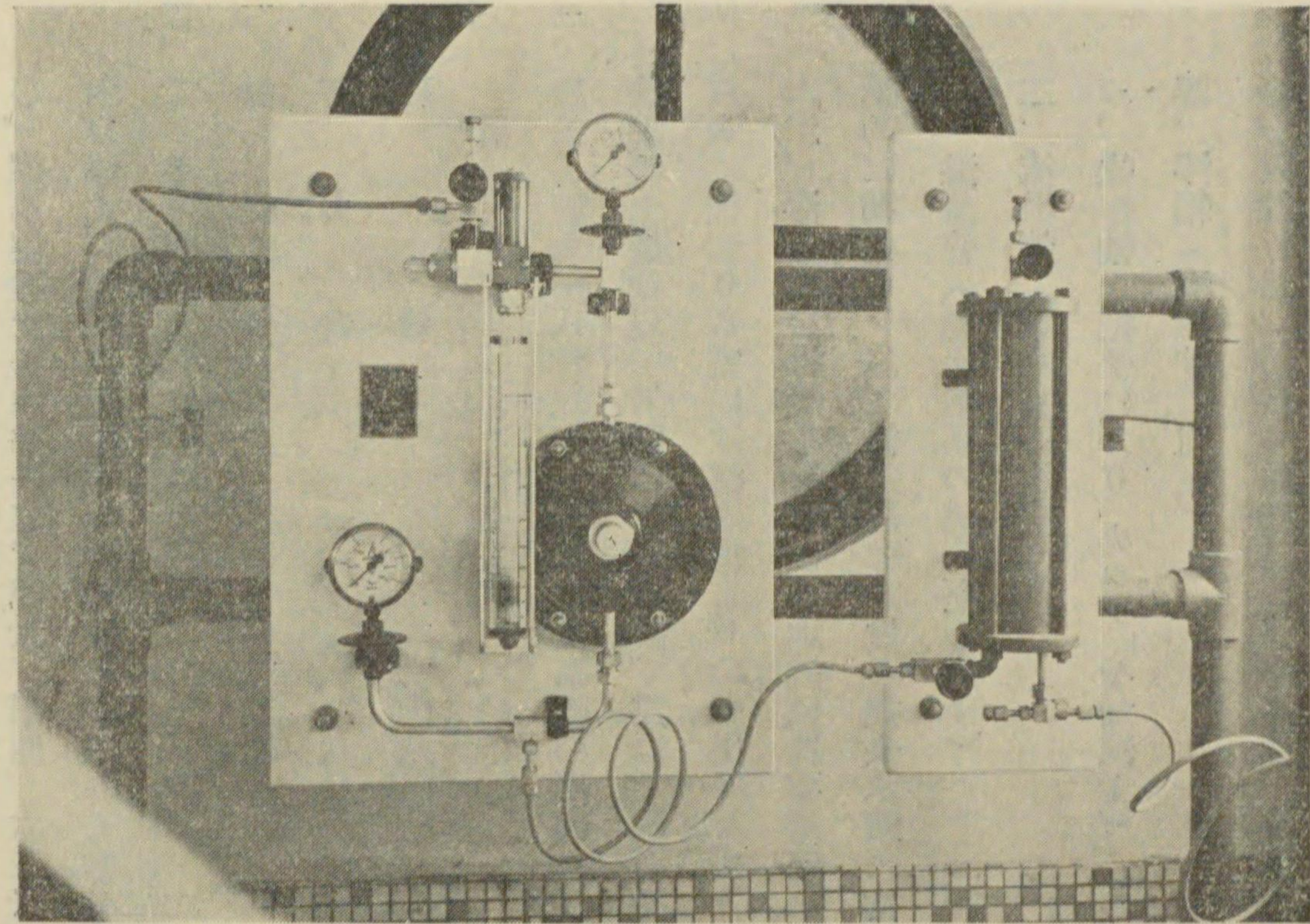
し、鐵筋混凝土の内法一二、四米、幅四、六三米の調整室を築造する事となり、各室に濾過池よりの連絡管、室内自動式調整機及鹽素滅菌機設備其の他の工事を直營を以て施行した。

二、工事費		設計額		精算額	
材料費	六、六六三、五四一			六、三二三、八四二	
勞力費	一、〇一四、三八〇			一、〇一三、四四〇	
雜費	一一一、〇八〇				
計	七、七〇〇、〇〇〇			七、三三三、二八二	

三、施工 同九年八月二十六日調整室基礎の掘鑿より着工した。室は前述の理由に基き豫備室二ヶと併せて七室を鐵筋混凝土造を以て周壁は浸水を防ぐ爲に、配合化一・二のモルタル塗工を施した。内部は長二、五米、幅一、五六米に仕切り各室には濾過池よりの引出管を夫々連絡敷設し、又之の室四部に固定堰各一ヶを設くる設計であつたが、浮動式自動調整機に改め本機は所要濾過水量を一定に流すを目的として送水量に對する各池共負濾過を自動的に調整し、以て濾過層に於ける損失水頭に拘らず一定濾過速度に保たしめて濾過效力の完きを期し、

- 一、溢流管（二ヶ對立の流入堰を有す）
  - 二、流出管（集水室に連絡）
  - 三、操作軸（把手により「ナツプ」を加減す）
  - 四、浮箱（溢流管に固定）
- 等を附設した、而して床板上に濾過速度、流量及濾過床損失水頭、引出口水位等を指示する機械的指示計を取付





鹽素滅菌機

けたが、之は調整機と共に淺野物産株式會社に製作せしめた。各溢流管より流出した水は次の集水室に導き別箇に設けた水位指示器に依り室内水位を指示しつゝ、新舊送水管に至る様設備した。水位計は調整室低水位より三〇厘低き所に溢流口を有し集水室内水位は水位計に依り指示され、水位低下した場合電鈴による警報装置をも具備した。尙上家も亦一坪中途に於て擴張して乾式鹽素滅菌機室に充て、鹽素は集水室内底部に於て放出し隨時必要に應じ利用して得る設備を爲したが、同機は磯村合名會社の納入にかゝるものである。斯て上家建築と兵に同十一年三月三十一日竣工した。

送水線路

西山梨千代田村字平瀬本市水道淨水場より、市内愛宕山配水場迄、八千三十五米四六の送水線路に内徑五百耗高級鑄鐵管を既設内徑十四吋鐵管と併行して敷設工事を施行したものである。之の敷設した送水鐵管は、淨水場内調整室水面と配水池流入井水面との落差は六八・三五米にして、

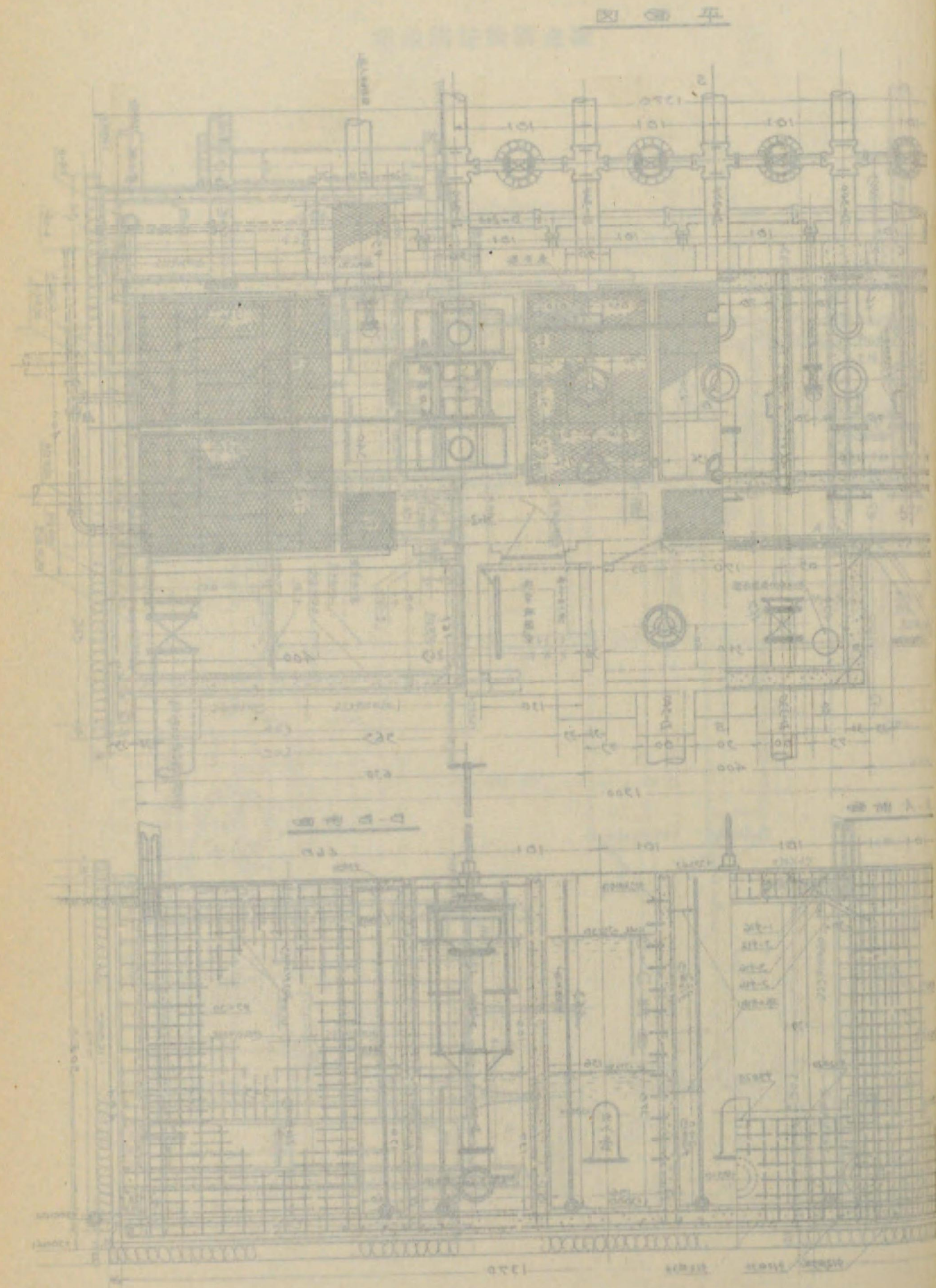
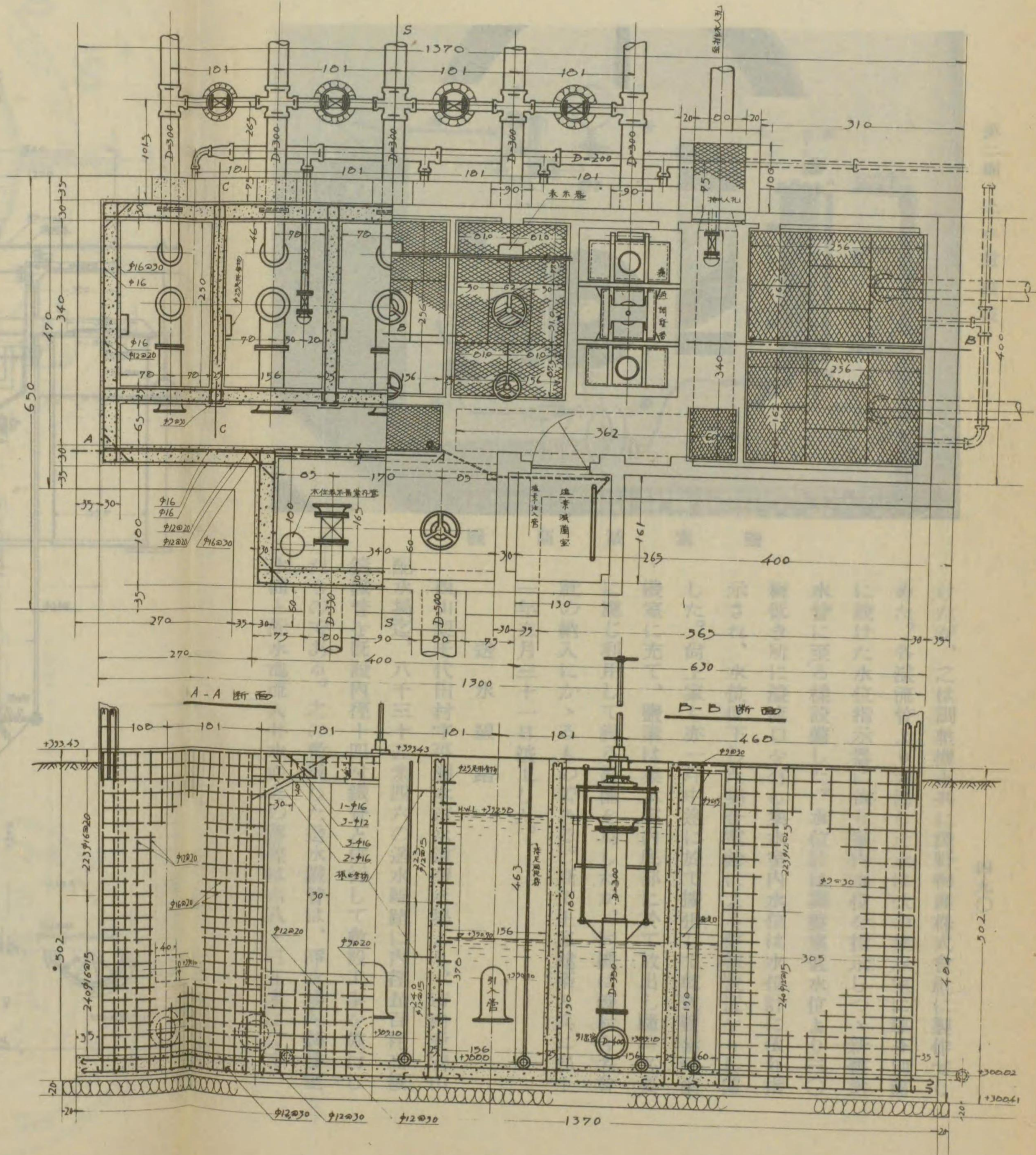
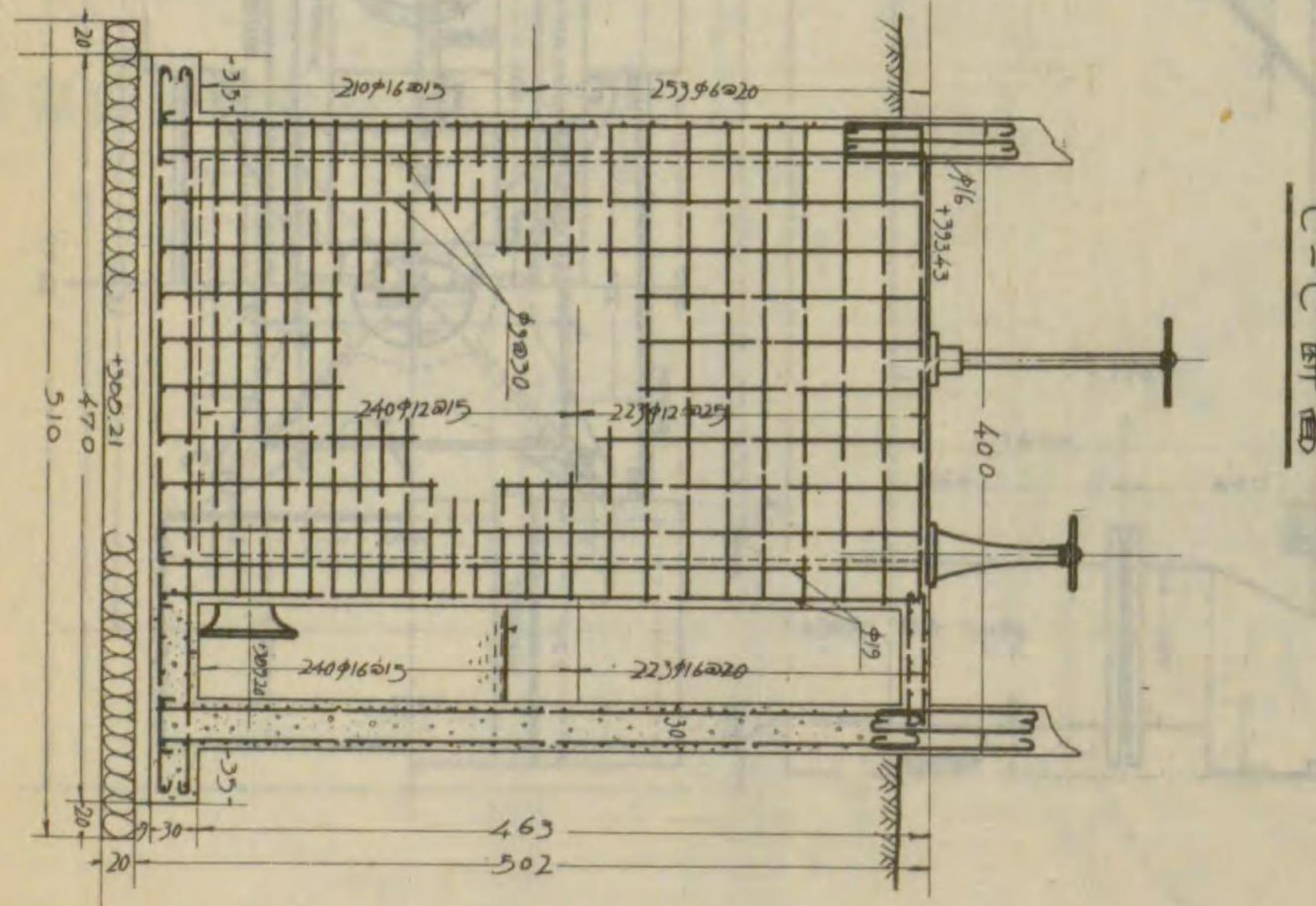
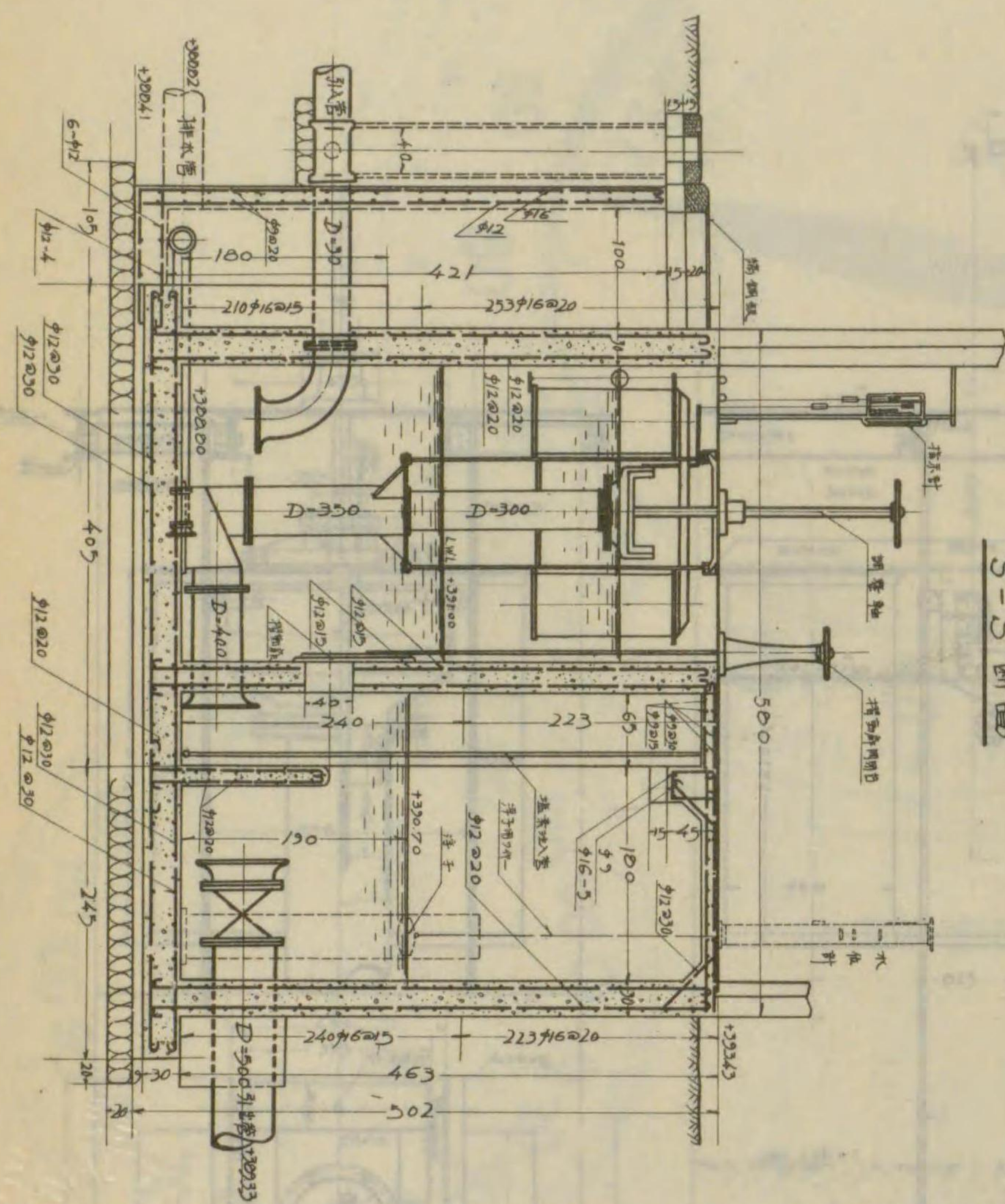


圖 送水線路



油庫機房機油圖

平面圖

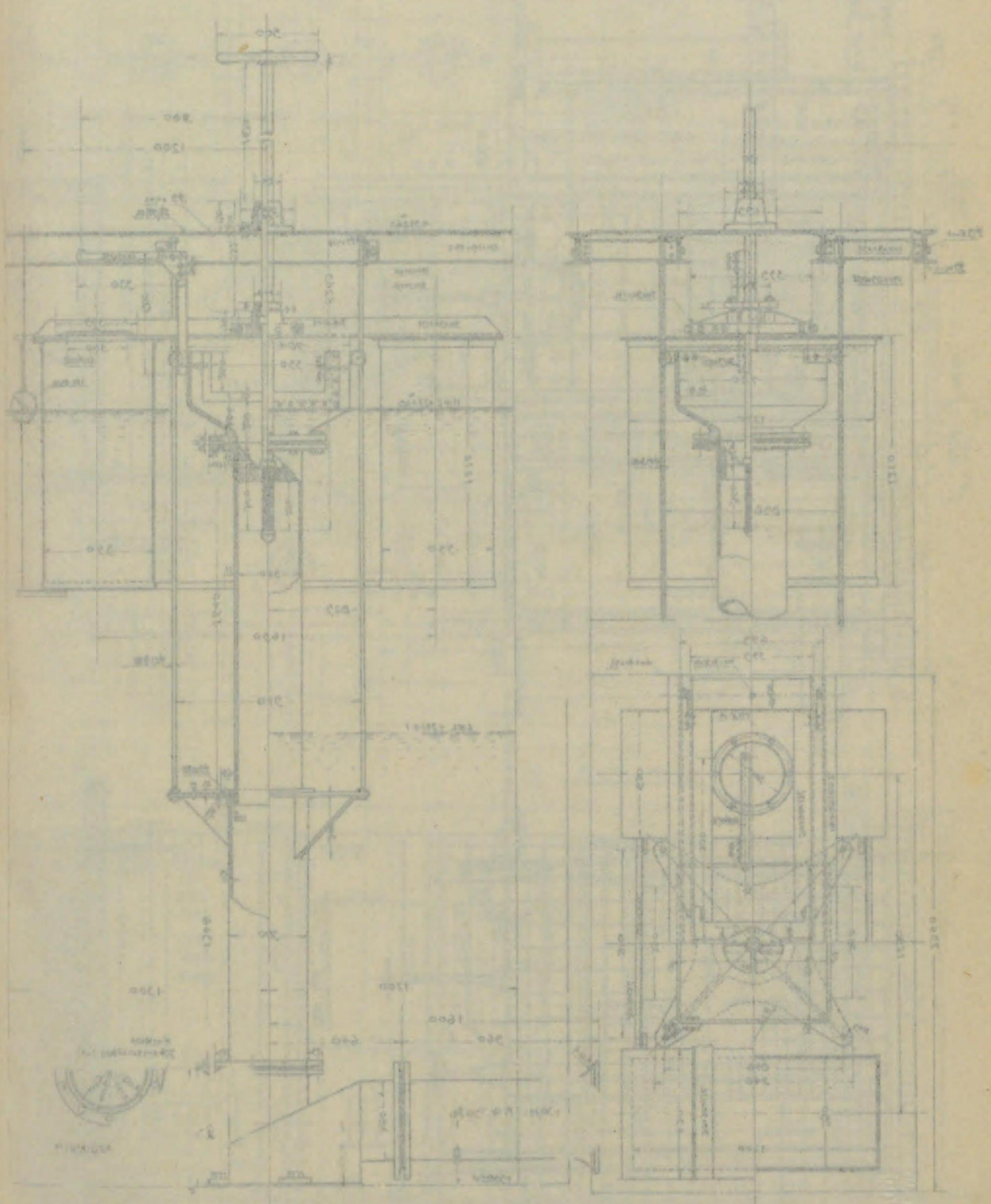




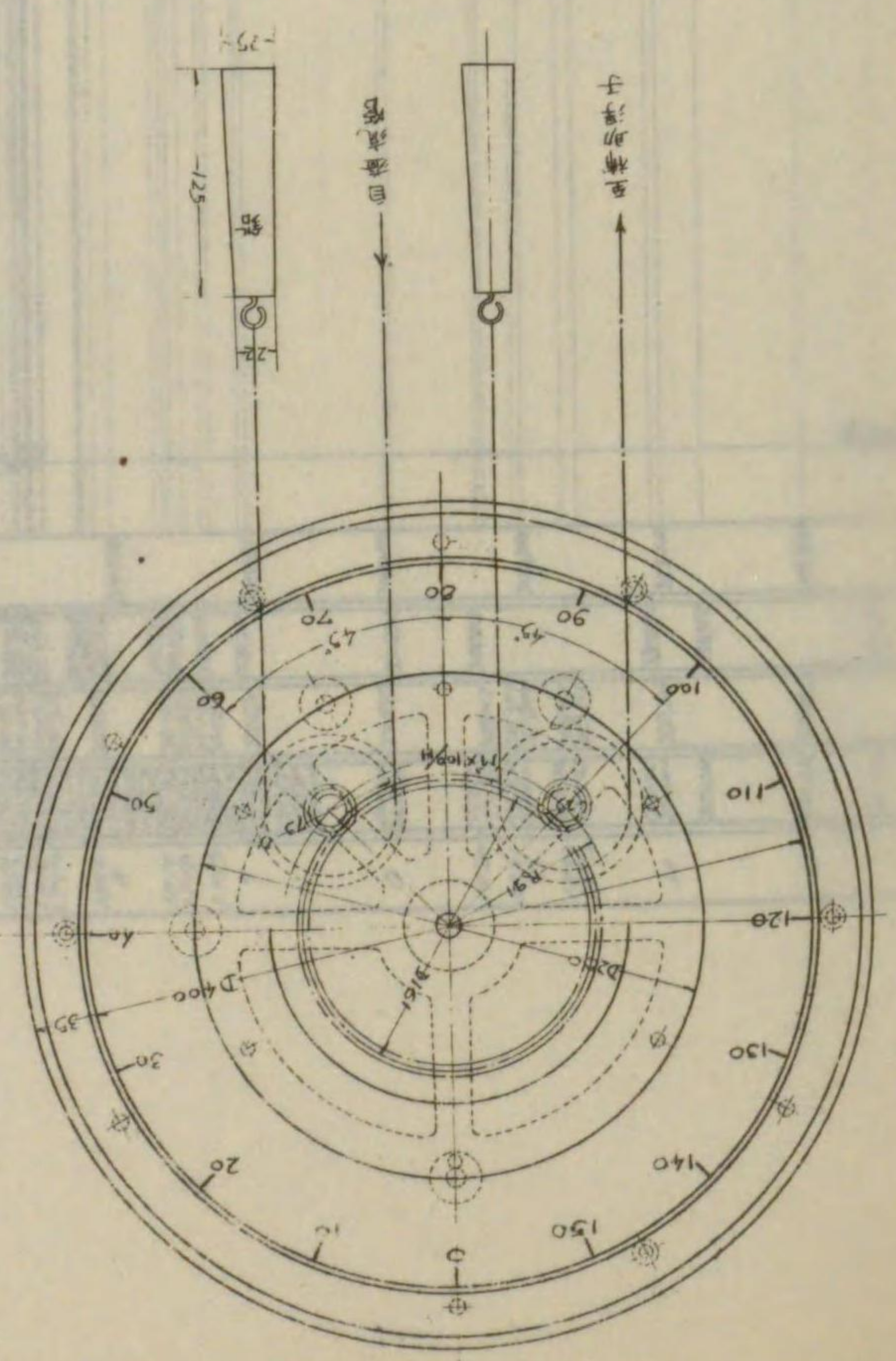




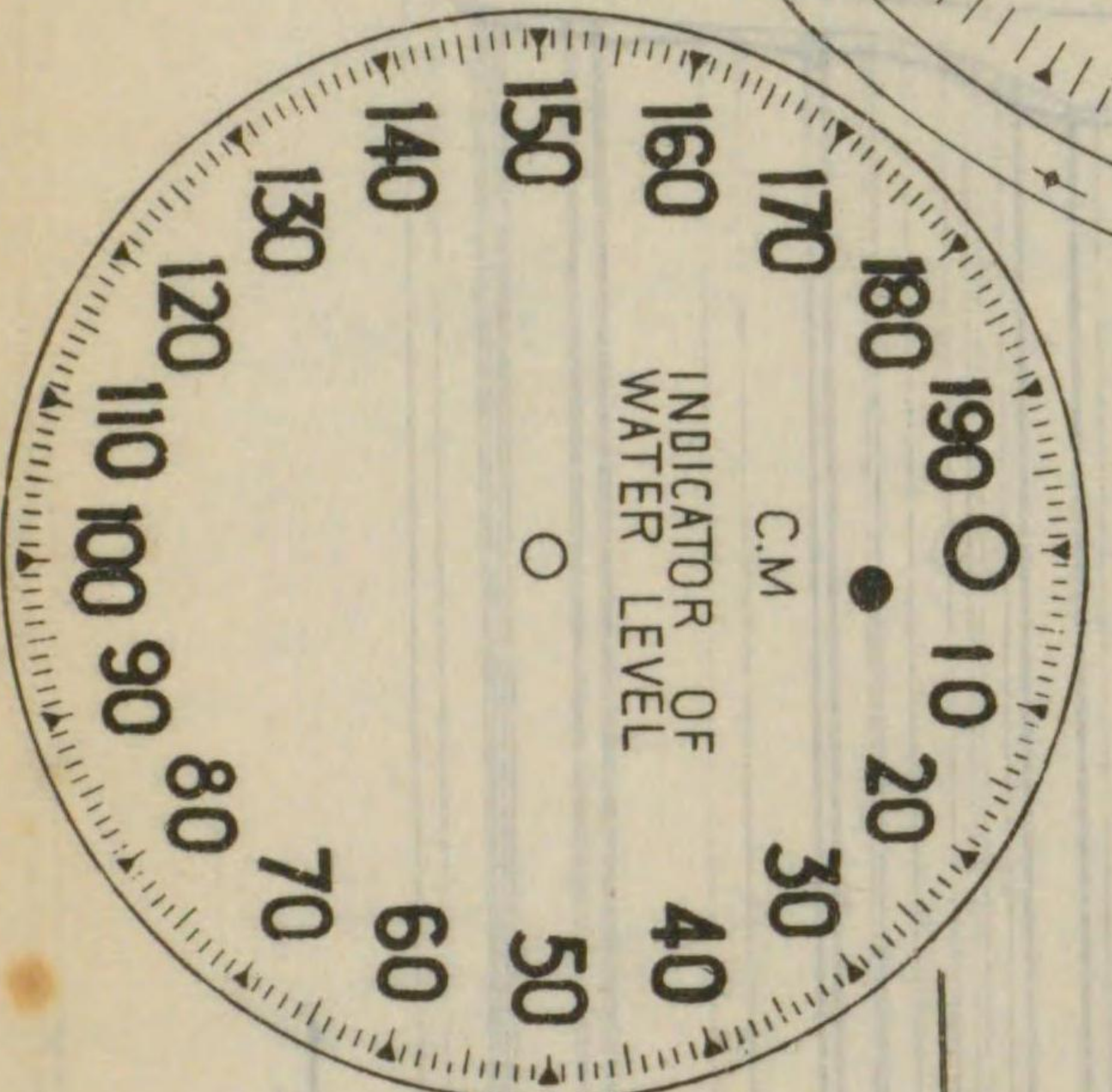
機油壓料液器油圖



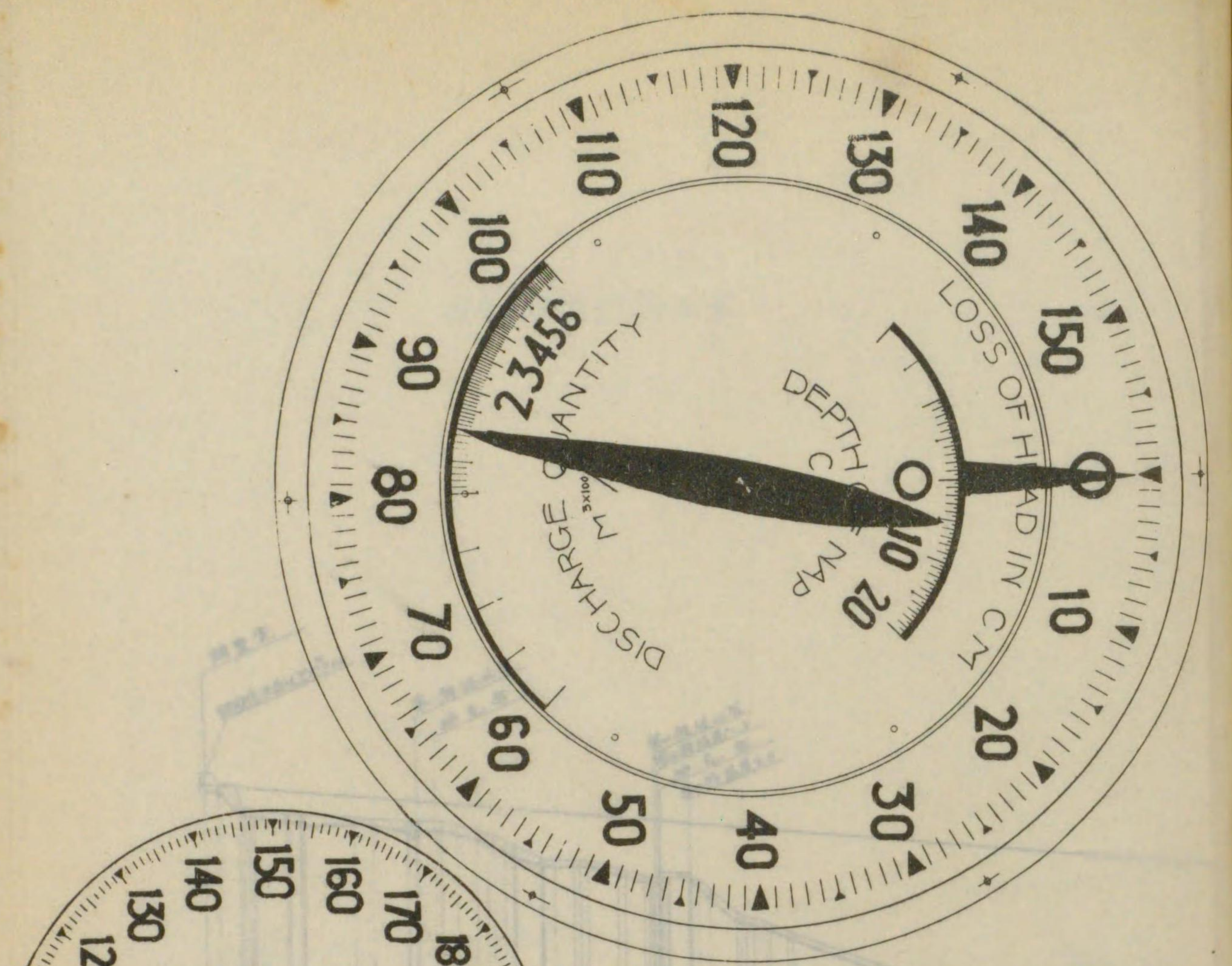
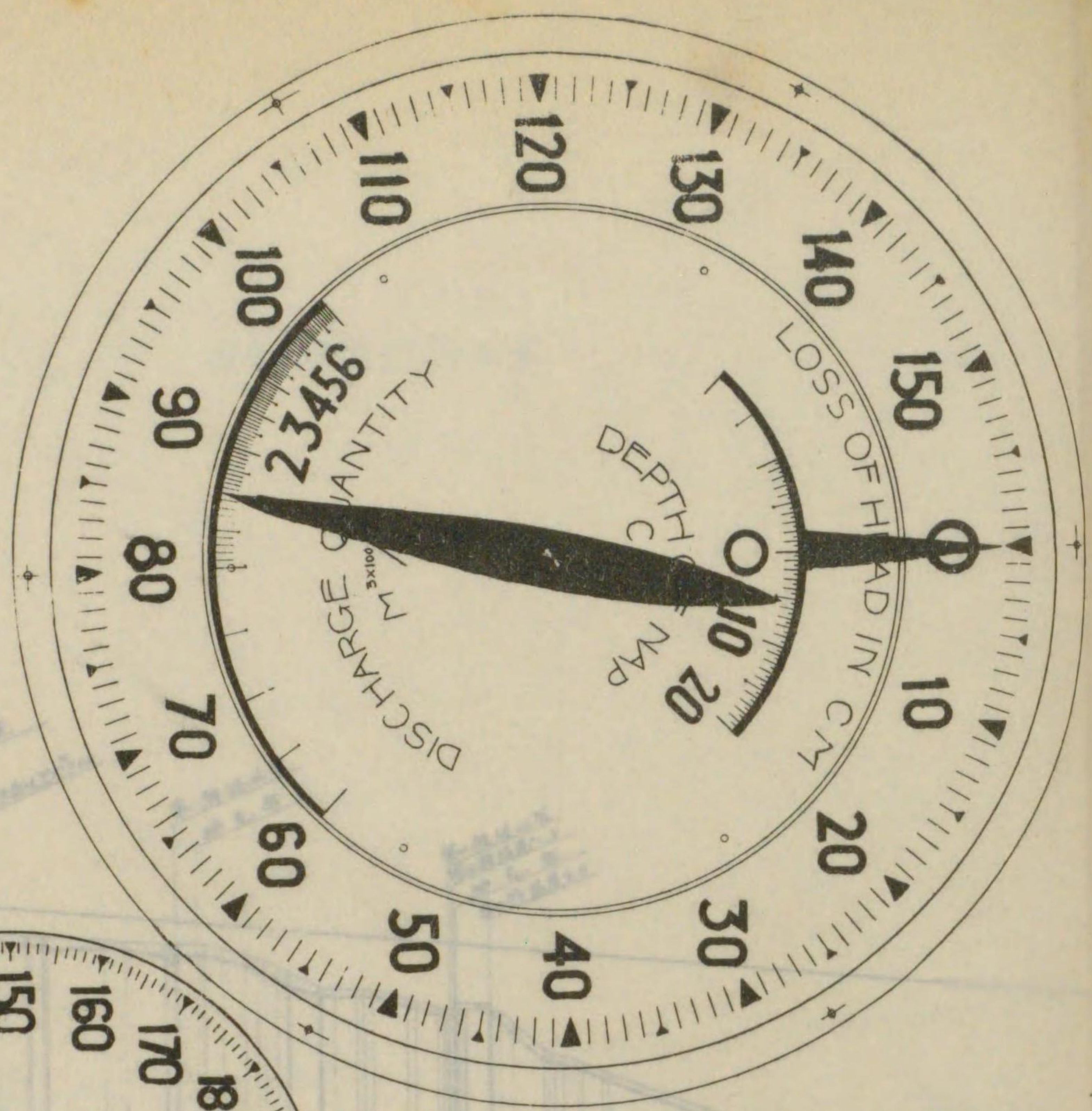
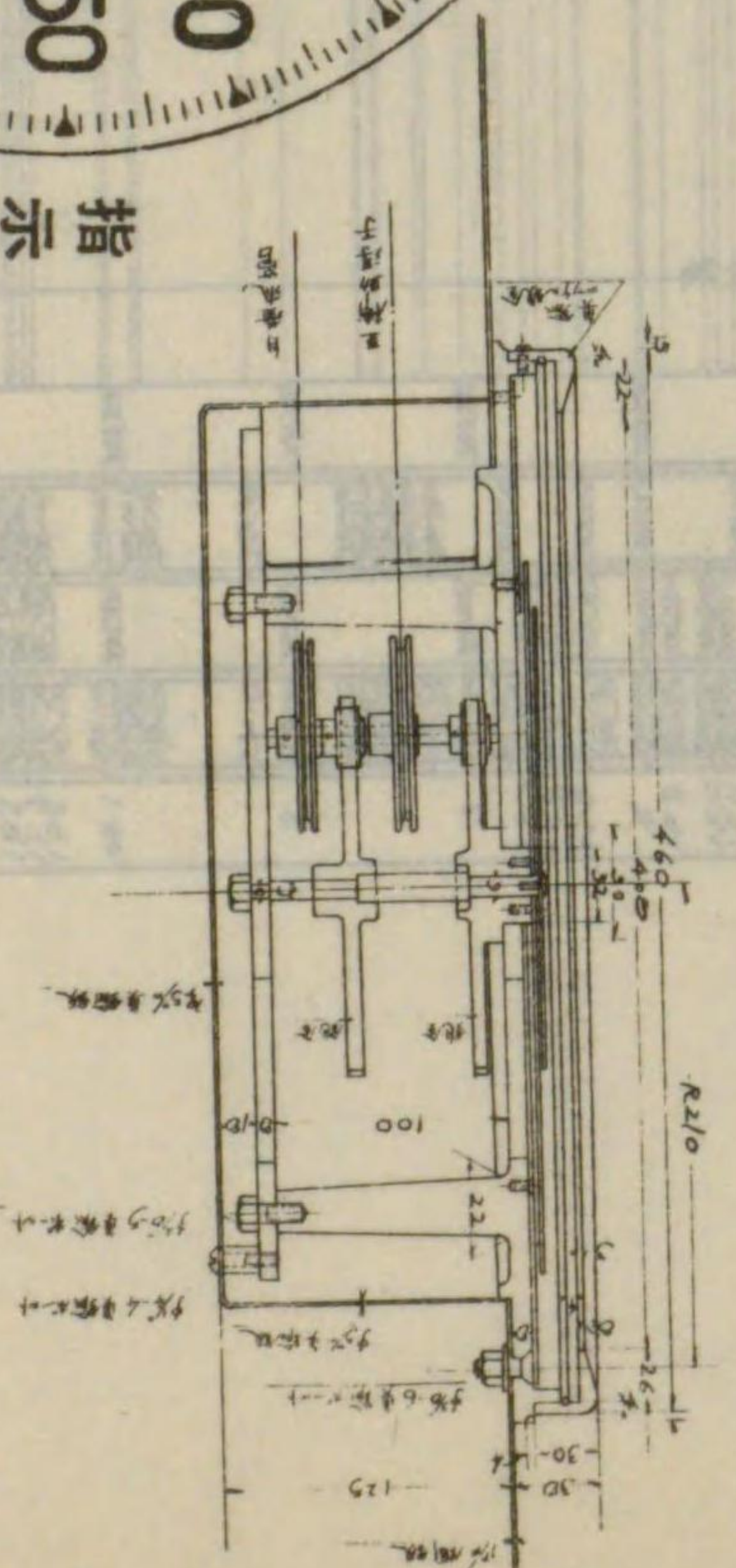
指示計構造圖



指示板圖(調整機用)



指示板圖水位計用

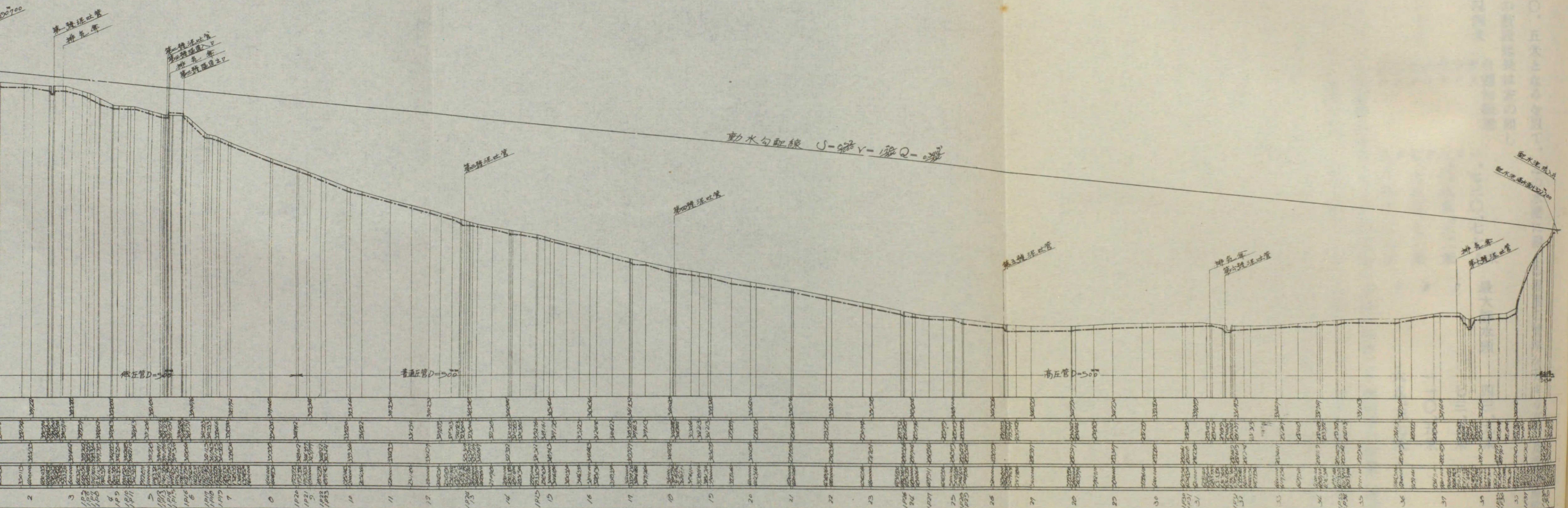








送水線路縱断面圖













用設置した。

1. 低壓鐵管内徑五百耗 敷設延長一八一、三四米

同 三百五十耗 同 九四、〇〇米

制水弁室築造工五百耗

二ヶ所

	設計額	精算額
材料費	五、七七五、八四〇	五、三三七、一七〇
勞力費	二、六一八、四七〇	一、一〇一、〇七〇
雜費	二五五、六九〇	二九、八七三
計	八、六五〇、〇〇〇	六、四六八、〇〇〇

二、千代田村字宮平五百十番地 同村字笠石百六十八番地先間、之の區間敷設及附屬工事は昭和九年四月十一日より直營を以て施行したが、偶々甲府御嶽線の一部にかゝり、觀光期節に際會し、又灌漑期に遭遇した爲、同七月一日より十一月十五日迄工事を中止して相互の支障を避けて専ら閑散である冬期中施工し昭和十年三月三十一日竣工した。

1. 低壓鐵管内徑五百耗

敷設延長七九七、三三米

普通壓鐵管 // 三百五十耗(泥吐用)

四、七〇

制水弁室築造工

五百耗

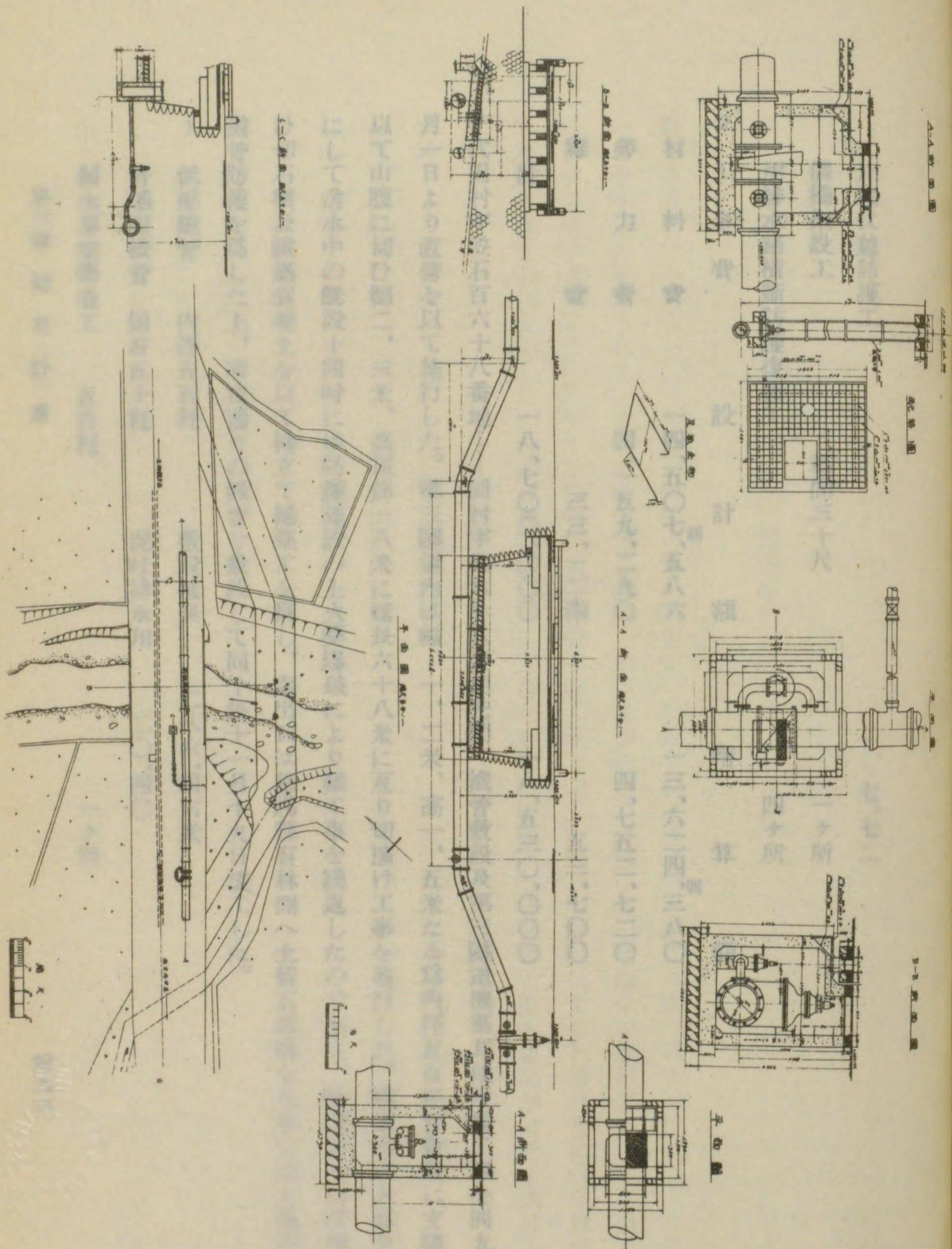
一ヶ所

同

三百五十耗

一ヶ所

排氣弁室構造圖



水路横断面圖(帶那川)







制水弁室築造工 百五十耗  
双口排氣弁設置 (七五耗)

一ヶ所  
一ヶ所

隧道擴張工事

六八、〇〇

間知石積 練積  
空積

三二六、七平方  
二二五、〇

2. 工事費

設計額

精算額

材料費

七、九四四、一九〇

七、五五七、八一七

勞力費

五、二八四、四五〇

四、八〇七、四五〇

雜費

四七一、三六〇

三二九、七六〇

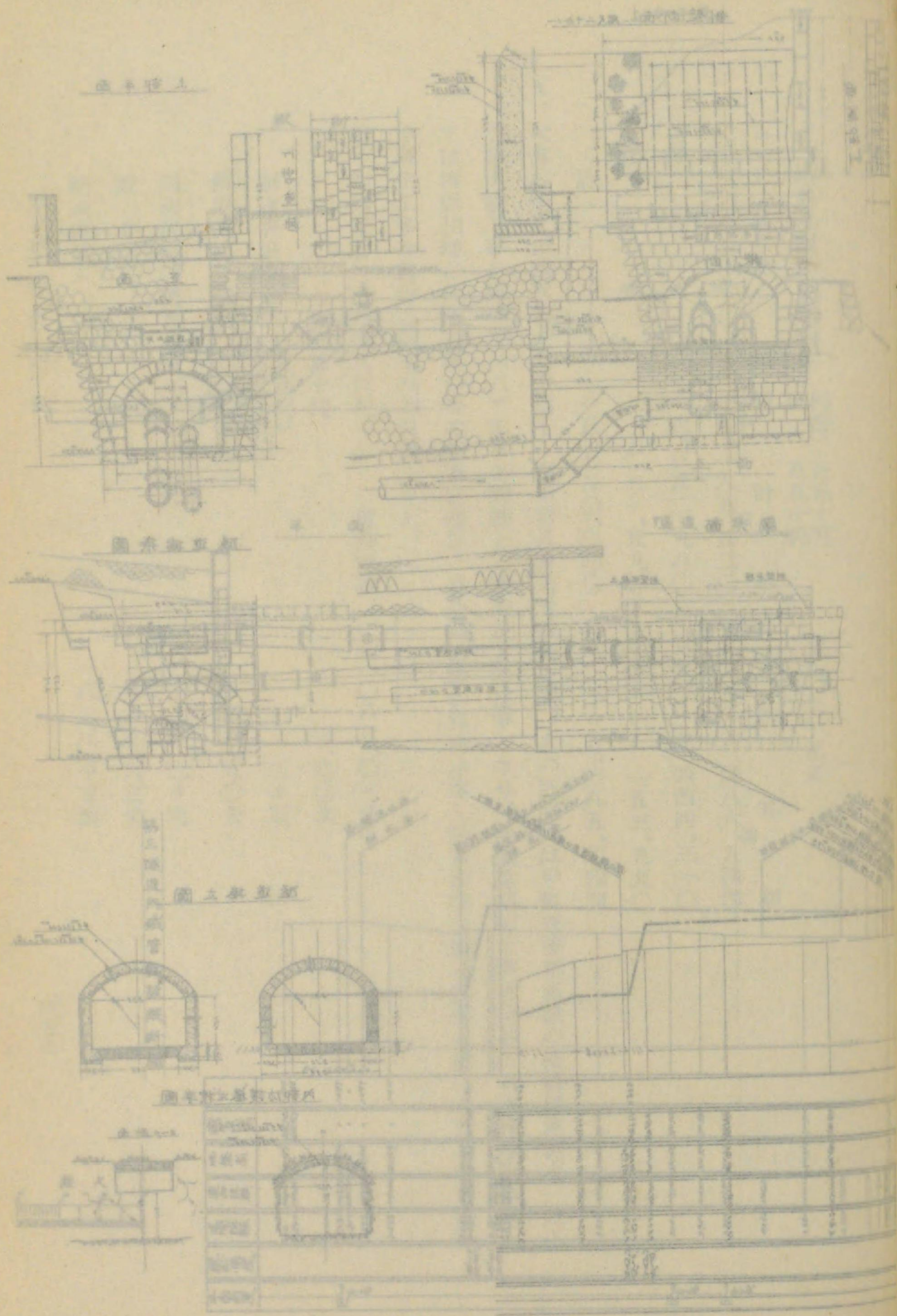
計

一三、七〇〇、〇〇〇

一二、六九五、〇二七

四、千代田村佃六十八番地——大宮村大字山宮字片山四百六十番地先間、之の區間も觀光道路に密接し更に道路狹隘の爲それ等を考慮して同九年十二月一日より直營を以て着工した。先づ千代田村字後澤地内元村道廢道敷を利用し自動車迂回道路を作り工事の圓滑を期したが、之の元村道占用に關しては同村上野落居民よりの要求に基き覺書を取交したのである。工事は全線岩石多く、來るべき觀光期を慮りつゝ、難工を續け同十年三月三十一日竣工した。

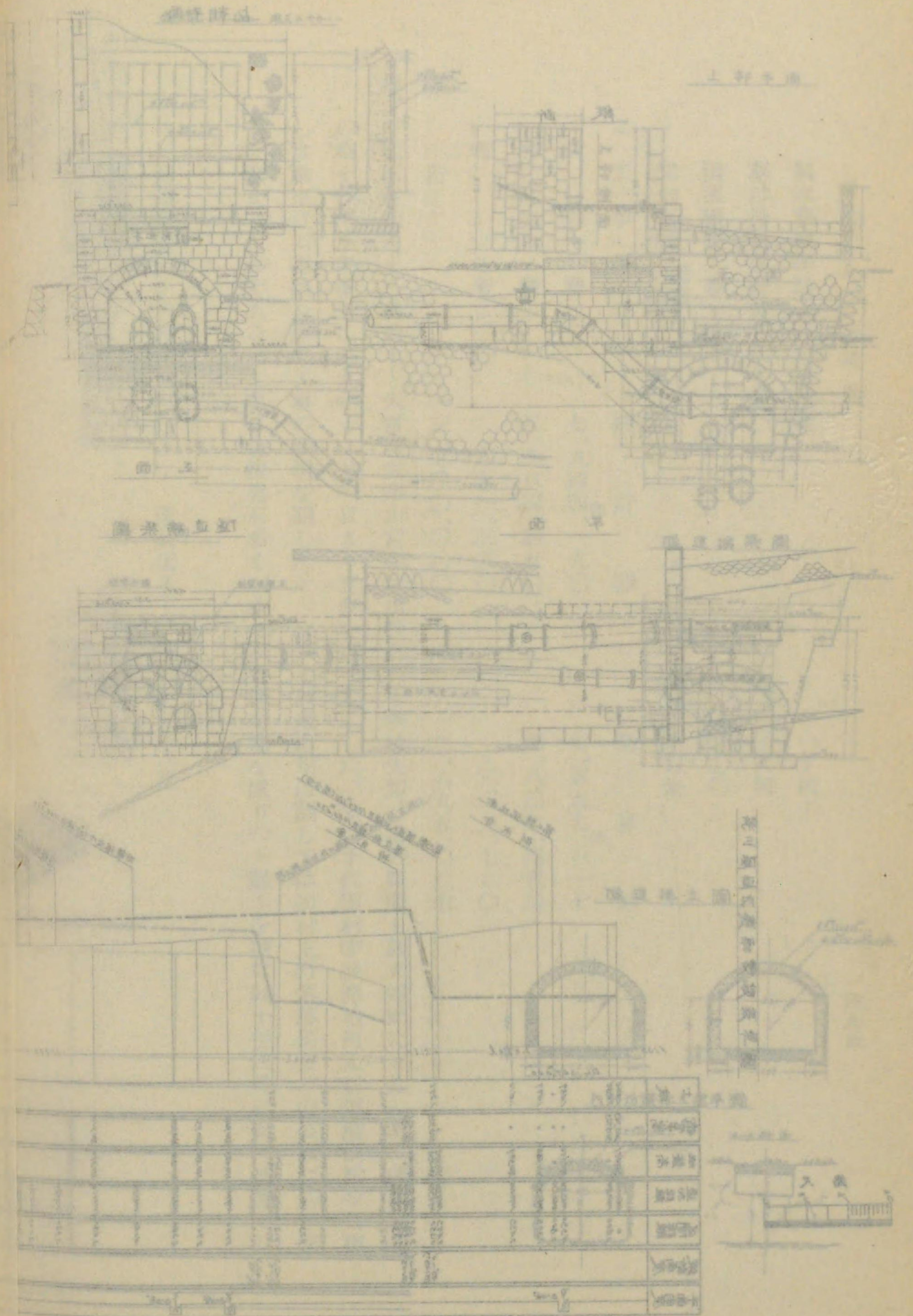
- 1. 低壓鐵管 内徑五百耗 敷設延長 四六一、二九米
- 普選壓管 // 二八〇、九四
- 暗渠防護工 一ヶ所











鐵筋混凝土管敷設工

同 內徑二百五十  
百五十軒

五九、一五米

2. 工事費

設計 額

精算 額

材料費 一一、一六五、五二〇

一一、四八六、九四四

勞力費 三、三五二、九八〇

三、四四四、三一〇

雜費 二二一、五九〇

一五三、九九〇

計 一五、七五〇、〇〇〇

一五、〇八五、二四四

五、大宮村字片山四百六十七番地——字山宮八百六十番地先間、之の區間には甲府市舊用水路の横斷箇所あり、之の水路伏越工事を巡つて(六)工事と關聯して地先民との抗争となり、水道専用と隣地境界にバラ線を張り廻しては附近用地の使用を斷つ等の障害に遭ひ、又全線濕地の爲湧水多く勞々作業は頗る困雜を感じたが、之に飽かず所定工事を施行し同七月五日竣工した。

1. 普通壓管 內徑五百軒 敷設延長 一、〇八二、〇一米

〃 〃百五十軒 一、八〇米

制水弁室築造工 (五百軒) 二ヶ所

鐵筋混凝土管 自百五十軒 一三五、五〇米

至六百軒 二ヶ所

川底伏越防護及護岸工 一六三、六三米

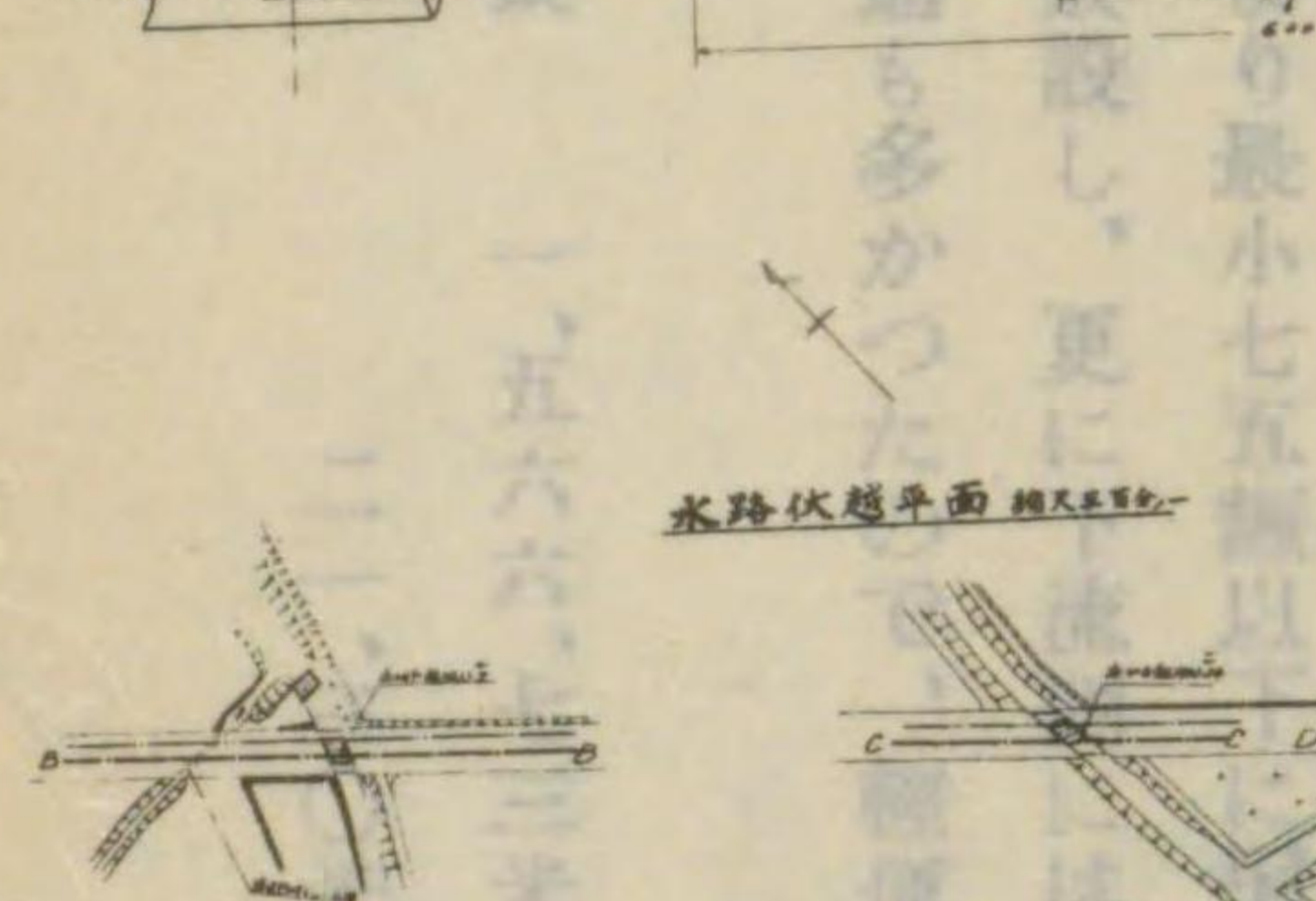
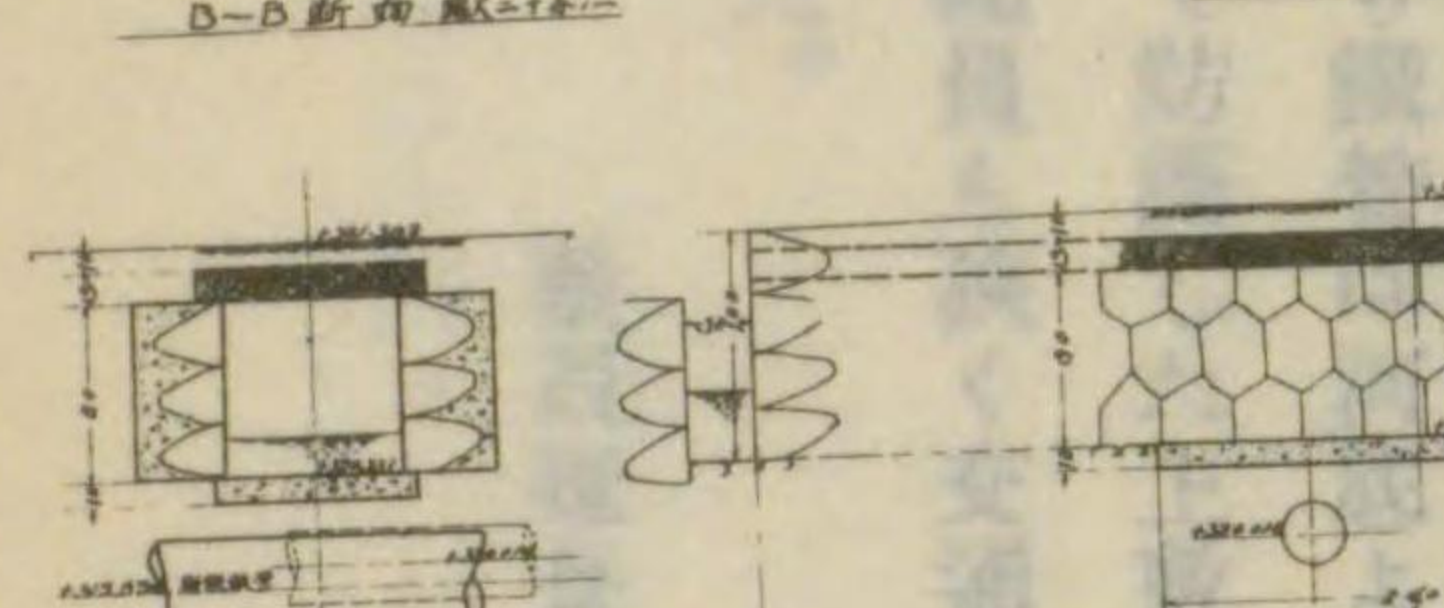
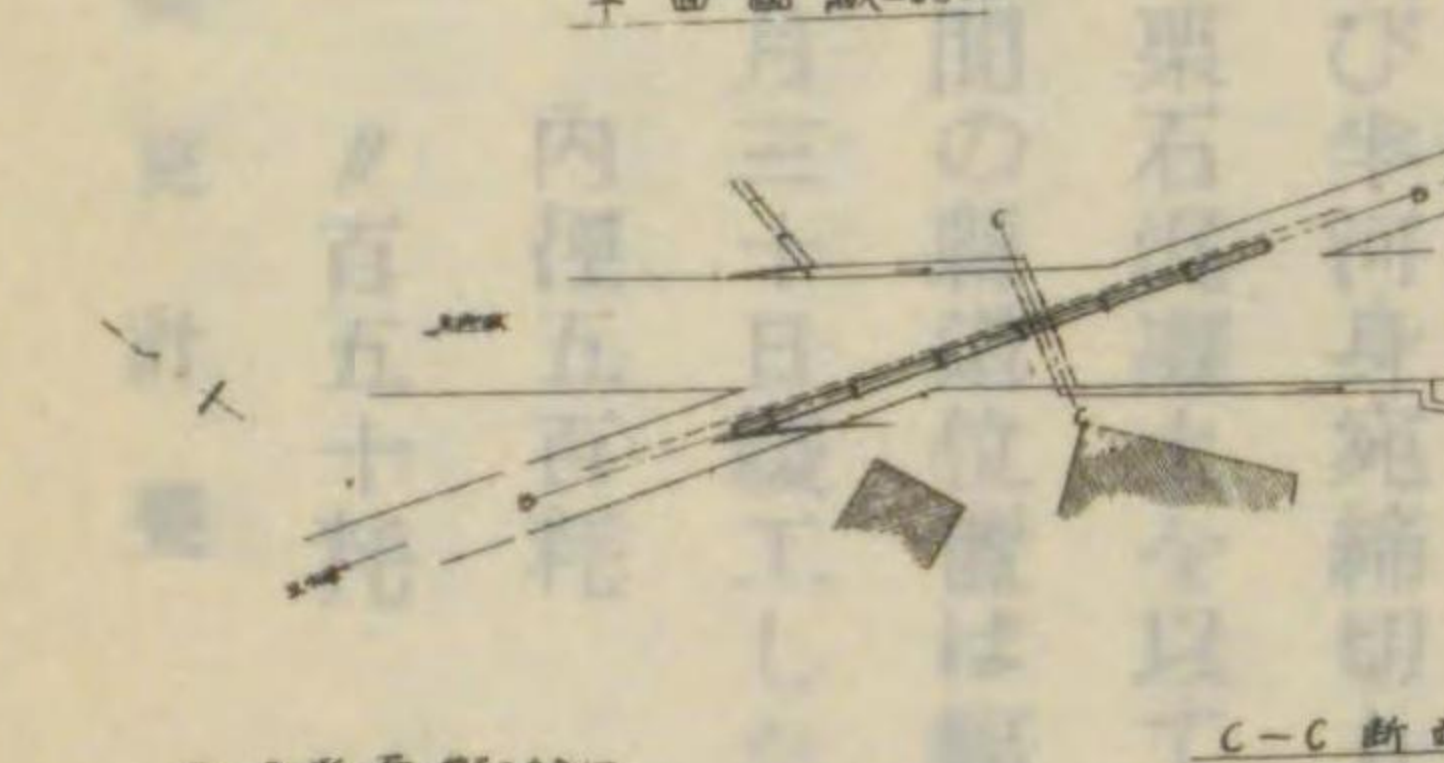
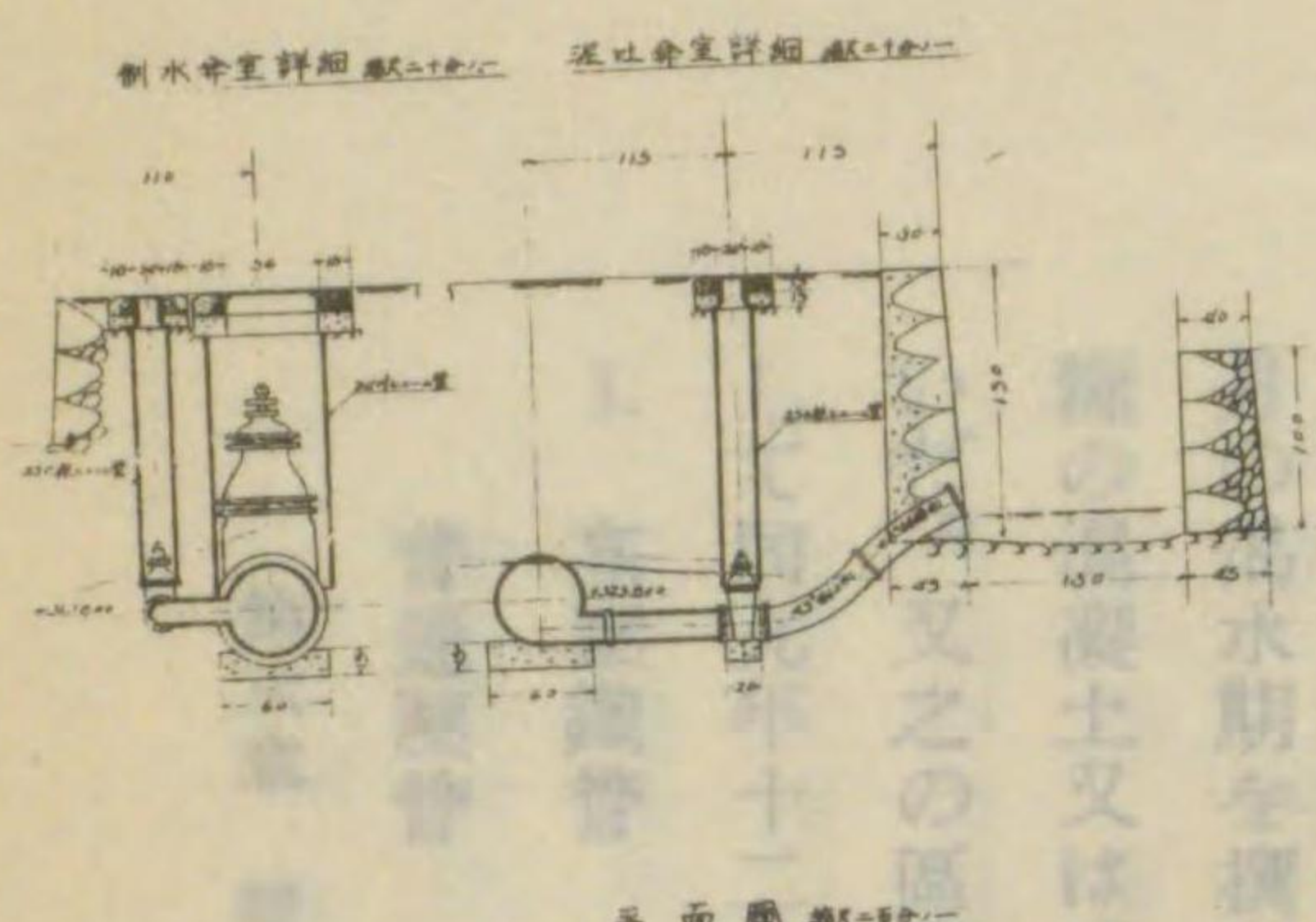
盛土工 一八、〇〇平方米

路面復舊工

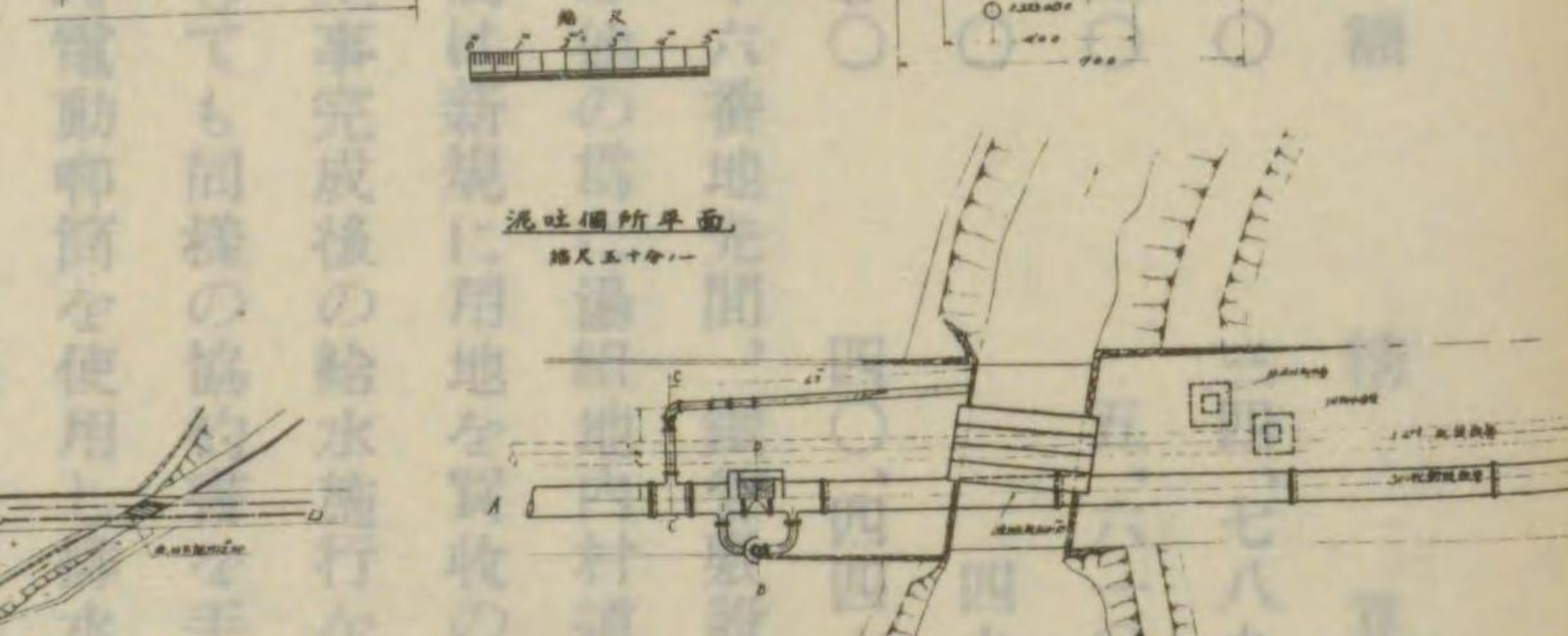
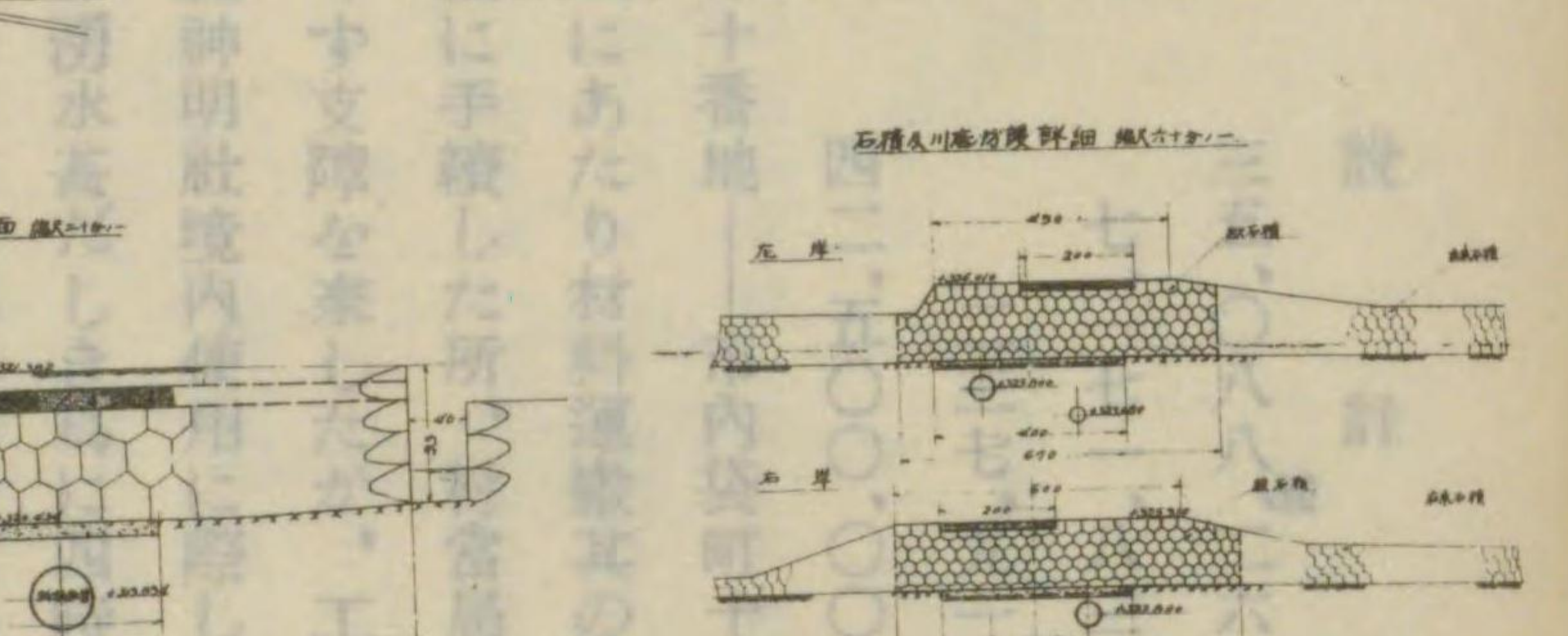
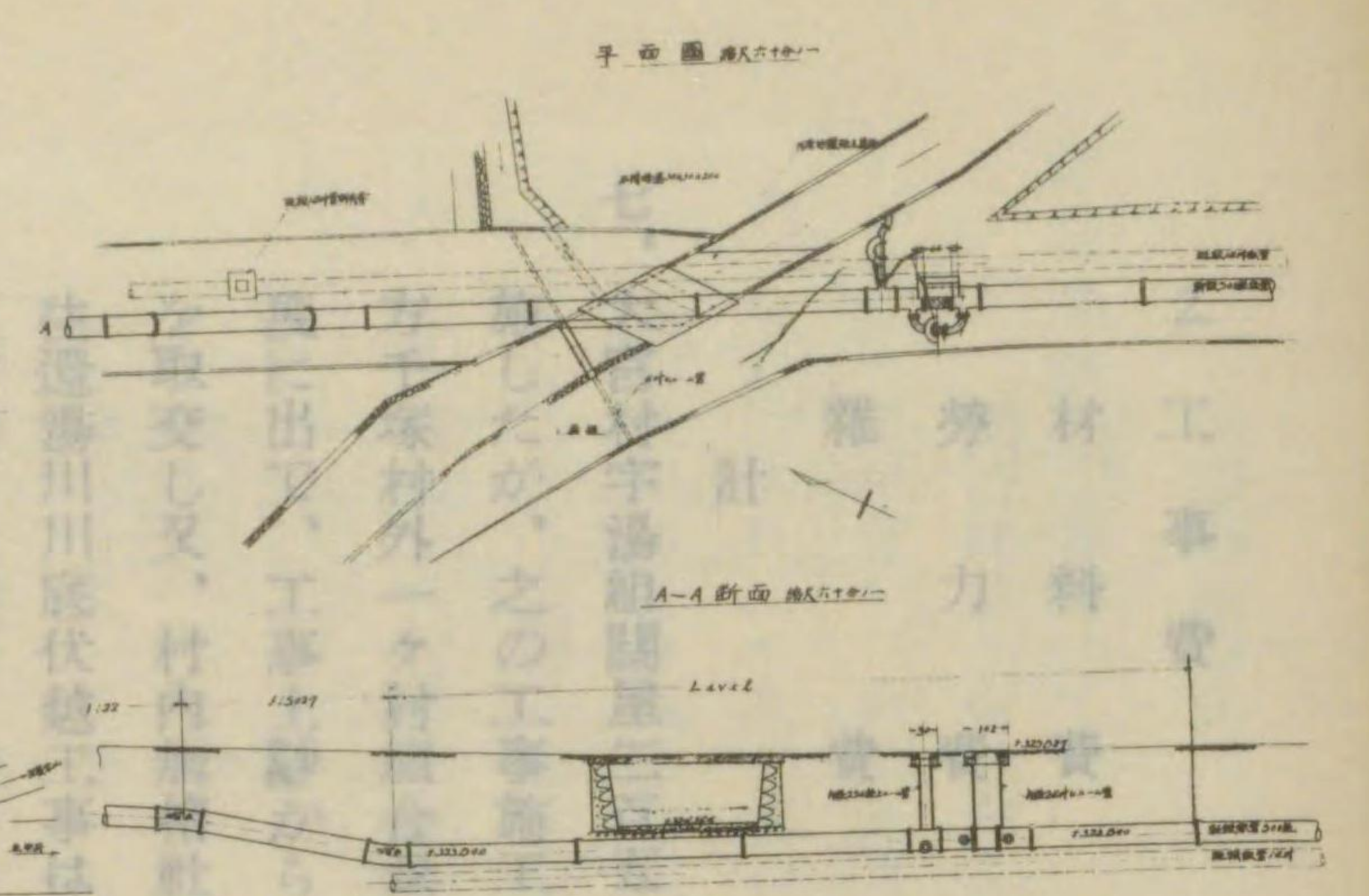
第三章 變更計畫



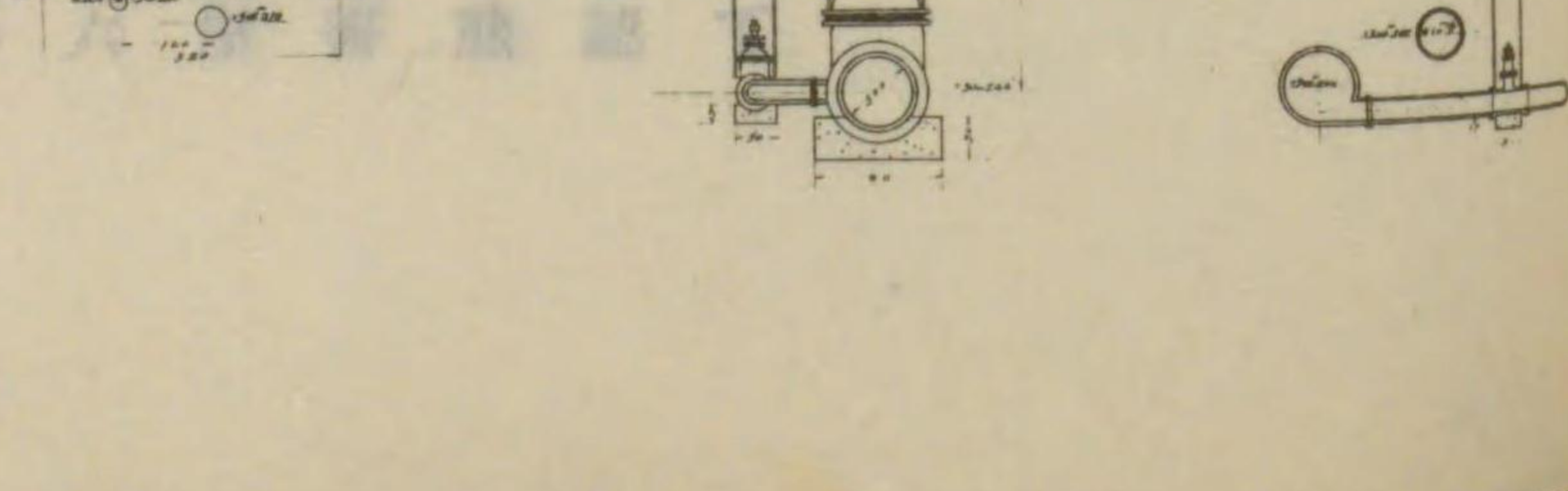
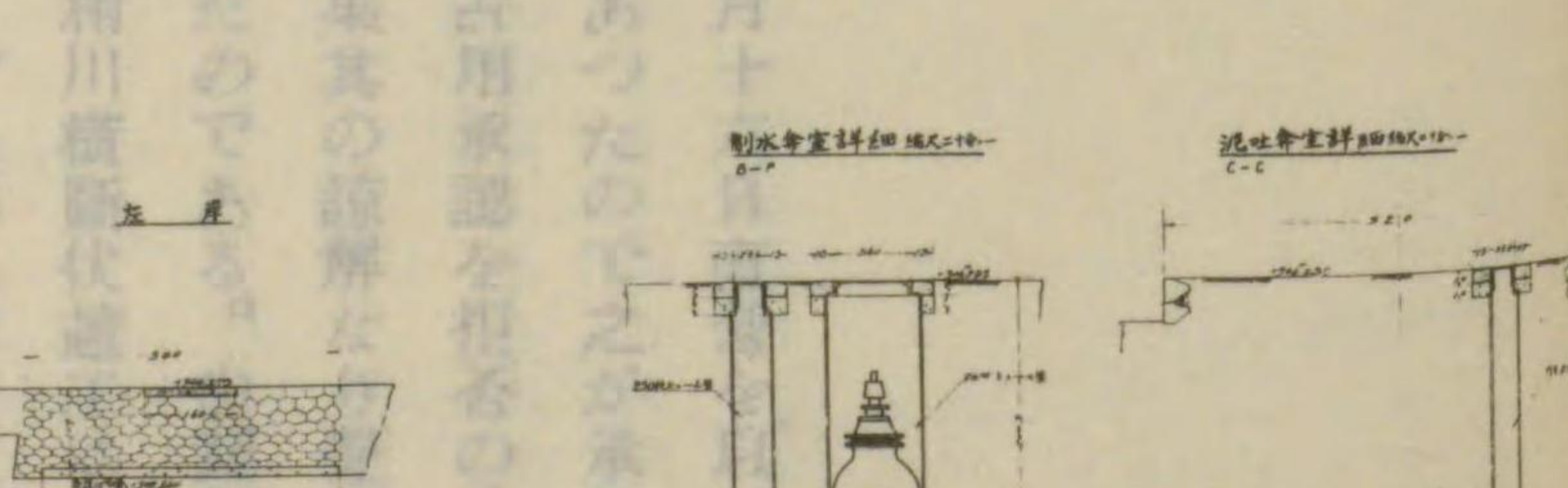
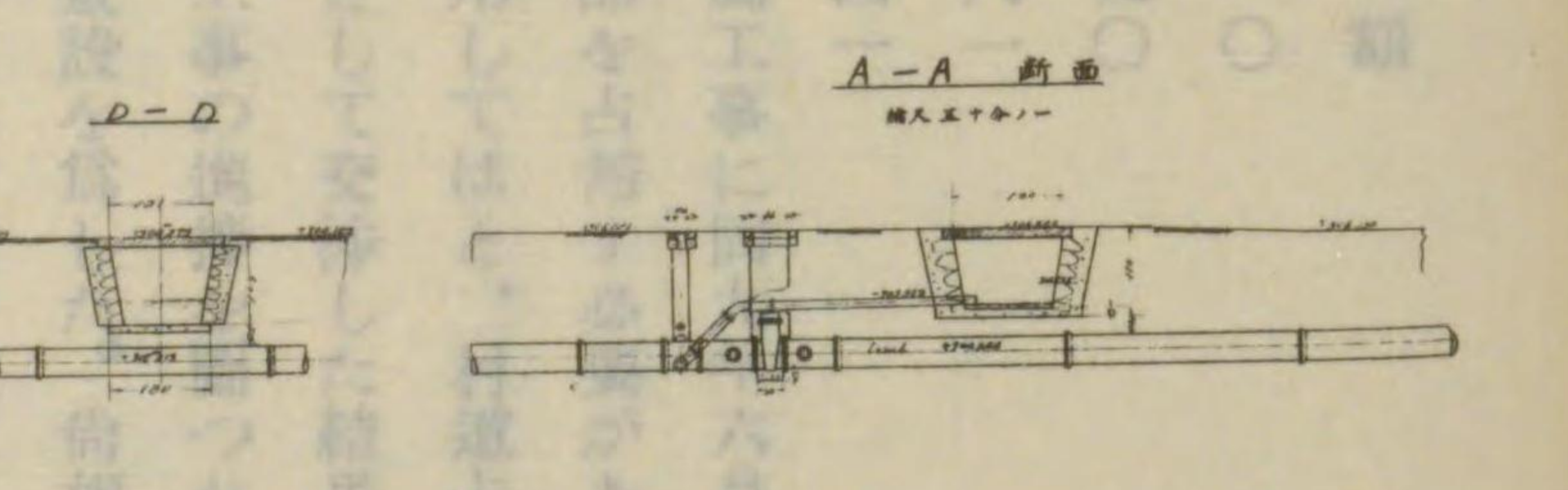
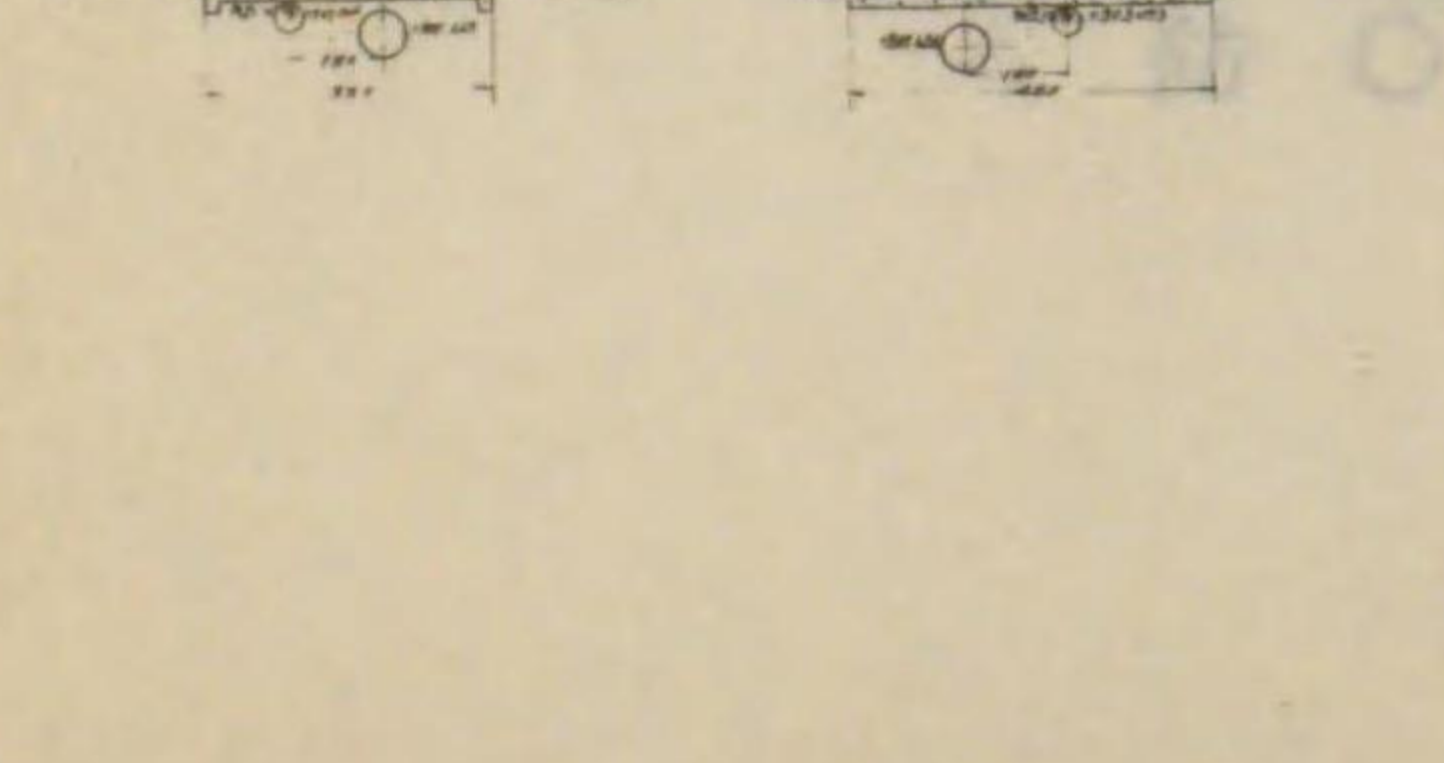
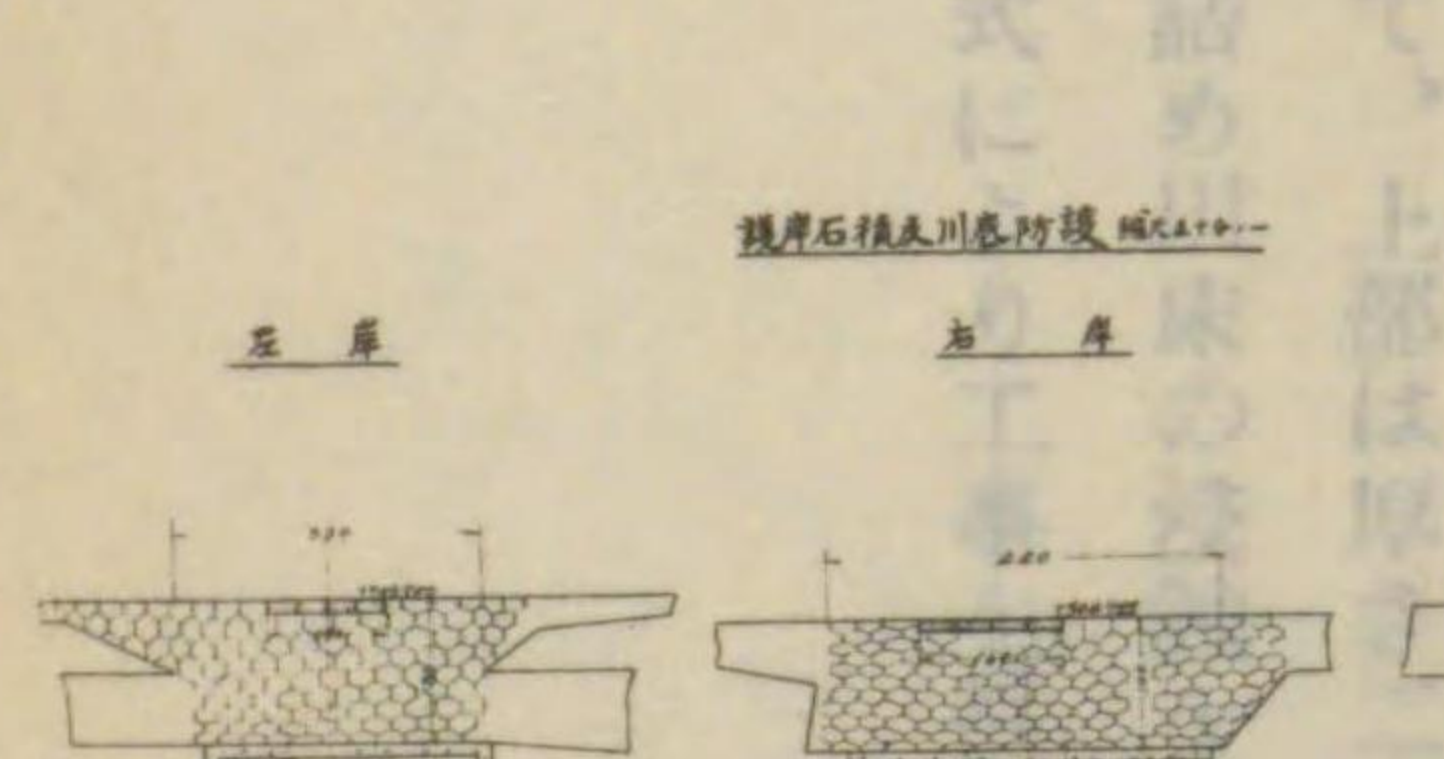
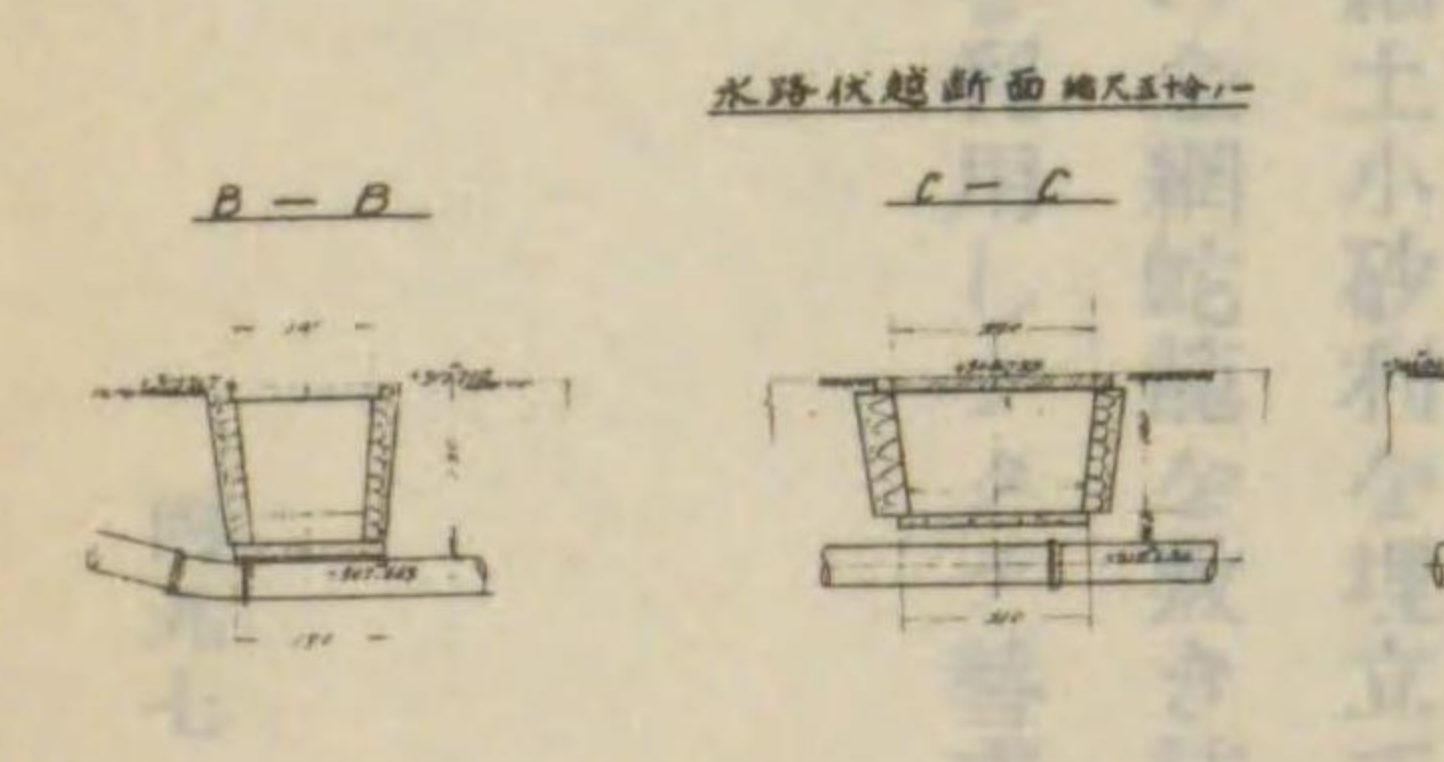
制水弁室構造圖



水路横断面圖(甲府用水路)



水路伏越防護工圖(東川)



第二編 上水道擴張

2. 工事費 設計額 精算額

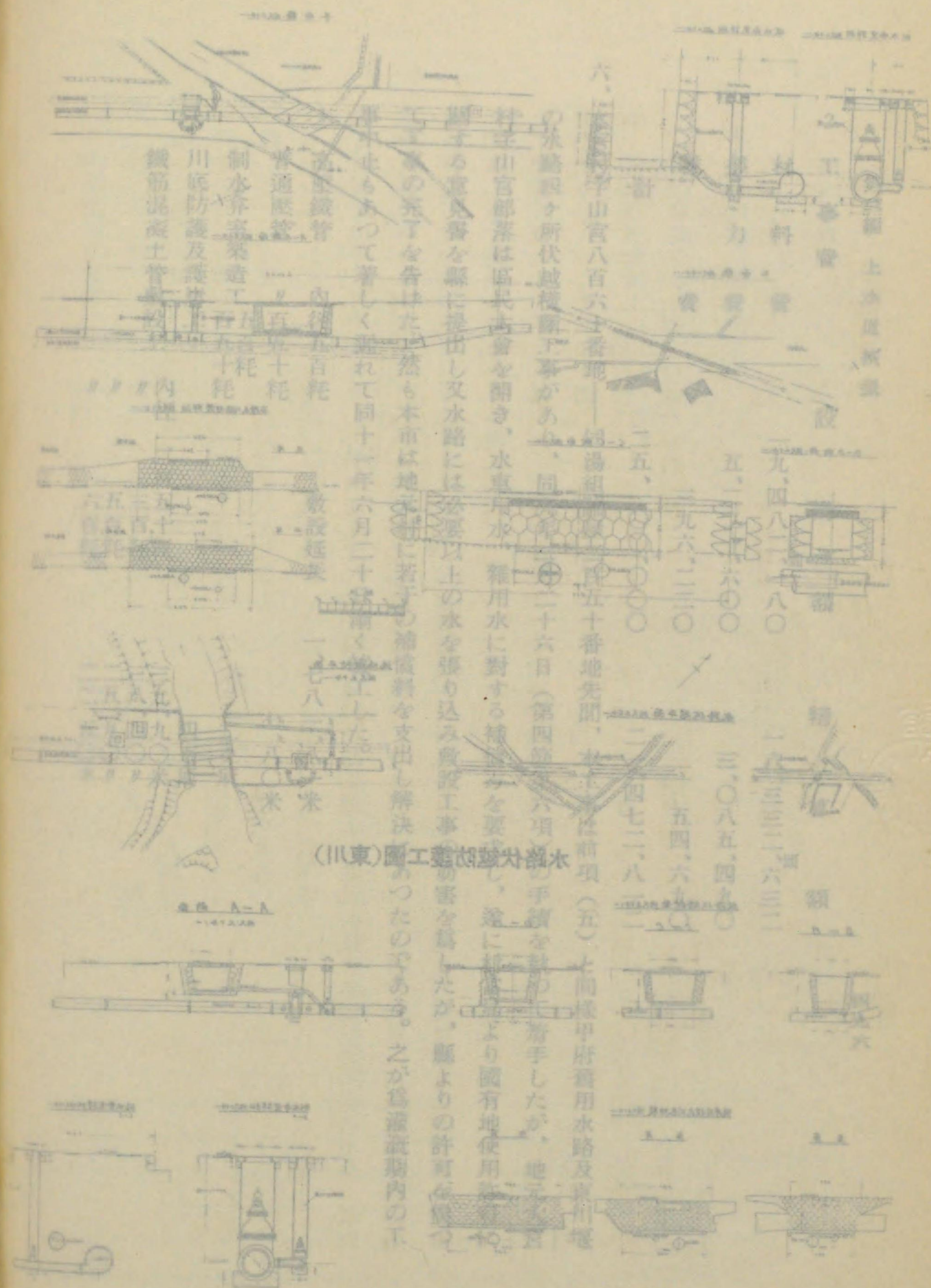
材料費	一九,四八二,一八〇	一八,三三二,六三二
勞力費	五,二二一,六〇〇	三,〇八五,四九〇
雜費	三九六,二二〇	五四,六九〇
計	二五,一〇〇,〇〇〇	二一,四七二,八一二

六、大宮村字山宮八百六十番地——同湯組關屋二百五十番地先間、本工事は前項(五)と同様甲府舊用水路及東川堰の水路四ヶ所伏越横斷工事があり、同九年三月二十六日(第四節第六項)の手續を執つて着手したが、地元大宮村字山宮部落は區民大會を開き、水車用水、雑用水に對する補償方を要求し、遂に村當局より國有地使用許可に關する意見書を縣に提出し又水路には必要以上の水を張り込み敷設工事の妨害を爲したが、縣よりの許可を俟つて工事の完了を告げた。然も本市は地元村に若干の補償料を支出し解決にあつたのである。之が爲灌漑期内の工事中止もあつて著しく遅れて同十一年六月二十日漸く竣工した。

1. 高壓鐵管	内徑五百耗	敷設延長	一,七八一,八一米
普通壓管	〃百五十耗		七,八〇米
制水弁室築造工	五百耗		二ヶ所
川底防護及護岸工	百五十耗		四ヶ所
鐵筋混凝土管敷設工	内徑二百五十耗		三九,四〇〇米
	〃〃〃		三九,四〇〇米
	〃〃〃		二五,九〇〇米
	〃〃〃		二五,九〇〇米
	〃〃〃		六〇〇米



圖設導空余水導



(導水甲和甲)圖面導對器水

2. 工事費	設計額	精算額
材料費	三五,〇八八,二六〇	三四,七八九,〇一〇
勞力費	七,一七一,八三〇	五,六一〇,〇五〇
雜費	二二七,九一〇	四九,四八一
計	四二,五〇〇,〇〇〇	四〇,四四六,五四一

七、大宮村字湯組關屋二百五十番地——市内袋町十六番地先間、鐵管敷設及附屬工事に同九年六月十六日直營を以て施したが、之の工事施工にあたり材料運搬其の他の爲に湯組地内村道の一部を占用する必要があつたので之が承認方千塚村外一ヶ村組合長に手續した所、村當局は新規に用地を買収の上使用してはと、村道占用承認を拒否の態度に出で、工事上尠からず支障を來したが、工事完成後の給水施行を條件として交渉した結果其の諒解なり覺書を取交し又、村内無格社神明社境内使用に際しても同様の協約書を手交し工事の進捗を圖つたのである。尙關屋往還湯川川底伏越工事は湧水甚だしき爲に四時電動唧筒を使用し排水の上敷設を爲した。尙相川横斷伏越工は六月の濁水期を撰び半河身宛締切り鐵管は河底より最小七五糎以下に掘下け細土小砂利を埋立て、上部は厚さ二〇糎の混凝土又は栗石混凝土を以て防護した上敷設し、更に下流側には一條の金網蛇籠を敷き詰め川床の浸蝕を防止した。又之の區間の縣道位置は幅員も狭く交通も多かつたので、輕便軌道を利用しウタテ替式により工事を抄らして同九年十二月三十日竣工した。

1. 高壓鐵管 内徑五百糎 敷設延長 一、五六六、七三米
- 普通壓管 〃百五十糎 敷設延長 二一、三〇米



制水弁室築造工(五百耗、百五十耗)

双口排氣弁室築造工

鐵管川底伏越防護工

水路横斷防護工

2. 工事費

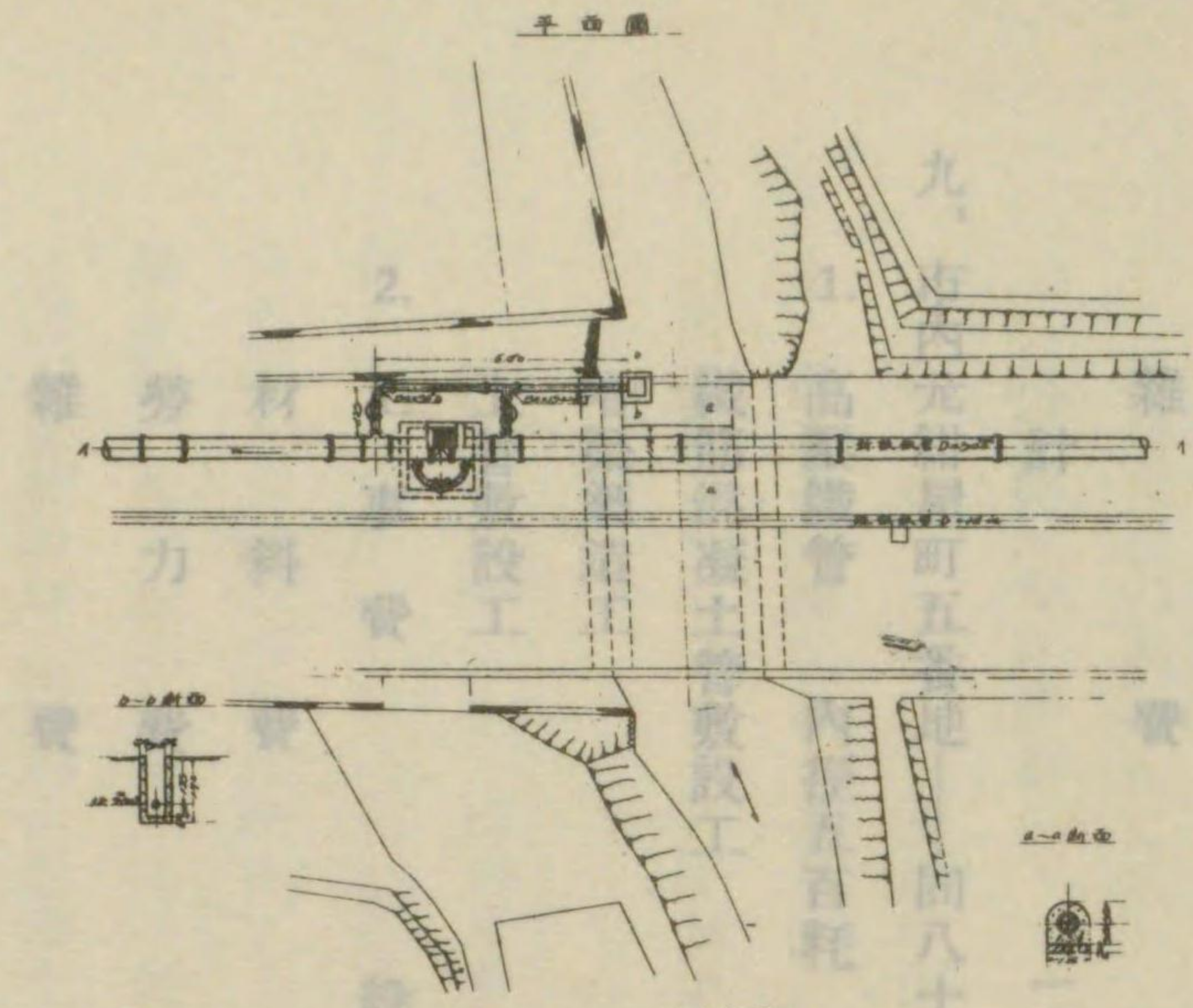
材料費	勞力費	雜費	計	設計額	精算額
三四、二四二、四〇四	七、一二五、四四〇	四〇〇、九三〇	四二、三〇〇、〇〇〇	三二、三九九、五一〇	六、三四〇、六六〇
				二四九、九〇〇	三八、九九〇、〇七〇

六ヶ所  
一ヶ所  
二ヶ所  
七ヶ所

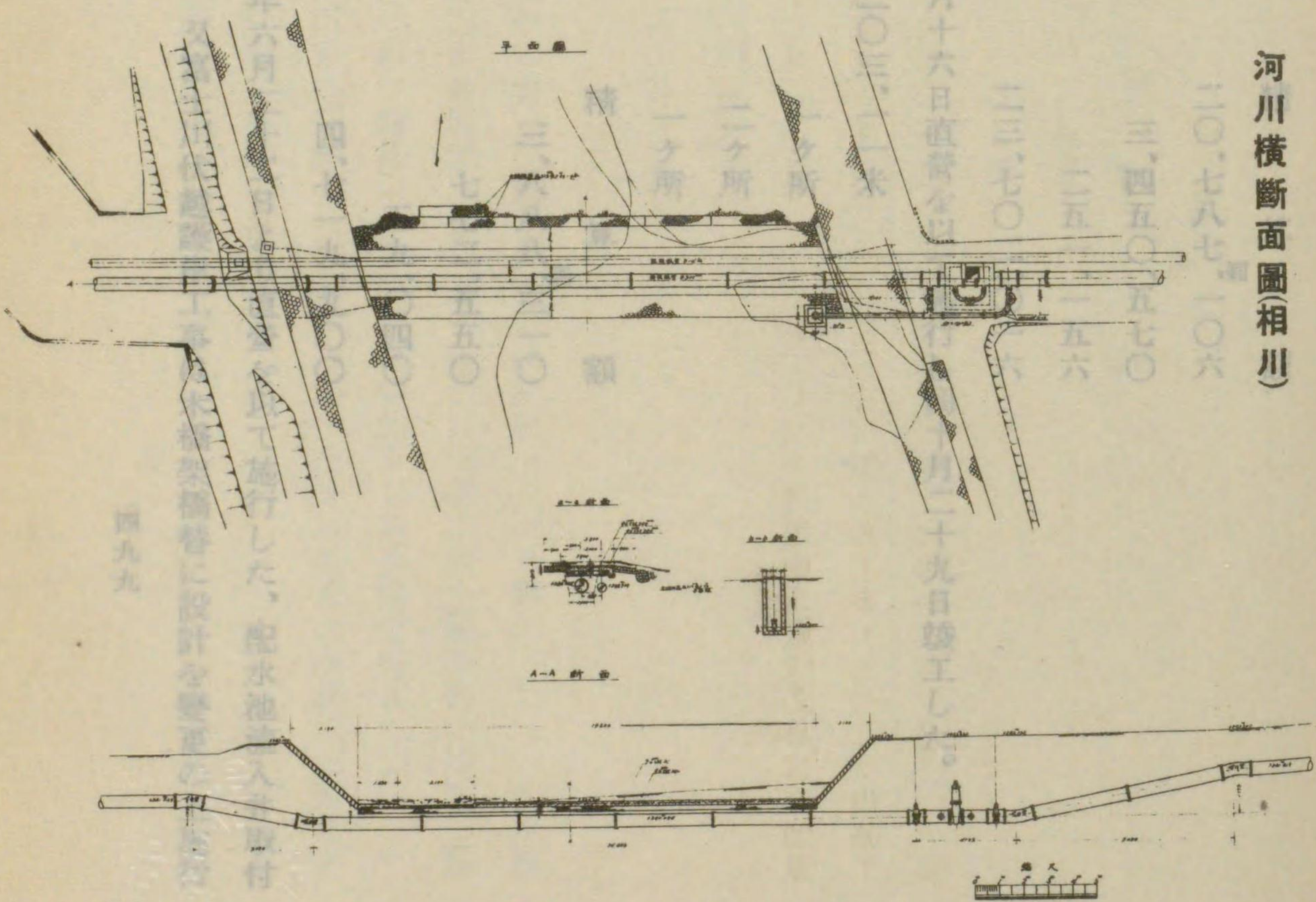
八、市内袋町十六番地——同元城屋町十五番地先間同九年七月一日直營を以て施工したが縣道中の敷設工事は交通量多き爲其の影響を慮り深度を低下して敷設したので掘鑿深度深き爲と幅員狹隘等で頗る難工事であつたが尙施工中は相川端より白木町迄甲府中學校前通り及朝日小學校前通りの二迂回線を設け工事と交通の支障を避けたが竣工は同九月三十日である。

1. 高壓管 内徑五百耗 敷設延長 一、〇五一、八八米
- 鐵筋混凝土管敷設工 六、〇〇米
- 暗渠築造工 四ヶ所
- 暗渠伏越防護工 一ヶ所

河川横斷面圖(湯川)



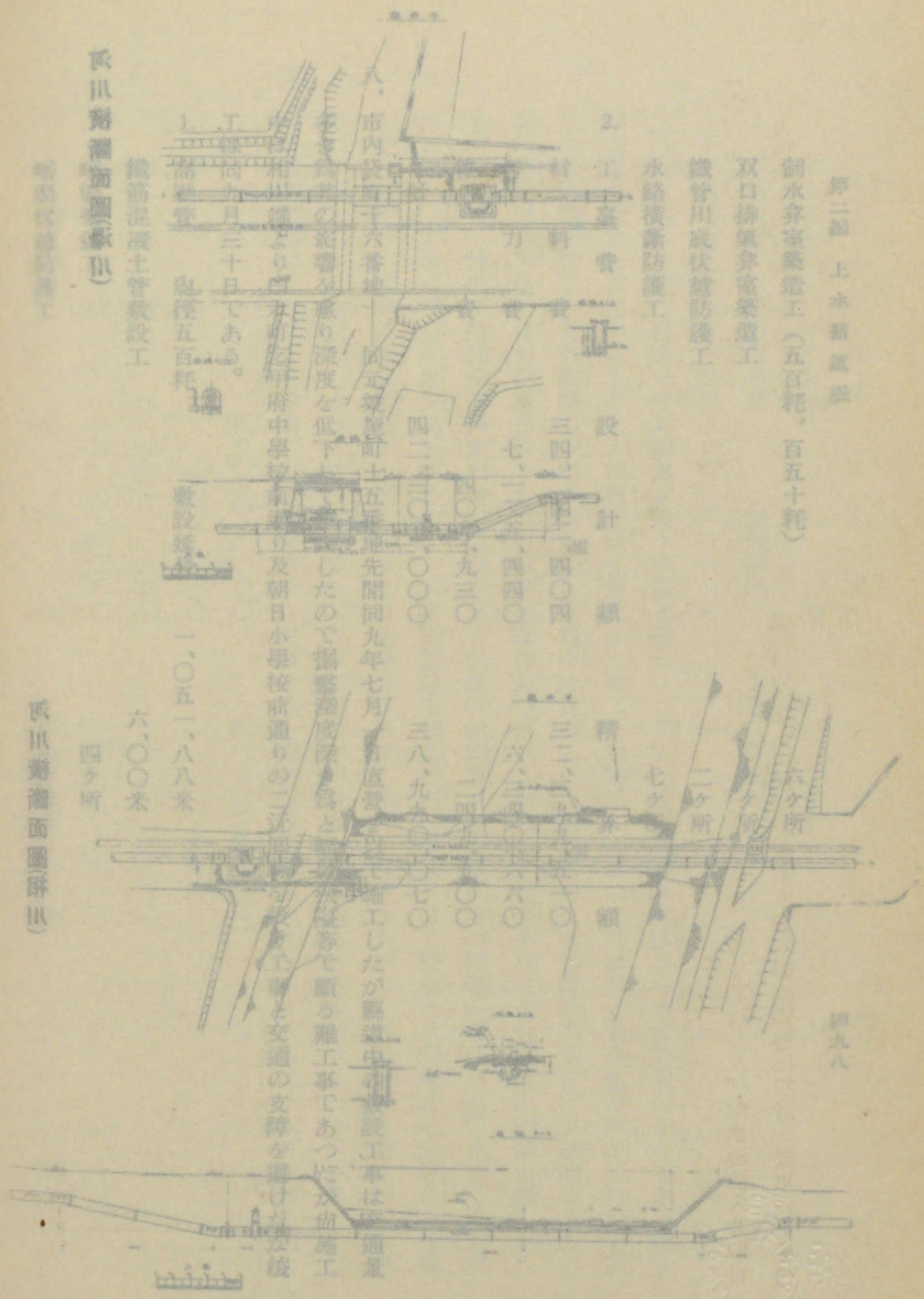
河川横斷面圖(相川)



一〇、市内丸根町百四番地——愛宕山配水池を以て、同十年六月  
及既設十四吋管の連絡工事は送水に年々工事を進め、

一九、同管内丸根町百四番地——愛宕山配水池を以て、同十年六月  
及既設十四吋管の連絡工事は送水に年々工事を進め、





第二圖 上水敷設線

第三圖 下水管敷設線

2. 工事費		設計額	精算額
材料費	一九、六九二、四一四		二〇、七八七、一〇六
勞力費	四、三三五、四七〇		三、四五〇、五七〇
雜費	二七二、一一六		二五一、一五六
計	二四、三〇〇、〇〇〇		二三、七〇二、〇一六

九、市内元紺屋町五番地——同八十八番地間、同九年九月十六日直營を以て施行し同十月二十九日竣工した。

1. 高壓鐵管 内徑五百耗		敷設延長	一ヶ所
		二〇三、一一米	一ヶ所
鐵筋混凝土管敷設工			
暗渠築造工			
土管敷設工			
2. 工事費		設計額	精算額
材料費	三、九〇八、八七六		三、八八八、三一〇
勞力費	一、九一〇、二五〇		七七二、五五〇
雜費	九〇、八七四		五九、〇四〇
計	五、〇〇〇、〇〇〇		四、七一九、九〇〇

一〇、市内元紺屋町百四番地——愛宕山配水地間、同十年六月二十二日より直營を以て施行した、配水池流入井取付及既設十四吋管の連絡工事は送水し乍ら工事を進め、又富士川伏越護岸工事は木橋架橋替に設計を變更の上施行



したので、五百耗管五、六六米、十二吋、十四吋管七米、敷設延長を増した。富士川々底鐵管伏越は川床面より五  
 五種に深度に埋没し細土小砂利を以て埋戻し舊管と新管の上部川床面は厚二〇糎の配合一、三・六混凝土を以て  
 幅二米に防護し上流一米、下流二米栗石混凝土を以て川床の浸蝕を防ぎ兩岸橋臺の部分は鐵管の兩側に混凝土壁  
 を設け上部は厚二〇糎の混凝土床板とし十二封度軌條を以て補強し、橋臺石積の沈下に依る鐵管迫害を防いだ。  
 配水場内及附近は地下一面の岩盤なるを以て火藥爆破により困難なる作業を續けたが時には火藥使用の爲其の破  
 片近隣に飛散し苦情を申出でられたが爲、人夫日子意外に費して漸く同十一年三月三十一日竣工したが、送水連  
 絡は之より先の十年八月十四日完了したのである。

1. 普通壓鐵管 内徑五百耗 敷設延長 八八、七七米

高壓管 二六四、四八米

普通壓管 内徑百五十耗 二、四〇米

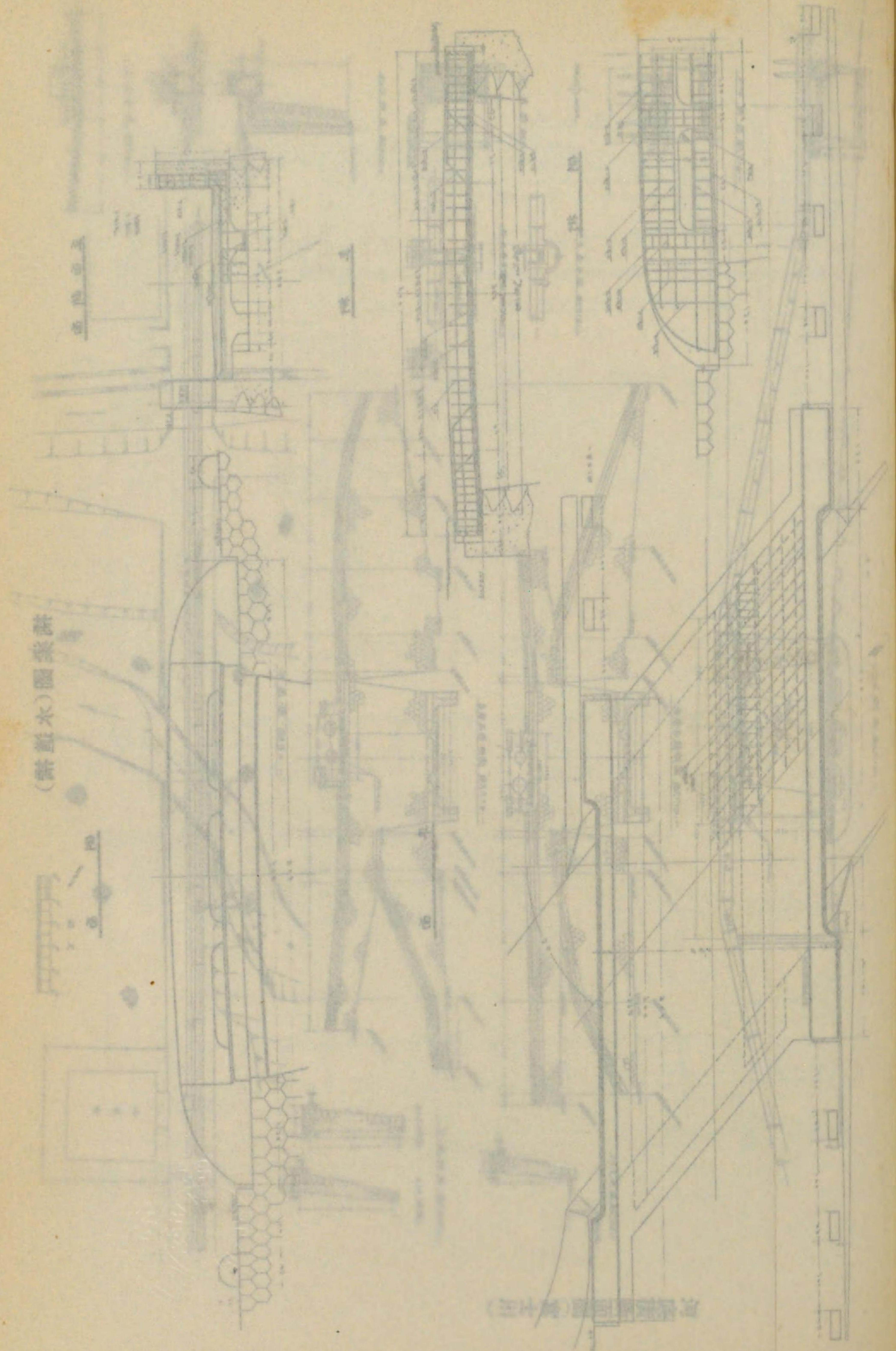
制水弁室築造工 五百耗 二ヶ所

同 百五十耗 一ヶ所

双口排水弁室築造工 一ヶ所

川底伏越防護工 二ヶ所

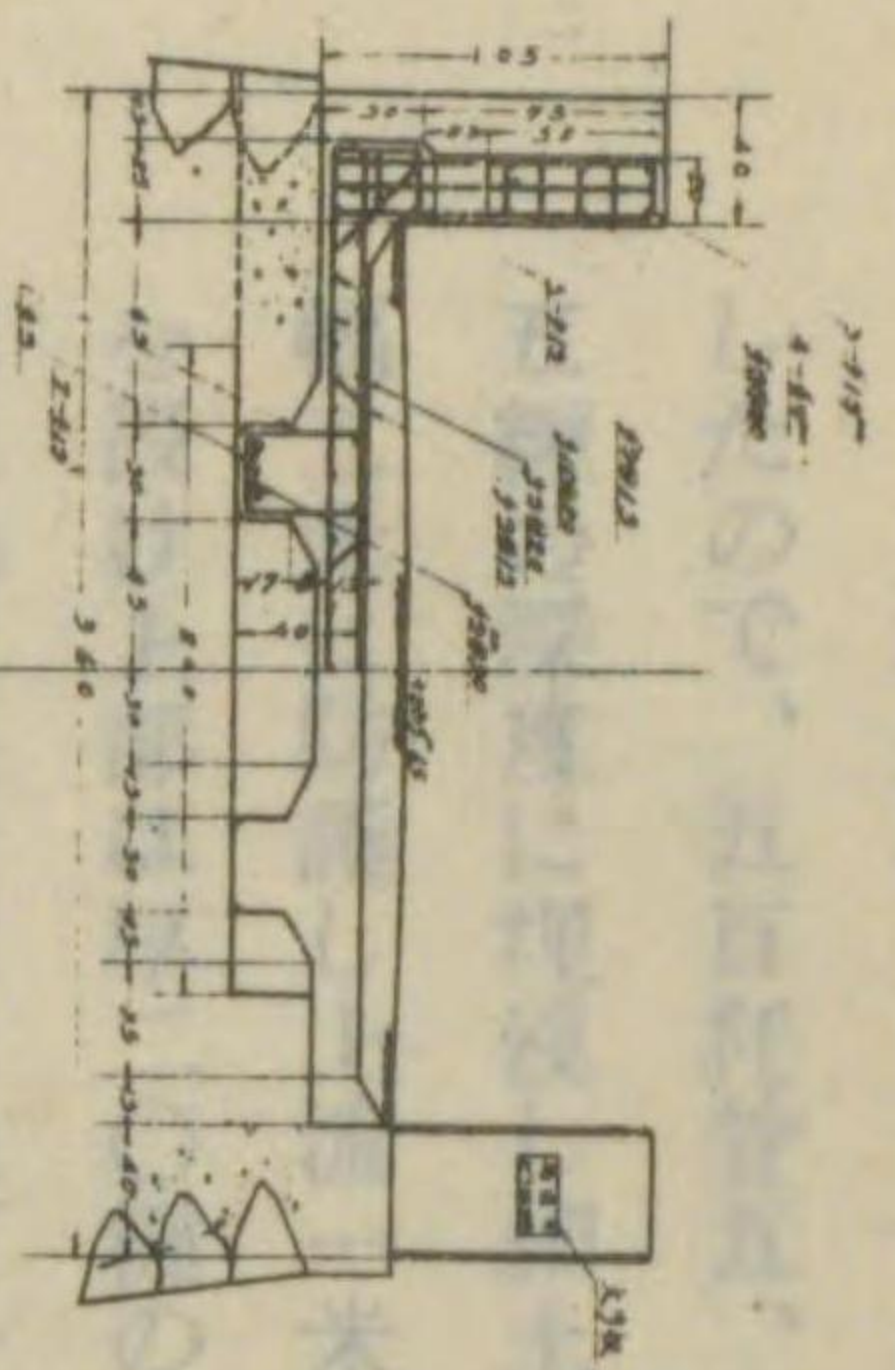
2. 工事費	設計額	精算額
材料費	一〇、五九六、八一八	一〇、二四六、六九三
勞力費	三、二〇三、一五〇	三、二二九、〇二〇



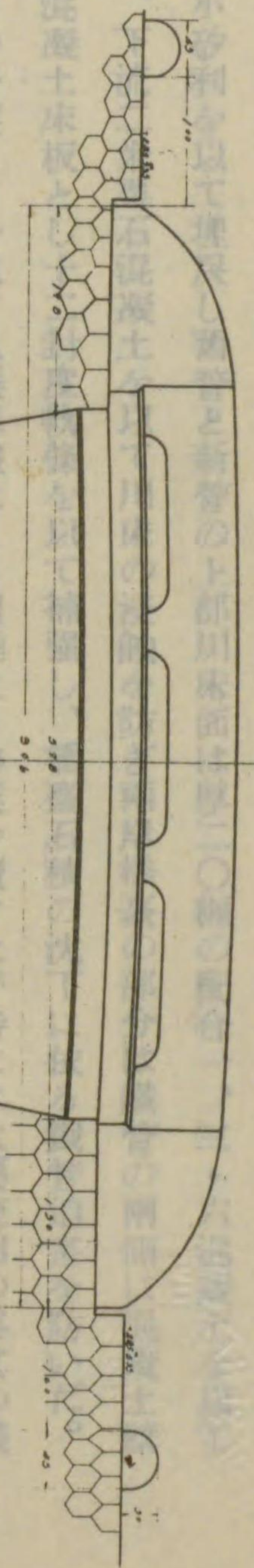


橋梁圖(水道橋)

正面断面



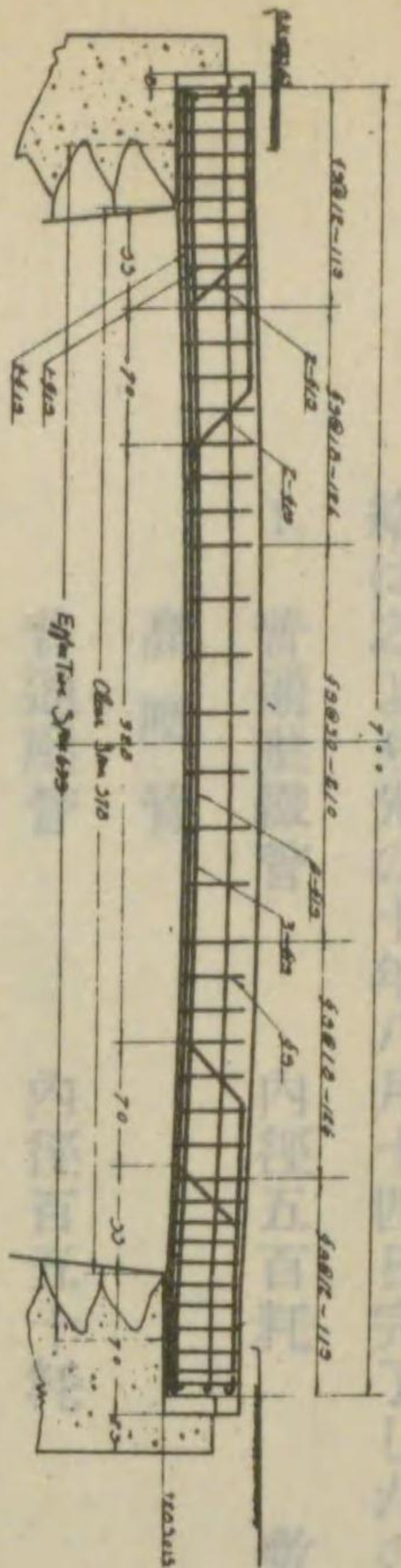
側面



註

片 材 若情を申出でられたが爲、人夫君子意外に費して漸く同十一年三月三十一日竣工した。此水道

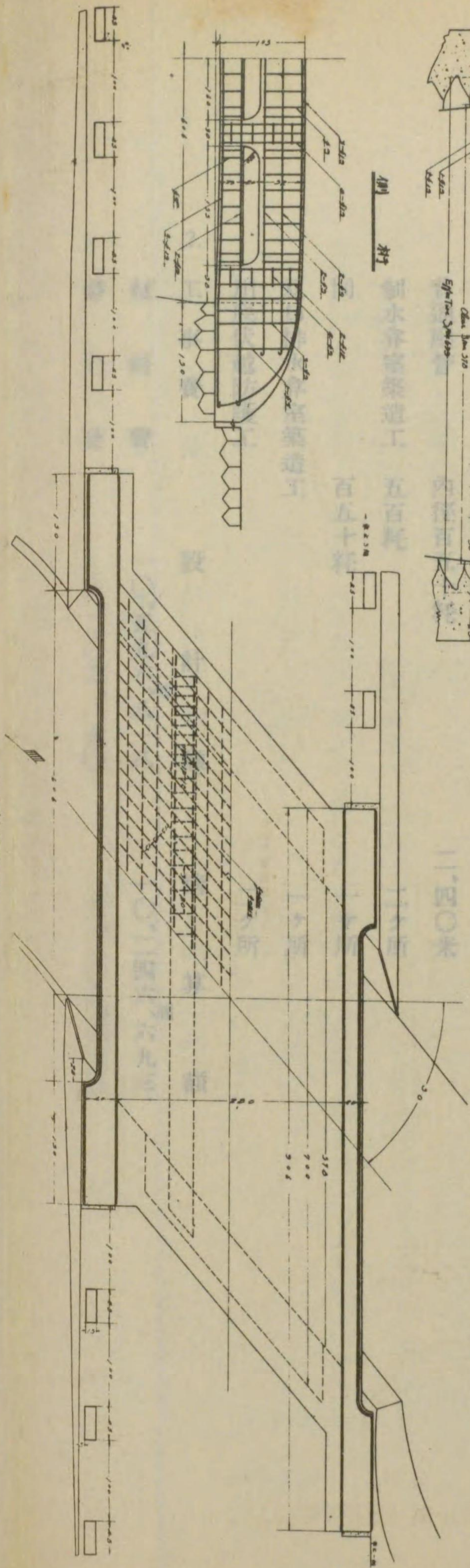
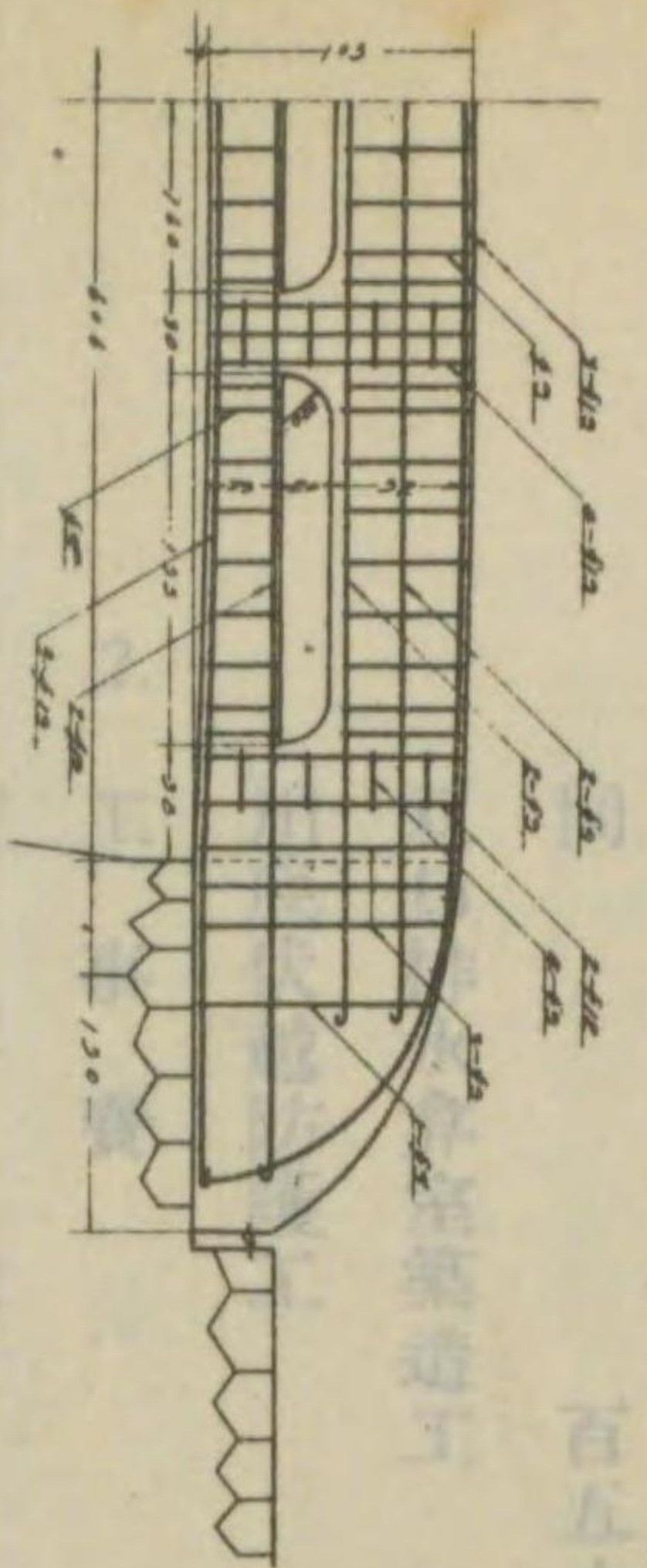
平 面



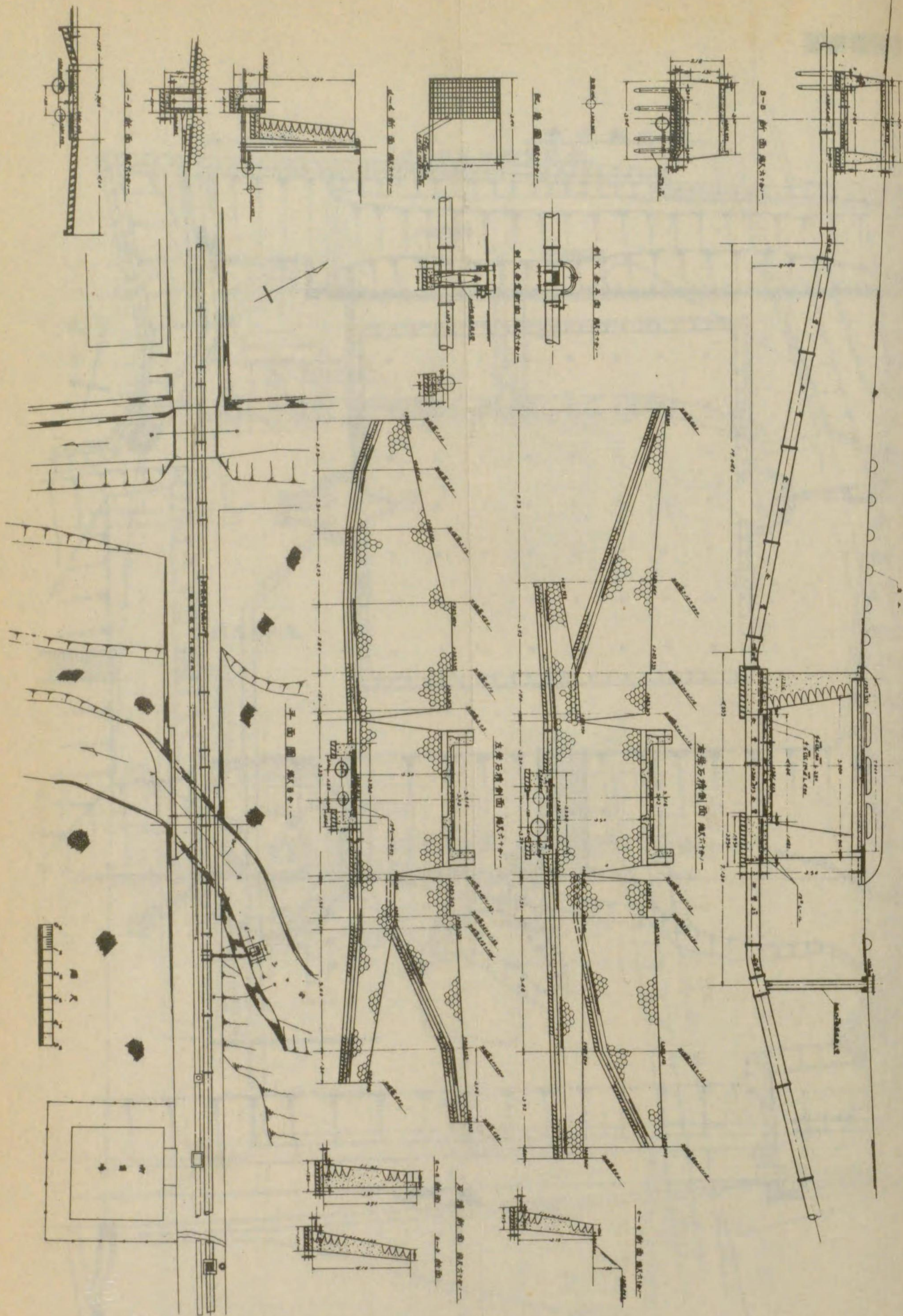
一六四、四八米

二四〇米

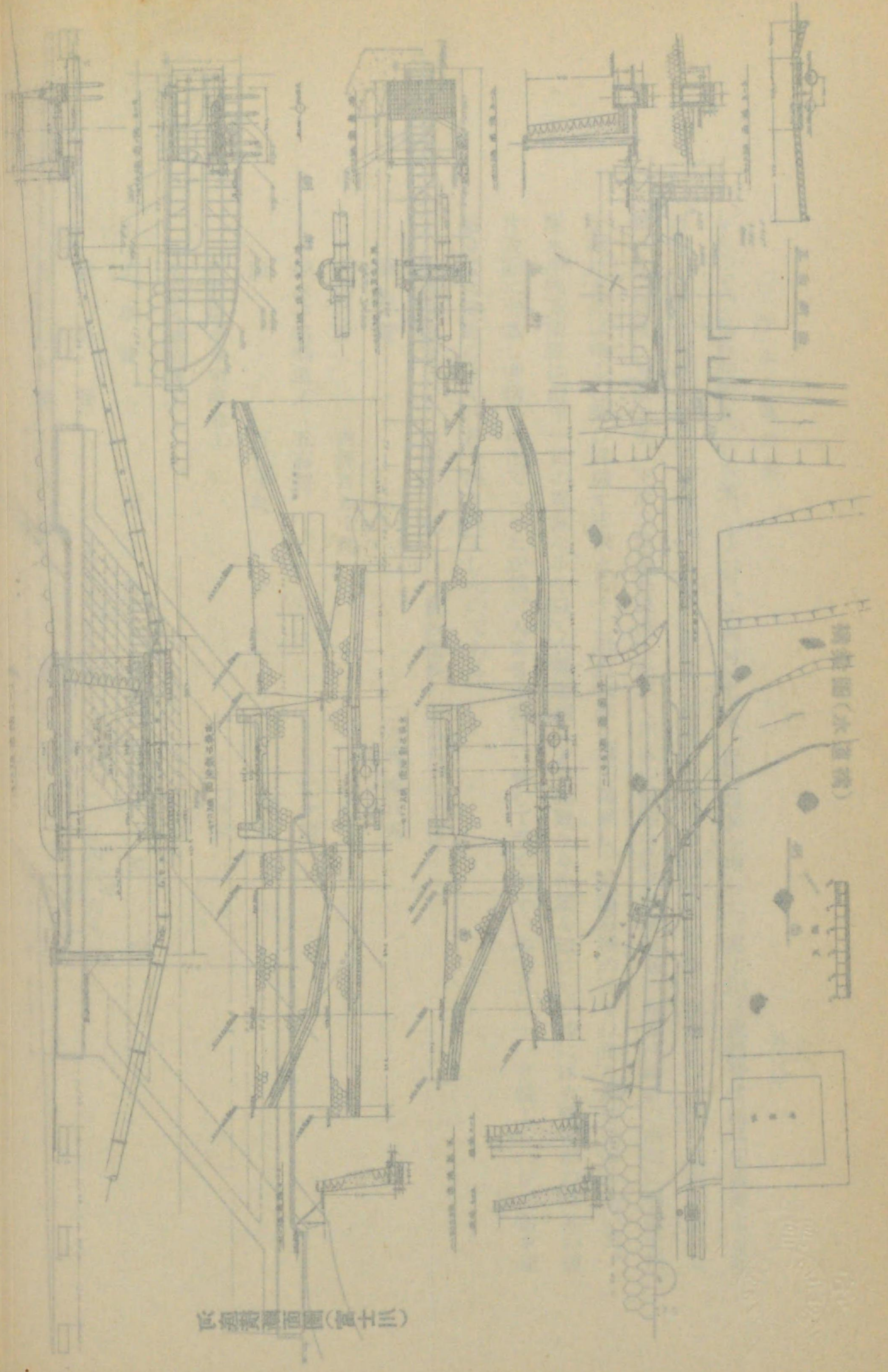
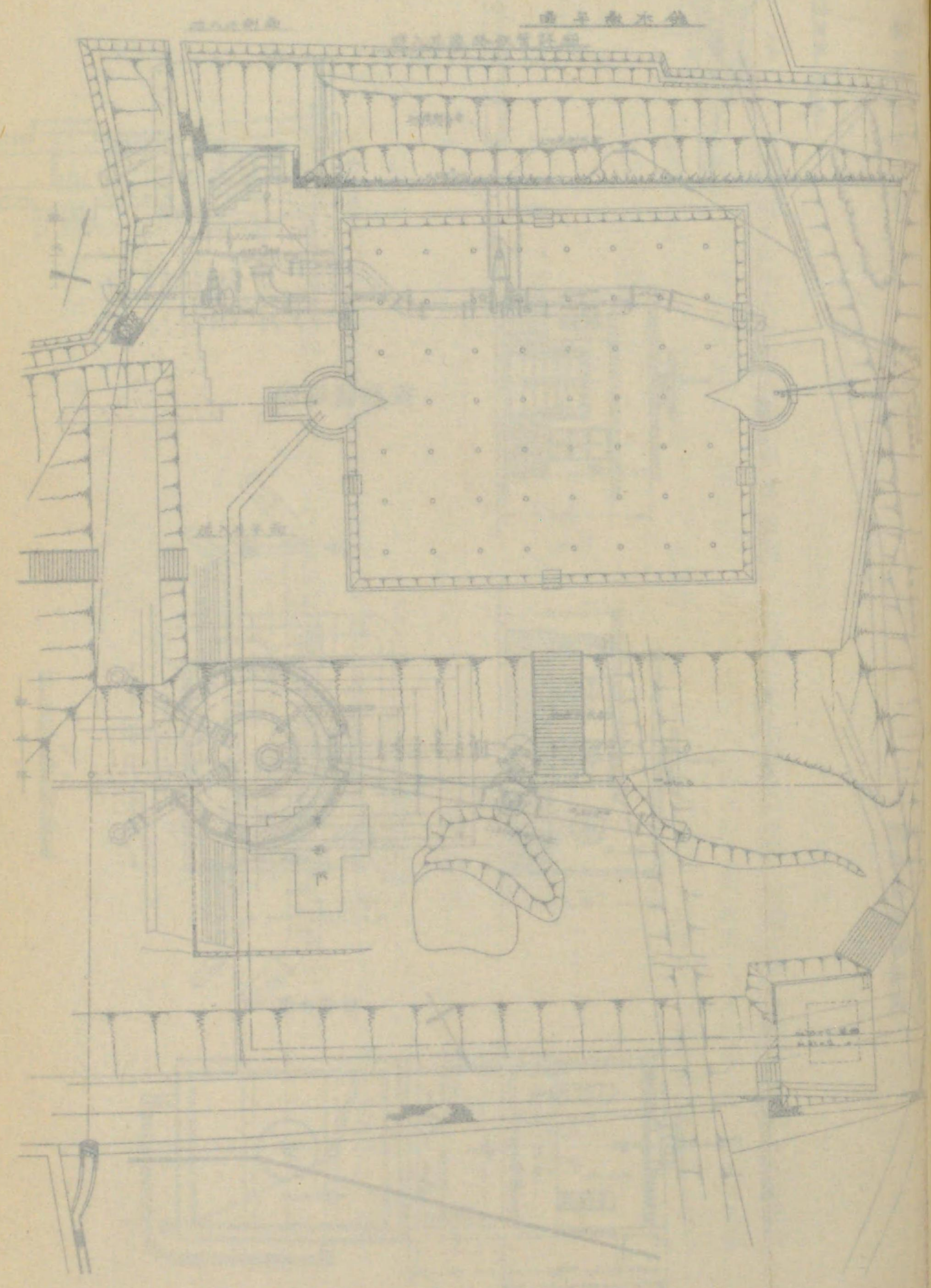
側 材



河底横断面圖(富士川)





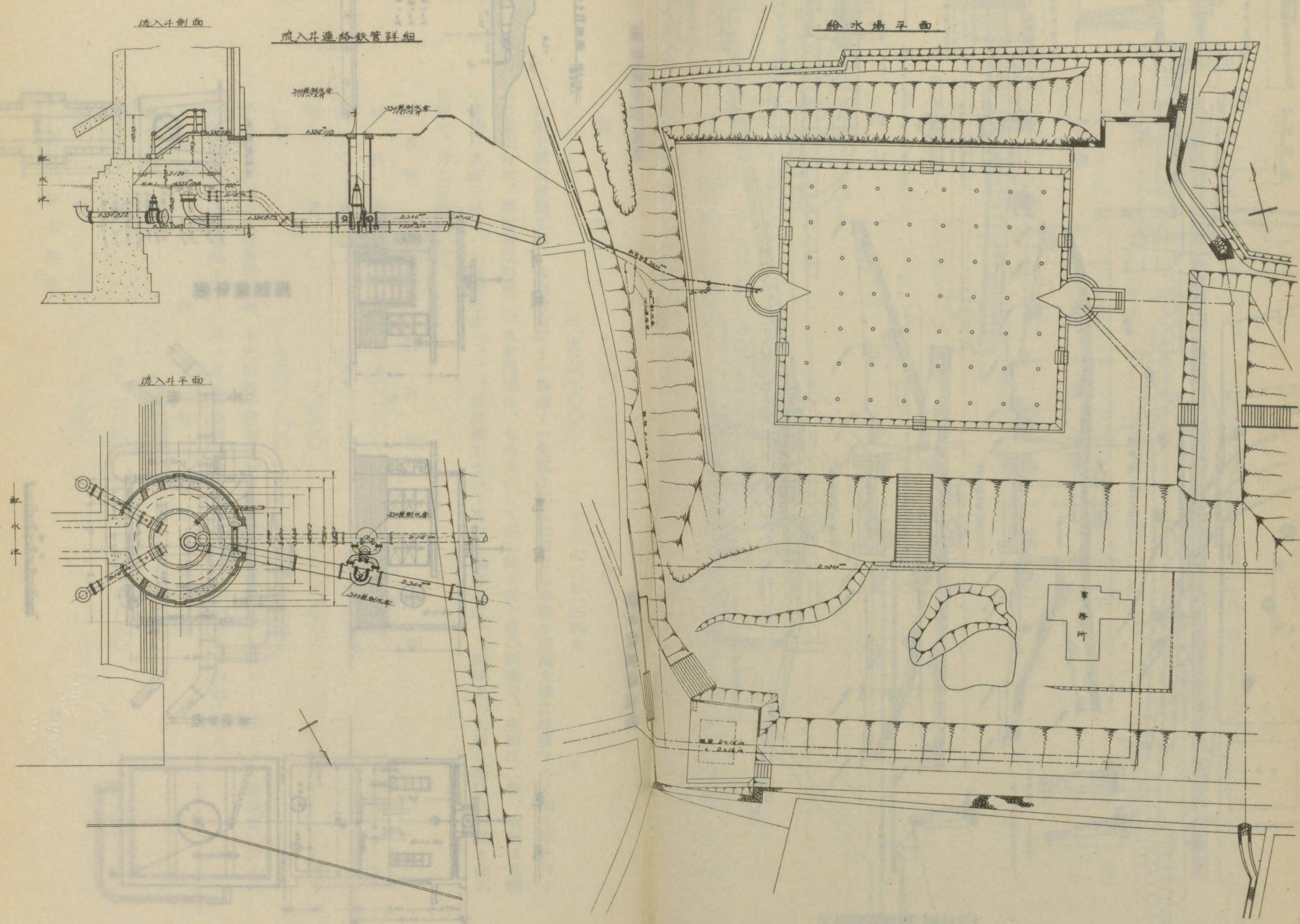


汽機房平面圖(富士)

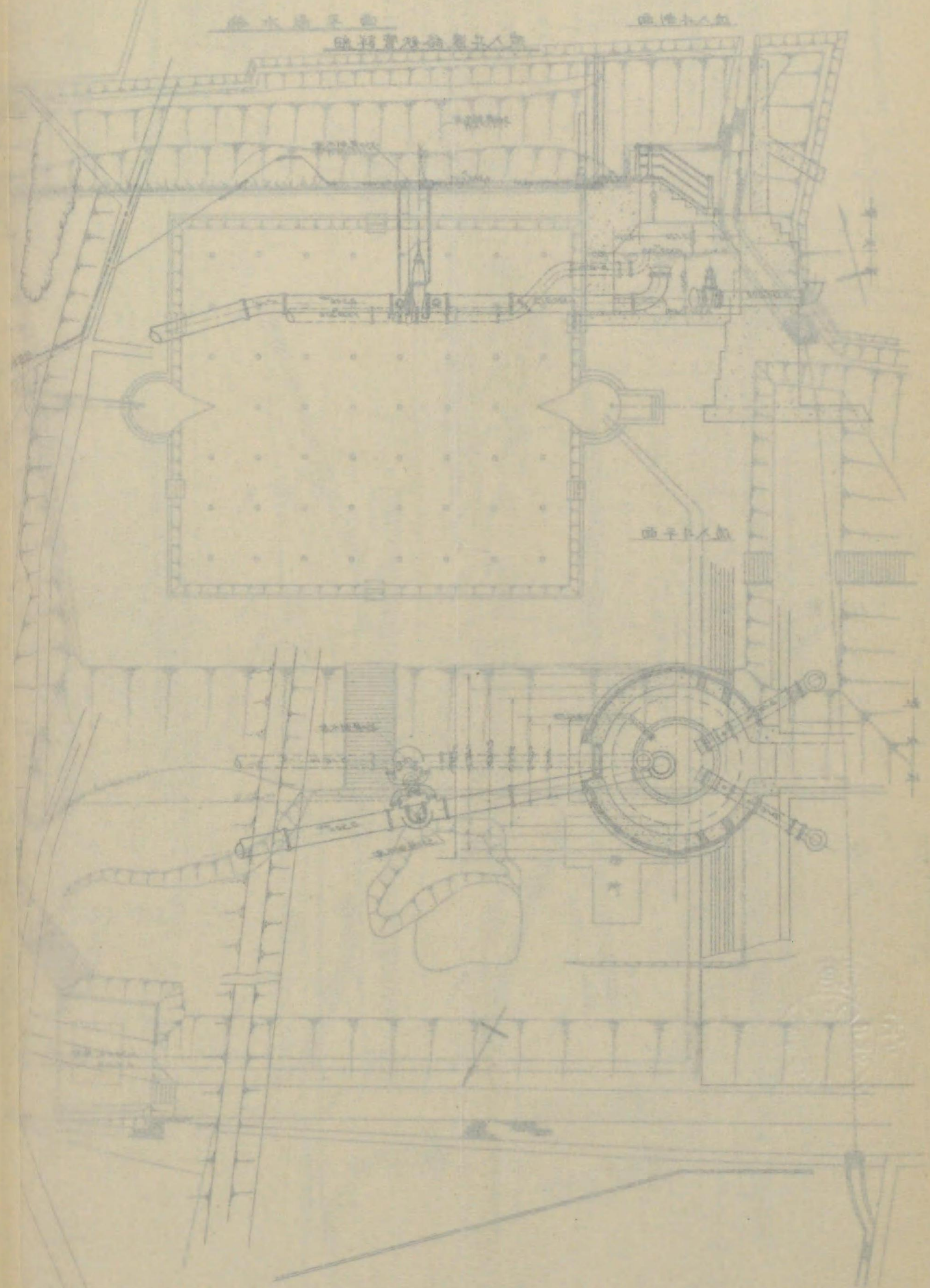
鍋爐房(水櫃)平面圖



配水場連絡管詳細圖

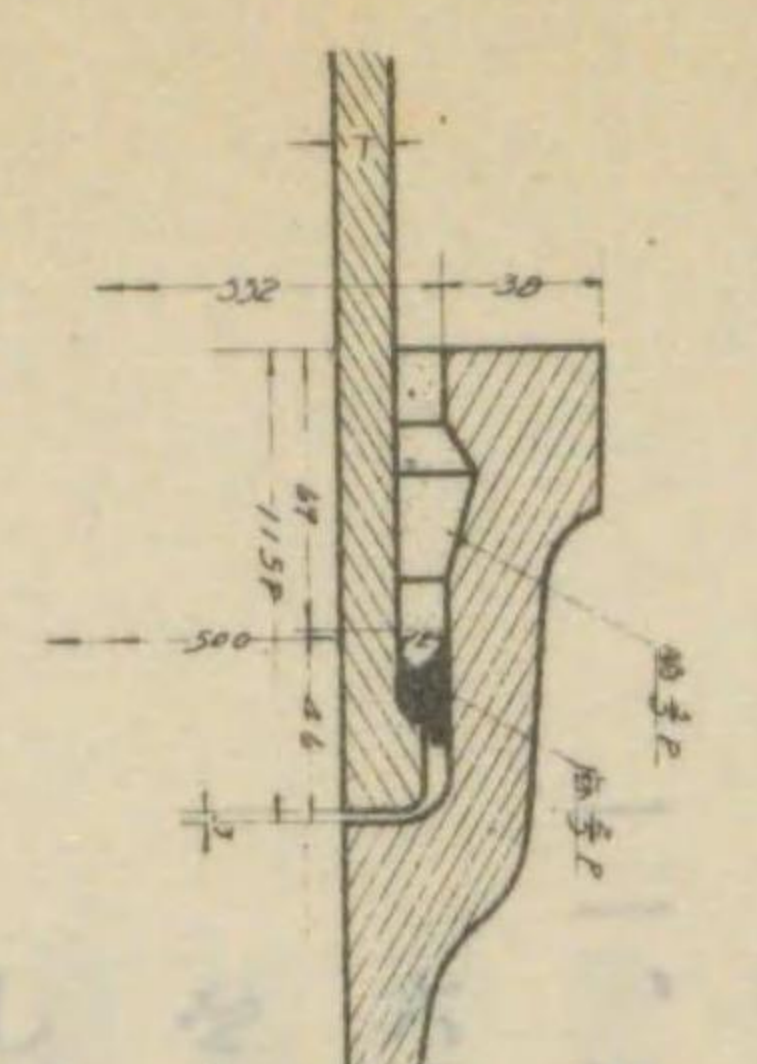




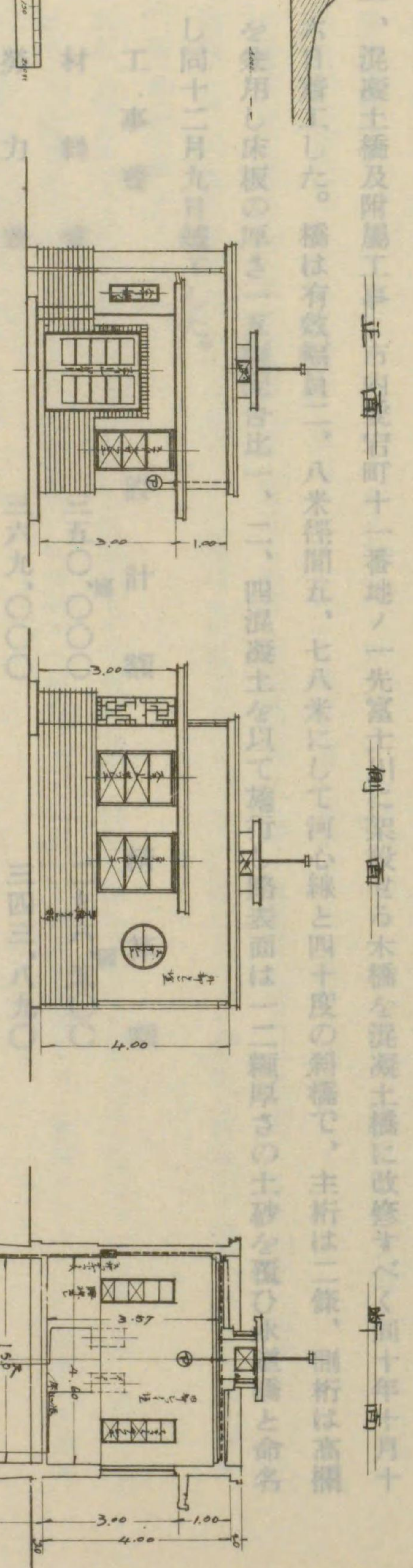


置水機室構造圖

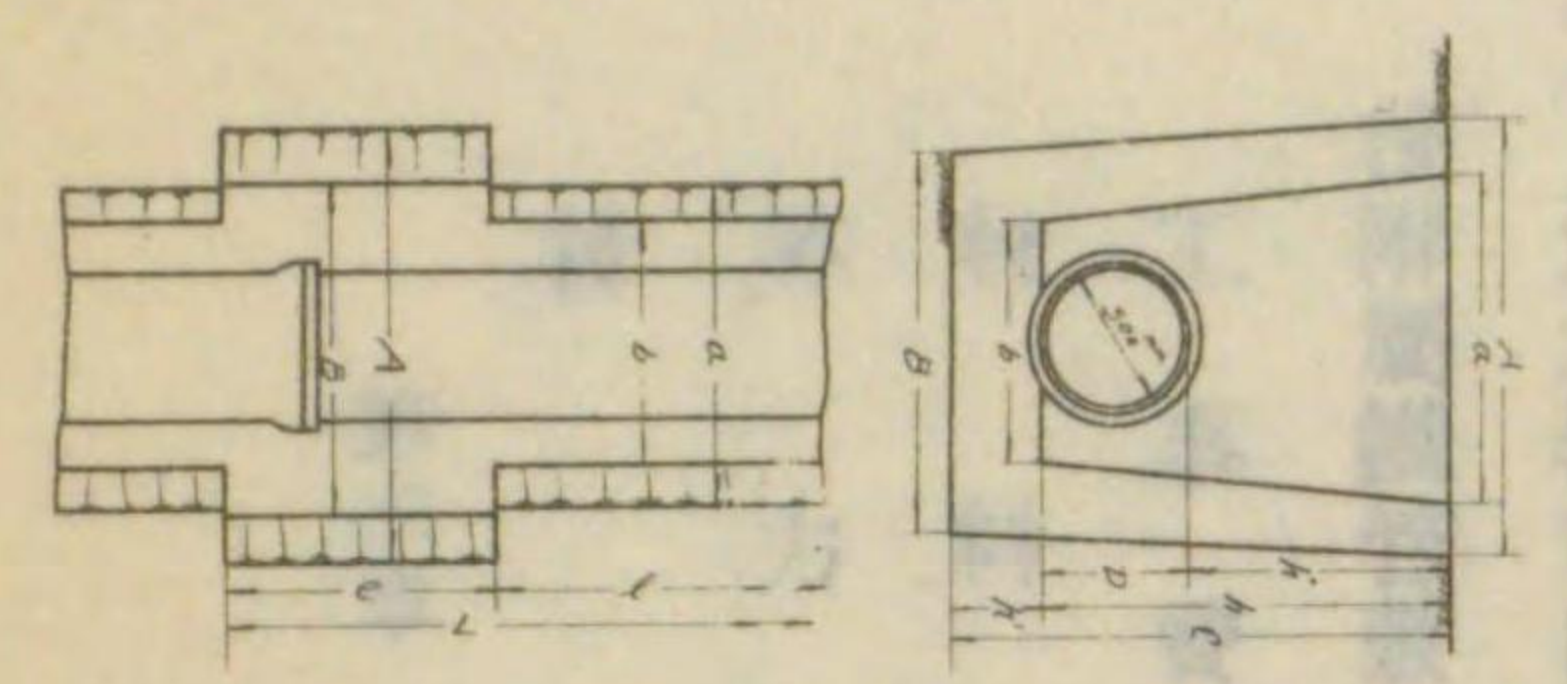
鐵管接手詳細圖



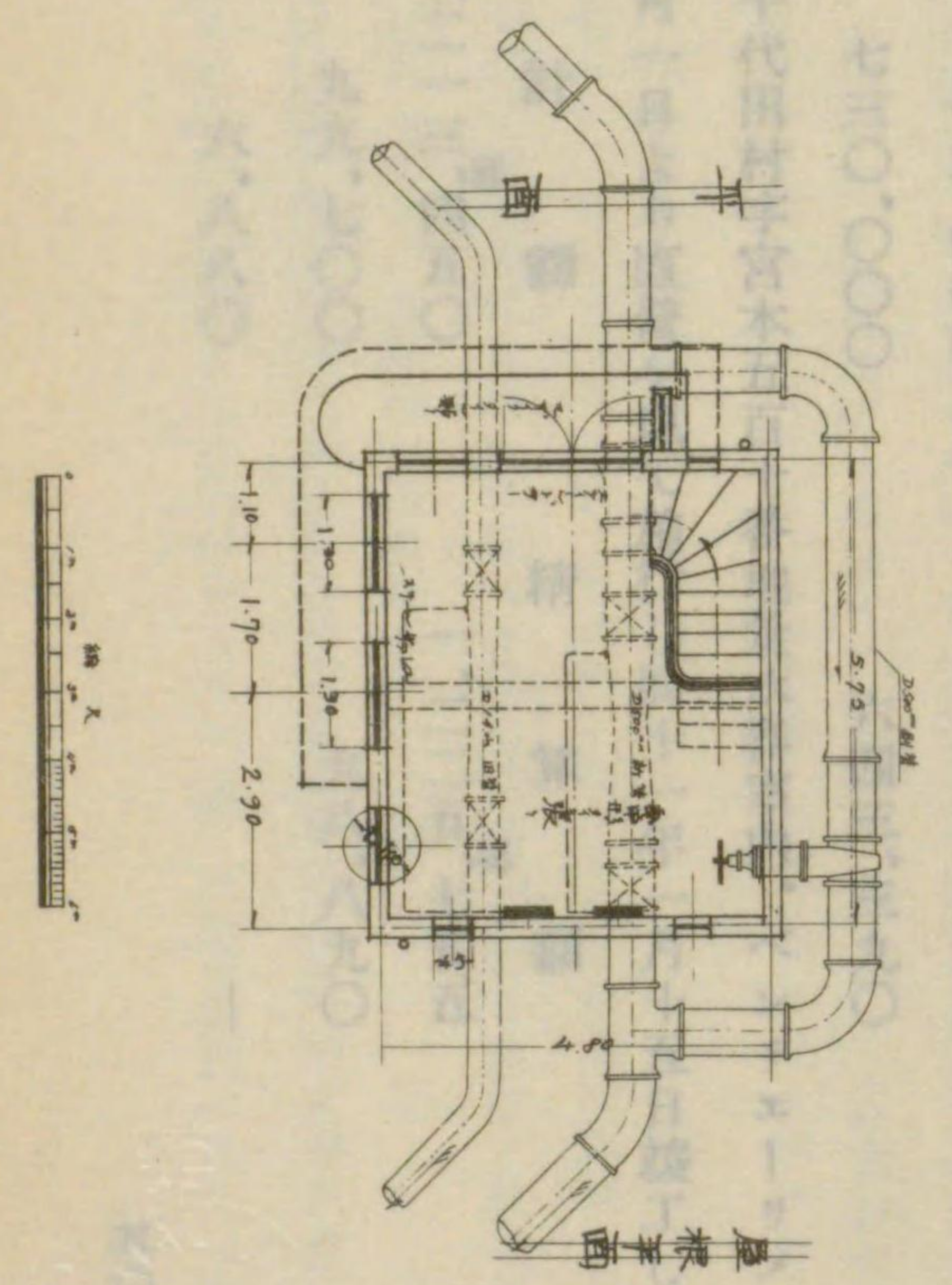
高圧管子=1/1.5  
普通管子=1/1.4  
高圧管子=1/2



掘整標準圖

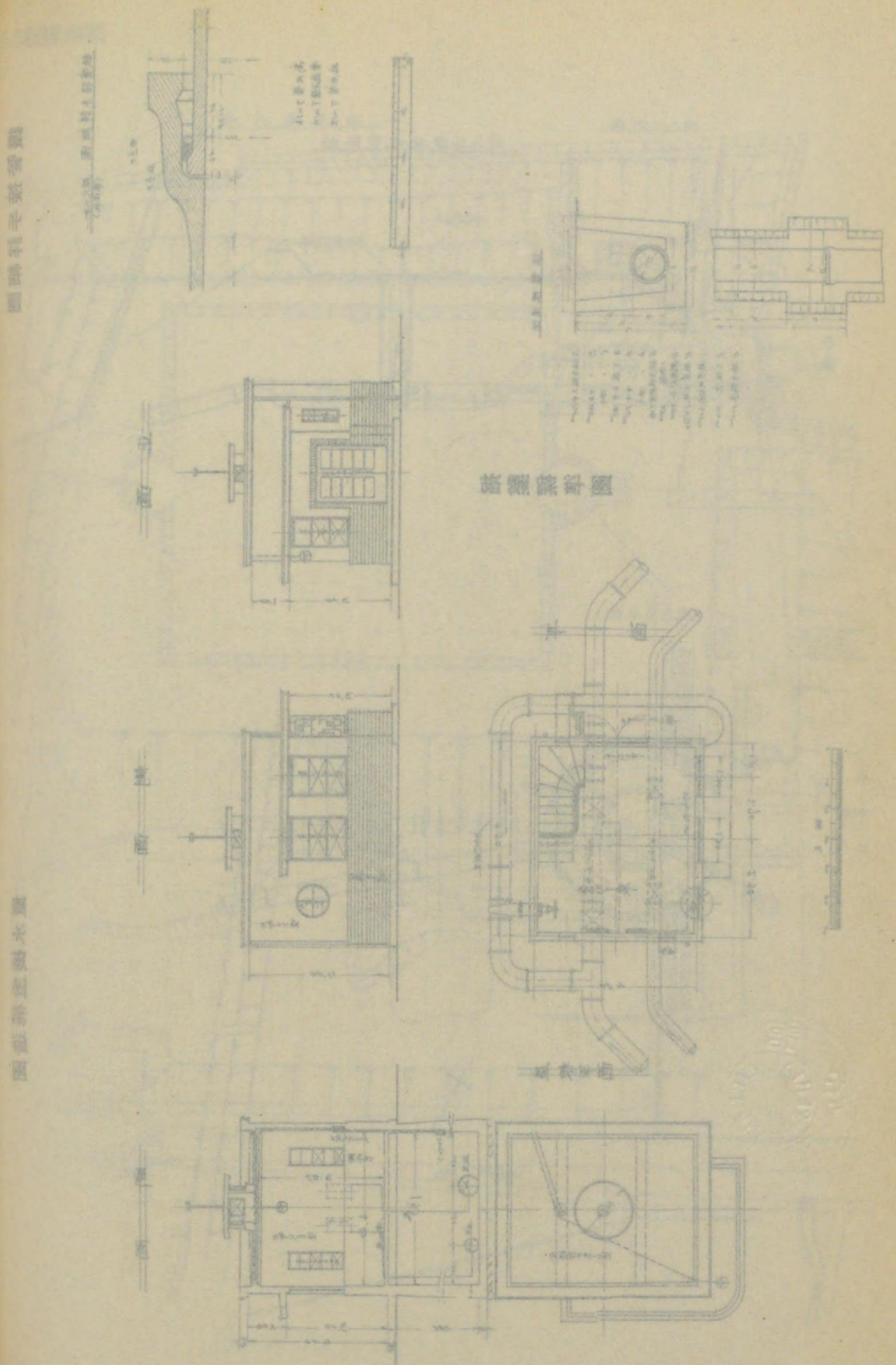


A 掘整土層上層 100mm  
B 掘整土層 100mm  
C 掘整土層 100mm  
D 掘整土層 100mm  
E 掘整土層 100mm  
F 掘整土層 100mm  
G 掘整土層 100mm  
H 掘整土層 100mm  
I 掘整土層 100mm  
J 掘整土層 100mm



1:100  
1:100  
1:100  
1:100  
1:100  
1:100  
1:100  
1:100  
1:100  
1:100





雑費

一三、九八〇、〇〇〇  
一三、七三三、三四五

一一、混凝土橋及附属工事 市内愛宕町十一番地ノ一先富士川に架設せる木橋を混凝土橋に改修すべく同十年十月十六日着工した。橋は有効幅員二、八米徑間五、七八米にして河心線と四十度の斜橋で、主桁は二條、側桁は高欄を兼用し床板の厚さ一五糎配合比一、二、四混凝土を以て施行し路表面は一、二糎厚さの土砂を覆ひ水道橋と命名し同十二月九日竣工した。

工事費 設計額 精算額

材料費 三五〇、〇〇〇 二九六、五〇〇  
 労力費 三六九、〇〇〇 三四三、八九〇  
 雑費 一三、〇〇〇 三、〇〇〇  
 計 七三〇、〇〇〇 六四三、三九〇

一二、量水器室内送水鐵管敷設工事 千代田村字宮本五百十番地量水器室内、ベンチエーリメーター管設置に伴ふ前後附属鐵管敷設工事を同十年十二月一日より直營を以て施行し同十一年一月十五日竣工した。

工事費 設計額 精算額

材料費 一、二一三、四五〇 一、二二五、七五五  
 労力費 九九、七〇〇 九八、八九〇  
 雑費 六、八八〇

第三章 變更計畫



計

一、三二〇、〇〇〇

一、三二四、六四五

一三、送水鐵管復舊工事 市内白木町九六番地及同袋町二番地の鐵管敷設替への爲同十年八月十日着工し高壓五百耗管八米を夫々切管敷設し同十七日竣工した。

工 事 費

五九六、〇〇〇

五六七、五九〇

鐵管敷設工事仕様書

一、土 工

掘鑿工 現場ヲ實測ノ上適當ナル位置ニ遺形ヲ設ケ鐵管敷設ニ必要ナル掘鑿幅、法、深サ(掘鑿標準圖參照)ヲ定メ鐵管中心高ヲ正確ニ出シ掘鑿ヲ爲スモノトシ既設營造物ニ對シ支障ヲ及ボサル様注意シ地質ノ軟弱竝掘鑿ノ深度ニ應ジ危險ノ虞レナキ様相當ナル山圍ヲ施シ施工スルモノトス

埋戻工 鐵管敷設其ノ他工事ノ埋設終了後ハ湧水等アル場合ハ之ヲ排除シ丁寧ニ搗キ固メツ、埋戻スモノトス、鐵管ノ下端及周圍ハ特ニ注意シ良質ノ細土ヲ以テ埋戻シ搗固メヲナシ直接岩石ノ接觸ヲ避クルモノトス

二、鐵管敷設工

鐵管上端ノ土被リ標準ハ専用道路ニ於テ九〇糎以上府縣道ニ於テ八一〇糎以上ニシテ地盤ノ軟弱ナル箇所ハ承口附近ニ枕木ヲ据付鐵管ノ高低竝勾配水平角等正確ニ据付ケ鐵管ノ沈下移動等生ゼザル様胴締ヲ完全ニナスモノトス

接合部印籠接手ハ承挿間ニ約三耗ノ間隔ヲ置キ「マニラ麻」及鉛ヲ充填シ入念ニ鉸付ヲナスモノトス

接合用麻及鉛ノ量ハ承口深サノ五分ノ二及五分ノ三ノ割合トス、鉛管ノ接合ハ「ペイント」及光明丹ヲ充分練合セタルモノニ鉛線ヲ挿入シ「ボルト」ヲ以テ緊密ニ締付ルモノトス

鐵管内部ハ据付前ニ充分清掃シ特別ノ場合ヲ除クノ外ハ必ラズ鑄出シ文字ヲ上方ニ向ケ据付接合作業終了ノ上ハタマチニ「コ

ルタール」ヲ塗裝スルモノトス

三、鐵管ノ運搬積卸其他取扱ハ極メテ慎重ニ激衝等ヲアタヘザル様留意ヲスルモノニシテ据付ノ前ニ係員立會ノ上必ラズ管體ノ點檢ヲ入念ニ爲スモノトス

四、川底伏越防護工

川底伏越防護ハ川底面ヨリ鐵管ハ四五種以上ノ深サニ敷設埋戻シハ細土小砂利ヲ以テ充分搗固メヲナシ表面ハ配合一、三、六、混凝土ヲ以テ厚サ一五種以上ノ防護ヲナシ現場ニ應ジ更ニ上下流ヲ張石又ハ混凝土ヲ施シ川床ノ浸蝕ヲ防護スルモノトス

五、制水弁及排氣弁室築造工

制水弁室及排氣弁室ハ基礎混凝土上ニ鐵筋混凝土函又ハ鐵筋混凝土管ヲ以テ築造シ人孔ハ花崗石縁石ヲ据付ケ弁類ノ名稱ヲ記セル鑄鐵蓋ヲ覆フ

六、用排水路横斷工

用排水路横斷箇所ニハ夫々其ノ斷面及流量ニ應ジ適當ナル大キサノ鐵筋混凝土管ヲ敷設シ水路ノ復舊改修ヲ爲スモノトス

七、泥吐設備工

泥吐管ハ内徑一五〇耗管ヲ以テ設備シ吐口ハ川底面ニ混凝土造人孔ニ取設ケ之レヨリ河川ニ排水スル装置トス

八、路面復舊工

路面ハ市縣道ニ於テハ充分搗固メ上層部ニ二〇糎厚ノ栗石ヲ張立テ六糎ノ衣土ヲ覆ヘ更ニ厚六糎ノ敷砂利ヲ掘鑿幅ノ五割増ニ敷均シ一〇吋「ローラー」ヲ以テ散水シツ、充分輾壓シ二十日以内ニ於テ落込ミ後更ニ同量ノ敷砂利ヲ施スモノトス、占用道路ニ於テハ充分搗固メツ、埋戻ヲナシ原形ニ復舊シ敷砂利ヲ省略スルモノトス

九、右各項ニ示セル防護又ハ復舊以外ノ特殊附帶工事ハ其ノ現場ニ應ジ別ニ設計施工ヲナスモノトス

十、鐵管敷設竝ニ各種附帶工事施行ハ共ニ別紙設計書圖面竝本仕様書ニヨルモノニシテ材料ハ凡テ日本標準規格ノ定ムル所ニ據



ルモノナルモ特別ナルモノニアリテハ本市ニ於テ特ニ指定スルモノトス  
 十一、工事施行中諸材料特ニ接合材料ノ出納使用量等ハ嚴密ニ計量明確ニナシ其ノ他必要事項ハ漏レナク記載報告ヲ要ス  
 工事完了後ハタマチニ材料其他ノ整理ヲ爲スモノトス

鐵管接合材料歩掛表 (五〇〇耗鉛接合)

品名	單位	數量	單價	金額	摘要
鉛	庇	一八、一〇	〇、二一六	三、九一〇	五〇〇耗接合一口當
マニラ	庇	〇、三三	〇、四一六	〇、一三六	同
コークス	庇	八、五〇	〇、〇二九	〇、二四七	鉛一庇ニ付〇、四七庇使
木炭	庇	〇、九〇	〇、〇八一	〇、〇七三	同
松薪	庇	〇、一六	〇、〇一〇	〇、〇一六	同
計				四、四二六	一口代

鐵管敷設勞力歩掛表 (直管一本當長四米)

種別	單位	數量	單價	金額	摘要
掘鑿工	立方	八、五〇	〇、六四	五、二九	一立方米ニ付 人夫〇、五八掛 單價〇、六四 石工〇、三三掛 同 一、三三圓
埋戻工	同	七、七〇	〇、二五〇	一、九二五	同 人夫〇、三三掛 同 〇、七圓
山園其他諸材料	一式			一、四六〇	大工〇、三三掛 單價一、〇〇圓 人夫〇、六八掛 同 〇、七圓
山園工	同			〇、四三〇	鐵管据付接合一式
殘土處分	同			四、三三七	
鐵管工	人	二、三三	一、九〇〇	四、四二六	

特別人夫	同	二、一七	〇、八七	一、八八	同 上手傳
雜勞力	同	一、一五	〇、六〇	〇、八〇	
工	同	〇、四五	一、八五	〇、八三	
計				一七、一一六	

主要なる擴張工事は紋上の如く施工したが、其の準備又は事務所其の他の建築諸工事を左の如く施行した。

一、市廳舎内水道擴張部長室内部塗裝修理工事も市廳舎内幅二間堅四間の水道擴張部長室内部の天井及堅壁の塗裝を昭和八年十月十三日井尻善次郎氏に請負はしめ、天井、堅壁は水性ペンキを以て腰羽目及建具枠はワニスに夫々塗替へ同十八日竣工した。

工事費金三十四圓

二、市廳舎内水道課、擴張部模様替並修繕工事、昭和八年七月十三日井尻善次郎氏に金二百八十圓を以て請負はしめ、工事は階下は階段及階段下押入間仕切天井塗梁等を撤去し北側及西窓際まで壁を塗り、天井は逃げ板を撤去し野縁取付け現在に做ひ「シーリング」形其他張り上げ「ペンキ」塗に、又階上は階段口間仕切及廊下界間仕切りを撤去し、出入口を附替へ、床は室内床上げと不陸なきよう廊下及階段撤去の跡迄床張りし、腰羽目は撤去板と傍取り直しは新材を加へ、既設の通り加工し、ワニス塗に仕上げ同七月二十七日竣工した。

三、組立式見張所及物置建築工事、富士見町鐵管試驗所業内に建坪三坪の組立式見張所及同物置三坪の二棟の建築を金二百四十一圓十五錢を以て井尻善次郎氏に同八年十月二十四日請負はしめたが、構造は簡易に組立得る様、外部下見全體建具造で欲込み、屋根は裏板張の上亞鉛引板色張りに施工した。最も建具工事は請負人の見誤りから

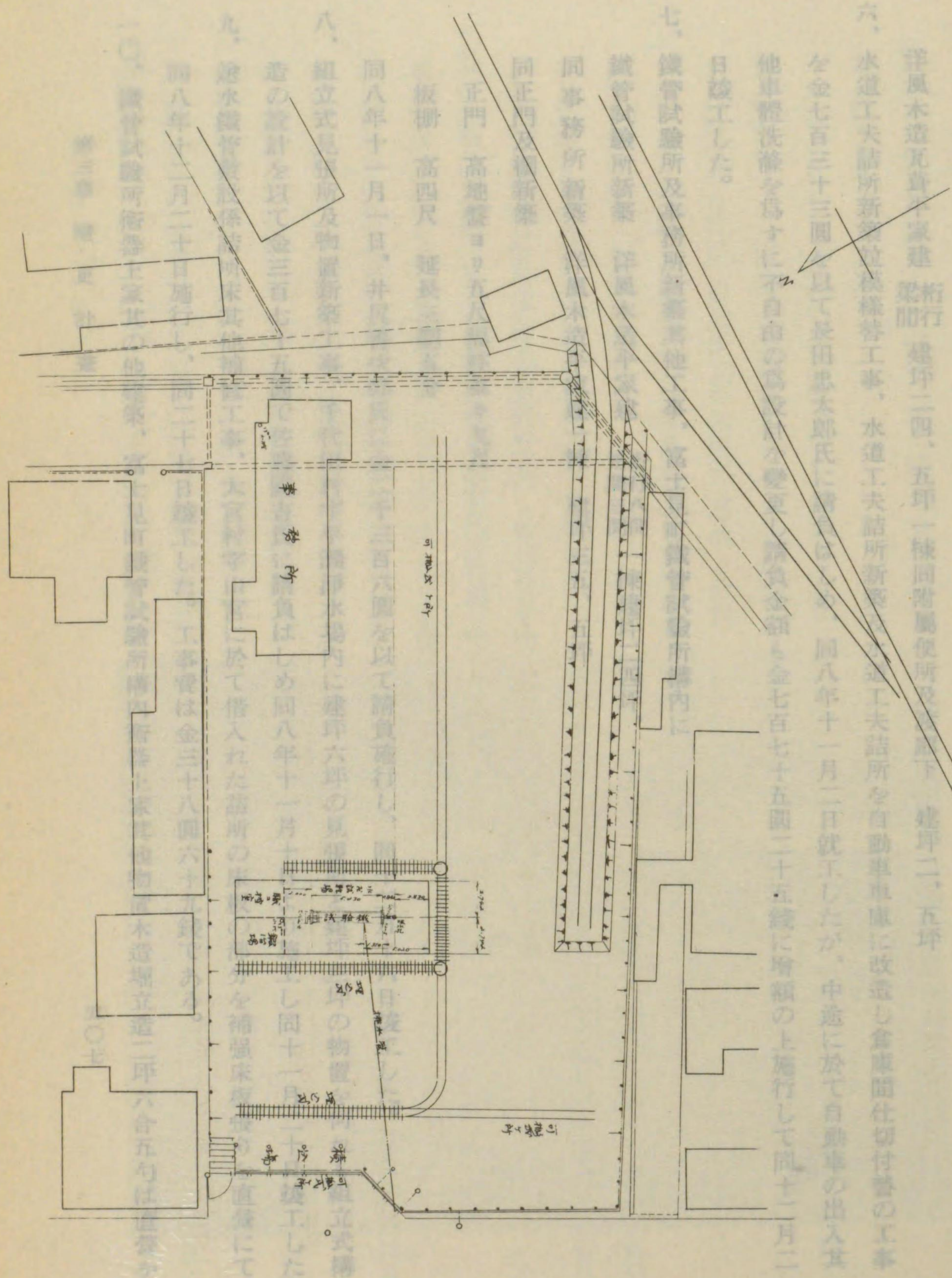


途中で設計を變更した結果、金三圓八十五錢減額となり同十月二十四日竣工した。  
 四、水源工事用人夫溜所其他工事、既設の水源事務所移轉其他を請負にて解體し、材料は補足して直營を以て左の如く同八年十二月二十六日着工し同九年三月二十日竣工した。

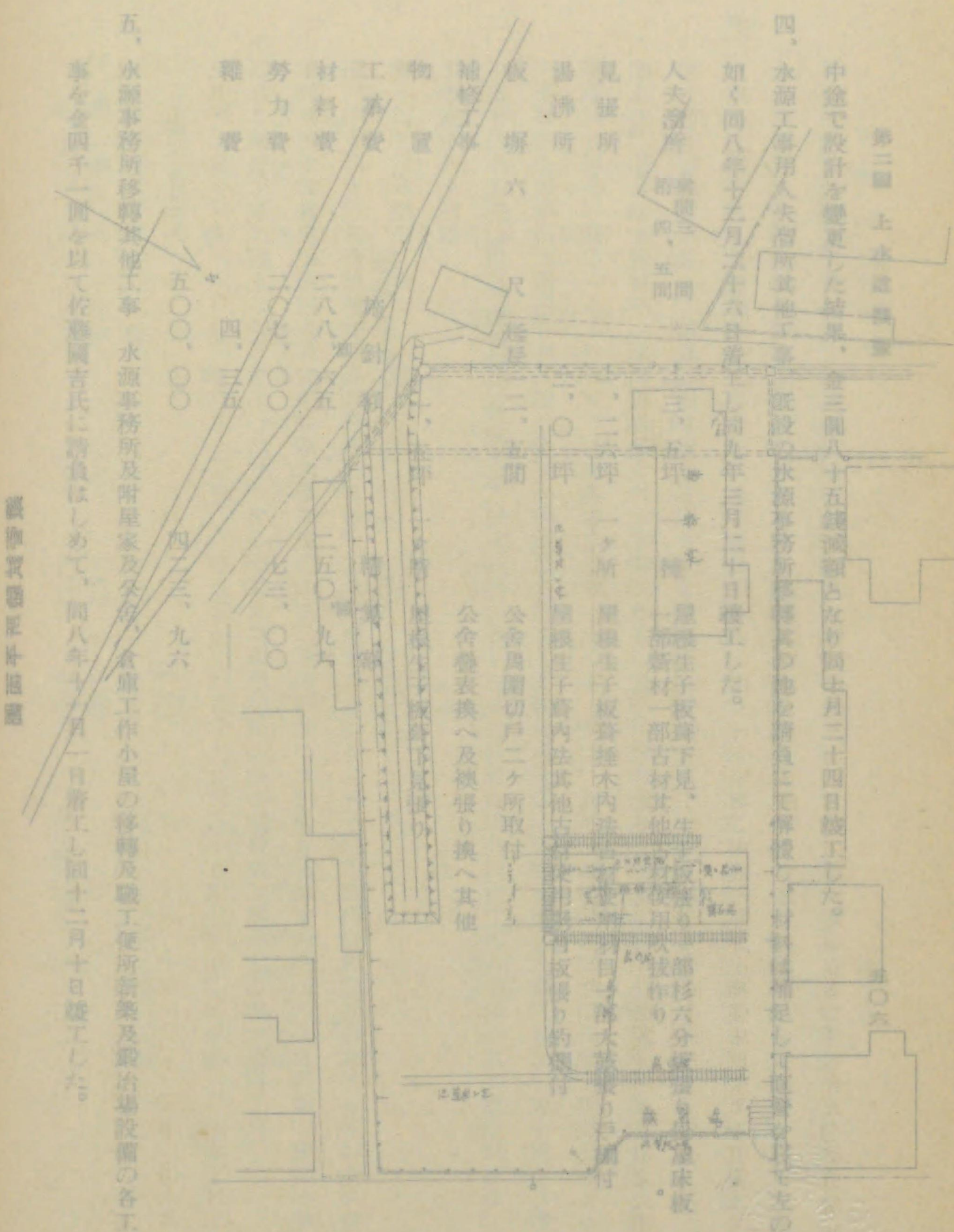
人夫溜所	梁間三、五間	一三、五坪	一棟	屋根生子板葺下見、生子板張り一部杉六分板張り母屋床板一部新材一部古材其他古材使用吹抜作り
見張所		一、二六坪	一ヶ所	屋根生子板葺垂木内法古材使用羽目一部大鼓張り戸棚付
湯沸所		二、〇坪		屋根生子葺内法其他古材使用羽目板張り釣棚付
板 堀	六 尺 延長一二、五間			公舎周圍切戸二ヶ所取付
補修工事				公舎疊表換へ及襖張り換へ其他
物 置		一、五坪	一ヶ所	屋根生子板葺下見張り
工事費	施 針 額			精 算 額
材料費	二八八、六五			二五〇、九六
勞力費	二〇七、〇〇			一七三、〇〇
雜 費	四、三五			—
	五〇〇、〇〇			四二三、九六

五、水源事務所移轉其他工事 水源事務所及附屋家及公舎、倉庫工作小屋の移轉及職工便所新築及鍛冶場設備の各工事を金四千一圓を以て佐藤國吉氏に請負はしめて、同八年十一月一日着工し同十二月十日竣工した。

鐵管試驗所平面圖







鐵管試驗所構内圖

中途で設計を變更した結果、金三圓八十五錢増額となり同十一月二十四日竣工した。

四、水源工事用入夫宿所其他工事 既設の水源事務所構内の地を請負にて修繕し、材料は補足し、同八年十二月二十六日着工し同九年三月二十日竣工した。

如く同八年十二月二十六日着工し同九年三月二十日竣工した。

見張所 二、五坪 一棟 同附屬便所及渡廊下 建坪二、五坪

湯沸所 二、五坪 一棟 同附屬便所及渡廊下 建坪二、五坪

板柵 高四尺 延長三間五分

公舎農園切戸二ヶ所取付し、公舎農表換へ及棟張り換へ其他

同八年十一月一日、井尻善次郎氏に金二千三百六圓を以て請負施行し、同十二月十六日竣工した。

八、組立式見張所及物置新築工事、千代田村字平瀬浄水場内に建坪六坪の見張所と建坪三坪の物置を何れも組立式構造の設計を以て金三百七十五圓で佐藤國吉氏に請負はしめ同八年十一月十日より施工し同十一月二十日竣工した

九、送水鐵管敷設係詰所床其他補修工事、大宮村字山宮に於て借入れた詰所の床板の部分を補強床板張りを直營にて同八年十二月二十日施行し、同二十七日竣工した。工事費は金三十八圓六十九錢である。

一〇、鐵管試驗所衡器上家其他建築、富士見町鐵管試驗所構内衡器上家其他物置木造堀立造二坪六合五勺は直營を



以て同九年一月二十六日着工にて金百四十八圓六錢を要して同二月十七日竣工した。

一一、組立式見張所新築工事、大宮村字山宮鐵管敷設係詰所前に建坪六坪の組立式木造見張所一棟は金二百二十圓を以て長田忠太郎氏に請負はしめ、同九年二月十七日着手して同三月三日竣工した。

一二、水源材料倉庫新築工事、千代田村字平瀬水源事務所構内に洋風木造平家桁行八間梁間四間建坪三十二坪一棟は直營を以て施行、同六月三十日竣工したが工事費は金千四百一十一圓二十七錢である。

一三、組立式見張所新築工事、千代田村字笠石地内に建坪三坪の組立式見張所を金百三十五圓を以つて井尻善次郎氏の請負で施行したが同九年四月四日に着工し同十日竣工した。

一四、水源公舎新築工事、千代田村字平瀬浄水場構内に、

1 甲號水源公舎洋風木造平家建坪二三、八七坪 一棟

基礎玉石入れ搗固め周圍布混凝土打ち軒高地盤より地盤まで十一尺四寸屋根日本洋瓦葺き外部腰鐵平石張及「モルタル」仕上上部「ガンタイト」塗仕上、床は疊敷き、縁甲板張り一部混凝土打ち「タイル」張人造石洗出し壁漆喰塗り砂摺仕上一部羽目板張り及「タイル」張り天井掉縁天井及打上天井等

2 乙號水源合宿所、洋風木造平家建坪三一坪 一棟

基礎玉石入れ搗固め周圍混凝土打ち、軒高地盤より軒峠迄十尺八寸、屋根日本洋瓦葺き外部南京下見張り及「ガンタイト」塗り、内部床疊敷き及縁甲板張り一部混凝土打ち「モルタル」塗り壁漆喰塗り砂壁付上一部羽目板張り天井掉縁天井等

同九年八月一日直營を以て施行し同十二月二十七日竣工したが工事費は左の如し

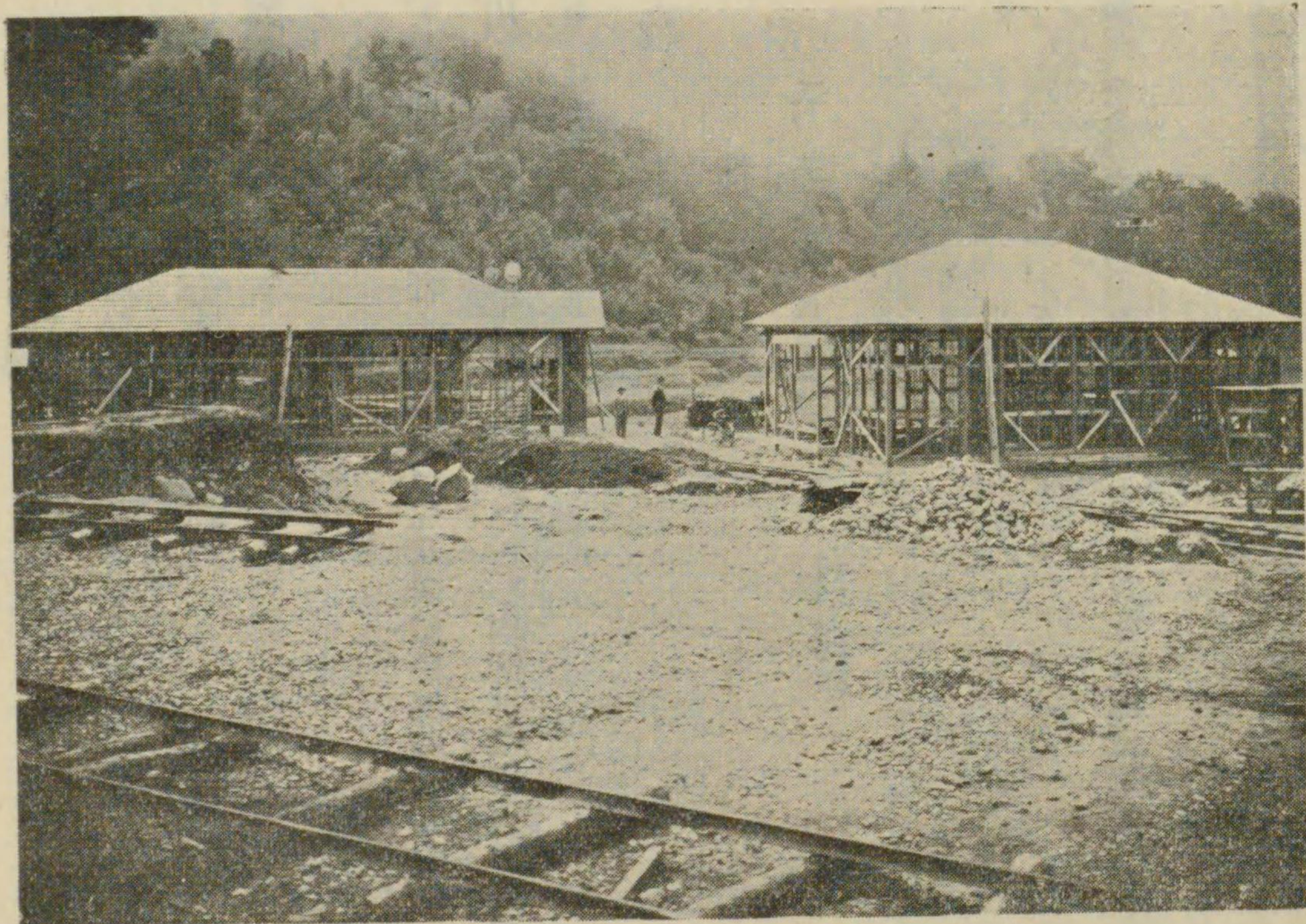
工事費	施計額	精算額
材料費	二、七四五 <small>圓</small>	二、六六八 <small>圓</small>
勞力費	九六四、九五	九六三、九三〇
雜費	二九、六八	一六、六七〇
計	三、七〇〇、〇〇	三、六四八、九五〇

一五、水源事務所新築工事、千代田村字平瀬浄水場構内に  
水源事務所を

洋風木造平家建坪三八、七五坪 一棟

基礎玉石入れ搗固め周圍布廻り混凝土打ち軒高地盤より軒峠迄で十三尺五寸屋根五寸勾配赤褐色S型瓦葺き外部腰鐵平石張り外壁「ガンタイト」塗り内部床混凝土叩きの上に板張り「リイノリウム」敷一部木造疊敷、内壁「バルボイド」仕上げ天井「タイガーボード」張り其他直營を以て同十年一月二十五日着工し同六月十五日竣工した。

工事費	施計額	精算額
材料費	三、四〇七 <small>圓</small>	三、三〇三 <small>圓</small>
	三、三〇三 <small>圓</small>	一、三三〇



水 源 公 舎



勞力費	一、一三五、五〇	一、〇一四、八六〇
雜費	一七、一四	一六、三六〇
計	四、五六〇、〇〇	四、三三四、三五〇

一六、調整室上家新築工事、千代田村字平瀬淨水場内濾過調整室上家を、

洋風鐵筋混凝土造建坪六五、九平方米

基礎既設のものに新築するものにして（一部基礎構築）軒高地盤より軒上端迄三、三八米屋根混凝土版勾配約一七度切妻造り赤褐色S型瓦葺きとし外壁ガンタイト塗及出入口扉はスチュールサツシユとし内部は壁及天井共漆喰塗りの上ペンキ塗仕上げとし腰部及土間共にタイル張りに施工

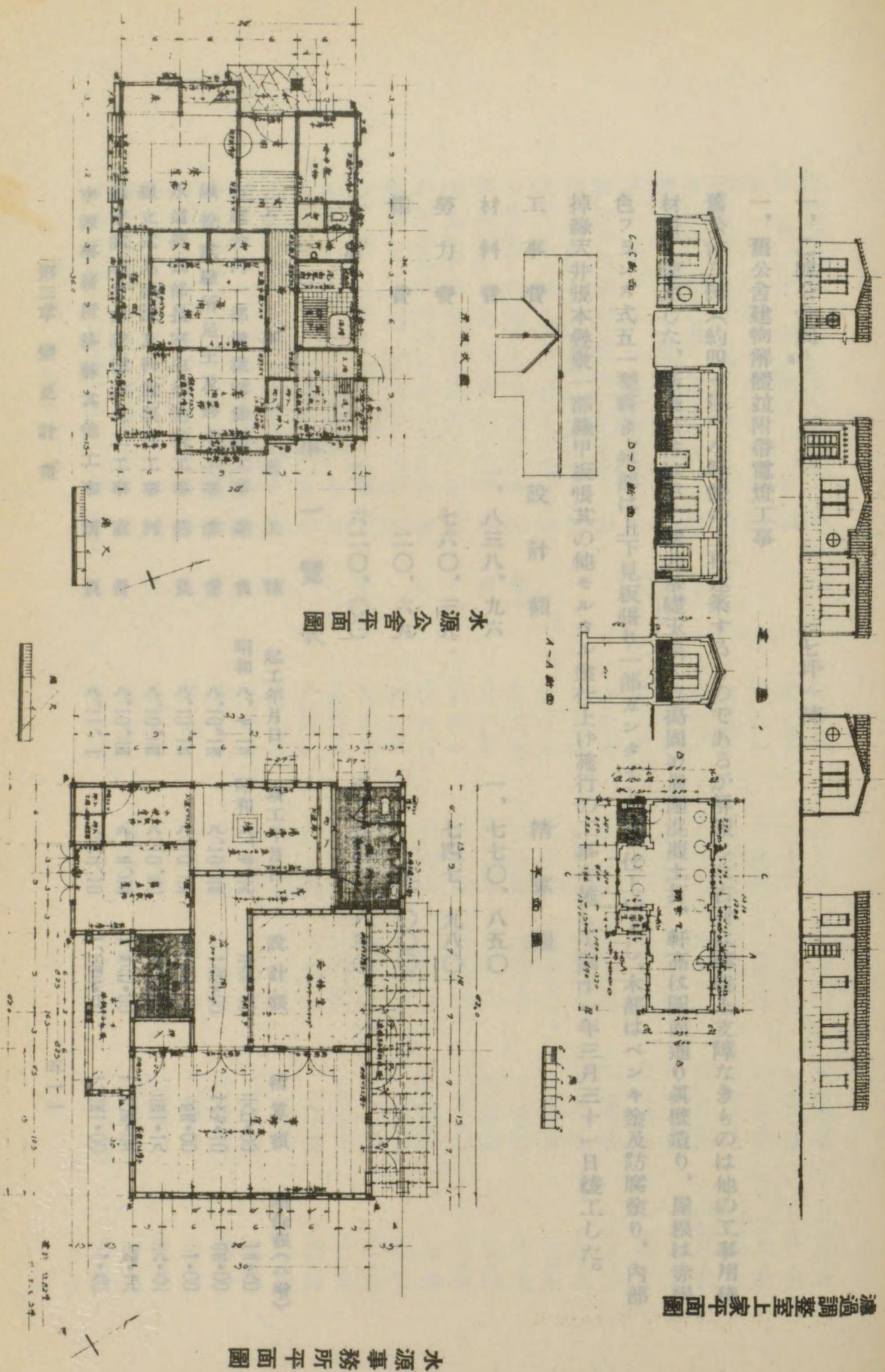
同十年七月一日着工して同十一年三月三十一日竣工した。

工事費	施計額	精算額
材料費	二、六五五、一三	二、三八八、七一〇
勞力費	七四九、七五	七〇二、六六〇
雜費	二四、一四	二〇〇
計	三、四三〇、〇〇	三、〇九一、五七〇

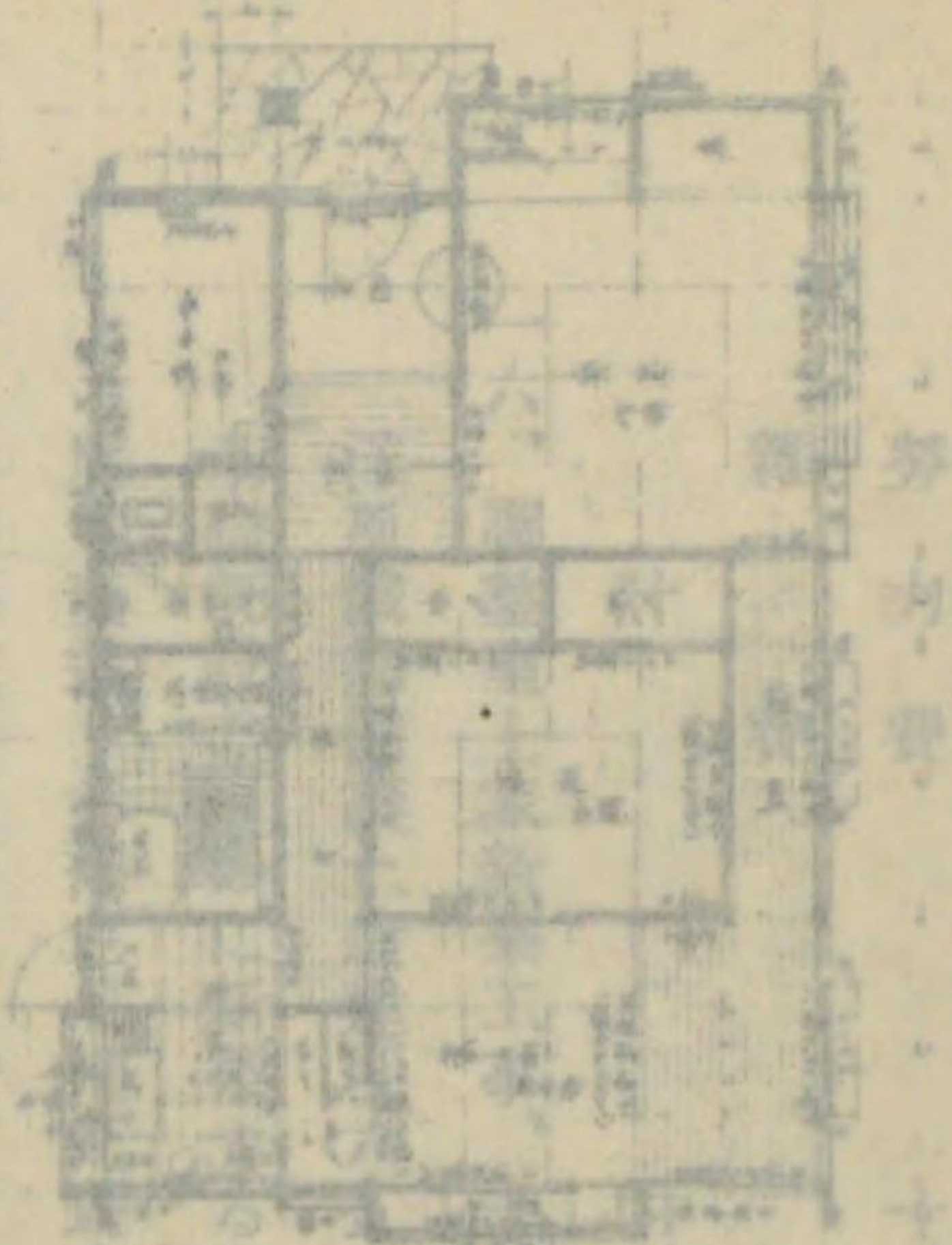
一七、愛宕給水場公舎改築並附屬工事、市内愛宕山配水場構内公舎又附屬工事を同十一年一月五日直營で着工した。

建物は

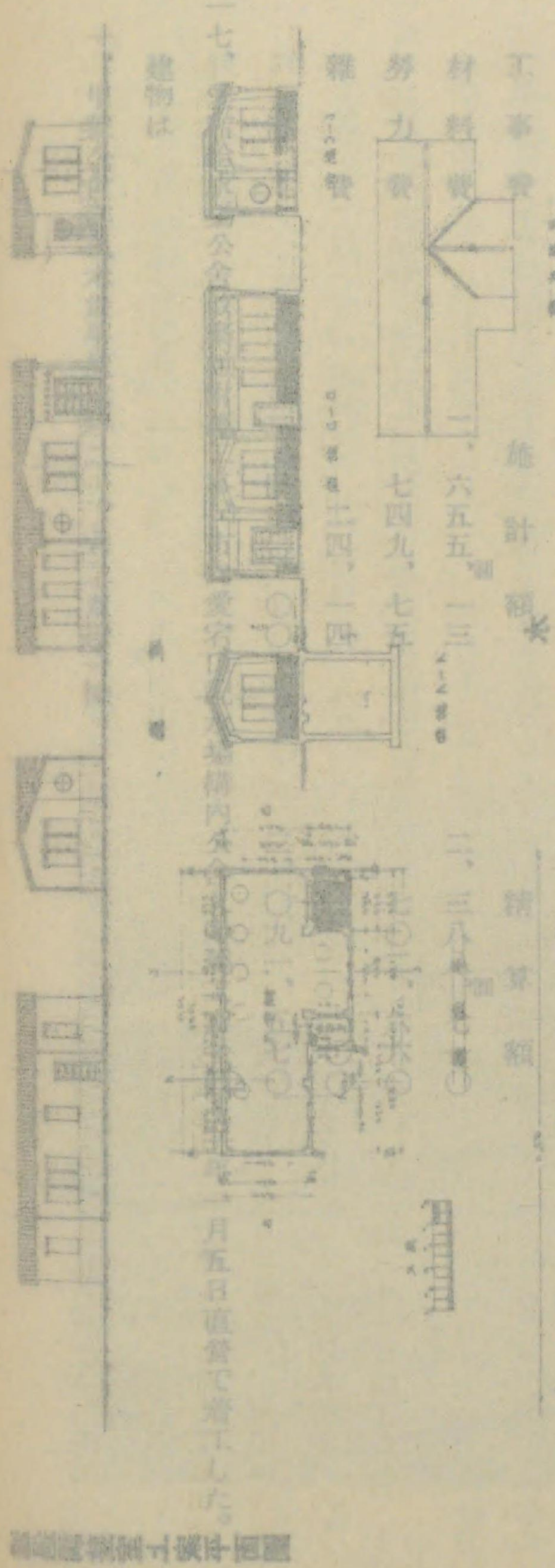
一、甲號公舎洋風木造平屋建坪二一、六二五坪一棟







同十年七月一日着工して同十一年三月三十日竣工した。



水原市役所新築平面圖

一、乙號公舎同 一七坪一棟

一、舊公舎建物解體並附帶電燈工事

舊公舎二棟(約四十坪)を解體の上再建築するものであるが解體した古材は構造上支障なきものは他の工所用殘材料に使用した、新築公舎は甲乙號共基礎玉栗入れ搗固め周圍混凝土打、軒高は圖面通り眞壁造り、屋根は赤褐色フランス式五一型葺き、外部は上下見板張り一部ガンタイト塗り仕上げとし、木部はペンキ塗及防腐塗り、内部掉縁天井張本疊敷一部縁甲板張張其他モルタル塗仕上げ施行の工事を施して同十一年三月三十一日竣工した。

工事費	設計額	精算額
材料費	一、八三八、九六	一、七七〇、八五〇
勞力費	七六〇、三五	七四七、九八〇
雜費	二〇、六九	五、〇〇〇
計	二、六二〇、〇〇	三、五二三、八三〇

工事一覽表

工名	工種	起工年月日	竣工年月日	設計額	精算額	剩餘額(△増)
市廳舎内一部模様替修繕工事	請負	昭和八、七、三	昭和八、七、九	二九三、六	二八〇、〇〇	一三・八〇
鐵管試驗所足土及排水工事	直營	八、一〇、二四	八、一〇、二四	一九〇、〇〇	一七〇、〇〇	二〇、〇〇
水道擴張部長室内部塗裝工事	請負	八、一〇、一三	八、一〇、二四	三五〇、〇〇	三四〇、〇〇	一〇、〇〇
組立式見張所及物置製作工事	同	八、一〇、二四	八、一〇、二四	二八〇、〇〇	二四二・八	三七・二
鐵管試驗所内設備並土工	直營	八、一〇、二四	九、三、二五	一、三八〇、〇〇	一、四〇五・三	七四・七
水源事務所移轉其他工事	請負	八、一、一	八、三、一〇	一、四三三・八〇	一、四〇一・〇〇	一・八〇



水道工夫新築並模様替工事	請	八、二、二	八、二、二	七三、〇〇	七五、六	△四三、六
鐵管試驗所及事務所新築工事	同	八、二、一	八、二、一	二、三〇、〇〇	二、三〇、〇〇	—
濾過池築造工事	直	八、二、六	一〇、三、三	二、八〇〇、〇〇	一、二、三四、〇六	六七五、九四
組立式見張所及物置新築工事	請	八、二、一〇	八、二、一〇	三七〇、〇〇	—	—
送水鐵管敷設工事(淨水場千代田村)	直	九、一、八	九、五、三	八、六八〇、〇〇	六、三七九、〇〇	二、〇〇〇、〇〇
鐵管試驗水壓器基礎及据付工事	同	八、二、一	八、二、三〇	一五〇、〇〇	一三、一八〇	一八、一〇
送水鐵管敷設係詰所床其他補修工事	同	八、二、二〇	八、二、二七	四六〇、〇〇	三八、六九	七、三一
鐵管試驗所鐵道專用線障害移轉工事	同	八、二、六	九、一、二五	八〇、〇〇	四三、五六	三六、四四
水源工事用人夫溜所工事	同	八、三、六	九、三、二〇	五〇〇、〇〇	四三、九六	七二、〇四
鐵管檢査工事	同	九、一、一〇	九、五、三	二、三〇〇、〇〇	二、〇二、〇六	二、五七、九四
淨水場內給水設備工事	同	九、一、二七	九、三、三	三三〇、〇〇	二六、一六	二三、八四
鐵管試驗所衡器上家其他工事	同	九、一、二六	九、二、二六	一八〇、〇〇	一四八、〇六	三九、九四
淨水場內鐵管敷設工事	同	九、三、三	九、五、三	三、六〇〇、〇〇	二、九一九、四六	六八〇、五四
組立式見張所新築工事	請	九、二、二七	九、二、二七	三三〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	五、〇〇
水源材料倉庫新築工事	直	九、四、二	九、六、三〇	一、四八〇、〇〇	一、四一、二七	六八、七三
混泥土混合機上家及軌條敷設其他工事	同	九、三、一	九、五、三	八八〇、〇〇	七八〇、五六	九九、四四
縣道付替工事	同	九、三、七	九、四、二	一、九四〇、〇〇	一、九三〇、三四	九、四六
送水鐵管敷設工事(千代田村地内)	同	九、四、一	一〇、三、三	一八、七〇〇、〇〇	一八、五三〇、八〇	一六九、二〇
同(山宮湯村地内)	同	九、三、六	一〇、六、二〇	四三、五〇〇、〇〇	四〇、四四六、五四	二、〇五二、四六
組立見張所新築工事	請	九、三、三	一〇、四、一〇	一、五〇〇、〇〇	一、二六、〇〇	九、〇〇
濾過池築造工事	直	九、五、一	一、三、三	一、六〇〇、〇〇	一、四、五四九、五三	一、七五〇、四八
鐵管檢査工事	同	九、六、一	一〇、七、二〇	二、六五〇、〇〇	三、〇六九、九六	△四一九、九六
鐵管塗裝工事	同	九、六、一	一〇、七、二〇	二、〇〇〇、〇〇	二、四四、八二	二五、一八
調整室築造工事	同	九、八、六	一、三、三	七、七〇〇、〇〇	七、三八六八	三七、一三
送水鐵管敷設工事(大宮、袋町間)	同	九、六、六	九、二、三	四二、一〇〇、〇〇	三八、九九〇、〇〇	三、一〇〇、〇〇

同(袋町元城屋町間)	同	九、七、一	九、九、三〇	二四、三〇〇、〇〇	二三、七〇二、〇一	五九七、九
水源合宿所新築工事	同	九、八、一	九、二、二七	三、七四〇、〇〇	三、六四八、九五	九一、〇五
淨水場內鐵管敷設工事	同	九、八、八	一、三、三	二、四〇〇、〇〇	二、二二、五〇	二二七、〇〇
水源材料倉庫移轉工事	同	九、九、一〇	九、二、二四	二八〇、〇〇	一七五、八八	一〇四、一一
鐵管敷設工事(元城屋町地内)	同	九、九、一六	九、一〇、二六	五、〇〇〇、〇〇	四、七一九、九〇	二八〇、一〇
送水鐵管敷設及第三隧道擴張工事	同	九、一、一	一〇、一、一六	三、七〇〇、〇〇	二、六九五、〇二	一、〇〇四、九八
淨水場內鐵管敷設工事	同	九、一〇、一六	一、三、三	六、六五〇、〇〇	六、一三〇、八	五、一九、一九
荒川流量測定假設工事	同	九、一〇、二〇	九、一、一六	一五、七五〇、〇〇	一五、〇八五、三四	八、〇二
送水鐵管敷設工事(千代田、大宮間)	同	九、一、一	九、一、一八	一五、七五〇、〇〇	一五、〇八五、三四	六、四四、七六
接合井築造工事	同	九、一、一六	一〇、三、三	一、二五〇、〇〇	九八八、〇六	二六一、九四
工用材料運搬道路改修工事	同	九、二、七	一〇、六、三	一、九八〇、〇〇	一、八七五、六	一〇四、七八
水源事務所新築工事	同	九、二、二五	一〇、一、三〇	四、五七〇、〇〇	四、三三四、五五	三、五、六五
送水鐵管敷設工事(大宮村地内)	同	九、三、五	一〇、六、一五	二五、一〇〇、〇〇	二一、四七二、八	三、六二、一九
水源事務所電燈設備工事	請	九、四、四	一〇、七、五	一〇、〇〇	九四、五〇	一五、五〇
鐵管運搬配列工事	同	九、四、二	一〇、五、一	一〇〇、〇〇	六三、四五	三六、五五
鐵管運搬配列工事	同	九、四、一	一、三、三	五、三〇〇、〇〇	四、五七、一〇	七八二、八〇
導水渠築造工事	直	九、四、一	一、三、三	七、七五〇、〇〇	七、三三四、五六	四三、五、四二
導水鐵管敷設工事	同	九、四、一	一、三、三	七、七五〇、〇〇	七、三三四、五六	三九、二七
混泥土混和機移轉工事	同	九、四、六	一〇、四、一〇	一〇、七三	一〇一、四八	三、五二
濾過床洗砂假設工事	同	九、五、五	一〇、六、一五	一〇、〇〇	一〇一、四八	二〇九、五一
濾過床洗砂敷均工事	同	九、七、一	一、一、一五	四、五〇〇、〇〇	四、二九〇、四九	三、八八、四四
調整室上新築工事	同	九、七、一	一、一、一五	三、四八〇、〇〇	三、〇九一、七七	二四六、六六
送水鐵管敷設工事(元城屋配水池間)	同	九、六、三	一、三、三	一三、九八〇、〇〇	一三、七三三、四	七八六、三四
分水築池造工事	同	九、七、一	一、三、三	三、三八〇、〇〇	一、五九三、六六	七、八六、三四
調整室電燈設備工事	同	九、七、二	一、三、三	一〇五、〇〇	七、七	二七、四三
鐵管試驗所內整地並土工工事	同	九、八、一	一〇、一、一〇	五七六、〇〇	二四七、五四	二、〇〇、四六



第二編 上水道擴張

五一四

砂揚場砂洗場其他築造工事	直營	10,910	11,331	4,175.00	3,960.10	2,240.80
送水線路修復工事	同	10,810	10,817	596.00	567.59	28,401
混凝工橋架橋及附帶工事	同	10,101.6	10,111.9	730.00	643.39	86,611
災害復舊工事	同	10,101.4	10,111.0	565.00	509.99	55,011
淨水場内整備工事	同	10,111.2	11,331	3,300.00	2,891.38	410,611
量水器及送水鐵管敷設工事	同	10,111.1	11,111.5	1,110.00	1,111.8	1,111
測量其他工事	同	10,111.0	11,331	1,300.00	656.45	643,55
道路復舊其他工事	同	10,111.0	11,111.0	560.00	444.48	114,511
配水場内公舎改築附帶工事	同	11,115	11,331	2,200.00	2,533.83	97,117
淨水場内雜工事	同	10,111.0	11,331	5,360.00	5,140.25	219,015
既設制水弁移轉並排氣弁新設工事	同	11,110	11,331	408.00	335.28	72,711
水源公舎湯殿物置改築工事	同	11,333	11,331	140.00	128.56	11,444
送水鐵管破損修理工事	同	11,339	11,110	180.00	180.97	—
淨水場内電燈電話設備工事	同	11,336	11,331	620.00	589.08	100,211

第六節 通水及竣工式

通水試験

送水鐵管敷設は昭和九年一月十八日西山梨郡千代田村字平瀬地内淨水場濾過調整室出口より起工して以來、工事は順調に進捗を告げて同十年八月には愛宕山配水場流入井まで、八千三十五米を新送水鐵管の敷設を完了し通水連絡を見るに至つた。よつて同月十五日愛宕山配水場構内に於て、齋木市會議長以下各市會議員、前市會議員、水道擴張委員其他の來賓を迎へて通水式及通水試験を執行した。然して之より先新海市長以下水道擴張部職員の案内により、午前九時より工事進捗状況の視察を爲し午前十時より構内式場に到り、左の如き順序に従つて祭事を舉行し、終つて通

水試験に移つたが、新五百耗送水管の極めて良好なる送水成績を納めて同午後一時恙なく終了した。

修祓式順序

- 一、諸員着席 一、修祓 一、降神行事(一同敬禮) 一、神饌ヲ供ス 一、祝詞ヲ奏ス(一同敬禮) 一、玉串奉奠
- (市長、市會議長、水道擴張委員總代、工務課長) 一、神饌ヲ撤ス 一、昇神行事 一、通水試験

竣工式

市民多年の宿志であつた上水道擴張工事は、去る昭和八年十月八日の起工式以來計畫所定の各施設の進工を圖つた所、其の間施工上必要なる手續を繰り、或は用地一時使用交渉等に關して多少の曲折を生じたが、孰れも圓滿なる解決を告げて、關係各方面の絶大なる援護を始め、各理事者の熱誠なる努力により、實施期間三ヶ年の繼續事業なりしが年を閱する滿二ヶ年有半豫期以上の工程を経て同十一年三月優秀なる成績を收めて竣工するを得た。思へば大正十年七月早くも擴張實施を痛感して調査に手を染めてより、苦節十有餘年未曾有の懸案たる上水道は漸く大成するに至つたのである。茲に意義深くして前途愈々多幸なる本事業を祝福すべき竣工式は、同年六月七日綠深き太田町遊龜公園内廣場に於て、縣内外官民有志千二百餘名の來賓を迎へて壯嚴の裡にも盛大に舉行した。

舉式に關しては其の具體的方法を種々調査講究した上、市會及臨時水道擴張委員會に夫々諮つて之を決定し、豫算及其の方針に基き準備は左の如き係員及事務分擔を定めて萬遺憾なきを期したが、之の榮ある竣工式に招待せるものは左の如し

内務省、大藏省、農林省各關係官、縣知事以下關係官及前任者、貴族院議員、本縣選出衆議院議員、縣會議員、市内官公衛長、主任、官公立専門中等學校長、市内各小學校長、關東市長會員、市會議員、前市會議員、有功者及優



遇者、町總代、衛生組合長、方面委員、公用栓總代、前市長以下理事者

上水道擴張工事竣工式事務分擔

(一) 總務部

竣工式ニ關スル事務一切ノ統括

一 庶務並受付係

イ 舉式ニ關スル準備事項

- 1 招待者名簿調製ノ件
  - 2 臨場申請ニ關スル件
  - 3 案内狀徽章調製及案内狀發送ノ件
  - 4 舉式ノ方法 舉式計畫及豫算ニ關スル件
  - 5 舉式ニ要スル物件ノ數量形質等調査ノ件
  - 6 事業報告ニ關スル件
  - 7 來賓並ニ之カ祝辭受付ノ件
  - 8 記念品引換ニ關スル件
  - 9 其他各係ニ屬セザル事務
- 二 設備係
- イ 式場及宴會場ノ設備ニ關スル件
  - ロ 模擬店、餘興所、休憩所、受付所ノ設備ニ關スル件
  - ハ 裝飾及設備ニ附帶スル事項等

三、式場係

- イ 式場内ノ設備ニ關スル一切ノ事項
  - ロ 神官ニ交渉ノ件
  - ハ 式辭及告辭、祝辭ノ手配ノ件
  - ニ 舉式ノ順序、式ノ進行方法等ニ關スル件
- 四 接待係
- イ 來賓ノ幹旋、及招待者ノ案内、場内説明其他接待ニ關スル一切ノ事項
- 五 宴會係及餘興係
- イ 模擬店、特別宴會ノ準備等ニ關スル件
  - ロ 花火ノ打上、餘興場等ニ關スル一切ノ件
- 六 會計係
- イ 印刷物、案内狀、パンフレット、繪葉會其他必要ナル印刷物ニ關スル件
  - ロ 記念品、徽章調製ニ關スル件
  - ハ 宴會、模擬店、休憩所ノ食品及菓子購入ノ件
  - ニ 自動車ニ關スル件
  - ホ 式ニ必要ナル調度品ノ一切ヲ購入シ各主任ニ配布シ其他臨時物品ノ購入ニ對スル現金ノ拂渡等式關係ノ經理ニ從事スルモノトス

一、總務部

總務部長 澁谷收入役

第三章 變更計畫



同副部長 武井主事  
相談役(擴張委員全員)

百瀬 幾彌 上野 庚午郎 三井 知造 古屋 重雄 角田 義孝 秋山 清

中西 松 寺田 七男 秋山 幸右衛門 名取 忠愛 細田 武雄 矢島 榮助

總務部員

名取(啓)主事 名取(晴)主事 齋藤 主事 横森 主事 向井 視學 市江 技師

飯高 技師 木島 技師 根津 技師 松本 技師 落合 書記 草壁 診療醫

氏原 醫師

上水道擴張工事竣工式並祝賀會費

一、會場 遊龜公園

一、期 日 昭和十一年六月七日

一、招待者 壹千百名

一、竣工式並祝賀會費總額 金壹萬八千參百圓也

内 譯

一金百五拾圓也

一金四拾圓也

一金壹千四拾圓也

一金百貳拾圓也

式場、宴會場、設備費

祭事費

菓子其他(一圓)赤飯(拾五錢)盃(參錢)風呂敷(七錢)

計壹圓貳拾錢ヅ、八百人分

備人招待者料理其他百貳拾人分一人壹圓ヅ、

一金四 百 圓也

一金百百八拾圓也

一金四百五拾圓也

一金百五拾圓也

一金四百五拾五圓也

一金壹千七百圓也

一金百四拾五圓也

計金四千八百參拾圓也

模擬店費一人金五拾錢ヅ、八百人分オデン(五錢)ダンゴ(五錢)スシ(拾錢)水菓子(拾錢)

ビール、サイダー、日本酒ニテ(貳拾錢)計五拾錢

模擬店設備並同上餘興場設備費

模擬店餘興並藝妓雇上料

煙火打揚代

特別招待者宴會費 百參拾人分 一人金參圓五拾錢

記念品代一人金貳圓ヅ、八百五拾人分

雜費 招待狀、辨當、引換券、自動車代其他雜費

式場たる市内太田町遊龜公園入口には竣工の喜びを彩つた祝賀門を建て、廣場北端に南面して幄舎を設け、其の前方左右には來賓を迎へるに大天幕二張を以て蔽とし、更に式場たる周圍には紅白の幔幕を張り廻らして、園内綠樹と相交錯し今日の榮ある情景を横溢せしめ斯て舉式一切の準備完く調つたのである。當日は前夜來の梅雨も霽れて快晴絶好の式日和に、午前九時より千餘名を超える縣内外の來賓を迎へ、定刻午前十時より舉式に入り、乙黒武田神社社司司祭の下に、左の如き祭事を滞りなくとり行ひ、亞いで式典に移り澁谷收入役の開會の挨拶に始つて齋木市長の式辭、木島工務課長の工事報告、工事關係者に感謝狀を贈呈して後、土屋縣知事の告辭、名取貴族院議員以下の來賓祝辭及祝電の披露あり壯嚴の裡に終了式を閉ぢ、園内中の島に假設したる園遊會場に於て、立飲の野宴を催し盛會裡に夕景散會した。尙來賓には上水道擴張抄誌、記念繪葉書及菓子、記念品として本縣特産水晶風鎮を夫々贈呈した。式辭、告辭、祝辭又感謝狀贈呈者は左の如くである。



竣工式順序

- 一 參列員 著席 振 鈴
  - 一 齋主以下祭員著床
  - 一 修 祓
  - 一 降 神 警蹕、奏樂、一同起立磬折
  - 一 獻 饌 奏 樂
  - 一 齋主祝詞奏上 一同起立磬折
  - 一 玉串奉奠
  - 一 撤 饌 奏 樂
  - 一 昇 神 警蹕、奏樂、一同起立磬折
  - 一 齋主以下祭員退下
- 次ニ
- 一 開式ノ辭 收入役 澁谷 俊
  - 一 式 辭 市長 齋木逸造
  - 一 工事報告 水道技師 木島 繁
  - 一 感謝狀贈呈
  - 一 大臣告辭

- 一 知事告辭
- 一 來賓祝辭
- 一 閉式挨拶

以上 式 辭

市長 齋木逸造

本市多年ノ宿望タル上水道擴張工事茲ニ竣成ヲ告ゲ本日ヲトシ竣工ノ式典ヲ舉行スルニ方リ閣下竝ニ諸賢ノ御臨席ヲ辱フシタルハ本市ノ最モ光榮ニシテ洵ニ欣快ニ堪ヘザル所ナリ

本市ハ夙ニ上水道ヲ施設經營シテ以來人口頓ニ増加シ十年ヲ出デズシテ其ノ擴張ノ必要ヲ感じ去ル大正十一年ヨリ屢々之ガ調査ヲ重ネ企畫セル所アリシモ時機未ダ熟セズ十有餘年ノ歲月ヲ經過セリ然ルニ駭々タル本市ノ進運ハ商工業ノ發展ト人口ノ増加著シク一層給水ノ不足ヲ痛感シ一時補給ノ施設ヲ講シタリシモ素ヨリ永久ノ策ニ非ラザリシ

昭和五年五月漸ク之ガ成案ヲ得タリ恰モ好シ縣當局ハ一ハ本市上水道ノ水源ニ立テ他ハ以テ荒川下流沿岸各村ノ灌溉用水ニ供用スル目的ヲ以テ荒川沿岸用水幹線改良事業溜池設置計畫ヲ樹テラレタルニ依リ昭和八年八月工法ヲ變更シ之ト併行シテ本市上水道擴張工事ヲ施工スベク各其ノ手續ヲ了ヘ着手セリ偶々軍需工業ヲ始メ一般財界好轉ノ兆アリ物價勞銀共ニ昇騰ノ氣配裡ニアリシモ工事材料ノ購入其ノ他極メテ適順ニ進捗シ爾來三ヶ年有餘ヲ閱シテ之レガ大成ヲ遂ゲ本日竣工ノ式典ヲ舉行スルニ當リ不肖其局ニ膺レルハ寔ニ欣喜ニ堪エズ

而シテ今日ノ成果ヲ收ムルニ至リシ所以ハ之レ偏ニ懇切ナル監督官廳ノ指導ト議決機關ノ協力及ビ市民援助ノ賜ニシテ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表スル所ナリ

惟フニ本市ノ上水道ハ今次ノ擴張施設ヲ併セテ規模増大シ面目亦茲ニ一新シ市民ノ福祉益々多カルベキヲ稽ヘ之ガ經營ニ關シテ



ハ更ニ一段ノ慎重ヲ加ヘ市民ノ協力一致ヲ以テ本市永遠ノ進展ニ貢獻セラレシコトヲ一言述ベテ式辭トス  
昭和十一年六月七日

甲府市長 齋 木 逸 造

工 事 報 告

本市ノ上水道擴張工事ハ起工以來豫期ノ工程ヲ收メ本日ヲ以テ竣工式ヲ舉行スルニ膺リ、經過ノ概要ヲ報告スルヲ得タルハ本職ノ光榮トスル所ナリ

本工事ノ調査ハ既ニ大正十一年其ノ端ヲ發シテ、實施設計ハ昭和五年五月荒川上流ナル中巨摩郡宮本村字上黒平扇谿地點ニ重力式堰堤ヲ設ケ、此處ニ餘水ヲ貯蓄シ水源ト定メ、將來人口十五萬人ニ對スル最大水量一人一日六立方尺ヲ供給スル爲ニ每秒一一、〇五立方尺ヲ現取入口ニ於テ增加取入スル基本ノ下ニ水源貯水池並取入口以下ノ各設備ヲ擴張スル計畫ヲ樹テ先ヅ第一期事業ニ基ク設計ニ從ヒ市會ノ議決ヲ經其ノ手續ニ及ベリ

而シテ昭和七年十二月水利權問題ノ關係上縣當局ノ調停ニ依リ水源地工事ニ關シテハ縣營荒川沿岸用水幹線改良事業ニ委ネ本市ハ取入口以下ノ設備擴張ニ變更ノ上昭和八年六月工事施行認可ヲ同年九月起債許可ノ各指令ニ接シタルヲ以テ同年十月起工式ト共ニ着工セリ工事ハ金七十萬圓ヲ三ヶ年ノ繼續事業トシテ施行シ以來擴張諸工事ハ順調ニ進捗シ其ノ大成ヲ得タリ今主ナル工事ノ概況ヲ擧グレバ

- 一、水源工事 取入口ハ舊設備ノ儘ニシテ水位計並同上家ヲ新設シ分水池ノ増築ヲ爲シタリ導水線路ノ舊施設ハ全線ニ亘リ内徑十四吋ナリシ處、内徑四百五十耗鐵管三百三十米ヲ増設シ中間隧道内ハ暗渠ニ改メ以下淨水場内(八十七米)ハ開渠ニ改造シ暗渠内流出口ニハ量水堰ヲ設ケ昭和十一年三月三十一日導水線路ノ各種工事ノ完成ヲ見タリ
- 二、淨水場内工事 舊濾過池四面ニ對シ濾過速度一晝夜十尺ヲ十二尺五寸ニ改メ更ニ濾過池一面ヲ擴張セリ、濾過池ノ引出管ハ

濾過調整室ニ集メ浮動式濾過調整機ニ依リ自働調整ヲ爲サシムル設備ヲ爲シタリ、場内鐵管ハ沈渣池及濾過池引入、引出管ノ新設及敷設替ヘヲ爲シ砂洗場、砂置場等ノ増設、淨水場内ノ擴張、場内ノ整備等總テ昭和十一年三月三十一日ヲ以テ竣工セリ

三、送水鐵管敷設工事 送水管ハ濾過調整室ヨリ取出シ量水器ヲ經テ市内愛宕山配水池ニ至ルモノニシテ延長八千三百餘内徑五百耗高級鑄鐵管を、高壓、普通壓、低壓ニ區類シ、既設内徑十四吋鐵管ニ併行敷設ヲ爲シ、線路中隧道内ノ擴張、橋梁架替ヘ、河底伏越防護、排氣弁、泥吐設備等附帶施行シ昭和十年十一月竣工セリ

四、建築工事 建築工事ノ主ナルモノハ淨水場内ニ濾過調整室、水源事務所ノ各一棟及倉庫、合宿所二棟、配水場内ノ公舎ヲ改築シ、又鐵管試驗所、工事監督詰所、見張所等ハ工事ノ進行ニ伴ヒ夫々建築セリ

如上本工事ハ多額ノ工費ト數多ノ勞力ヲ要スル大事業ニシテ、之ガ施行ニ臨ミテハ斯界ノ秦斗西大條覺氏ヲ工事顧問ニ推戴シテ周到ナル用意ト綿密ナル施設ノ下ニ、各年度ノ區分ハ能ク其ノ時期ヲ選ビ悉ク直營ヲ以テ施行シ、之ニ使役シタル人夫其他努メテ地方ヨリ採用シ、其ノ延人員六萬八千九百餘人ニ達セリ

時恰モ材料諸物件ハ昂騰セントスル中ニ、良質適正ナル材料ヲ低廉ナル價格ヲ以テ購入スルト共ニ、起債ニ俟ツ資金ノ調達ニ關シテハ悉ク低利資金ノ供給ヲ受ケ經費ノ節約ト能率ノ増進ニ務メタル結果、計畫豫算内ニ於テ竣成ヲ見ルニ至レリ

惟フニ本事業ハ起工以來克ク豫期以上ノ工程ヲ收メ得タルハ偏ニ關係各位ノ絶大ナル御援助ト從業者諸氏ノ罷勉精勵ニ因ルモノニシテ、深甚ナル謝意ヲ表スル所ナリ、茲ニ謹シテ概況ヲ報告ス

昭和十一年六月七日

工務課長 木 島 繁

告 辭

本日茲ニ甲府市上水道擴張工事竣成ノ式典ヲ舉行セラル、ニ當リ蕪辭ヲ呈スルノ機會ヲ得タルハ欣快トスル所ナリ  
夫レ水ハ吾人生活ノ必需品ニシテ之ガ良否ハ保健衛生ニ至大ノ關係ヲ有シ上水道ノ完備ハ疫癘ヲ未然ニ防遏シ社會生活ヲ淨化シ

第三章 變 更 計 畫



保健ノ實ヲ舉グルノミナラズ尙延イテハ祝融ノ慘禍ヨリ脱出セシムル等住民ノ繁榮福利増進ニ影響スル計甚大ナリ  
當市ハ輒近觀光都市トシテ躍進ノ途上ニ在リ遂年人口増加ハ水量ノ不足ヲ來シ斷水ノ憂ヘサヘ時ニ傳ラヘレタルモ當局夙ニ其ノ  
擴張ニ意ヲ致シ起工以來工程順調ニ進捗シ今ヤ落成ヲ告ゲ以テ將來ノ擴張ニ備ヘテ大都市出現ノ用意ヲ整ヘ市民ノ繁榮ニ貢獻セ  
ムトス誠ニ慶賀ニ堪エズ冀クハ管理維持ニ萬全ヲ盡シ長ヘニ其ノ效果ヲ發揚セラレムコトヲ一言以テ告辭トス

昭和十一年六月七日

山梨縣知事 土 屋 正 三

祝 辭

本市水道擴張工事成ルヲ告ゲ本日ノ吉辰ヲ以テ之ガ竣工式ヲ舉グルニ當リ參列ノ光榮ヲ得タルハ予ノ最モ欣幸トスル所ナリ  
抑現在ノ水道ハ故加藤市長在職中明治四十二年八月起工同四十五年三月竣工ノ計畫ニシテ其ノ設計ハ同七十五年ニ至リ人口十萬  
人ト推定シ之レヲ限度トシタリ

而シテ本邦各市水道給水量ヲ參酌シ一人一日ノ使用量三立方尺五、取水量毎秒四立方尺三五トセリ大正元年十月通水ヲ開始シ次  
テ全市ニ通水スルヤ多少ノ濫費アリトハ云ヘ數年ニシテ屢々斷水ノ不便ヲ見ルニ至リ始メテ當初設計ノ寡少ナリシヲ痛感ス之レ  
獨本市ノミニ非ズ是ヲ以テ全國各市ハ已ニ擴張工事ヲ成シ取水量及給水量ヲ増加シ其ノ用ニ充ツ本市モ又之ガ擴張ノ必要ナルヲ  
認ムレドモ水利權ニ惱マサレ事容易ナラズ歷代ノ當局大ニ苦慮シ遂ニ千代田山ニ天水ヲ利用スル大貯水池ノ計畫ヲ立テ二ヶ年ニ  
互リ之ガ實測設計ヲ爲サシム然リト雖豫算ノ多大ナルニ歴シ實利ノ小ナルガ爲ニ遂ニ成ラズ一面都市計畫法指定セラレ愈々其必  
要ニ迫ル

成島氏市長ニ就任スルヤ之ガ貫徹ニ銳意苦心セラレ先ツ灌溉ニ支障ナキヲ圖リ荒川上流扇谿ノ地ヲ相シ大堰堤ヲ築キ人口十五萬  
人ヲ限度トシ一人一日ノ給水量ヲ四立方尺二五毎秒取水第一二期工事は於テ七立方尺四第二期工事は於テ十一立方尺〇五トスル  
ノ計ヲ爲シ市會ノ協賛ヲ經タルモ沿岸村ノ反對抗議アリ主務省モ亦遂巡裁斷セズ未ダ事成ラザルニ病ノ爲ニ中途退職セラレ新海

氏任ヲ受ケ遂ニ縣佐藤内務部長ノ調停的斡旋ニヨリ大堤堰築造ニ代フルニ千代田村丸山外二ヶ所ニ大貯水池ヲ設ケテ灌溉ノ用ニ  
充テ水田ノ旱害脅威ヲ除キ其ノ他豫定ノ設計ニ依ル事トシ關係村ノ同意ヲ得テ茲ニ荒川取水量毎秒十一立方尺〇五ノ水利權ヲ確  
保スルコトヲ得タリ

是ニ於テ昭和八年十月工事は着手シ幸ニ支障ナク縣營ノ灌溉用貯水池工事を除クノ外全ク竣工ヲ見ルニ至ル  
今ヤ本市多年ノ宿望ヲ達シ將來斷水ノ虞ナキ給水ノ便ヲ得タルノミナラズ衛生防火等ノ施設遺憾ナキコトヲ得、本市ノ發展期シ  
テ待ツベク眞ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ自今市民モ亦一層自制力メテ濫費ヲ戒メ歷代當局ノ努力及市會協賛ノ誠意ニ對シ大ニ感謝セ  
ズンバアルベカラズ不肖此盛式ニ列シ欣喜措ク能ハズ聊カ所感ノ一端ヲ述ベテ祝辭トス

昭和十一年六月七日

貴族院議員 名 取 忠 愛

祝 辭

茲ニ甲府市上水道擴張工成リ本日之ガ竣工式ヲ舉行セララルニ際シ不肖此ノ盛典ニ列スルヲ得タルハ洵ニ光榮トスル所ナリ  
抑モ飲用水ハ公衆保健上至大ノ關係ヲ有シ延テ上水道施設ノ完否ハ都市發展ノ死命ヲ制スト謂フモ敢テ過言ニ非ザルヲ信ズ然ル  
ニ本市ノ發榮ニ伴ヒ十數年來夏季數度ノ斷水ヲ繰返スノ狀態ニ在リ市民ノ生活ヲ脅威スルモノ甚シキヲ以テ之ガ擴張ノ急ニ迫ラ  
レタルモ幾多ノ障礙ニ依リ久シク其ノ實現ヲ見ル能ハズ本事業計畫ハ市多年ノ懸案トシテ歷代當局ニ與ヘラレタル一課題ナリシ  
處其障礙モ不斷ノ努力ニ依リ次ヲ逐ツテ解決ノ緒ニ就キ昭和八年ニ至リ市會ノ議決スル所トナリ爾來極力其ノ工ヲ急ギ今回豫定  
ノ如ク竣成ヲ見ルニ至リタルハ眞ニ慶祝ノ至リニ堪ヘザルモノアリ今ヤ市内ハ主要街路ノ鋪裝成リ富士山麓甲府間ハ國道八號線  
ノ改築ニ依リ連絡セラレ亞近ク府縣道下部本柄線、大月勝沼線等ノ改築工事成ラントス甲府市ヲ中心トスル主要幹線路網全ク  
備ハリ目下隣接町村合併ノ議モアリテ觀光都市トシテ將亦産業都市トシテ躍進途上ニ在ル市將來ノ偉容正ニ之ヲ目前ニ見ルガ如  
キ感アリ



本日ノ祝典ニ臨ミ聊カ蕪辭ヲ述ベテ祝辭トス

昭和十一年六月七日

山梨縣會議長

天

野

義

近

祝

辭

本市多年ノ懸案タル、上水道擴張ノ事業、茲ニ竣成ヲ告ゲ、本日ヲトシテ、竣工ノ式典ヲ舉行セラレ、八萬市民ト共ニ、歡喜感  
激ニ堪エザル所ナリ。惟フニ、上水道ハ近代都市發展ノ要素ニシテ、本市ハ夙ニ之レガ經營ニ衡リ、衛生ニ、防火ニ、將亦、産  
業ノ進展ニ、至大ナル效果ヲ發揚シテ、早クモ施設ノ擴張ヲ痛感シ、市民ノ翹望、當局ノ調査既ニ年アリト雖モ、昭和五年五月  
具體的調査ヲ遂ゲ、一路擴張ニ向ハントセシガ、偶々縣ニ於テ荒川沿岸ニ於ケル、各種用水、改良事業ノ下ニ實施計畫ヲ樹立ト  
共ニ市直接ノ事業トシテ昭和八年四月市會又之ニ贊同シテ之ヲ斷行スルノ運ト爲リ事業ハ起工以來極メテ好順ニ進歩シ豫期以上  
ノ成績ヲ收メテ大成ヲ見タルハ慶賀ノ至リ堪エザル所ナリ

是レ偏ヘニ關係當局ノ懇切ナル指導監督ト市當局ノ熱誠ナル盡力ノ賜ニシテ其ノ勞苦ヤ想像ニ余リアルト云フベシ

不肖市會議長ノ在任中之ガ竣成ヲ見幸ニ今日ノ喜ビヲ迎ヘ感激切ナルモノアリ今之盛典ニ列シ市會ヲ代表シ一言述ヘテ祝辭トス

昭和十一年十月七日

甲府市會議長

秋

山

幸

右

衛

門

祝

辭

初夏ノ陽光燦々トシテ注ギ峽地ノ萬象潑刺躍動スルノ時茲ニ甲府市上水道擴張工事竣工式ヲ舉行セララルニ方リ所懷ノ一端ヲ述  
フルヲ得タルハ余ノ最モ光榮トスル所ナリ

惟フニ都市ノ構成ト發達ハ幾多ノ施設ト具完備ヲ要スト雖モ就中給水施設ノ完備ハ其ノ最タルモノニシテ吾人生存ノ基本、社會

生活上實ニ忽緒ニ附スルヲ得ズ乃チ都市消長ノ根源タル衛生及防火警備ニ主要使命ヲ擔フモノタルノミナラズ産業經濟上其ノ寄  
與貢獻スル事ノ極メテ重大ニシテ産業ノ興隆ハ全ク給水施設ノ如何ニ懸ルト言フモ過言ニ非ラサルベシ

夫レ本縣産業ノ大宗ニシテ甲府市經濟ノ大動脈タル製絲工業ノ今日在ルハ洵ニ天然ノ惠澤タル水質ノ清冽ニシテ純良タルト是レ  
給水施設ノ完備セラレタル結果ニ依ルモノト謂フベシ

翻ツテ顧ミルニ本市ノ上水道ハ大正元年九月通水開始以來急激ナル市勢ノ膨脹ト産業ノ異常ナル發展トニヨリ給水施設漸ク圓滑

ヲ缺キ給水人口ヲ凌駕スルニ及ビ各種調節的對策モ亦效ヲ奏セズ遂ニ市民ノ生存安康ヲ脅威スルノ憂慮スベキ事態ヲ告グルニ至

リ茲ニ上水道施設擴張要望ノ輿論擡頭シ其ノ聲澎湃トシテ全市ヲ覆ヒ其ノ間幾多ノ障碍ヲ突破シ迂餘曲折ヲ重ネタルモ歴代理事

者不斷ノ努力ト而シテ議政機關ノ眞摯ナル調査研究ニ加フルニ市民ノ熱烈ナル援助ノアルアリ相倚リ相結ビテ遂ニ目的ノ彼岸ニ

一路直進到達スルヲ得タリ乃チ昭和八年十月起工以來二ケ年有半ノ歲月ト而シテ七十數萬圓ノ工費トヲ以テ茲ニ工全ク成リ實ニ

大甲府市百年ノ大計ヲ完成シ十萬市民ノ宿望ノ實現スルヲ得タルハ本市ノ面目ト市民ノ歡喜之ニ過グルモノナシ、嗚呼吾等ハ萬

腔ノ感激ヲ以テ慶祝ノ杯ヲ舉ゲ本市ノ爲メ大イニ祝福セントス

今ヤ本市々勢ハ駭々トシテ進展シ大甲府市建設ノ途上ニアリテ産業立市ノ實大イニ舉リ殊ニ最近國用生絲工業ニ於テハ其ノ品質

ノ優秀ニシテ卓越セル途ニ本邦國用生絲ノ王座ニ堂々君臨スルヲ得其他製菓ニ水晶、瑪瑙細工ニ木工業ニ機械器具類ニ躍進著シ

キモノアリト雖モ未ダ消費都市タルノ域ヲ脱セザルハ遺憾トスル所ナリ

夫レ生産ナキ都市ハ衰滅ス即チ現時ノ經濟機構ノ變遷進歩推移ノ實際ニ照應シテ考察スレバ其ノ都市ニ於ケル生産工業ノ振興ハ

商業既盛ノ絕對的條件ト謂フベク即チ商工併行スルニ於テ始メテ都市ハ成長スト斷ズルヲ得ベシサレバ本水道施設擴張ノ式目ニ

際シ市民宜シク思ヒヲ茲ニ致シテ彌々水利、水力ヲ活カシ研鑽努力シ工業都市建設ニ邁進セラレンコトヲ一言蕪辭ヲ述ベテ祝辭

トス

昭和十一年六月七日



甲府商工會議所會頭

細田 武雄

祝 辭

茲ニ市民多年ノ翹望デアリ又都市經營ノ根柢ヲ爲ス甲府市上水道擴張工事竣成ヲ告ゲ本日盛大ナル竣工式ヲ舉行シ以テ市發展ト市民幸福ノ基礎ヲ永久ニ樹立スルニ至ツタノハ誠ニ慶賀ニ堪ヘヌ所デアリマス  
本市ノ上水道ハ曩ニ大正元年人口十萬ヲ目標トシテ敷設サレタノデアリマス然ルニ市ノ急激ナル發展ハ逐年給水使用量ヲ増加シ遂ニ英斷ヲ以テ大規模ナル擴張計畫ガ樹立サレ爾來幾多ノ難關ヲ超ヘ茲ニ大成ヲ觀ルニ至ツタノデアリマスガ一ニ之レ歴代當局ノ苦心ト參與諸賢ノ獻替ト市民熱意ノ結晶デアツテ蓋シ市政史上永遠ニ飾ルベキ一大偉業トセザルヲ得ナイノデアリマス  
上水道ノ完備ハ都市經營上必須ノ施設デアリマシテ保健、衛生、防火ニ産業經濟ノ發展ニ實ニ致命ヲ制スベキ關鍵デアリマスガ今ヤ全ク完備セシ市民ノ惠澤ヲ篤クシ進展飛躍ノ基礎ヲ益々堅カラシメタノハ寄與誠ニ多大ニシテ祝福之レニ過キナイノデアリマス

市ノ前途ニハ下水問題ヲ初メトシ理想都市ノ構築ニ尙幾多ノ計畫ヲ殘シテ居ルノデアリマス  
翼クハ更ニ拮据研鑽都市經營濟美ノ日ノ一日モ速カナランコトヲ茲ニ需メテ已マナイ次第デアリマス

昭和十一年六月七日

甲府市日刊新聞社代表

峡中日報社長 石原 徳 榮

祝 辭

甲府市多年ノ懸案タル上水道張工事成リ本日ヲトシテ此處ニ之カ祝典ヲ舉行セラル  
抑モ本工事タルヤ市ノ發展膨脹人口ノ増加ニ伴ヒ既設上水道水量ノ不足ハ年ヲ逐ツテ益々其ノ度ヲ加ヘ之カ擴張計畫ハ全市民ノ熱望セシ所ナリシカ元來水道ノ水源ヲ爲ス荒川ノ河水量僅少ノ爲メ沿岸關係村落トノ協調ニ行惱ノ觀ヲ呈シ在舊數年時來リ逐ニ

昭和八年十月八日起工スルヲ得爾來二年數ヶ月市當局竝ニ關係従業員ノ刻苦精勵ニ依リ恙ナク所定ノ工ヲ竣ヘ茲ニ其ノ祝典ヲ舉グルニ至リ一面上水道ノ根幹ヲ爲ス縣工事ノ荒川沿岸用水改良モ亦日ヲ逐フテ進捗シツ、アルノ狀況ナレバ之ヲ完成シテ本上水道計畫タル取水量ノ取入モ近カルヘク之ヲ以テ全市民諸士ノ保健、防火ニ安全ヲ與フルハ勿論商工業ノ進展ニ絶大ノ功果ヲ齎ラシ都市計畫觀光都市ノ計畫等着々遂行セラレ躍進大甲府市ノ完成ハ期シテ待ツベキヲ信ジ洵ニ慶賀ニ堪ヘザル所余身ヲ水道水源地ニ籍ヲ有シ之ノ盛典ニ列スルノ光榮ヲ得欣喜措ク能ハズ  
聊カ燕辭ヲ述ベテ祝辭ニ代フ

昭和十一年六月七日

千代田村長 神宮 新太郎

祝 電

水道擴張工事竣工ヲ祝ス  
内務大臣 潮 惠之 輔

祝 電

甲府市上水道擴張工事竣工式舉行セララルニ當リ遙カニ祝意ヲ表シ併セテ今後設備ノ保全竝ビ利用ノ全キヲ期セラレンコトヲ望ム  
大藏大臣 馬 場 鉄 一

感 謝 狀

本市上水道擴張工事ニ關シ貴下市長トシテ企劃籌策セラレ其ノ功績洵ニ尠カラス茲ニ目錄記念品ヲ贈呈シ厚ク感謝ノ意ヲ呈ス  
昭和十一年六月七日  
第三章 變 更 計 畫  
五二九



第二編 上水道擴張

成嶋治平殿

感謝狀

本市上水道擴張工事ニ關シ貴下市長トシテ拮据經營是レ努メラレ之カ大成ヲ效セル功績洵ニ尠カラス茲ニ目錄記念品ヲ贈呈シ厚ク感謝ノ意ヲ表ス

昭和十一年六月七日

甲府市長 齋木逸造

新海榮治殿

感謝狀

本市上水道擴張工事ニ對シ盡力セラルル所尠カラス茲ニ竣工式舉行ニ際シ記念品ヲ贈呈シ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十一年六月七日

甲府市長 齋木逸造

▽前助役 藤原 忠夫

▽元助役 武井 佐京

▽前收入役 星野芳次郎

▽臨時水道擴張委員 百瀬幾彌、上野庚午郎、三井知造、古屋重雄、角田義孝、秋山清、宇西松、寺田七男、秋山幸右衛門

名取忠愛、矢嶋榮助、細田武雄

▽市會議員 丸茂義藏外三十四名

▽前市會議員 今井茂右衛門外十六名

▽工事關係者 日本鑄鐵管合資會社外十三名

臨時水道擴張委員及市會議員

氏名	職名	選舉年	月日
丸茂義藏	市會議員	大正一五、五、二八	
秋山清	市會議員	大正一五、五、二八	
角田唯治	市會議員	大正一五、五、二八	
樋川安吉	市會議員	大正一五、五、二八	
澁谷俊	市會議員	大正一五、五、二八	
萩原吉次郎	市會議員	大正一五、五、二八	
興石勳	市會議員	大正一五、五、二八	
若尾謹之助	市會議員	大正一五、五、二八	
名取忠愛	市會議員	大正一五、五、二八	
矢嶋榮助	市會議員	大正一五、五、二八	
齋木逸造	市會議員	大正一五、五、二八	
篠原良雄	市會議員	大正一五、五、二八	
土屋幸二郎	市會議員	大正一五、五、二八	
鶴田逸策	市會議員	大正一五、五、二八	
小林退	市會議員	大正一五、五、二八	
山口清甫	市會議員	大正一五、五、二八	
内藤治幸	市會議員	大正一五、五、二八	
名取忠愛	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
矢嶋榮助	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
三浦熊吉	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
小林千松	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
原義平	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
萩原新一郎	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
雨宮勇吉	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
秋山幸右衛門	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
竹下德次郎	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
細田武雄	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
矢嶋榮助	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
名取忠愛	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
細田武雄	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
丸茂義藏	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
秋山清	市公民水道擴張委員	昭和四、八、一〇	
丸茂義藏	市公民水道擴張委員	昭和五、五、二八	
小澤平八	市公民水道擴張委員	昭和五、五、二八	
古屋重雄	市公民水道擴張委員	昭和五、五、二八	
篠原良雄	市公民水道擴張委員	昭和五、五、二八	
細田武雄	市公民水道擴張委員	昭和五、五、二八	
矢嶋榮助	市公民水道擴張委員	昭和五、五、二八	
名取忠愛	市公民水道擴張委員	昭和五、五、二八	
丸茂義藏	市公民水道擴張委員	昭和五、五、二八	
秋山清	市公民水道擴張委員	昭和五、五、二八	

第三章 變更計畫



三浦熊吉	窪川義紀	小林退	秋山清	鶴田逸策	劍持元次郎	松宮依一	雨宮勇吉	中田敏雄	七澤齋宮	輿石勳	角田唯治郎	三井德次郎	內藤治幸	小林重太郎	小林千松	澁谷俊	田村九萬治郎	土屋幸二	原義平	萩原新一郎	山口清甫	篠原良雄
------	------	-----	-----	------	-------	------	------	------	------	-----	-------	-------	------	-------	------	-----	--------	------	-----	-------	------	------

昭和五、五、二八當選

渡邊與三郎	秋山清	福田米吉	堀口兼三郎	佐藤資輔	飯島浩	淺井周策	小澤平八郎	上野庚午郎	矢崎朝夫	林貞太郎	山田長太郎	古屋重雄	仲澤豐太郎	丸茂義藏	井尻萬造	奧村恒吉	篠原良雄	志村玄誓	三井德治郎	杉原伊三郎	今井茂右衛門
-------	-----	------	-------	------	-----	------	-------	-------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	-------	--------

角田義孝	古屋重雄	三井知造	上野庚午郎	百瀨幾彌	小林重太郎	三井知造	佐藤資輔	小澤平八夫	林貞夫	奧村恒吉	丸茂義藏	中込常祐	篠原良雄	組田武雄	名取忠愛	矢嶋榮助	小林重太郎	齋木逸造	秋山幸右衛門	土屋幸二郎
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	水道擴張委員會	市會議員	同	同	市公民水道擴張委員	同	同	同	水道擴張委員會
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八	昭五、五、二八

大正一五、五、二八、當選

角田義孝	萩原吉次郎	丸茂義藏	秋山幸右衛門	仲澤豐太郎	今井茂右衛門	竹下德次郎	樋川安吉	保科萬治郎	齋木逸造	新海榮治郎	立川安五郎	雪江明雄	細田武雄	矢嶋榮助	名取忠愛	秋山幸右衛門	寺田七男	中西松	中山清
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八	昭九、五、二八







臨時水道擴張部々長	長 田孝吉	昭和六、三、四就職	甲府市水道技手	佐々木 慎	昭和四、三、一就職
甲府市助役	上 藤原忠夫	昭和六、三、四就職	上 田村理市郎	昭和四、三、一就職	昭和六、三、一就職
同	上 星野芳次郎	昭和六、三、四就職	上 佐藤 實	昭和四、三、一就職	昭和六、三、一就職
甲府市収入役	大井清一	昭和六、三、四就職	上 早川速男	昭和四、三、一就職	昭和六、三、一就職
同	中島洋吉	昭和六、三、四就職	上 峰野保雄	昭和四、三、一就職	昭和六、三、一就職
同	平尾昇	昭和六、三、四就職	上 後藤田美雄	昭和四、三、一就職	昭和六、三、一就職
(庶務課長兼工務課長)	上 田村安藏	昭和六、三、四就職	上 關 喜八	昭和四、三、一就職	昭和六、三、一就職
同	水道技手 田村安藏	昭和六、三、四就職	上 黒岩初吉	昭和四、三、一就職	昭和六、三、一就職
同	上 松本房吉	昭和六、三、四就職	上 向坂文夫	昭和四、三、一就職	昭和六、三、一就職
同	上 奥石一三	昭和六、三、四就職	上 雨宮嘉平	昭和四、三、一就職	昭和六、三、一就職

第七節 決

算

工期三ヶ年の豫定を以て施工した本工事は、昭和十一年三月三十一日雑工事費の一部及整理工事を残して略々完成したるを以て、引續き残務工事の完成と精算を急ぎ、其の水道擴張費決算書は昭和十一年十一月二十八日の決算市會に提案して其の認定を経たが、總工費は金四十八萬六千三百九十四圓四十一錢、公債費金二萬九千四百二十一圓七十五錢合計金五十一萬五千四百六十一圓十六錢にして、豫算額に比し金二十四萬二千二百八十四圓八十四錢の剩餘金を算し、更

に歳入中の雜收入金二千五百三十八圓を併せると金二十四萬四千六百五十一圓八十一錢に達したのである。

斯様に多額の剩餘金を見るに至つたのは、其の執行にあたり、各工事施行の時期及び施行方法等の順序に就き篤と講究を重ねた上、周到なる用意と適正なる準備とに隨ひて是に臨み、更に極力冗費の節約を圖るは勿論、他面には能率増進を期したのである。又工用諸材料の購入に關しても慎重を極め、とりわけ送水鐵管購入は偶々鐵材類の昂騰氣配にあつたので、之の先行を豫想して工事着手に先き立ち所要全數量を取纏めて購入した、高級鑄鐵管を採用した結果豫想以上の剩餘を見た次第である。

又金五十八萬七千圓の起債に關しては、愈其の調達の時期に至るや幸にも低金利時代に遭遇したので、頗る有利なる條件の下に然かも至極順調に所要資金を調達する事が出来て、當初起債の一部を公債に求めたが、昭和十年度に至り低利資金の借換へに成功し、其の全額を大藏省預金部及逓信省簡易保險積立金等の低利資金の供給を仰ぐに至つたので、之が爲公債利子に於ても相當剩餘金を見るに至つたのである其の決算及同内譯明細は左の如し。

尙竣工と相俟ち昭和十一年六月二十九日左の如く縣へ竣工届を提出した。據つて縣土木課大塚技師、水上技手、青柳甲府土木出張所長、笠井技手等を市の木島、飯高兩技師及青木技手案内して竣工状況の實地監査が行はれた。

臨發水第二四號

昭和十一年六月二十九日

甲府市長

齋

木

逸

造

山梨縣知事

土

屋

正

三

殿

上水道擴張工事竣工届

昭和八年六月二十八日付内務省梨衛第二六號ヲ以テ認可相成候 自昭和八年度 甲府市上水道擴張工事ハ昭和十一年三月三十一日竣



成候ニ付御監查相成度此段及御届候也

添付書類

- 一、工事精算書内譯書 一通
- 一、工事竣工圖 十一枚

山梨縣甲府上水道擴張繼續費收支計算表 自昭和八年  
至昭和十年度

科	款	項目	收 入			支 出			三箇年計	比 較
			自昭和八年 至昭和十年度 繼續費豫算額	昭和八年 度決算額	昭和九年 度決算額	昭和十年 度決算額	自昭和八年 至昭和十年度 繼續費豫算額	昭和八年 度決算額		
一 繰入金	一 水道經濟繰入金		一六九,三七三.〇〇	八〇,九四七.〇〇	四〇,三三三.〇〇	四八,〇九三.〇〇	一六九,三七三.〇〇			
二 雜收入	一 雜收入		一,一〇〇.〇〇	二五〇.九〇	一,三〇三.八〇	二,三三九.二七	三,七七八.九七			
三 公債費	一 借入金		五八七,〇〇〇.〇〇	二五九,〇〇〇.〇〇	二〇三,〇〇〇.〇〇	二二五,〇〇〇.〇〇	五八七,〇〇〇.〇〇			
合 計			七五七,五七三.〇〇	三四〇,一五三.九〇	二四四,六三六.八〇	一七五,三三三.二七	七六〇,一一一.九七	二,五三八.九七		
一 工事費	一 導水線路費		七〇〇,〇〇〇.〇〇	一七〇,六五三.三三	二四五,七〇〇.八八	一三三,〇三三.三三	四八六,〇三九.四一		二二三,九六〇.五九	
		二 淨水場費	九七,〇〇〇.〇〇	一三,九七八.一三	四九,一二六.三三	一一,三七二.三三	一一,三七二.三三		一五,九二八.七七	
		三 送水線路費	三二二,〇〇〇.〇〇	三九,三九〇.四一	一四七,〇〇三.六三	二八,六七二.四四	二二五,〇〇四.四六		七,六二二.九九	
合 計			一一一九,〇〇〇.〇〇	二二三,〇四一.八七	四二一,八三〇.八四	一七二,〇七八.一〇	七二六,〇七六.二〇	二,五三八.九七		

科	款	項目	收 入			支 出			三箇年計	比 較	
			自昭和八年 至昭和十年度 繼續費豫算額	昭和八年 度決算額	昭和九年 度決算額	昭和十年 度決算額	自昭和八年 至昭和十年度 繼續費豫算額	昭和八年 度決算額			昭和九年 度決算額
二 公債費	一 公債利子		五七,五五三.〇〇	一〇七,六五三.三三	二五六,五五五.六六	一五二,二四〇.一六	五二五,四六一.一六		二四二,一一一.八四		
		四 建築費	三三,九〇〇.〇〇	七,六四四.四三	七,八四四.八四	八,二七八.六七	二三,七七九.九三		一〇,一三三.〇七		
		五 雜工事費	三三,八〇〇.〇〇	七,三三六.二四	四,九六六.六〇	八,六三八.四九	二〇,九三一.三三		一,八八八.六七		
		六 機械器具費	四三,四〇〇.〇〇	一四,〇七三.四八	二,二二五.六六	八三〇.五八	一七,一一〇.〇三		三五,二七九.九八		
		七 測量調査費	九,七〇〇.〇〇	一,六〇一.〇六	六六六.三八	一,七九三.三四	三,九六六.七八		五,七三三.三三		
		八 檢査費	二,九〇〇.〇〇	一,八九五.四〇	四,五〇〇.四五	一,二五四.〇四	七,六五〇.〇九		五,四九九.九一		
		九 運搬費	四,九〇〇.〇〇	八五五.八五	一,六〇九.三三	五三三.四三	二,九七八.三〇		一,九二一.七〇		
		十 用地費	八,〇〇〇.〇〇	三,三三〇.三〇	九五六.四八	一,三二二.一五	五,四八八.九三		二,九一一.〇七		
		十一 事務費	九三,七〇〇.〇〇	二二,六五三.一八	二四,四六八.二二	四〇,九九四.六九	七八,〇八八.一八		一五,六一一.八三		
		十二 雜費	五五,〇〇〇.〇〇	五,七四四.七五	二,三三三.八八	一,八三六.五三	一〇,一八五.一五		三五,二九九.六〇		
		合 計			七五七,五七三.〇〇	一〇七,六五三.三三	二五六,五五五.六六	一五二,二四〇.一六	五二五,四六一.一六		二四二,一一一.八四

上水道擴張費精算一覽表

費目	豫算額	精算額	殘餘材料額	差引殘額	摘要
上水道擴張工事費	七〇〇,〇〇〇.〇〇	四八二,七五五.一四〇	三,二八四.二七〇	二二三,九六〇.五九〇	
導水線路費	二七三,〇〇〇.〇〇	一六,二四三.四〇五	二九,九二〇	一一,〇六六.六七五	
淨水場費	九七,〇〇〇.〇〇	八三,八五七.四六一	九九五.五二二	一三,一四七.〇七七	
送水線路費	三二二,〇〇〇.〇〇	三二,五八四.一八四	二,三三八.八三八	九七,一五六.九七八	
建築費	三三,九〇〇.〇〇	三三,七七七.九三〇		一〇,一三三.〇七〇	
雜工事費	三三,八〇〇.〇〇	三三,七七七.九三〇		一,九八五.二九〇	
機械器具費	四三,四〇〇.〇〇	一四,一三〇.〇一〇		二五,二七〇.九八〇	
測量調査費	九,七〇〇.〇〇	三,九六六.九六〇		五,七三三.〇四〇	
檢査費	二,九〇〇.〇〇	七,六五〇.〇九〇		五,二四九.九一〇	
第三章 變更計畫				五三九	















特別人夫	1	400.000	140.00	56.000	19.500	7.59	14.800
混泥土配合	1、2、4	13.400	101.400	1,599.966	21.400	1,324.2	1,475.140
同	1、4、8	300	79.280	71.353	6.500	9.59	62.224
切石工(乙)	同	47.000	5.150	242.050	—	—	—
綉鋼板厚	1.5分	36.000	1.800	64.800	30.900	16.766	528.050
足掛金物	—	84.000	8.00	67.200	84.000	4.51	37.866
防水モルタル塗工	配合	21.000	2.300	49.560	40.500	4.02	16.245
同	配合	37.000	1.500	56.240	40.500	4.45	18.082
同	厚配合	7,804.000	1,500	1,170.600	10,033.600	1.46	1,439.770
鐵筋工	—	8.000	55.000	440.000	7.000	39.993	279.950
開閉器	—	—	—	810.000	—	—	358.660
型枠材料	—	—	—	—	—	—	—
大枘工	—	60.000	2.100	33.000	14.700	1.201	17.500
特別人夫	—	200.000	1.400	168.000	25.800	1.158	29.870
運搬費	—	—	—	410.000	—	—	—
備給費	—	—	—	730.000	—	—	—
雜費	—	—	—	420.973	—	—	—
計	—	—	—	11,800.000	—	—	18,543.926
場内埋管費	—	—	—	—	—	—	—
鑄鐵直管	普通壓内徑100	—	—	—	4.000	6.191	24.764
同	低壓内徑100	11.000	21.000	231.880	1.000	16.072	16.072
同	同	10.000	35.560	353.600	7.000	11.070	17.740
鑄鐵直管	同	33.000	43.500	5,309.400	142.000	26.926	3,832.056
同	同	60.000	52.700	3,162.000	54.000	36.931	1,994.232
同	同	6.000	62.590	374.340	5.000	4.706	21.850
同	同	14,861	130.000	1,931.930	14,484	10.372	2,332.827

制水弁内徑	100	1.000	54.500	2.000	45.011	90.011
同	150	—	—	4.000	169.424	27.7656
同	350	6.000	231.500	9.000	206.598	1,859.330
同	400	3.000	927.000	3.000	263.261	79.782
同	450	1.000	393.000	1.000	334.900	334.900
制水弁開閉器	—	9.000	35.000	8.000	46.095	368.740
鐵管敷設工内徑	100	—	—	2.068	1.367	28.269
同	150	—	—	7.240	3.031	33.095
同	200	17.330	—	14.480	3.721	53.813
同	300	19.000	66.800	62.250	1.481	92.334
同	350	292.000	7.700	2,248.400	2.527	1,594.475
同	400	27.500	1,054.425	231.240	2.625	606.821
同	450	12.500	1.37.500	22.100	2.451	54.153
掘整工	—	1,109.000	4.100	4,657.800	7,123.700	4,779.103
埋戻工	—	1,106.000	3.100	3,539.200	7,090.700	1,403.355
既設鐵管撤去工内徑	12吋	288.000	3.240	673.920	328.220	221.589
同	14吋	84.500	3.900	329.550	94.330	60.492
運搬費	—	—	—	569.000	—	—
備給費	—	—	—	1,710.000	—	—
雜費	—	—	—	1,145.336	—	—
整備費	—	—	—	3,700.000	—	—
整備費	—	—	—	3,300.000	—	—
計	—	—	—	3,000.000	—	—
淨水場費計	—	—	—	97,000.000	—	—







擴張事務所倉庫	坪	四〇・〇〇〇	五〇・〇〇〇	二,〇〇〇・〇〇〇	三六・七五〇	一九・七五二	六五四・二〇〇
同 附屬諸工事				五〇〇・〇〇〇			四,六四〇・三六〇
水源事務所	同				五四・八七〇	七一・一四七	三,九〇三・七九〇
淨水場合宿所	同	八〇・〇〇〇	八五・〇〇〇	六,八〇〇・〇〇〇	三〇・〇〇〇	二六・二九六	七八八・八八〇
同 工作小屋	同	三〇・〇〇〇	三三・〇〇〇	一,〇五〇・〇〇〇	一六・七〇〇	二八・二七三	四七三・八四〇
同 職工工夫詰所	同	二四・〇〇〇	六五・〇〇〇	一,五〇〇・〇〇〇	四〇・〇七〇	一〇・四七六	四一九・七五〇
舊事務所移轉	同	四五・〇〇〇	三〇・〇〇〇	一,五五〇・〇〇〇	一八・〇〇〇	四五・八四九	八三三・二八〇
鐵管敷設見張所	同	二四・〇〇〇	六五・〇〇〇	一,五六〇・〇〇〇	六・〇〇〇	四六・七六七	二八〇・六〇〇
同 倉庫	同	一八・〇〇〇	五五・〇〇〇	九九〇・〇〇〇	二四・〇〇〇	一九・二〇六	七〇〇・九四〇
鐵管試驗所	同				三五・五〇〇	五一・一四一	一,八五五・四九〇
同 事務所	同				一九・九三〇	一六六・一〇〇	三,三二〇・三五〇
濾過調整室上家	同	二二・〇〇〇	二四・〇〇〇	二,四〇〇・〇〇〇	三三・〇〇〇	五二・六二〇	一,六五一・五二〇
セメント貯藏倉庫	同	五〇・〇〇〇	五五・〇〇〇	二,七五〇・〇〇〇	三八・六三〇	六九・八九七	二,七〇二・八九〇
配水池公舎改築							一,〇四八・二三〇
雜 費				一,二九〇・〇〇〇			三,七七七・九三〇
建築費計				三,九〇〇・〇〇〇			
雜 工 事 費				四,五〇〇・〇〇〇			三,九四一・八四〇
電話架設費				三,七五〇・〇〇〇	二・〇〇〇	一九六・八七二	三,九三三・七四四
輕便軌道敷設費	哩杆	三,〇〇〇	一,三三〇・〇〇〇	四,三三〇・〇〇〇			四,〇四九・一三〇
運搬道路費				二,〇〇〇・〇〇〇			九七〇・二四〇
動力及電燈設備費				八,〇〇〇・〇〇〇			一一,四七六・七五六
諸雜工 事 費				四,五五〇・〇〇〇			三〇,八四一・七二〇
雜 工 事 費 計				三,八〇〇・〇〇〇			一,一六一・八二〇
機械器具費				一,八〇〇・〇〇〇			
鐵管敷設用具				一,八〇〇・〇〇〇			

工用自動車自轉車				八,二〇〇・〇〇〇			五,二四七・九四〇
軌條及運搬車類				八,五〇〇・〇〇〇			三,〇一七・八五〇
工用器具類				四,五〇〇・〇〇〇			四,三九一・四六〇
機械器具修繕費				二,五〇〇・〇〇〇			四七四・八二〇
工用機械類				一六,九〇〇・〇〇〇			二,〇二六・一四〇
機械器具費計				四二,四〇〇・〇〇〇			一七,二二〇・〇二〇
測量調查費				二,六六〇・〇〇〇			五〇一・六〇〇
測量用品				八五〇・〇〇〇			二九九・四五〇
製圖用品				三,三三〇・〇〇〇			一,二四二・五四〇
測量製圖用品				二,六〇〇・〇〇〇			一,一七三・二四〇
備 人 給				二,六〇〇・〇〇〇			八三六・六五〇
測量人夫				四六〇・〇〇〇			一一・三〇〇
雜 費				九,七〇〇・〇〇〇			三,九六六・七六〇
測量調查費計				一,〇〇〇・〇〇〇			
檢 査 費				一,一〇〇・〇〇〇			
セメント試驗器				五〇〇・〇〇〇			四五六・〇〇〇
同 試驗費				一,一〇〇・〇〇〇			
鐵管檢査用具				九,五〇〇・〇〇〇			七,一八三・四九〇
同 檢査費				四〇〇・〇〇〇			八・六〇〇
諸材料試驗費				四〇〇・〇〇〇			
雜 費				一,二〇〇・〇〇〇			七,六五〇・〇九〇
檢 査 費 計				四,九〇〇・〇〇〇			二,九七八・三〇〇
運 搬 費				四,九〇〇・〇〇〇			二,九七八・三〇〇
運 搬 費 計				四,九〇〇・〇〇〇			二,九七八・三〇〇







第二編 上水道擴張

合計

757,573.000

五五四

上水道擴張費殘餘材料調書

費目

金額

備考

金額摘要

導水線路費	29,230
淨水場費	995,523
送水線路費	2,588,838
合計	3,613,591

上水道擴張費殘餘材料內譯書

費目

品名

形狀寸法

單位

數量

單價

金額

摘要

導水線路費	曲	管	450耗×22度三分ノ一	個	1.0	29,230	29,230	
淨水場費	直	管	450耗×40.0米	本	3.0	4,706	13,118	
	同	切	同×3.5米	同	1.0	3,000	3,000	
	直	管	400耗×40.0米	同	1.0	3,714	3,714	
	片	鍔直管	200耗×40.0米	個	2.0	1,917	3,833	
	片	鍔片承曲管	300耗×20度	同	1.0	2,520	2,520	
	片	鍔片承曲管	200耗×11度四分ノ一	同	1.0	8,368	8,368	
	三	承丁字管	350耗×200耗	個	2.0	2,200	4,400	
	曲	管	減價採用300耗×20度	同	1.0	9,360	9,360	
	同	管	350耗×22度三分ノ一	同	1.0	17,600	17,600	
	接	輪	甲 100耗	同	1.0	3,056	3,056	
	合計						29,230	29,230

送水線路費

高	壓	直	管	500耗×40.0米	本	8.0	68,388	547,104
同	同	同	同	同	同	1.0	6,330	6,330
普	通	壓	直	管	同	8.0	57,832	463,136
普	壓	壓	切	管	同	1.0	4,414	4,414
低	壓	直	管	500耗×40.0米	同	10.0	5,030	50,300
普	通	壓	直	管	同	19.0	12,218	232,142
曲	管	500耗×11度四分ノ一	個	1.0	4,710	4,710	4,710	
同	同	150耗×20度	同	2.0	6,400	12,800	12,800	
短	管	乙一號 500耗	同	1.0	2,280	2,280	2,280	
接	輪	甲 500耗	同	1.0	17,600	17,600	17,600	
同	同	上水型 500耗	同	3.0	18,080	54,240	54,240	
同	同	(東京市ヨリ) 500耗	同	2.0	23,440	46,880	46,880	
同	同	甲 150耗	同	4.0	4,064	16,256	16,256	
高	壓	曲	管	500耗×5度八分ノ五	同	1.0	5,800	5,800
マ	ニ	ラ	麻	同	5.8	5,550	31,910	31,910
普	通	鐵	筋	管	同	1.0	3,730	3,730
同	同	同	同	同	同	6.0	6,780	40,980
同	同	同	同	同	同	6.0	8,300	49,980
合計							8,300	52,280
合計							3,284,270	555

第三章 變更計畫

五五五



上水道擴張費精算額ト決算額對照表

△印ハ減額ヲ示ス

費目	精算額	殘餘材料額	材料振替流用拂額	材料振替流用受額	決算額
上水道擴張工事費	四八二,七五〇	三,二八四,二七〇	六,五七〇,七四五	六,五七〇,七四五	四八六,〇三九,四二〇
導水線路費	一六,二四三,四〇五	二九,九二〇	一,三五〇	四,九〇三,四四五	一七,三三七,二三〇
淨水場費	八三,八五七,四六一	九九五,五二	五,五四一,二八六	一,〇〇七,一四九	八九,三八七,〇一〇
送水線路費	二二,五八四,一八四	二,五八,八三六	八三,二八九	△ 五七,八五一	二二,〇九四,四六〇
建築費	二二,七七〇,九三〇				二二,七七〇,九三〇
雜工事費	二〇,八四〇,七一〇				二〇,八四〇,七一〇
機械器具類	一七,一〇〇,〇一〇		一〇一,九二〇	△ 八,三〇〇	一七,一〇〇,〇一〇
測量調査費	三,九六六,七八〇				三,九六六,七八〇
運搬費	七,六三〇,〇九〇				七,六三〇,〇九〇
用地費	二,九七八,三〇〇				二,九七八,三〇〇
事務費	五,四八八,九三〇				五,四八八,九三〇
雜費	七八,〇八八,一八〇				七八,〇八八,一八〇
公債費	一〇,一八五,一五〇				一〇,一八五,一五〇
公債利息	二九,四二二,七五〇				二九,四二二,七五〇
合計	五二二,一七六,八九〇	三,二八四,二七〇	六,五七〇,七四五	△ 六,五七〇,七四五	五二二,四六二,一六〇

第八節 剩餘金處分

前述の如く金二十四萬四千六百餘圓の剩餘金を見るに至つたのであるが、之の剩餘金に就きては、工事竣工の前後から早くも剩餘金を見越して市外地配水管敷設、廳舎増改築其他の方法に充つべく處分並に利用方法を夫々講究し

つゝ居つたのである。

尤も今回の計畫に於ても、給水區域を擴張し、配給水管敷設も同時に施行すべきであつたが、計畫當初に於て之を行ふ時は豫算の増嵩は免れないし、又配水區域の擴張は都市計畫實施に密接なる關係があり幾多の調査を必要とした關係上、之は後圖に譲つたのであつた。然し最近の都市計畫區域内の人口は頓みに増加し各種機關の發展は著しきもあり、殊に本市近接地に於ける衛生警備の見地からも、之が水道給水は極めて重要であり、又隣接町村よりも之を曉望して居たので、今次設備の剩餘水量となるべき分の有効利用の方法をも考慮して、之が機會に於て市外地給水を計畫し、更に現廳舎も亦最近極度の狹隘を告げて居る上に、擴張工事の完成により水道關係事務は一層繁劇を加へるに至るので、水道事務所を建築し、又既設水道に獻身的努力を傾注された甲府市長加藤平四郎氏の功績を後世に傳ふべく同氏の胸像を建立する外、混糞室、水質検査室の設置、濾過調整室の増築、水神社、記念碑其他併せて施行して、以て有効に剩餘金の處分を爲すべき計畫を樹立したのである。

よつて之が關係豫算と共に昭和十一年二月二十八日市會に提案し、市會には多少の異なる意見もあつたが、其の方針を以て進み實行方法は認可後に於て更めて協議する事として同三月三十日議決を経るに至つた。

然し乍ら之の計畫中には曩に認可を経た擴張計畫の變更となり、年度内に其の手續を執らねばならぬ事情があつたので、市會の議決を待たずして同三月二十七日水道擴張工事計畫變更認可方縣を経て主務省に申請し、更に主務省の意嚮を聴取した上、同四月六日水道給水區域擴張認可方を、引續き同十七日起債事業精算剩餘金處分認可方夫々主務大臣に申請した。爾來數次に亘り係員を上京せしめ、認可の促進方具申に及んだ所、給水區域擴張の件は同年六月一日、工事計畫變更は同月六日、剩餘金處分の件は同月二十七日夫々認可及許可されるに至つた。



山梨縣 甲府市

昭和十一年三月二十七日臨水發第九號申請水道擴張工事計畫變更ノ件認可ス  
昭和十一年六月五日

臨水發第九號

內務大臣 潮 惠之輔

昭和十一年三月二十七日

甲府市長 齋 木 逸 造

內務大臣 潮 惠之輔殿

上水道擴張工事設計變更認可申請

昭和八年六月二十八日內務省梨衛第二六號ヲ以テ御認可相成候本市上水道擴張工事計畫ハ自昭和八年度三ヶ年繼續事ニシテ豫定通十年度末竣工ヲ告グル見込ニ有之而シテ右工事ハ執行時期ニ於ケル物價ガ設計當時ヨリ低落シタル關係ニ依リ相當ノ剩餘ヲ生ズルコトヲ豫想シ又一面當初財政上ノ都合ニ依リ該計畫ニ編入スルヲ得ザリシ甲府市接續郡部市街地ノ配水及水道事務所ノ新築等焦眉ノ急ヲ要スルモノアリシモ工事執行其他ニ付出來ル限リ節約ヲ加ヘタル結果別紙上水道擴張費收支計算表ノ通工事費ニ於テ二十萬七千圓、公債費ニ於テ二萬八千圓計金二十三萬五千圓ノ殘金ト繼續費歳入自然增加金二千圓又昭和十一年度雜收入金千圓ヲ加ヘ金二十三萬八千圓ノ剩餘ヲ生スル見込確實トナリタルニ付之ヲ財源シト昭和十一年度ニ於テ配水管敷設ヲ主トシ工事執行ノ件別册豫算書ノ通り本市會ニ於テ議決相成候條右設計變更ノ義御認可相成度關係書類相添ヘ此段及申請候也

添付書類

一、昭和十一年度甲府市上水道擴張費歳入出豫算及内譯書

一、甲府市上水道擴張工事一部設計變更書

一、甲府市上水道擴張計畫一部變更說明書

二、同 設計變更工事方法書

三、同 設計變更工事費豫算内譯書

一、自昭和八年度山梨縣甲府市上水道擴張費繼續費年期及支出方法(昭和八年十月九日議決)

一、甲府市上水道擴張費改支計算表

一、甲府市上水道擴張工事實施設計書

添付圖面

一、甲府市上水道擴張計畫一般平面圖

一、濾過調整室構造圖

一、甲府市上水道配水鐵管配置圖

一、混藥室內設備圖

甲府市上水道擴張計畫目論見一部變更書

第四、給水ノ區域其人口ノ左ノ通り變更ス

一、給水區域

現在給水區域即チ甲府市全部及西山梨郡相川村所在歩兵第四十九聯隊兵營甲府衛戍病院、甲府聯隊區司令部山梨縣師範學校、同附屬小學校、中巨摩郡國母村大字高畑飛地(鐘紡製絲工場)ノ外西山梨郡大宮村大字湯村、千塚村大字鹽部相川村大字古府中、里垣村大字板垣、坂折及中巨摩郡貢川村大字上石田、國母村大字高畑ニ擴張給水スルモノトス

第三章 變更計畫



第二編 上水道擴張

五六〇

尙將來ニ於テハ右ノ外都市計畫區域ナル西山梨郡相川村(但シ一部ヲ除ク)千塚村、大宮村、里垣村、玉諸村、住吉村、中巨摩郡池田村、貢川村、國母村、西條村大字清水新居ニ擴張給水シ得ル豫定ナリ

二、人口

現在人口 現區域八萬二千六百六十三人(昭和十年國勢調査)

擴張區域 一萬四千九百三十九人 (リ)

計畫給水人口 十萬人 (前計畫通)

極度給水人口 十五萬人

第八、「竣工期限」ヲ左ノ通り變更ス

竣工期限昭和十二年三月三十一日

第九、「工費ノ總額」ヲ左ノ通り變更ス

工費總額金七拾貳萬五千五百拾圓

以上

一、甲府市上水道擴張計畫一部設計變更說明書

一、總說

甲府市上水道擴張計畫說明書ニ示セル通り今期擴張計畫ニ於テハ一人一日最大給水量一七〇「リットル」(六、立方尺)平均一二〇「リットル」(四、二五立方尺)トシ給水人口十萬人トシ導水管、濾過池、送水鐵管ノ増設、接合井、濾過調整室等ノ改築工事を爲シ將來ハ甲府市及中巨摩郡、西山梨郡内ニ於ケル十ヶ村ヲ全括セル都市計畫區域ヲ給水豫定區域トシ同區域内ニ於ケル昭和二十七年末ノ推定人口十五萬ヲ以テ極度給水人口トシ導水路送水管等後日擴張困難ナルモノニ對シテハ極度人口十五萬人ヲ以テ

設計ノ基準トナセリ、配水設備ハ現在ノ儘ニテ今後人口ノ増加及給水區域ノ擴張ニ伴ヒ逐次増設スル豫定ナリシ處近年甲府市隣接村ノ發展ハ益々盛ニシテ市部ト同様ノ形態ヲ備フルニ至リ市域ニ編入セントスル情勢ニアリ從ツテ今次隣接村ノ一部ヲ給水區域ニ編入シ給水人口十萬人ニ對スル範圍ニ於テ配水設備ヲ爲サントスルモノナリ其他濾過調整室、豫備室ノ築造砂洗設備等將來擴張困難ノモノ或ハ今次擴張施設ノ最モ必要トスルモノニ對シ一部設計變更ヲ以テ變更又ハ追加施行セントスルモノナリ

二、濾過調整室計畫(變更)

舊濾過池四面及擴張工事ニ伴フ新設濾過池一面ニ對シ濾過調整室ヲ一ヶ所新設シ各濾過池毎ニ區分シ濾過速度流量等ヲ手働制水弁ニヨリ調節スル計畫ナリシヲ第二期擴張ニ豫定セル濾過池二面ニ對シ次期擴張ハ極メテ至難ナルニ依リ豫備室二箇ヲ合セ築造シ手働調整ヲ浮子式自動調整ニ改メタリ尙源水河川荒川上流ニ於テ傳染病發生ノ場合ヲ顧慮シ同室ニ併合鹽素滅菌設備ヲ施セリ

三、濾過池築造工事說明(變更)

當初計畫ニ於テ濾過池一面増設ノミナリシモ舊砂洗設備場ニ使用困難ナル狀態トナリタルニ付附帶工事トシテ砂洗場ヲ新設シ併セテ砂置場ヲ新設セリ

四、配水鐵管敷設計畫(追加)

- 一、給水區域(省略)
- (給水區域外配水管敷設計畫書ヲ参照)
- 二、給水人口(省略)
- (同 右)
- 三、給水量(省略)
- (同 右)
- 四、配水方法及其ノ水壓(省略)

第三章 變更計畫

五六一



五、混藥設備計畫(追加)

出水其他ノ原因ニヨリ源水ニ濁度ヲ生ジ所要時間内ニ沈澱セザル状態ニ至リタル時源水ニ混藥シ沈澱作用ヲ速進セシメントスル設備ヲ爲スモノトス

沈澱池ノ有效容量ハ一萬六千七百立方尺(六十萬立方尺)ニシテ人口十萬人ニ對スル最大給水量ノ二十四時間分ノ容量ヲ有スルモノニシテ千代田村平瀨取入口ニ於ケル荒川水位ノ變化ノ狀況ヲ昭和四年五月ヨリ昭和十年九月迄ノ調査ニヨレバ平水位ハ一、三一米ニシテ平水位以上ノ水位ハ七、八、九ノ三ヶ月ガ最モ其ノ回數多ク一、六五米以上ノ水位回數ハ一ケ年ヲ通ジテ十三回内外ナリ

右設備ハ淨水場構内導水渠ニ添ヒ築造シ同渠ニ注入混藥セシメントスルモノナリ

六、水質検査設備計畫(追加)

本市上水道水質検査ハ大正二年以來山梨衛生検査所ニ委囑右委囑費トシ大正十年以降ハ毎年金一千三百圓宛山梨縣ニ納付シ來リタルモ昭和十二年度ヨリ市自體ニ於テ之ヲ執行スル計畫ノ爲昭和十一年度ニ於テ之ガ設備ヲ爲サムトスルモノナリ

七、水道事務所建築工事計畫(追加)

近年庶務多端ノ結果市廳舍狹隘ヲ告ゲ惹イテ水道事務所及同材料置場等甚シク不便ヲ來シ曩ニ擴張計畫當時同事務所新築ノ議アリタルモ豫算ノ嵩ム關係上適當ノ時迄之ヲ延期セザルベカラザル事情トナリタルモノニシテ今回擴張工事竣工ニ對シ相當ノ殘額ヲ見越シ得ルニ至リタルニ付此際用地四百五十坪之買收費金三萬三千七百五十圓、事務所延建坪三百五十坪之建築費金四萬二千圓附屬家延建坪百四坪之建築費金五千四百圓其他諸設備三千七百二十圓計九萬七百五十圓ヲ以テ水道事務所ヲ建設セムトスルモノナリ

二、設計變更工事方法(設計變更圖第二號)

一、濾過調節室(一部變更)

調整室ハ平面凸字形鐵筋混凝土造内部片側ハ隔壁ヲ以テ五室ニ區劃シ濾過池ヨリノ引入管ヲ各別ニ導キ制水弁ニヨリ濾過速度ヲ調整シ隔壁ニ取付ケタル量水堰ニヨリ流量ヲ計測シ之ヨリ流下セシ水ハ他方ノ一室ニ集メ送水管ニ依リ配水池ニ送水スル設備ナリシヲ豫備二室ヲ加ヘ七室トシ量水堰ヲ伸縮管ニ取付ケタル堰ニ改メ浮子ニ連絡セシメ室内ノ水位ノ變化ニ伴ヒ自動的ニ堰ヲ移動シ濾過速度ヲ一定ナラシメ指示計ニヨリ濾過損失水頭同流量ヲ機械的ニ指示セシムル裝置トス上部ハ鐵筋混凝土造上家トシ一部ヲ擴ゲ鹽素滅菌機ヲ設クルモノトス

二、配水管及經路(追加)

配水鐵管ハ市内及市外隣接村ノ一部ヲ九區域ニ區分シ敷設スルモノニシテ國母村大字高畑ニ至ル線ハ既設百耗管ヲ一部百五十耗管ニ定メ連絡延長スルモノニシテ其他ノ區域ハ全部既設管ニ連絡延長セシムルモノデ既設管及新設管ノ關係及既設管末ニ於ケル水壓ヲ表示スレバ次ノ如シ

敷設箇所	連絡管及水壓表		管線數	動水高(米)
	既設管線數	新設管線數		
甲府市朝氣町	一五〇耗	一〇〇耗	二	四七、二五
同南大路附近	二〇〇耗	一〇〇耗	二	同
同飯田町	一五〇耗	一〇〇耗	二	同
同	一〇〇耗	一五〇耗	二	同
大宮村字湯村	一〇〇耗	一五〇耗	一	四一、二〇
同	十四吋	一五〇耗	一	三九、三九
同	二〇〇耗	一五〇耗	一	一〇三、九三
同	一五〇耗	二〇〇耗	一	三四、八四
同	一五〇耗	一〇〇耗	一	三六、三六







第二編 上水道擴張

機器器具費	四、四〇〇	一七、〇四三	一八、九四八	▽三、四三三
測量調査費	九、七〇〇	四、一七五	四、一七五	▽五、五二五
檢査費	一、九〇〇	七、九〇二	九、七〇二	▽三、一九八
運搬費	四、九〇〇	三、一五五	三、一五五	▽一、七八五
用地費	八、四〇〇	五、五六六	四、〇八六	三、六八六
事務費	九、七〇〇	八〇、三三五	九六、三六〇	二、六六〇
雜費	三五、〇〇〇	一〇、五五五	一八、〇〇〇	▽六、四四五
配水鐵管費	—	—	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇
水質檢査費	—	—	二、八〇〇	二、八〇〇
工事費(變更)	—	—	二、八〇〇	二、八〇〇

內 譯

導水線路費	一金七十二萬五千五百五十圓	淨水場費	一金一萬二千八十四圓
送水線路費	一金九萬三千七百二十三圓	建築費	一金二十一萬六千二百六十四圓
雜工費	一金八萬八百五十三圓	機器器具費	一金二萬八千四百九十五圓
測量調査費	一金一萬八千九百四十八圓	檢査費	一金四千七百七十五圓
運搬費	一金九千七百二圓	水質檢査費	一金三千百十五圓

用水費	一金四萬八十六圓	事務費	一金九萬六千三百六十圓
雜費	一金二萬八千五百四十五圓	配水線路費	一金九萬圓
配水線路費	一金九萬圓	水質檢査費	一金二千八百圓

甲府市上水道擴張費收支計算表

甲府市及市外給水區域內推定人口計畫書(給水區域外配水管敷設計計畫書參照)

科 目	收入	支出	差引	増減	摘要
一、繰入金	一、六九、三七三	一、六九、三七三	—	—	繰入金
二、雜收入	一、一〇〇〇	—	一、一〇〇〇	—	雜收入
三、公債費	—	—	—	—	公債費
繰越金	—	—	—	—	繰越金
前年度繰越金	—	—	—	—	前年度繰越金
合計	二、七九、三七三	一、六九、三七三	一、一〇〇〇	—	昭和一十二年度歳入 繰越金ハ重複ニ 付計ニ算入セズ

第三章 變更計畫



第二編 上水道擴張

科	目	支	出	上	差引	殘額	昭和十一年度	豫算額	繼續費決算見込額	昭和十一年度	豫算額	繼續費決算見込額
一、工事費	一導水線路費	400,000	400,000	104,000	104,000	296,000	331,150	331,150	495,150	331,150	331,150	495,150
	二淨水場費	27,000	27,000	10,146	10,146	16,854	—	—	17,124	—	—	17,124
	三送水線路費	97,000	97,000	84,733	84,733	12,267	3,900	3,900	88,633	3,900	3,900	88,633
	四建築費	322,000	322,000	26,264	26,264	295,736	—	—	26,264	—	—	26,264
	五雜工事費	33,000	33,000	13,833	13,833	19,167	57,000	57,000	80,833	57,000	57,000	80,833
	六機械器具費	22,800	22,800	3,495	3,495	19,305	6,000	6,000	28,495	6,000	6,000	28,495
	七測量調査費	42,400	42,400	17,043	17,043	25,357	1,905	1,905	18,448	1,905	1,905	18,448
	八検査費	9,700	9,700	4,175	4,175	5,525	—	—	4,175	—	—	4,175
	九運搬費	12,900	12,900	7,011	7,011	5,889	2,000	2,000	9,011	2,000	2,000	9,011
	一〇用地費	4,900	4,900	3,115	3,115	1,785	—	—	3,115	—	—	3,115
	一一事務費	8,400	8,400	5,586	5,586	2,814	34,500	34,500	40,086	34,500	34,500	40,086
	一二雜費	93,700	93,700	80,355	80,355	13,345	16,045	16,045	96,300	16,045	16,045	96,300
	一三配水線路費	35,000	35,000	10,555	10,555	24,445	18,000	18,000	28,445	18,000	18,000	28,445
	一四水質検査設備費	—	—	—	—	—	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000
二、公債費	一公債利子	57,573	57,573	29,573	29,573	28,000	—	—	29,573	—	—	29,573
三、特別給與金	一特別給與金	—	—	—	—	—	21,000	21,000	—	21,000	21,000	—
四、豫備費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	一豫備費	757,573	757,573	533,573	533,573	224,000	335,500	335,500	760,573	335,500	335,500	760,573

内務省梨衛第三號  
山梨縣 甲府市

昭和十一年四月六日臨水發第十一號申請水道給水區域擴張ノ件認可ス

昭和十一年六月一日

内務大臣 潮

惠之輔

臨水發第一號

昭和十一年四月六日

内務大臣 潮 惠之輔殿

甲府市長 齋

木 逸 造

甲府市上水道給水區域外給水施設許可稟請  
甲府市上水道給水區域ハ甲府市全部及西山梨郡相川村所在歩兵第四十九聯隊兵營、甲府衛戍病院、甲府聯隊司令部、山梨縣師範學校、同附屬小學校、中巨摩郡國母村大字高畑飛地(鐘紡製絲工場)ナルモ自昭和八年度上水道擴張工事ハ茲ニ竣工ヲ告ゲタリ從ツテ計畫水量ヲ通水シ得ル時期モ間近ニ付昭和十一年度ニ於テ都市計畫區域内ニシテ甲府市ニ接續スル市街地タル相川村外五ヶ村ノ一部ニ別紙市議第四十三號議決ノ通給水施設致度右ハ當該村ニ於テモ夙ニ切望セラレ居リ又一面市自體ノ警備衛生上緊要ナル儀ニ付御許可相成度關係村ノ同意議決書謄本其ノ他附屬書類相添ヘ此段及稟請候也  
追テ區域外給水料金ハ別冊甲府市水道給水條例第四十條ニ規定有之候ニ付申添候

添付書類

第三章 變更計畫



第二編 上水道擴張

- 一、水道給水區域擴張及給水設備工事執行ニ關スル市會議決書
- 一、甲府市水道給水區域編入同意議決書（相川村外五ヶ村）
- 一、昭和十一年度甲府市水道擴張費歳入出豫算書
- 一、給水區域外配水管敷設計書
- 一、甲府市水道給水條例
- 一、甲府市上水道給水擴張區域平面圖

市議第四十三號

水道給水區域擴張及給水設備工事執行ノ件

甲府市水道給水區域ヲ左ノ通擴張シ之ガ給水設備工事ヲ執行スルモノトス

昭和十一年二月 日提出

甲府市長 齋 木 逸 浩

記

- 西山梨郡大宮村大字湯村
- 同 千塚村大字鹽部
- 同 里垣村大字酒折、板垣
- 同 貢川村大字上石田
- 同 國母村大字高畑
- 同 相川村大字古府中

給水區域外配水管敷設計書

今次上水道擴張計畫ニ於テハ市外十ヶ村ヲ包含スル都市計畫區域ヲ給水區域ト定メ極度給水人口十五萬人ヲ以テ設計セリ而テ配水管ハ現在ノママニテ人口増加及給水區域ノ擴張ニ伴ヒ逐次増設スル豫定ナリシ處近年甲府市隣接村ノ發展ハ市域ニ編入セントスル狀勢ニアリ故ニ今次隣接村ノ一部ヲ給水區域ニ編入シ配水管ノ増設ヲ爲サントスルモノナリ

一、給水區域

今次擴張セントスル給水區域ハ市外隣接村ノ一部ニシテ左記ノ通りトス

- 西山梨郡大宮村大字湯村 一五八、五〇〇坪
- 同 千塚村大字鹽部 二一二、五〇〇坪
- 同 里垣村大字酒折 七〇〇、〇〇〇坪
- 同 相川村大字古府中 六八一、〇〇〇坪
- 同 中巨摩郡貢川村大字上石田 五〇四、〇〇〇坪
- 同 國母村大字高畑 三六二、〇〇〇坪

右ノ内相川村古府中ノ一部ヲ除キ全部給水豫定區域ニ屬シ大宮村大字湯村ハ高區給水區域内ニシテ他ハ全部低區配水區域ニ屬ス

二、給水人口

本市及給水豫定區域ヲ包含スル郡部ニ於ケル大正元年以降各年度末調査ニヨル人口表ヲ掲グレバ第一表ノ如ク今次ニ於ケル給水區域内人口ヲ過去ニ於ケル國勢調査ノ結果ニヨレバ第二表ノ如シ

第一表 市部及郡部人口統計表

年次	市部	郡部	計
大正元年	五三、五三二	一九、八三一	七三、三六三
二	五三、六七二	一九、八四四	七三、五一六

第三章 變更計畫







第二編 上水道擴張

昭和十八年	昭和十九年	昭和二十年	昭和二十一年	昭和二十二年	昭和二十三年	昭和二十四年	昭和二十五年	昭和二十六年	昭和二十七年	昭和二十八年	昭和二十九年	昭和三十年
六五九	一九五三	四、七六〇	六、三三五	五、〇六四	二、八六一	二、六三二	二、八六一	二、八六一	二、八六一	二、八六一	二、八六一	二、八六一
七九四	二、二三〇	五、二二七	六、七五五	五、六〇七	三、一八三	三、一八三	三、一八三	三、一八三	三、一八三	三、一八三	三、一八三	三、一八三
二〇	九〇九	二、五〇八	五、六七四	七、一五〇	五、一五〇	五、一五〇	五、一五〇	五、一五〇	五、一五〇	五、一五〇	五、一五〇	五、一五〇
二十一	一、〇四四	二、七八六	六、三三一	七、五五五	六、六九三	六、六九三	六、六九三	六、六九三	六、六九三	六、六九三	六、六九三	六、六九三
二十二	一、一五九	三、〇六四	六、五八八	七、九三五	七、二二六	七、二二六	七、二二六	七、二二六	七、二二六	七、二二六	七、二二六	七、二二六
二十三	一、二八四	三、三三二	七、〇四五	八、三三五	七、七七九	七、七七九	七、七七九	七、七七九	七、七七九	七、七七九	七、七七九	七、七七九
二十四	一、四〇九	三、六〇〇	七、五〇二	八、七五五	八、三三三	八、三三三	八、三三三	八、三三三	八、三三三	八、三三三	八、三三三	八、三三三
二十五	一、五三四	三、八六八	七、九五九	九、三三五	八、八六五	八、八六五	八、八六五	八、八六五	八、八六五	八、八六五	八、八六五	八、八六五
二十六	一、六五九	四、一三六	八、四一六	九、五五五	九、四〇八	九、四〇八	九、四〇八	九、四〇八	九、四〇八	九、四〇八	九、四〇八	九、四〇八
二十七	一、七八四	四、四〇四	八、八七三	九、九五五	九、九五一	九、九五一	九、九五一	九、九五一	九、九五一	九、九五一	九、九五一	九、九五一
二十八	一、九〇九	四、七三二	八、八七三	一〇、三三五	一〇、四九四	一〇、四九四	一〇、四九四	一〇、四九四	一〇、四九四	一〇、四九四	一〇、四九四	一〇、四九四
二十九	二、〇三四	五、〇一〇	八、八七三	一〇、九四五	一一、〇九四	一一、〇九四	一一、〇九四	一一、〇九四	一一、〇九四	一一、〇九四	一一、〇九四	一一、〇九四
三十	二、一五九	五、二七八	一〇、二四四	一一、三五五	一一、五八〇	一一、五八〇	一一、五八〇	一一、五八〇	一一、五八〇	一一、五八〇	一一、五八〇	一一、五八〇

右表ハ計算上ノ數字ニシテ昭和十六年以降市部ノ漲溢人口ノ分布ノ割當ニ就テハ都市計畫區域内各村ノ人口密度並人口増加率等ヲ基礎トシ配分加率シ増加推定人口ヲ算出セルモノナリ

現在施設ニ於ケル最大給水人口十萬人ニシテ市部ノ飽和人口十萬人普及率ハ約八割七分ナルモ市内配水管ノ増設ニヨリ普及率ハ八割九分ニナルモノト假定スレバ市部給水人口ハ八萬九千人ニシテ更ニ一萬一千人ニ對シ給水シ得ルモノナルヲ以テ第三表ニ示ス人口ニ對シ四割ノ普及率ト假定スレバ昭和二十一年迄現在施設ヲ以テ給水シ得ルモノトス

三、給水量

給水量ハ當初計畫説明ニ示ス通り一人一日平均給水量四、二五立方尺(一二〇リットル)同最大六立方尺(一七〇リットル)トス

四、配水方法及其ノ水壓

配水管ハ次期擴張ニ於テ豫定セル通り高區及低區ニ分チ各別ニ配水池ヲ設ケ給水ヲ爲ス豫定ナリ  
今次ハ主トシテ現在ノ配水管基礎トシ枝管ヲ延長スルモノナリ大宮村大字湯村ニ對シテハ將來ハ高區配水池ニ連絡スルモノナルモ今次ハ内徑十四吋舊送水管ヨリ分岐減壓弁ヲ以テ壓力ヲ調節スルモノトス  
配水管ニ對シテハ最大使用時ニ於ケル水量ニ每分四十五立方尺(一二五〇リットル)ノ防火用水ヲ加算シ管末ニ於ケル有效動水壓ヲ示セバ第四表ノ如シ

第四表 各管末ニ於ケル動水壓表

管線名	動水位高(米)	地盤高(米)	地盤上有效動水高(米)	摘要
湯村線	三三、三〇	二七、八〇	四五、五〇	内徑百五十耗以上ノモノ
鹽部線	三三、四〇	二八、一五	三三、三五	大宮村字湯村
酒折線	二九、六〇	二八、二〇	二五、四〇	朝日小學附近
貢川線	二八、二〇	二四、三〇	一八、九〇	里垣村酒折附近
高畑線	二八、八五	二六、一〇	一八、七五	貢川村大字上石田
				國母村大字高畑

第五表 區域別鐵管敷設表

給水區域	百耗鐵管敷設延長(米)	計	摘要
大宮村字湯村	六〇	九八〇	最消火栓高四五、五〇米
千塚村字鹽部	一、三三〇	一、七八〇	同
里垣村字板垣	一、三三〇	一、〇五〇	同
貢川村字上石田	七〇	二、二二〇	同

第三章 變更計畫



第二編 上水道擴張

五七六

國母村字高畑  
相川村字古府中

六〇〇

六〇〇

一四、七五米

計

一、六〇〇

二八〇

一、八八〇

一八、七五米

第六表 區域別工事費内譯表

敷設區域	豫算額	摘要
大宮村大字湯村	六、八二五・三四〇	敷設延長九八〇米
千塚村大字鹽部	一、六一四・二〇〇	同 一、七八〇米
相川村大字古府中ノ一部	一〇、一七七・七二〇	同 一、八八〇米
里垣村大字坂折板垣	一、八一九・四三〇	同 二、〇五〇米
國母村大字高畑	五、九三〇・〇〇〇	同 六〇〇米
貢川村大字上石田	一九、〇二九・二九〇	同 二、一二〇米
計	六五、三九五・九八〇	

甲府市及市外給水豫定區域内推定人口計算書

甲府市上水道擴張計畫ニ於テ市部及郡部十ヶ村ヲ包含スル都市計畫區域ヲ以テ給水豫定區域ト定メ過去ニ於ケル人口統計ニヨリ大正十二年ヨリ昭和七年ニ至ル十ヶ年ニ就テ將來ノ人口増加ヲ推定セリ、然ルニ第一表ニ示ス通り大正元年ヨリ昭和九年迄ニ至ル人口統計ヲ見ルニ昭和八年ニ於テ前年ヨリ減少シ昭和九年ニ於テ殆ンド其ノ増加ヲ見ル狀態ニヨリ之ニハ種々其ノ原因アルモノト雖モ計畫當初ニ豫定セル増加率ニ變化ヲ招來スルモノニシテ之ヲ大正十二年ヨリ昭和九年ニ至ル最近十二ヶ年ノ統計ニ基キ前計畫ノ通り最少自乘法ニヨル直線方程式ヲ用ヒ市部及郡部ニ於ケル將來人口ヲ推定セルニ第二表ノ如シ

計算式

$$Y = ax + b \dots \dots \dots (1)$$

$$a = \frac{n \sum xy - \sum x \sum y}{n \sum x^2 - (\sum x)^2} \dots \dots \dots (2)$$

$$b = \frac{\sum y - a \sum x}{n} \dots \dots \dots (3)$$

上式ニ於テ

Y 各年次ニ於ケル推定人口

a 毎年ノ増加人口

b 始年次ニ於ケル人口

n 公式製作ニ考慮セル年數

x 各年次ニ於ケル人口

x 推定年次

ルハ大正十二年ヨリ昭和九年ニ至ル十二ヶ年ニシテノ値ハ以上十二ヶ年間各年末調査ニヨル人口ヲ用ヒテ(2)式ニヨリ各々a、bノ値ヲ算出セリ、而シテbノ値ハ初年度ニ於ケル人口ナルモ此ノ場合昭和五年國勢調査ニヨル人口ヲbノ値トシ將來各年次ノ人口ヲ推定計算セリ、甲府市中樞部ノ極度密集人口ヲ利用面積十五坪ニ付一人即チ飽和人口四三六〇〇人ト假定スル中昭和四年ニ於テ既ニ飽和人口ヲ超過シ其後増加人口ハ自然市周圍部ニ向ツテ漲溢スルモノト見做サレ市周圍部ノ極度密集人口ヲ利用面積三十坪ニ付一人ト假定スレバ飽和人口五六、〇〇〇人ニシテ合計約一〇〇、〇〇〇人ヲ全市部飽和人口トスレバ昭和十六年ニ於テ飽和人口ニ達ス今次給水區域ヲ擴張セントスル次ニ示ス市外大宮村外五ヶ村ノ各村大字ニ就テハ過去ニ於ケル毎年ノ統計ナキ爲メ大正九年以降昭和十年迄ノ過去四回ニ於ケル國勢調査人口ヲ基礎トシ前記計算法ニヨリ算出セリ其ノ結果第三表ノ如シ

市外給水區域

西山梨郡大宮村大字湯村

第三章 變更計畫

五七七



第二編 上水道擴張

- 西山梨郡千塚村大字鹽部
- 同 相川村同 古府中
- 同 里垣村同 酒折、板垣
- 中亙摩郡貢川村同 上石田
- 同 國母村同 高畑

而テ市部ヨリ郡部ニ漲溢スベキ人口ノ分布状態ヲ人口密度及人口増加率ニ基キ比率ヲ以テ配分セルニ次ノ第四表ノ如クシテ甲府市部飽和人口ニ達スルハ昭和十六年ナルニヨリ之ヨリ第四表ノ割合ニヨリ増加スルモノト推定シ算出スレバ第五表ニ示スモノトナル、

第二表ニ於ケル市部及郡部ノ推定人口及第五表ニ於ケル市外給水區域ノ推定人口ヲ夫々圖示スレバ附圖人口増加推定圖表ノ如シナル、

地收第二七二一號

昭和十一年六月二十九日

甲 府 市 長 殿

總 務 部 長

起債事業精算剩餘金處分ノ件依命通牒

本年七月十七日臨水發第十四號稟請標記ノ件昭和十一年六月二十七日内務省梨地第二十五號ヲ以テ許可相成候旨通牒セラレ候條右ニ御了知相成度

追テ本件ハ起債線上償還ノ資ニ充當スベキ義ナルモ事情已ムヲ得ザルモノト認メ特ニ詮議セラレタル義ニ付併セテ御了知相成度申添候

臨水發第一四號

昭和十一年四月十七日

甲府市長 齋 本 逸 造

内務大臣 潮 惠之輔殿  
大藏大臣 馬 場 錠 一 殿

起債ニ依ル事業費殘額使用方許可稟請

昭和八年六月二十八日内務省梨衛第二六號ヲ以テ御認可相成候本市水道擴張工事計畫ハ自昭和八年度三ヶ年繼續事業ニシテ豫定通り昭和十年度末竣功ヲ告グルニ至リタリ而シテ右工事ハ執行時期ニ於ケル物價ガ設計當時ヨリ著シク低落シタル關係ニ依リ相當ノ剩餘ヲ生ズルコトヲ豫想シ又一面當初財政上ノ都合ニ依リ該計畫ニ編入スルヲ得ザリシ甲府市接續郡部市街地ノ配水施設及水源事務所ノ新築等焦眉ノ急ヲ要スルモノアリシニ付執行上出來得ル限り節約ヲ旨トシタル結果別紙上水道擴張費收支計算表ノ通收入額水道經濟繰入金千六萬九千三百七十三圓、雜收入三千七百三十八圓九十七錢ト昭和八年九月十九日内務省梨地第四五號ヲ以テ御許可相成候公債金五十八萬七千圓ノ借入ト合セテ金七十六萬百一十一圓ニ有之支出ニ於テハ工事費金四十八萬八千三百八十四圓六十一錢公債費金二萬九千四百二十一圓七十五錢計金五十一萬七千八百六圓三十六錢ニシテ差引金二十四二千三百五圓六十一錢ノ剩餘ヲ生シ之ニ昭和十一年度雜收入見込金千圓ヲ加ヘ金二十四萬三千三百五圓六十一錢トナルニ付之ヲ財源トシ當初計畫ニ編入スルヲ得ザリシ前記配水管敷設費九萬圓ヲ主トシ其他諸工事ヲ昭和十一年度ニ於テ執行致度別豫算書ノ通本市會ニ於テ議決相成候處右起債ニ依ル事業費殘額使用ハ本市現下ノ財政上已ムヲ得ザルトコロニシテ又將來發展上共ニ裨益不尠モノト思料候間特別ノ御詮議ヲ以テ御許可相成度關係書類相添ヘ此段及稟請候也

追テ別昭和十一年度上水道擴張費歳入歳出豫算ハ編成當時概算ヲ以テ金二十三萬七千圓ノ剩餘及雜收入金千圓ヲ見込市會ノ議